

新保遺跡 III

奈良・平安時代編

蛭沢遺跡

一関越自動車道(新潟線)地域埋蔵
文化財発掘調査報告書第19集一

1988

群馬県教育委員会
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

資料	(財)群馬県埋蔵文化財	01-320
	調査事業団保管	
No. ⁹⁸⁻ 4986	平成10年5月13日	(7)

新保遺跡 III

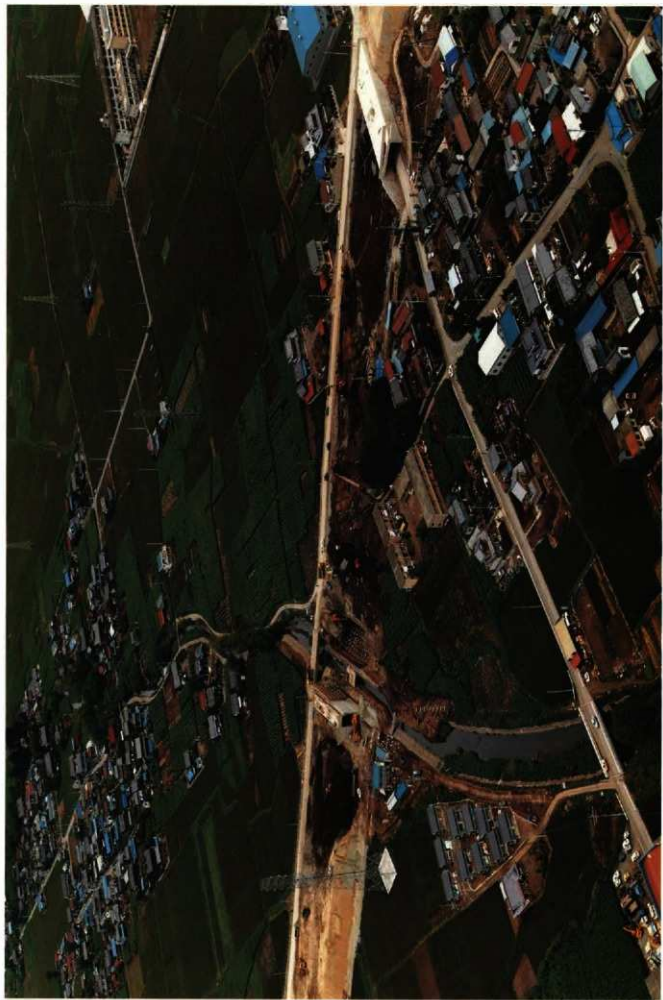
奈良・平安時代編

蛭沢遺跡

一関越自動車道(新潟線)地域埋蔵
文化財発掘調査報告書第19集一

1988

群馬県教育委員会
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



新座遺跡全景 南西上空より

序

新しい交通システムである関越自動車道は関東平野を南から北へと縦断して建設されました。この建設により群馬県は新しい時代を迎え、その影響も測り知れないものがあります。群馬県はこの大動脈をつうじて首都圏に連なるようになりました。

この建設に先行する発掘調査は群馬県教育委員会によって昭和52～55年にわたり実施され、その結果本遺跡地は弥生時代～平安・中近世にいたる複合遺跡であることが判明しました。その弥生時代大溝編については『新保遺跡Ⅰ』ですでに昭和60年に報告しました。本編はその続きである奈良・平安・中・近世編であります。

本地域は榛名山東南麓に広がる扇状地端に井野川支流である染谷川及びその自然堤防上を利用して営まれた村落であります。奈良・平安時代には集落と掘立柱建物跡群があり、古代群馬郡の村が存在したことが推定され、また中世屋敷も検出されました。部分の発掘で全容の解明には至りませんが、古代から中近世に至る村落考察の有力な手掛かりがえられました。

発掘調査及び整理事業の実施に当たりまして、日本道路公団東京第二建設局、群馬県教育委員会文化財保護課関係各位並びに極寒から酷暑へと厳しい自然条件の中で発掘調査に従事していただきました地元を始めとする周辺地域の皆様に感謝いたします。また本報告書が研究者に活用されるとともに、広く県民の皆様に利用され、群馬の古代社会の解明に益するところがあれば幸いです。

昭和63年2月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 清水 一郎

例 言

1. 本書は関越自動車道（新潟線）建設工事に伴い事前調査された新保・蛭沢遺跡の発掘調査報告書第3分冊である。
2. 新保遺跡は群馬県高崎市新保町、新保田中町に所在する。
蛭沢遺跡は群馬県高崎市日高町に所在する。
3. 新保遺跡は縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中・近世・各時期にわたる複合遺跡である。本書は奈良平安編『新保遺跡III』であり弥生・古墳時代編『新保遺跡II』とはFA降下以前、以後により分けてある。
蛭沢遺跡は古墳～平安時代にわたる遺跡である。
4. 事業主体 日本道路公団第二建設局
5. 調査主体 群馬県教育委員会
6. 整理主体 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
7. 発掘調査期間 新保遺跡 昭和52年8月22日～昭和55年3月25日
蛭沢遺跡 昭和53年11月7日～昭和54年1月17日
8. 発掘調査担当者
新保遺跡
平野 進一 @群馬県埋蔵文化財調査事業団 佐藤 明人 @群馬県埋蔵文化財調査事業団
真下 高幸 群馬県教育委員会 石塚 久則 同 上
市 隆之 同 上 洞口 正史 群馬県立歴史博物館
大江 正行 @群馬県埋蔵文化財調査事業団 小野 和之 @群馬県埋蔵文化財調査事業団
蛭沢遺跡
真下 高幸 群馬県教育委員会
9. 発掘調査嘱託員・調査員
新保遺跡
荒川 弘 埼玉県妻沼町教育委員会 黒沢はるみ @群馬県埋蔵文化財調査事業団
飯田 陽一 @群馬県埋蔵文化財調査事業団 反町 公己
大塚 昌彦 渋川市教育委員会 三浦 京子 @群馬県埋蔵文化財調査事業団
茂木 由行 吉井町教育委員会
10. 発掘調査に関わった、群馬県教育委員会事務局文化財保護課職員（昭和52～54年度）
職員 堀七 白石保三郎 森田 秀策 松本 浩一 飯塚喜代子 女屋 等
阿久津宗二 大井田利興
11. 本書作成にあたっては次の方々から御助言、御指導を受けた。
石井 栄一 金子 浩昌 小林 裕二 須田 努 玉口 時雄 林 部 均
宮崎 重雄
12. 本書の執筆者
真下 高幸 新保遺跡住居跡11～20号住居跡・蛭沢遺跡 1、2、3、5
大江 正行 新保遺跡 6-⑴、⑵

佐藤明人 新保遺跡 1、3、4

友廣哲也 上記以外

13. 本書中の獣骨の鑑定は金子浩昌氏（早稲田大学）、石材の鑑定は飯島静雄氏（群馬地質学協会）に依頼した。

14. 本書の作成及び資料整理担当者

(昭和61年度)

鈴木幹子	天田光江	今井あや子	岩淵フミ子	大友美代子	金子ひろ子
神谷順子	小林恵美子	籙原富子	関正江	山崎由紀枝	吉田文子
竜崎めぐみ	六反田達子				

(昭和62年度)

大友美代子	金子ひろ子	狩野君江	小林恵美子	籙原富子	茂木範子
吉田文子					

15. 本書作成事務に関わった（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団役員及び職員

白石保三郎	梅沢重昭	井上唯雄	松本浩一	大沢秋良	田口紀雄
上原啓巳	定方隆史	平野進一	国定均	笠原秀樹	須田朋子
吉田有光	柳岡良宏	野島のぶ江	吉田恵子	吉田美子	並木綾子
今井もと子	石田智子	松井美智子	大澤美佐保	大島敬子	

16. 遺物の写真は宇賀達夫氏（タツミ写真スタジオ）に依頼した。



17. 井戸遺構一覧表（15号井戸～39号井戸）の備考欄は原澤ボーリング機の堀削時所見報告に依る。

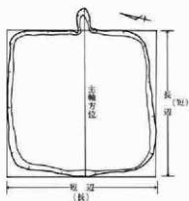
18. 遺物の保存処理は関 邦一、北爪健二、小材浩一が担当した。

19. 出土遺物・図版・写真・その他の調査記録は一括して群馬県埋蔵文化財調査センターに保管されている。

20. 本書の編集は友廣が担当した。

凡 例

1. 新保・蛭沢遺跡のグリッドは国家座標（IX系）に基づくものである。
2. 新保遺跡は南からA～D区に分かれ、A～C区とD区は遺構番号が別であるためD区の遺構には頭にDと付してある。住居跡に付した番号は調査した順に付したものをそのまま用いた。よって、番号そのものはいかなる順位も示すものではない。
3. 本書中の遺構図版は基本的には1/60、電個別図は1/30の縮小率である。但し溝・井戸はこの限りではない。このような図版にはその縮小率を付してある。
4. 遺構図版中のスクリーンは  は焼土を示し  は灰を示す。
5. 本書中の遺物図版についてはそれぞれ比例尺を付したが基本的には1/3である。但し遺物によってはその限りではない。このような図版には比例尺を付した。
6. 本書における遺物観察は表組みでこれを示した。計測値単位はcm・8である。
7. 土器観察表中細砂粒は1mm以下を示し他は実値を記してある。色調については農林省農林水産技術会議事務局監修新版標準土色帳に基づいている。
8. 本書における遺構図版中の断面基準は標高でこれを表した。
9. 住居跡の方位・規模は下図のように算出した。



目 次

巻頭図版	
序	
例 言	
凡 例	

新 保 遺 跡

1	発掘調査の経緯と調査過程	1
2	立地と周辺の遺跡	2
3	調査の方法	5
4	基本層序	6
5	検出された遺構と遺物	8
(1)	竪穴住居跡	8
(2)	掘立柱建物跡 奈良時代掘立柱建物跡	161
	中・近世掘立柱建物跡	178
(3)	井戸・土坑・溝・奈良時代生活面	188
	土坑跡	206
	墓 塚 跡	217
	溝 跡	218
	出土陶磁器	231
	D区溝出土遺物	235
	木 器	244
	奈良時代生活面の遺物	265
	植 輪	268
6	考 察	273
(1)	瓦 類	273
(2)	中・近世陶・磁器、軟式陶器、土師質陶器について	308
7	ま と め	309

蛭沢遺跡

1	発掘調査の経緯と調査過程	317
2	調査の方法	317
3	基本層序	317
4	検出された遺構と遺物	318
(1)	竪穴住居跡	318
(2)	溝跡	320
(3)	土坑跡	322
(4)	井戸跡	324
5	まとめ	331

挿 図 目 次

新保遺跡		頁
第1図	発掘調査の様子	1
第2図	新保遺跡と周辺の道跡	1 : 50, 900
第3図	道跡全体グリッド設定図	1 : 250
第4図	新保遺跡標準土層図	5
第5図	1号住居跡遺構区、竪図	1 : 60・30
第6図	1号住居跡遺構区	1 : 3
第7図	2号住居跡遺構区	1 : 60
第8図	2号住居跡遺構区	1 : 30
第9図	2号住居跡遺構区(1)	1 : 3
第10図	2号住居跡遺構区(2)	1 : 3
第11図	2号住居跡遺構区(3)	1 : 3
第12図	3号住居跡遺構区、竪図	1 : 60・30
第13図	3号住居跡遺構区(1)	1 : 3
第14図	3号住居跡遺構区(2)	1 : 3
第15図	3号住居跡遺構区(3)	1 : 3
第16図	4号住居跡遺構区	1 : 60
第17図	4号住居跡遺構区	1 : 3
第18図	5号住居跡遺構区、竪図	1 : 60・30
第19図	5号住居跡遺構区	1 : 30
第20図	6号住居跡遺構区、竪図	1 : 60・30
第21図	6号住居跡遺構区	1 : 3
第22図	7号住居跡遺構区	1 : 60
第23図	7号住居跡遺構区	1 : 3
第24図	8号住居跡・11号・12号・14号土坑遺構区	1 : 60
第25図	8号住居跡遺構区	1 : 3
第26図	10号・11号住居跡遺構区	1 : 60
第27図	10号・11号住居跡遺構区	1 : 30
第28図	10号住居跡遺構区	1 : 3
第29図	11号住居跡遺構区	1 : 3
第30図	14号住居跡遺構区	1 : 60
第31図	14号住居跡遺構区	1 : 30
第32図	14号住居跡遺構区	1 : 3
第33図	15号住居跡遺構区、竪図	1 : 60・30
第34図	15号住居跡遺構区	1 : 3
第35図	17号住居跡遺構区	1 : 60
第36図	17号住居跡遺構区	1 : 3
第37図	18号住居跡遺構区	1 : 60
第38図	18号住居跡遺構区	1 : 30
第39図	18号住居跡遺構区	1 : 3
第40図	19号住居跡遺構区	1 : 60
第41図	19号住居跡遺構区	1 : 30
第42図	19号住居跡遺構区	1 : 3
第43図	20号住居跡遺構区	1 : 60
第44図	20号住居跡遺構区	1 : 30
第45図	20号住居跡遺構区(1)	1 : 3
第46図	20号住居跡遺構区(2)	1 : 3
第47図	21号住居跡遺構区、竪図	1 : 60・30
第48図	21号住居跡遺構区	1 : 3
第49図	22号住居跡遺構区、竪図	1 : 60・30
第50図	22号住居跡遺構区	1 : 3
第51図	23号住居跡遺構区	1 : 60
第52図	24号住居跡遺構区、竪図	1 : 60・30
第53図	24号住居跡遺構区	1 : 3
第54図	27号住居跡遺構区、竪図	1 : 60・30
第55図	27号住居跡遺構区	1 : 3
第56図	28号住居跡遺構区、竪図	1 : 60・30
第57図	28号住居跡遺構区	1 : 3
第58図	30号住居跡遺構区、竪図	1 : 60・30
第59図	30号住居跡遺構区	1 : 3
第60図	31号住居跡遺構区、竪図	1 : 60・30
第61図	31号住居跡遺構区	1 : 3
第62図	32号住居跡遺構区、竪図	1 : 60・30
第63図	32号住居跡遺構区(1)	1 : 3
第64図	32号住居跡遺構区(2)	1 : 3
第65図	33A・B号住居跡遺構区、竪図	1 : 60・30
第66図	33号住居跡遺構区	1 : 3
第67図	34号・66号住居跡遺構区	1 : 60
第68図	66号住居跡遺構区	1 : 3
第69図	35号住居跡遺構区	1 : 60
第70図	35号住居跡遺構区	1 : 3
第71図	36号住居跡遺構区、竪図	1 : 60・30
第72図	37号・38号住居跡遺構区	1 : 60
第73図	37号住居跡遺構区	1 : 3
第74図	39号住居跡・85号・86号・87号土坑遺構区	1 : 60
第75図	39号住居跡遺構区	1 : 3
第76図	41号住居跡・89号・90号・98号土坑遺構区	1 : 60
第77図	41号住居跡遺構区	1 : 30
第78図	41号住居跡遺構区(1)	1 : 3
第79図	41号住居跡遺構区(2)	1 : 3
第80図	42号住居跡遺構区、竪図	1 : 60・30
第81図	42号住居跡遺構区(1)	1 : 3
第82図	42号住居跡遺構区(2)	1 : 3
第83図	43号・61号住居跡遺構区、竪図	1 : 60・30
第84図	43号・61号住居跡遺構区	1 : 3
第85図	44号住居跡遺構区、竪図	1 : 60・30
第86図	44号住居跡遺構区	1 : 3
第87図	45号住居跡遺構区、竪図	1 : 60・30
第88図	45号住居跡遺構区	1 : 3
第89図	47号住居跡遺構区	1 : 60
第90図	47号住居跡遺構区	1 : 3
第91図	48号住居跡遺構区、竪図	1 : 60・30
第92図	48号住居跡遺構区	1 : 3
第93図	49号住居跡遺構区	1 : 60
第94図	49号住居跡遺構区	1 : 3
第95図	50号住居跡遺構区、竪図	1 : 60・30
第96図	50号住居跡遺構区(1)	1 : 3
第97図	50号住居跡遺構区(2)	1 : 3
第98図	51号住居跡遺構区、竪図	1 : 60・30
第99図	51号住居跡遺構区(1)	1 : 3
第100図	51号住居跡遺構区(2)	1 : 3
第101図	52号住居跡遺構区、竪図	1 : 60・30
第102図	52号住居跡遺構区	1 : 3
第103図	53号住居跡遺構区、竪図	1 : 60・30
第104図	53号住居跡遺構区	1 : 3
第105図	54号住居跡遺構区	1 : 60
第106図	54号住居跡遺構区	1 : 30
第107図	54号住居跡遺構区	1 : 3
第108図	56号住居跡遺構区、竪図	1 : 60・30
第109図	58号住居跡遺構区、竪図	1 : 60・30
第110図	58号住居跡遺構区	1 : 3
第111図	59号住居跡遺構区、竪図	1 : 60・30

第112區	59号住居跡遺構	1 : 3	86	第174區	210 B号住居跡遺構	1 : 60	129
第113區	62号住居跡遺構	1 : 60	87	第175區	211号住居跡遺構	1 : 60	129
第114區	62号住居跡遺構	1 : 30	88	第176區	211号住居跡遺構	1 : 3	129
第115區	62号住居跡遺構 (1)	1 : 3	88	第177區	D-1号住居跡遺構、電図	1 : 60・30	130
第116區	62号住居跡遺構 (2)	1 : 3	89	第178區	D-1号住居跡遺構	1 : 3	131
第117區	63号住居跡遺構	1 : 60	90	第179區	D-2号住居跡遺構	1 : 60	131
第118區	63号住居跡遺構	1 : 3	90	第180區	D-2号住居跡遺構	1 : 30	132
第119區	65号住居跡遺構、電図	1 : 60・30	91	第181區	D-2号住居跡遺構 (1)	1 : 3	132
第120區	65号住居跡遺構	1 : 3	92	第182區	D-2号住居跡遺構 (2)	1 : 3	133
第121區	67号住居跡遺構、電図	1 : 60・30	93	第183區	D-3号・D-9号住居跡遺構	1 : 60	134
第122區	67号住居跡遺構	1 : 3	93	第184區	D-3号住居跡遺構	1 : 3	134
第123區	68号住居跡遺構	1 : 60	94	第185區	D-3号住居跡遺構 (1)	1 : 3	135
第124區	68号住居跡遺構	1 : 3	95	第186區	D-3号住居跡遺構 (2)	1 : 3	136
第125區	69号住居跡遺構、電図	1 : 60・30	96	第187區	D-9号住居跡遺構	1 : 3	137
第126區	69号住居跡遺構	1 : 3	96	第188區	D-4号住居跡遺構、電図	1 : 60・30	139
第127區	71号住居跡遺構	1 : 60	97	第189區	D-4号住居跡遺構 (1)	1 : 3	139
第128區	73号住居跡遺構	1 : 60	97	第190區	D-4号住居跡遺構 (2)	1 : 3	140
第129區	73号住居跡遺構	1 : 30	98	第191區	D-5号住居跡遺構	1 : 60	141
第130區	73号住居跡遺構	1 : 3	98	第192區	D-5号住居跡遺構	1 : 30	142
第131區	75号住居跡遺構、電図	1 : 60・30	100	第193區	D-5号住居跡遺構 (1)	1 : 3	142
第132區	75号住居跡遺構 (1)	1 : 3	100	第194區	D-5号住居跡遺構 (2)	1 : 3	143
第133區	75号住居跡遺構 (2)	1 : 3	101	第195區	D-6号住居跡遺構	1 : 60	144
第134區	76号住居跡遺構、電図	1 : 60・30	102	第196區	D-6号住居跡遺構	1 : 30	145
第135區	76号住居跡遺構	1 : 3	103	第197區	D-6号住居跡遺構	1 : 3	145
第136區	78号住居跡遺構	1 : 60	103	第198區	D-7号住居跡遺構、電図	1 : 60・30	146
第137區	79号住居跡遺構	1 : 60	104	第199區	D-7号住居跡遺構	1 : 3	146
第138區	79号住居跡遺構	1 : 3	104	第200區	D-8号住居跡遺構、電図	1 : 60・30	147
第139區	80号住居跡遺構	1 : 60	105	第201區	D-8号住居跡遺構	1 : 3	148
第140區	80号住居跡遺構	1 : 3	105	第202區	D-11号住居跡遺構、電図	1 : 60・30	149
第141區	81号住居跡遺構	1 : 30	105	第203區	D-11号住居跡遺構	1 : 3	149
第142區	81号住居跡遺構	1 : 3	106	第204區	D-12号住居跡遺構、電図	1 : 60・30	150
第143區	82号住居跡遺構	1 : 60	107	第205區	D-12号住居跡遺構	1 : 3	150
第144區	82号住居跡遺構	1 : 30	107	第206區	D-13号住居跡遺構	1 : 60	151
第145區	82号住居跡遺構	1 : 3	107	第207區	D-13号住居跡遺構	1 : 30	152
第146區	85号住居跡遺構	1 : 60	108	第208區	D-13号住居跡遺構	1 : 3	152
第147區	87号住居跡遺構、電図	1 : 60・30	109	第209區	D-14号住居跡遺構、電図	1 : 60・30	153
第148區	87号住居跡遺構 (1)	1 : 3	109	第210區	D-14号住居跡遺構	1 : 3	154
第149區	87号住居跡遺構 (2)	1 : 3	110	第211區	D-15号住居跡遺構、電図	1 : 60・30	155
第150區	89号住居跡遺構	1 : 60	111	第212區	D-15号住居跡遺構 (1)	1 : 3	155
第151區	89号住居跡遺構	1 : 3	112	第213區	D-15号住居跡遺構 (2)	1 : 3	156
第152區	90号住居跡遺構	1 : 60	112	第214區	D-16号住居跡遺構	1 : 60	157
第153區	90号住居跡遺構 (1)	1 : 3	112	第215區	D-16号住居跡遺構	1 : 30	158
第154區	90号住居跡遺構 (2)	1 : 3	113	第216區	D-16号住居跡遺構	1 : 3	158
第155區	91号住居跡遺構、電図	1 : 60・30	114	第217區	D-17号住居跡遺構、電図	1 : 60・30	159
第156區	91号住居跡遺構	1 : 3	115	第218區	D-18号住居跡遺構	1 : 60	159
第157區	92号住居跡遺構	1 : 60	117	第219區	D-18号住居跡遺構	1 : 3	160
第158區	92号住居跡遺構	1 : 3	117	第220區	1号掘立柱建物跡遺構	1 : 80	166
第159區	93号住居跡遺構	1 : 60	118	第221區	2号掘立柱建物跡遺構	1 : 80	167
第160區	93号住居跡遺構	1 : 3	118	第222區	2号・3号掘立柱建物跡遺構	1 : 80	168
第161區	146号住居跡遺構、電図	1 : 60・30	119	第223區	3号掘立柱建物跡遺構	1 : 80	169
第162區	146号住居跡遺構 (1)	1 : 3	119	第224區	6号掘立柱建物跡遺構	1 : 80	170
第163區	146号住居跡遺構 (2)	1 : 3	120	第225區	7号・8号掘立柱建物跡遺構	1 : 80	171
第164區	147号住居跡遺構、電図	1 : 60・30	120	第226區	9号掘立柱建物跡遺構	1 : 80	172
第165區	147号住居跡遺構	1 : 3	121	第227區	10号掘立柱建物跡遺構	1 : 80	173
第166區	148号住居跡遺構、電図	1 : 60・30	121	第228區	13号掘立柱建物跡遺構	1 : 80	174
第167區	148号住居跡遺構	1 : 3	122	第229區	掘立柱建物跡遺構 (1)	1 : 3	175
第168區	207号住居跡遺構、電図	1 : 60・30	122	第230區	掘立柱建物跡遺構 (2)	1 : 3	176
第169區	207号住居跡遺構	1 : 3	123	第231區	1号・2号掘立柱建物跡遺構 (中近世)	1 : 80	180
第170區	208号住居跡遺構、電図	1 : 60・30	124	第232區	3号・4号掘立柱建物跡遺構 (H)	1 : 80	181
第171區	208号住居跡遺構	1 : 3	125	第233區	5号・6号掘立柱建物跡遺構 (H)	1 : 80	182
第172區	209号・210 A号住居跡遺構、電図	1 : 60・30	127	第234區	D-1号・2号掘立柱建物跡遺構 (H)	1 : 80	183
第173區	209号住居跡遺構	1 : 3	128	第235區	D-3号・4号掘立柱建物跡遺構 (H)	1 : 80	184

第236回	D-5号掘立柱建物跡遺構図(中近世)	1:80	185	第290回	奈良時代生活用具遺物図(1)	1:3	265
第237回	D-6号掘立柱建物跡遺構図(中)	1:80	186	第291回	奈良時代生活用具遺物図(2)	1:3	266
第238回	9号井戸遺構図	1:80	187	第292回	埴輪図(1)	1:3	268
第239回	1号・3号井戸遺構図	1:40	199	第293回	埴輪図(2)	1:3	269
第240回	4号~9号井戸遺構図	1:40	200	第294回	埴輪図(3)	1:3	270
第241回	11号~15号井戸遺構図	1:40	201	第295回	埴輪図(4)	1:3	271
第242回	16号~20号井戸遺構図	1:40	202	第296回	埴輪図(5)	1:3	272
第243回	21号~28号井戸遺構図	1:40	203	第297回	新保遺跡出土女・男瓦統計図		274
第244回	29号~38号井戸遺構図	1:40	204	第298回	女・男瓦統計図		275
第245回	39号・41号・D-1号・2号井戸遺構図	1:40	205	第299回	上野国における露瓦の変遷		278
第246回	土坑遺構図(1)	1:60	206	第300回	新保遺跡予測される対応の敷・字瓦		279
第247回	土坑遺構図(2)	1:60	207	第301回	露瓦分布図		281
第248回	土坑遺構図(3)	1:60	208	第302回	上野国分寺式露瓦に対応する須恵器土		282
第249回	土坑遺構図(4)	1:60	209		限・下限形		
第250回	土坑遺構図(5)	1:60	210	第303回	瓦出土分布図		284
第251回	土坑遺構図(6)	1:60	211	第304回	瓦図(1)	1:3	288
第252回	土坑遺構図(7)	1:60	212	第305回	瓦図(2)	1:3	289
第253回	土坑遺構図(8)	1:60	213	第306回	瓦図(3)	1:3	290
第254回	土坑遺構図(9)	1:60	214	第307回	瓦図(4)	1:3	291
第255回	土坑遺構図(10)	1:60	215	第308回	瓦図(5)	1:3	292
第256回	土坑遺構図(11)	1:60	216	第309回	瓦図(6)	1:3	293
第257回	基壇遺構図	1:60	217	第310回	瓦図(7)	1:3	294
第258回	溝遺構図(1)	1:160・80	218	第311回	瓦図(8)	1:3	295
第259回	溝遺構図(2)	1:60	219	第312回	瓦図(9)	1:3	296
第260回	溝遺構図(3)	1:60	220	第313回	新保遺跡集落変遷図(古墳時代)		312
第261回	溝遺構図(4)	1:120	221	第314回	新保遺跡集落変遷図(奈良時代)		313
第262回	溝遺構図(5)	1:120・60	222	第315回	新保遺跡集落変遷図(平安時代)(中近世)		314
第263回	溝遺構図(6)	1:60	223				
第264回	井戸遺物図(1)	1:3	224				
第265回	井戸遺物図(2)	1:3	225				
第266回	井戸遺物図(3)	1:3	226				
第267回	土坑遺物図(1)	1:3	227				
第268回	土坑遺物図(2)	1:3	228				
第269回	溝遺物図(1)	1:3	229				
第270回	溝遺物図(2)	1:3	230				
第271回	溝遺物図(3)	1:3	231				
第272回	溝遺物図(4)	1:3	232				
第273回	溝遺物図(5)	1:3	233				
第274回	溝遺物図(6)	1:3	234				
第275回	D-1号・D-2号溝遺物図	1:3	235				
第276回	D-4号溝遺物図(1)	1:3	236				
第277回	D-4号溝遺物図(2)	1:3	237				
第278回	D-4号溝遺物図(3)	1:3	238				
第279回	D-4号溝遺物図(4)	1:3	239				
第280回	D-4号溝遺物図(5)	1:3	240				
第281回	D-4号溝遺物図(6)	1:3	241				
第282回	D-4号溝遺物図(7)	1:3	242				
第283回	D-4号溝遺物図(8)	1:3	243				
第284回	木簡図(1)	1:4・3	244				
第285回	木簡図(2)	1:3	245				
第286回	木簡図(3)	1:3	246				
第287回	木簡図(4)	1:3	247				
第288回	古銭	1:1	248				
第289回	遺構外遺物図	1:3	249				

蛭沢遺跡

第316回	基本番号		317
第317回	1号住居跡遺構図	1:60	318
第318回	1号住居跡遺物図(1)	1:3	318
第319回	1号住居跡遺物図(2)	1:3	319
第320回	2号住居跡遺構図	1:60	319
第321回	2号住居跡遺物図	1:3	319
第322回	3号住居跡遺構図	1:60	320
第323回	溝遺構図(1)	1:60	320
第324回	溝遺構図(2)	1:60	321
第325回	溝遺構図(3)	1:60	322
第326回	土坑遺構図(1)	1:60	322
第327回	土坑遺構図(2)	1:60	323
第328回	土坑遺物図	1:3	323
第329回	1号井戸遺構図	1:40	324
第330回	1号井戸遺物図(1)	1:3	324
第331回	1号井戸遺物図(2)	1:3	325
第332回	2号井戸遺構図	1:40	326
第333回	2号井戸遺物図	1:3	326
第334回	3号井戸遺構図	1:40	327
第335回	3号井戸遺物図(1)	1:3	327
第336回	3号井戸遺物図(2)	1:3	328
第337回	板碑	1:3	329

表 目 次

新保遺跡			
第1表	周辺の遺跡一覧表	3	
第2表	1号住居跡遺物観察表	9	
第3表	2号住居跡遺物観察表	12	
第4表	3号住居跡遺物観察表	18	
第5表	4号住居跡遺物観察表	21	
第6表	5号住居跡遺物観察表	23	

第 7 表	6 号住居跡遺物觀察表	24
第 8 表	7 号住居跡遺物觀察表	25
第 9 表	8 号住居跡遺物觀察表	27
第 10 表	10 号住居跡遺物觀察表	29
第 11 表	11 号住居跡遺物觀察表	30
第 12 表	14 号住居跡遺物觀察表	32
第 13 表	15 号住居跡遺物觀察表	34
第 14 表	17 号住居跡遺物觀察表	36
第 15 表	18 号住居跡遺物觀察表	38
第 16 表	19 号住居跡遺物觀察表	39
第 17 表	20 号住居跡遺物觀察表	41
第 18 表	21 号住居跡遺物觀察表	42
第 19 表	22 号住居跡遺物觀察表	43
第 20 表	24 号住居跡遺物觀察表	45
第 21 表	27 号住居跡遺物觀察表	46
第 22 表	28 号住居跡遺物觀察表	48
第 23 表	30 号住居跡遺物觀察表	49
第 24 表	31 号住居跡遺物觀察表	50
第 25 表	32 号住居跡遺物觀察表	52
第 26 表	33 号住居跡遺物觀察表	54
第 27 表	66 号住居跡遺物觀察表	56
第 28 表	35 号住居跡遺物觀察表	57
第 29 表	37 号住居跡遺物觀察表	59
第 30 表	39 号住居跡遺物觀察表	60
第 31 表	41 号住居跡遺物觀察表	63
第 32 表	42 号住居跡遺物觀察表	65
第 33 表	43・61 号住居跡遺物觀察表	67
第 34 表	44 号住居跡遺物觀察表	68
第 35 表	45 号住居跡遺物觀察表	69
第 36 表	47 号住居跡遺物觀察表	70
第 37 表	48 号住居跡遺物觀察表	71
第 38 表	49 号住居跡遺物觀察表	72
第 39 表	50 号住居跡遺物觀察表	75
第 40 表	51 号住居跡遺物觀察表	78
第 41 表	52 号住居跡遺物觀察表	80
第 42 表	53 号住居跡遺物觀察表	82
第 43 表	54 号住居跡遺物觀察表	83
第 44 表	58 号住居跡遺物觀察表	85
第 45 表	59 号住居跡遺物觀察表	87
第 46 表	62 号住居跡遺物觀察表	89
第 47 表	63 号住居跡遺物觀察表	91
第 48 表	65 号住居跡遺物觀察表	92
第 49 表	67 号住居跡遺物觀察表	94
第 50 表	68 号住居跡遺物觀察表	95
第 51 表	69 号住居跡遺物觀察表	97
第 52 表	73 号住居跡遺物觀察表	99
第 53 表	75 号住居跡遺物觀察表	101
第 54 表	76 号住居跡遺物觀察表	103
第 55 表	79 号住居跡遺物觀察表	104
第 56 表	80 号住居跡遺物觀察表	105
第 57 表	81 号住居跡遺物觀察表	106
第 58 表	82 号住居跡遺物觀察表	108
第 59 表	87 号住居跡遺物觀察表	111
第 60 表	89 号住居跡遺物觀察表	112
第 61 表	90 号住居跡遺物觀察表	113
第 62 表	91 号住居跡遺物觀察表	116
第 63 表	92 号住居跡遺物觀察表	117
第 64 表	93 号住居跡遺物觀察表	118
第 65 表	146 号住居跡遺物觀察表	120
第 66 表	147 号住居跡遺物觀察表	121
第 67 表	148 号住居跡遺物觀察表	122
第 68 表	207 号住居跡遺物觀察表	123
第 69 表	208 号住居跡遺物觀察表	126

第 70 表	209 号住居跡遺物觀察表	128
第 71 表	211 号住居跡遺物觀察表	129
第 72 表	D-1 号住居跡遺物觀察表	131
第 73 表	D-2 号住居跡遺物觀察表	133
第 74 表	D-3 号住居跡遺物觀察表	137
第 75 表	D-9 号住居跡遺物觀察表	138
第 76 表	D-4 号住居跡遺物觀察表	140
第 77 表	D-5 号住居跡遺物觀察表	143
第 78 表	D-6 号住居跡遺物觀察表	145
第 79 表	D-7 号住居跡遺物觀察表	146
第 80 表	D-8 号住居跡遺物觀察表	148
第 81 表	D-11 号住居跡遺物觀察表	149
第 82 表	D-12 号住居跡遺物觀察表	151
第 83 表	D-13 号住居跡遺物觀察表	152
第 84 表	D-14 号住居跡遺物觀察表	154
第 85 表	D-15 号住居跡遺物觀察表	156
第 86 表	D-16 号住居跡遺物觀察表	158
第 87 表	D-18 号住居跡遺物觀察表	160
第 88 表	竪立柱建物跡遺構一覽表 (1)(奈良)	162
第 89 表	竪立柱建物跡遺構一覽表 (2)(奈良)	162
第 90 表	竪立柱建物跡遺物觀察表	177
第 91 表	竪立柱建物跡遺構一覽表 (中世)	179
第 92 表	井戸遺構一覽表	189
第 93 表	土坑遺構一覽表	190
第 94 表	基壇遺構一覽表	196
第 95 表	溝遺構一覽表	196
第 96 表	海磁器觀察表	250
第 97 表	土坑遺物觀察表	252
第 98 表	溝遺物觀察表	254
第 99 表	D 区溝遺物觀察表	256
第 100 表	海磁器觀察表	264
第 101 表	奈良時代生活面遺物觀察表	266
第 102 表	女・男瓦の破片數量比較	274
第 103 表	女・男瓦の厚さの比較	276
第 104 表	瓦觀察表 1 類 A	297
第 105 表	瓦觀察表 1 類 B-1	304
第 106 表	瓦觀察表 1 類 B-2	305
第 107 表	瓦觀察表 1 類 B-3	306
第 108 表	瓦觀察表 1 類 B-4	306
第 109 表	瓦觀察表 1 類 C	306
第 110 表	瓦觀察表 2 類 A	307
第 111 表	瓦觀察表 2 類 B	307
第 112 表	瓦觀察表 3 類	307

経 遺 跡

第 113 表	1 号住居跡遺物觀察表	319
第 114 表	2 号住居跡遺物觀察表	320
第 115 表	土坑遺物觀察表	323
第 116 表	1 号弁戸遺物觀察表	325
第 117 表	2 号弁戸遺物觀察表	326
第 118 表	3 号弁戸遺物觀察表	329
第 119 表	土坑遺構一覽表	330
第 120 表	井戸遺構一覽表	330

写真目次

新保遺跡			
巻頭	新保遺跡全景	76号住居跡	19号井戸
P.L.1	1号住居跡・電	78号住居跡	21号井戸
	2号住居跡・電・貯蔵穴	79号住居跡	22号井戸
	3・7号住居跡	80号住居跡	23号井戸
	3号住居跡電	81号住居跡	24号井戸
	4号住居跡	82号住居跡	26号井戸
P.L.2	5号住居跡・電	P.L.12	87号住居跡・電
	6号住居跡		89号住居跡
	8号住居跡・電		91号住居跡
	10・11号住居跡		93号住居跡
	10号住居跡電		146号住居跡
			148号住居跡
P.L.3	11号住居跡電		207号住居跡
	14号住居跡・電	P.L.13	207号住居跡・電
	15号住居跡・遺物		208号住居跡・電
	17号住居跡		209号住居跡
P.L.4	18号住居跡・電		210B号住居跡
	19号住居跡・電		211号住居跡
	20号住居跡・電	P.L.14	54号住居跡遺物(馬面)
	21号住居跡・電		D-1号住居跡・電
	24号住居跡・電		D-2号住居跡・電
P.L.5	26号住居跡		D-3・9号住居跡
	27号住居跡・電		D-4号住居跡・電
	28号住居跡・電		D-5号住居跡
	30号住居跡	P.L.15	D-6号住居跡・電
	31号住居跡・電		D-7号住居跡・電
P.L.6	32号住居跡・電		D-8号住居跡・電
	33号住居跡・電		D-11号住居跡・電
	34・60号住居跡	P.L.16	D-12号住居跡・電
	35号住居跡		D-13号住居跡・電
	36号住居跡・電		D-14号住居跡
	37号住居跡		D-15号住居跡・電
P.L.7	39号住居跡	P.L.17	D-17号住居跡
	41号住居跡・電		1号獨立柱建物跡
	42号住居跡・電		2号獨立柱建物跡
	43・61号住居跡		3号獨立柱建物跡
	44号住居跡		7号獨立柱建物跡
	45号住居跡・電	P.L.18	8・9号獨立柱建物跡
	48号住居跡		9号獨立柱建物跡
P.L.8	48号住居跡・電		10号獨立柱建物跡・(P-14)
	50号住居跡・電		13号獨立柱建物跡
	51号住居跡・電		中世小穴群
	52号住居跡・電		中世1号獨立柱建物跡
	53号住居跡	P.L.19	D-1号獨立柱建物跡
	53号住居跡・電		D-2号獨立柱建物跡
P.L.9	54号住居跡・電		D-3号獨立柱建物跡
	56号住居跡		D-4号獨立柱建物跡
	58号住居跡・電		D-5号獨立柱建物跡
	59号住居跡・電		D-6号獨立柱建物跡
	62号住居跡	P.L.20	1号井戸
P.L.10	63号住居跡		3号井戸
	65号住居跡		8号井戸
	67号住居跡・電		9号井戸
	69号住居跡		11号井戸
	73号住居跡		12号井戸
			13号井戸
			15号井戸
			17号井戸
P.L.11	75号住居跡・電	P.L.21	17号井戸
			19号井戸
			21号井戸
			22号井戸
			23号井戸
			24号井戸
			26号井戸
			31号井戸
		P.L.22	32号井戸
			33・34号井戸
			35号井戸
			36・37号井戸
			38号井戸
			39号井戸
		P.L.23	2号土坑
			3号土坑
			4号土坑
			6号土坑
			7号土坑
			9号土坑
			10号土坑
		P.L.24	14号土坑
			20号土坑
			21号土坑
			22号土坑
			23号土坑
			25号土坑
			26号土坑
			28号土坑
		P.L.25	29号土坑
			30号土坑
			31号土坑
			32号土坑
			33号土坑
			34号土坑
			35号土坑
			36号土坑
		P.L.26	38号土坑
			40号土坑
			43号土坑
			44号土坑
			45号土坑
			54号土坑
			57号土坑
			64号土坑
		P.L.27	65号土坑
			66号土坑
			67号土坑
			92号土坑
			93号土坑
			106号土坑
			126号土坑
		P.L.28	201号土坑
			202号土坑
			D-25号土坑
			D-29号土坑
			D-32号土坑
			1号墓塚

3号墓塚
 P.L.29 1号溝
 13号溝
 16号溝
 35号溝
 43号溝
 46号溝
 59号溝
 143号溝
 P.L.30 D-4号溝
 P.L.31 1・2号住居跡遺物
 P.L.32 3・4・5・6・7号住居跡遺物
 P.L.33 10・11・14・15・17・18号住居跡遺物
 P.L.34 19・20・21・24・28号住居跡遺物
 P.L.35 30・31・32・33・41・42・44・49号住居跡遺物
 P.L.36 50・52・53・54号住居跡遺物
 P.L.37 62・65・67号住居跡遺物
 P.L.38 67・68・73・75・79・80・81・82・87・90・91号住居跡遺物
 P.L.39 91・93・146・148・207・208・209・211号住居跡遺物
 P.L.40 D-2・D-3・D-4・D-9号住居跡遺物
 P.L.41 D-4・D-5・D-6・D-8・D-12号住居跡遺物
 P.L.42 D-13・D-14・D-15・D-16号住居跡遺物
 P.L.43 2・3・9・10・13号獨立柱建物跡遺物
 P.L.44 16・19・21・26・29・30・33号井戸遺物
 P.L.45 22・23・30号井戸遺物
 P.L.46 9・10・12・14・D-25・28・D-32・43・54・98・126・211号土坑遺物
 P.L.47 1・3・15・16・33・43・58・128号溝遺物
 P.L.48 1・38・43・127・128号溝遺物
 P.L.49 128・134号溝遺物
 P.L.50 D-1・D-2・D-4号溝遺物
 P.L.51 D-4号溝遺物
 P.L.52 D-4号溝遺物
 P.L.53 D-4号溝遺物
 P.L.54 D-4号溝遺物
 P.L.55 D-4号溝遺物
 P.L.56 D-4号溝遺物
 P.L.57 D-4号溝遺物
 P.L.58 奈良時代生活面遺物
 P.L.59 4・11・14・15・20・21・22・24・27・28・49・50号住居跡遺物
 P.L.60 30・31・32・33・35・37・39・41号住居跡遺物
 P.L.61 42・43・44・47・48・50・51・61号住居跡遺物
 P.L.62 54・62・63・68・69・73・75号住居跡遺物
 P.L.63 79・81・87・89・90・91・146・147・207・208号住居跡遺物
 P.L.64 208・209・D-2・D-3・D-4・D-5・D-9号住居跡遺物
 P.L.65 17・18・19・D-5・D-8・D-9・D-11・D-12・D-15・D-18号住居跡遺物
 18・19・33・34・39号井戸遺物
 P.L.66 32・89・98・106号土坑遺物
 134号溝遺物
 P.L.67 134・D-4号溝遺物

P.L.68 奈良時代生活面遺物
 P.L.69 1・4・8・27・33・35・45・48・82・91・92号住居跡遺物 (瓦)
 P.L.70 43・87号住居跡遺物 (瓦)
 P.L.71 D-2・D-3・D-4・D-11・D-12号住居跡遺物 (瓦)
 1・2・8・10・11号獨立柱建物跡遺物 (瓦)
 P.L.72 2・10号獨立柱建物跡遺物 (瓦)
 3・30・198号土坑遺物 (瓦)
 D-1号溝遺物 (瓦)
 P.L.73 D-1・D-4号溝遺物 (瓦)
 P.L.74 D-4号溝遺物 (瓦)
 P.L.75 D-4号溝遺物 (瓦)
 P.L.76 2・3・5・62・65号住居跡遺物 (埴輪)
 P.L.77 1・2・9・10号獨立柱建物跡遺物 (埴輪)
 3・10・12・162号土坑遺物 (埴輪)
 P.L.78 奈良時代生活面遺物 (埴輪)
 P.L.79 奈良時代生活面遺物 (埴輪)
 P.L.80 5・6・11・13号井戸遺物 (木器)
 P.L.81 16・17・18・22・23・25・26号井戸遺物 (木器)
 P.L.82 26・30・32・33号井戸遺物 (木器)
 P.L.83 128・134号溝遺物 (木器)
 P.L.84 2・3号住居跡遺物 (石)
 P.L.85 3号住居跡遺物 (石)
 P.L.86 8・14・44・48・49・61・D-3号住居跡遺物 (石)
 P.L.87 D-3号住居跡遺物 (石)
 奈良時代生活面遺物 (石)
 P.L.88 遺構外遺物
 D-1号溝遺物 (軒丸瓦)
 P.L.89 古銭
 P.L.90 3・4・6・15・19・26・31号井戸遺物 (種子)

蛭沢遺跡

P.L.91 第1トレンチ
 第2トレンチ
 第3トレンチ
 第4トレンチ
 1号住居跡・竈
 2号住居跡
 3号住居跡
 P.L.92 1号土坑
 3号土坑
 5・6・7号土坑
 1号井戸
 2号井戸
 3号井戸
 P.L.93 2号住居跡遺物
 3号土坑遺物
 1・2号井戸遺物
 P.L.94 2・3号井戸遺物
 P.L.95 3号井戸遺物
 住居跡・井戸・土坑遺物
 P.L.96 遺構外遺物 (板碑)
 P.L.97 1・2号井戸遺物 (種子)
 P.L.98 蛭沢遺跡全景

1. 発掘調査の経緯と調査過程

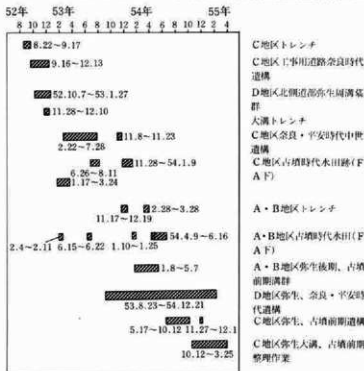
新保遺跡の発掘調査は昭和52年8月22日に開始された。新保遺跡の調査開始時期は前橋インターチェンジ以南、関越自動車道発掘調査予定遺跡では、日高遺跡、中尾遺跡に遅れること1年余り、55年度開通予定をひかえ、建設工事日程は逼迫し始めていた。このため新保遺跡の発掘調査は終始道路建設工事日程と小刻みに絡み合わせつつ進められた。なかでも調査進行上節となったのは北側側道工事、染谷川橋脚の工事、県道井野停車場線カルバートボックス工事、B・C地区西側よう壁工事、及びその搬入道路工事など、その節々で工事側とのきめ細かな日程調整を重ねながら調査は進められた。遺跡自体の内容は調査が遺跡内全域へのトレンチ調査、グリッド平面調査へと進むにつれ、文化層は厚く3面以上の重なりを見せ、それぞれの面で著しい遺構の確認がなされていくに及び工事側と調査側との日程調査は益々困難さを増していった。この期間、日程上の問題を乗り切るために調査側では日高遺跡の調査を終了をまって53年7月より、この調査班を本遺跡の調査班に合流させ、更に羽鳥遺跡の調査を一時中断させ染谷川の右岸D地区の調査、一部大溝の調査に投入するなどの措置を講じた。工事側も期間的配慮、あるいは人的、他様々な面で、便宜を図るなどの協力があり、調査は多大な成果をもって昭和55年3月終了を見るところとなった。調査の進行経過は、図に示すとうりであるが以下これに従ってそれぞれ概要を記す。

C地区トレンチ調査

52年8月22日よりC地区において、グリッド平面調査に先立ち、地区全域にわたってトレンチ調査を実施した。トレンチの規格は縦2m、幅1.5m。トレンチの長軸方向をグリッドの主軸方向（北西—東南）とし、10m方眼（5グリッド方眼）に1箇所、統計52箇所トレンチを設定し、トレンチ発掘調査を行った。第I層、第II層を除き、第III層榛名山二ツ岳火砕流（FPF-1）泥濘層上面にて、奈良・平安期の堅穴住居跡などの遺構群を確認する。本トレンチ調査においてはこれら遺構の発掘は進めず、その広がりや層位との関係を把握するに止めた。52年9月17日終了。

C地区工用道路、奈良・平安時代遺構発掘調査

本遺跡の以北において工事が着手されるに及び、工所用資材等の搬入用道路を緊急に設置する必要が生じた。B地区北半部が未買収地区があったため、三角状に約650m²の調査区を設け、調査対象を奈良・平安期以後の文化層（第III層上部）のみに限定し、調査を進めた。以下の文化層の調査については後日の工用道路付け替え後に行うこととした。約3ヶ月間の調査により奈良期の遺構を主とし、堅穴住居跡、土坑、



第1図 発掘調査の経過

2 立地と周辺の遺跡

掘立柱建物跡などを検出した。

B地区中・近世遺構の調査

53年10月13日 B地区側道部の調査、3号井戸の調査着手。54年5月23日よりB地区中世井戸群、溝群の調査。10月20日 1回目の航空写真撮影。

54年1月17日 4月28日 航空写真撮影。55年2月8日 文化財の集い(現地説明会)。55年2月12日 発掘調査終了。以後現地にて整理作業。3月25日撤収。

C地区奈良・平安時代遺構の調査

第III層(二ツ岳火砕流氾濫層)上面精査により遺構確認を行う。C地区河川改修部(路線外約1,000m²)南端部より順次北方向に調査を進める。53年3月3日、C地区北西半部(C10ライン以北)の表土除去終了する。10号住居跡の検出に着手。遺構確認面は第III層黄褐色微細土である。これに対し奈良・平安期の遺構覆土は灰褐色土であり、両層の峻別は容易である。個別遺構検出調査前の、第III層上面精査にては遺構の輪郭は明確で、遺構検出時にも遺構壁面は容易に検出することができた。河川改修部(55~70C35~48付近)では表土は浅く、第III層、第IV層が欠落しており、奈良・平安期と弥生、古墳前期の遺構確認面が第V層、ローム質土層面で、相互に切り合った状態で検出される。53年7月28日、9号10号掘立柱遺構の調査を終了し、C地区北西半部(C10ライン以北)の奈良・平安期の遺構調査を終了する。この調査では奈良・平安期を主とする住居跡、土坑群の他、溝、掘立柱遺構など多くの遺構が検出された。53年11月8日よりC地区C10ライン以南の第III層二ツ岳火砕流(FPF-1)氾濫層上面の遺構確認を行う。中世柱穴群、墓塚などの遺構を検出する。53年11月23日、同調査終了。54年4月10日よりB地区において平安期の住居跡4軒を(207号~210A号住居跡)調査する。

D地区本線道路部分の調査

53年12月18日 D地区表土除去開始、表土除去は浅間B軽石層の面までとする。54年1月8日 鳥羽遺跡調査班が鳥羽遺跡の調査を一時中断し、D地区の本線道路部の調査に入る。54年1月11日 旧地形復元のためのトレンチ調査、1月22日より奈良・平安期の住居跡の発掘。

2. 立地と周辺の遺跡

新保遺跡は、榛名山中腹を水源とする染谷川の自然堤防上に位置する。付近の地形は榛名山の火砕流堆積層と河川の氾濫による堆積土層よりなり、北西に隣接するように蛭沢遺跡がある。蛭沢遺跡と新保遺跡は位置的にも資料内容からも別ちがたい性格を示す。

このような立地は榛名山・浅間山などの火山災害により成り立っている。4世紀に浅間山C軽石、6世紀に榛名山二ツ岳のFA・FP、さらに天仁元年(1108)降下と言われる浅間山B軽石などがある。この火山灰や火山軽石の下から多くの遺跡が検出されている。

周辺の遺跡は日高遺跡⁽³⁾を始めとし中尾遺跡⁽⁴⁾・鳥羽遺跡⁽⁵⁾・大八木遺跡⁽⁹⁾・正観寺遺跡⁽⁷⁾・菅谷遺跡⁽²⁾・国分寺中間遺跡⁽⁶⁾がある。日高遺跡は弥生時代の住居跡・周溝墓・壜棺墓などが検出され浅間B軽石に覆われた水田跡が報告されている。大八木遺跡から検出されたB軽石下水田跡は水路を伴い真北に地割りがなされている。さらに一町約110mで四辺を区画してある。このような地割りは日高遺跡にもその痕跡が見られる。新保遺跡に隣接する村前遺跡⁽³⁾からも同時期の水田跡が検出されている。

次にこのような生産遺跡を取り巻く住居跡群を見ると北に接する中尾遺跡がある。この遺跡は古墳時代の遺構は少ないが奈良時代から平安時代に渡り約300軒に及ぶ住居群を確認した。鳥羽遺跡でも同じく奈良・平安時代の住居跡が800余軒の他奈良時代の掘立柱建物跡・小鍛冶跡が検出されている。菅谷遺跡は平安時代の住居跡とともに墨書土器が検出され正観寺遺跡との性格上のつながりを有している。また国分寺中間遺跡も同時期の住居跡が1,000軒を越えて検出されている。鳥羽遺跡は染谷川を挟んだ対岸に国府推定地を控えている。

群馬町から高崎市に流れ込む井野川流域では小八木遺跡⁽⁸⁾・芦田貝戸遺跡でB軽石下水田跡がある。新保遺跡南周辺にも同時期の水田跡が多数報告されており、名を上げると村間⁽⁹⁾・富士塚前A遺跡⁽¹⁰⁾、東原⁽¹¹⁾・富士塚⁽¹²⁾・富士塚前B遺跡⁽¹³⁾、新堀⁽¹⁴⁾・根際⁽¹⁵⁾・吹手西A⁽¹⁶⁾・富士塚B遺跡⁽¹⁷⁾、天王前遺跡⁽¹⁸⁾、村北A⁽¹⁹⁾・天王前遺跡⁽²⁰⁾、宝昌寺真遺跡⁽²¹⁾、柴崎前⁽²²⁾・村北B遺跡⁽²³⁾がある。その中で村間⁽⁹⁾・富士塚A遺跡⁽¹⁰⁾、天王前遺跡⁽¹⁸⁾、村北A⁽¹⁹⁾・天王前遺跡⁽²⁰⁾では水田跡に伴い大形水路や基準となる畦畔も報告されている。このように条里制が伺える遺跡は下之城町に下之城条里遺跡⁽²⁴⁾がある。この遺跡では発掘が一部に限られているとのことわりがあるが道水路が坪や里の境界になること里の一辺が108～110m内外で地割りは長辺形であったが後に改変された想定ができるなどの報告がされている。住居跡は下大類遺跡⁽²⁵⁾で約20軒検出され、銅製の八稜鏡が検出された。また矢中村東遺跡⁽²⁶⁾では銅製の[物部私印]が検出されている。

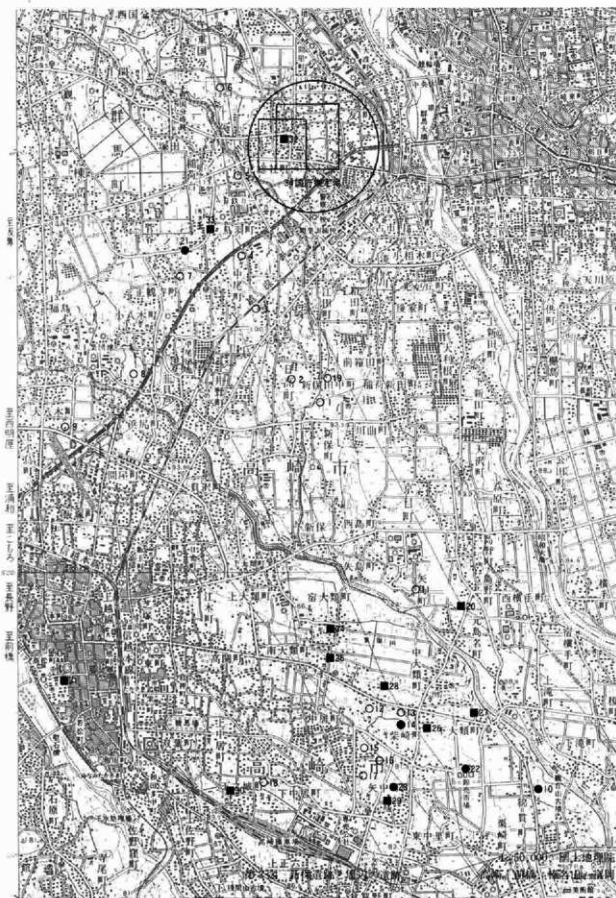
やや周辺範囲が広がったが新保遺跡に目を戻すと北西約2kmに推定東山道が北東に向かい延びている。現在国府城を取り巻く生産遺構と居住域の関係は十分な資料とは言えないが地理的な意味とともに社会的な環境をもその背景として加えておきたい。

第1表 新保遺跡と周辺の遺跡

No	遺跡名	遺跡の概要	文献
1	新保遺跡	本報告の遺跡	
2	経沢遺跡	〃	
3	日高遺跡IV	奈良・平安時代住居跡、掘立柱建物跡、水田跡等	高崎市教育委員会1982
4	中尾遺跡	奈良・平安時代住居跡群	群馬県教育委員会 鉾野馬場遺文化財調査事業団1983
5	鳥羽遺跡	奈良・平安時代住居跡群、特殊な掘立柱建物跡	鉾野馬場遺文化財調査事業団年報1982～1986
6	国分寺中間地域遺跡	奈良・平安時代住居跡群	〃 1982～1986
7	正観寺遺跡群	平安時代水田跡、住居跡	高崎市教育委員会
8	小八木遺跡	B軽石下水田跡	〃 I 1979、II 1980
9	大八木遺跡	平安時代水田跡	〃 1981

10	縮賀遺跡	奈良・平安時代住居跡	〃 1985
11	鈴之宮遺跡	平安時代住居跡	高崎市教育委員会
12	新堀・根際・吹手西A・富士塚B遺跡	平安時代水田跡、水利遺構	高崎市文化財調査報告書 第80集
13	東原・富士塚・富士塚前B遺跡	平安時代水田跡、水路跡	〃 第62集
14	村間・富士塚前A遺跡	平安時代水田跡、土坑跡、大型水路跡	〃 第49集
15	天王前遺跡	平安時代水田跡、大型水路、池伏遺構、墨書土器	〃 第35集
16	村北A・天王前遺跡	平安時代水田跡、大・小型水路	〃 第40集
17	宝昌寺真遺跡	平安時代水田跡、住居跡跡跡	〃 第43集
18	下之城条里遺構の調査	条里制遺構、中世館跡	鉾野馬場遺文化財調査事業団1981

2 立地と周辺の遺跡



3 調査の方法

19	新保田中村前遺跡	奈良・平安時代住居跡 水田跡	朝鮮馬場埋蔵文化財調査事業団年報 4, 5, 1985, 1986
20	元島名B・吹屋遺跡	室町～安土桃山時代城郭跡	朝鮮馬場埋蔵文化財調査事業団1982
21	菅谷遺跡	平安時代住居跡	群馬町教育委員会 1980
22	下大類遺跡	平安時代住居跡、八棧橋	下村北・砂内遺跡 高崎市教育委員会
23	矢中村東遺跡	平安時代水田・水利遺跡「物部私印」	高崎市文化財報告書 第60集

24	大類館跡	室町・安土桃山
25	大類館跡	鎌倉・室町
26	大類寄居跡	室町
27	降照屋敷跡	室町・安土桃山
28	集人屋敷跡	室町
29	矢中七騎敷	室町・安土桃山

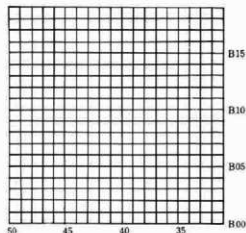
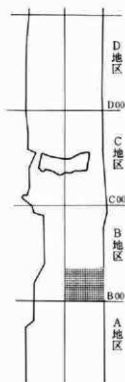
30	下之城跡	室町・安土桃山
31	高崎城	中世
32	蒼海城	中世
33	中尾城	中世
34	国府推定地	中世

本表は大江正行「元島名B・吹屋遺跡」山崎一「群馬県古城址の研究上・下」を参考文献として引用した。

3. 調査の方法

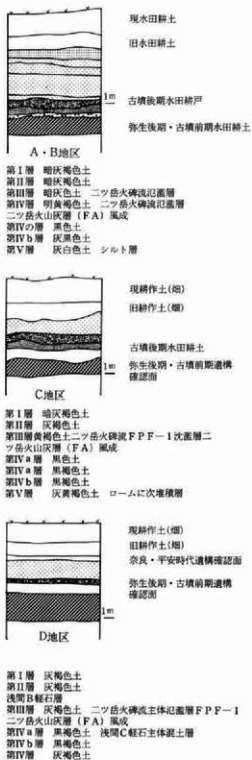
グリッド設定法 関越自動車道の建設予定区域は幅員約80mである。この区域は遺跡をN-44°-Wの方向に貫く、路線内には中央に建設工事用測量杭が設置されている。この杭の内、STA134+00とSTA135+00を結んでグリッドのx軸の中軸線とした。両杭間の距離100m。次にこれに直行してy軸を設け、グリッドはSTA杭を基点としてx、y軸を2mごとに区切り、遺跡全体に2m方眼の網を行きわたらせた。

グリッド呼称法は、y軸については、x軸中軸線との交点を50として北東から西南に2mごとに数字が増す。x軸方向はSTA134+00杭をA00、100m北西方向のSTA135+00をB00さらに100mの間隔をもってC00、及びD00の点を設定し、それぞれの間をA～D地区とした。各地区間に設定された50グリッドは頭にアルファベットを付して00～49の数字で呼ぶこととした。たとえばあるグリッドを呼ぶには50A29、60B07という具合である。



第3図 遺跡全体グリッド設定図 31-50-B00-19

4. 基本層序



第4図 新保遺跡標準土層図

標準層位

本遺跡の標準的な自然堆積層は染谷川の左岸(C地区)、右岸の岡微高地、東南部低湿地区の3地区に若干様相を異にする。遺跡の周辺地域は榛名山東南麓末端部に位置しており、地球は自然堤防状の微高地、あるいは旧くは河道であった埋積谷が無数に存在している。染谷川は遺跡中央部を南北に貫流おり、C地区を中心に染谷川の縁辺は帯状に自然堤防状微高地が環形形成され、その後背地である東南部のA地区はより低湿となっている。遺跡の占地はこれに従い、弥生、古墳時代ではC地区微高地帯に住居群、東南部低湿地帯のA地区には多数の水田に関わる溝群などが多数見られる。あるいは染谷川の右岸D地区には周溝墓を中心とした遺構が見られる。以後集落の占地はこの地形条件に従いながら、古墳後期には遺跡地全面水田となり、ニツ岳に伴う災害後奈良・平安時代にいたって再びC地区は居住域、A地区は水田を主とした生産域となる。本遺跡は弥生～中・近世にわたる複合遺跡であるが、終始上記の土地条件に従って占地の変遷があった。

以下では本遺跡の標準土層について上記A・B地区、C地区、D地区の3地区に従って説明を加えたい。

第I層 暗灰褐色土で1793年浅間大噴火による浅間A軽石を含む。厚さは25cm前後で現耕作土である。C、D地区では畑耕作土であり、A地区では水田耕作土である。

第II層 暗灰褐色土で12世紀降下した浅間B軽石層を含んでいる。厚さ12cm前後であり、D地区の一部で最下層において浅間B軽石層の薄い堆積が認められるが、A・B地区、C地区では浅間B軽石は層としては認めることができない。

第III層 黄褐色土で古墳時代後期榛名山ニツ岳火山噴火に伴う火砕流(F P F-1)氾濫層である。この層は各地区により厚さや粒子の状態に差異が見られる。その状況より現染谷川方向に氾濫の中心があると認められる。C地区においては堆積状況は地点により著しく異なり、北部においては厚さ40cm前後で、随所に3～5cmの軽石粒のレンズ状の堆積が見られる。C地区北西部から河川改修部にかけて

は殆どこの氾濫層は見られない。また、C地区はFA下においては水田跡に伴う大規模な水路跡や全体に窪地状の大溝部など複雑な起伏が見られるが、第III層上面はこれらの区域にあってほぼ平坦である。第III層上面は奈良・平安期、中・近世の遺構確認面である。

A地区においては第III層の堆積は厚い。これはA地区はC地区に比べてIV a層上面において40~50cm低く、厚さの違いはこの比高差によるものと思われる。土質は黄褐色の微細な灰状で等質であり、繭状の堆積状態で見られる。直下層のFA化層と視覚的に峻別しにくい。A地区においては第III層最上部15cm前後は耕作土化した状態が認められる。暗灰色でやや粘質である。この層の直上層は浅間B軽石を含む第II層であるが、純層の状態では見ることができないため畦などを検出することはできなかった。

D地区においては第III層の堆積は薄く灰褐色を呈し、やや粘質味が強い。厚さは20cm以下である。第III層上面はC地区と同様に奈良・平安期の遺構確認面である。

二ツ岳火山灰層（FA層） 第III層の直下層である。黄褐色を呈し、灰質で、均質であり、風性堆積である。FA層の直下は古墳水田面であり、水田面はこの層を除去することにより精細に検出することができる。D地区においてはFA層下に水田跡を見ることはできなかった。

第IV層 a層 黒色粘質土である。4世紀以降降下した浅間C軽石を多量に含んでいる。第IV層の堆積状態は地区により差異が大きい。C地区では厚さ10cm。弥生、古墳前期の土期を主とする遺物包含層である。最上層3~4cmは古墳後期水田（FA下水田）の耕地であり、黒色味が強く、やや軽石の混在が少ない。上面は小区画の畦を形成している。

A地区では湿潤であり、黒色の軟らかい粘質土で、厚さ7cm前後。浅間C軽石層の直上層であるが、軽石の混入は目立たない。上面は小区画の畦を形成する区域あるいはこれが潰れて明確でない区域などがあるが、全体に足跡が深く踏み込まれた状態で無数に見られる。

浅間C軽石層 浅間C軽石の有り方は地区によって様子を異にしている。C地区においては第IV a層中に混在した状態で見られるが、A地区では純層に近い状態で見られる。この軽石層の直下には水田に伴う溝や畦が検出されている。

第IV b層 黒色粘質土で浅間C軽石層は含まれない。C地区では上半部は弥生時代遺物包含層、下半部は同期の遺構の基盤となっている。厚さは15~20cm。A地区では灰黒色の粘質土であり、上部は水田耕作土の可能性が高い。厚さは20cm弱。D地区ではC地区と同様である。

第IV c層 C地区において、大溝の北西側（右岸）縁辺部付近の大溝覆土で、弥生、古墳期住居跡がのる黒褐色土（第IV b層に対応）の下位層。暗褐色土でやや砂質、土器、獣骨などを見る。

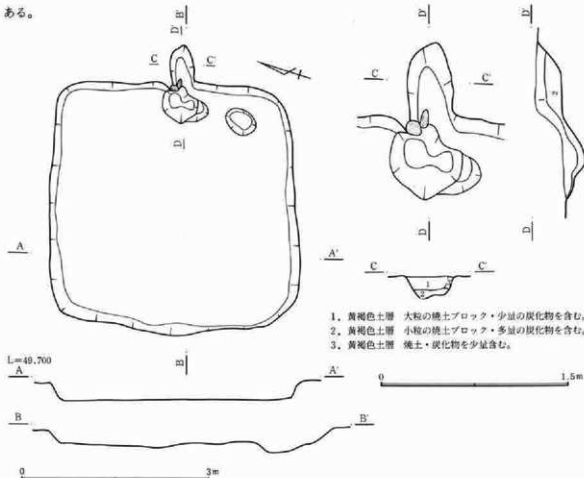
第V層 C地区では2次堆積ローム層である。最上部の50cm前後は暗灰褐色でやや砂質であり、遺物はまったく含まれない。この下位層は黒色で砂礫層である。厚さは20~30cm。この下は淡褐色ローム質土層である。第V層上面からローム質土面まで約1.2mである。A地区においては第V層上部はシルト層であるが、この地区では上部ローム層の標準的層序が確認できる。シルト層下、上位から黄色板状軽石層（YP）、水成BP層、砂層（泥流氾濫層）、前橋泥流といった堆積が第V層上面から約3mに達する厚さの堆積層にて観察できる。

5. 検出された遺構と遺物

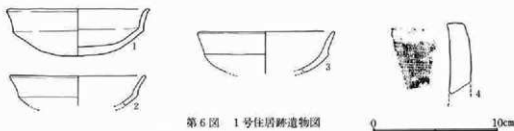
(1) 竪穴住居跡

1号住居跡 (第5図、PL1・31・69)

当住居跡はC区南東に位置し3号掘立柱建物跡の東にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺4.1m、短辺4mである。平面形態はほぼ正方形を呈する。主軸方位はN-75°-Eである。壁高の遺存は良好で約20cm~30cmを測り立ち上がる。床面はほぼ平坦をなし貯蔵穴は竪の西に検出された。規模は約50cm×約40cm、深さ約35cmを測る。壁周溝・柱穴などの諸施設は確認されていない。竪は東壁中央に検出され、袖幅約30cm、燃烧部長約70cmである。竪右袖は壁がそのまま掘り残してあり、左袖部からは石が検出された。燃烧部の前面は低くなり煙道部は燃烧部と明確な境を持たず立ち上がる。覆土中の瓦は近接する掘立柱建物跡の遺物である。



第5図 1号住居跡遺構図・竪図



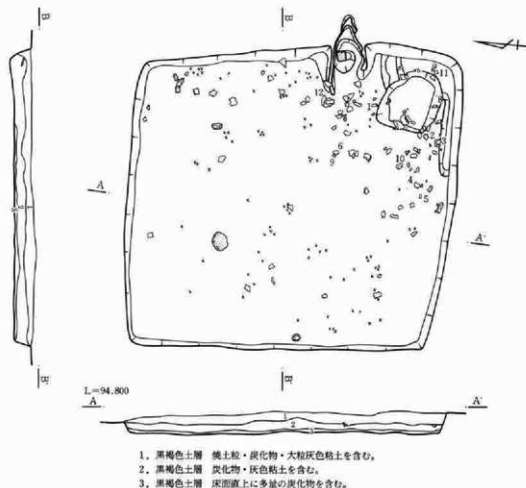
第6図 1号住居跡遺物図

第2表 1号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏土部	口-11.5 高-3.7	覆土	口縁部 ヨコナデ。体部 外面 ヘラケズリ後へラ調整。内面 ナデ。	①酸化 ②明褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④残形
No-2	坏土部	(口)11.0	覆土	口縁部 ヨコナデ。	①酸化 ②褐色 ③細砂粒含む ④破片
No-3	坏土部	(口)11.0	覆土	口縁部 ヨコナデ。	①酸化 ②褐色 ③細砂粒含む ④破片
No-4	平瓦	瓦観察表、1類A-住4参照			

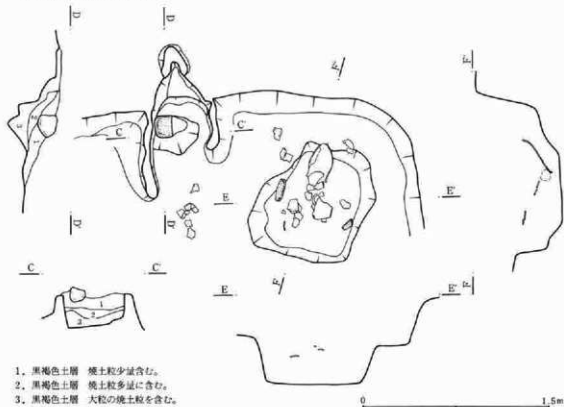
2号住居跡 (第7・8図、PL1・31・76・84)

当住居跡はC区南東に位置し染谷川左岸にある。東に7号掘立柱建物跡があり、南に3号住居跡がある。他の遺構との重複はない。規模は長辺5.5m、短辺4.9mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-95°Eである。壁高は約20cm~30cmを測る。床面は約8cmの比高を持ち北東部が高くなる。貯蔵穴は竈の右袖前南東部コーナーに検出された。規模は約115cm×約90cm、深さ約40cmを測る。壁周溝・柱穴などの諸施設は検出されていない。竈は東壁やや南で検出され、袖幅約50cm、燃燒部長約110cm、煙道部長約20cmを測る。両袖部の遺存は良く特に左袖は壁上面より約70cm床面上に延びている。



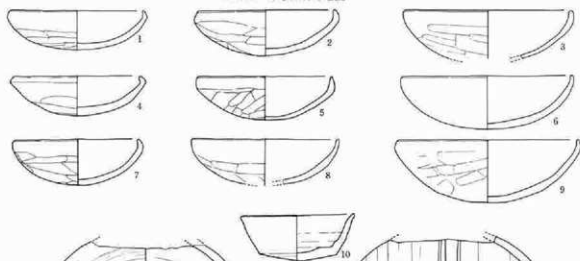
第7図 2号住居跡遺構図

5. 検出された遺構と遺物



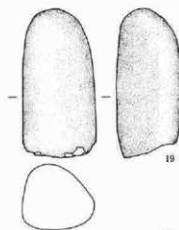
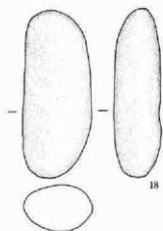
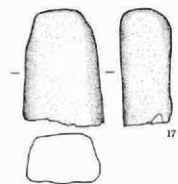
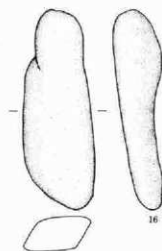
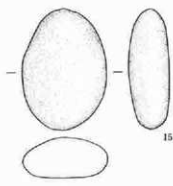
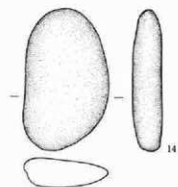
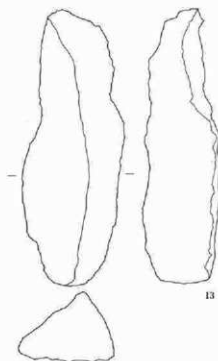
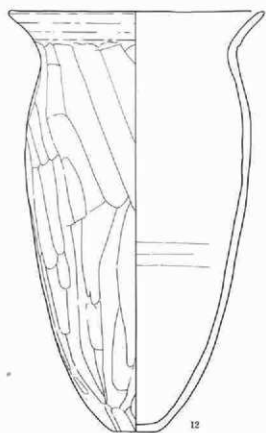
1. 黒褐色土層 焼土粒少量含む。
2. 黒褐色土層 焼土粒多量に含む。
3. 黒褐色土層 大粒の焼土粒を含む。

第8図 2号住居跡断面図



第9図 2号住居跡遺物図(1)

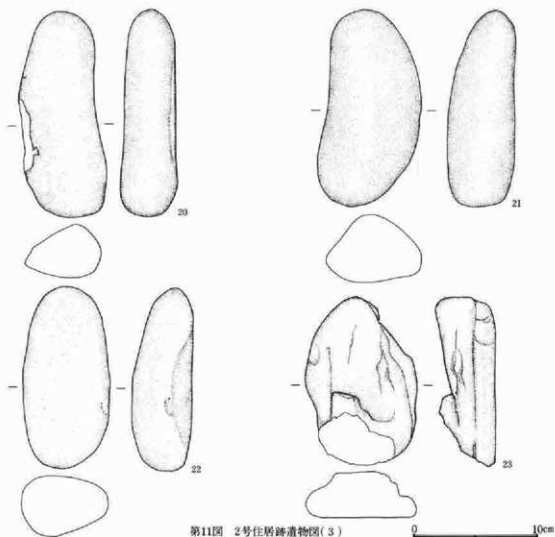
(1) 竖穴住居跡



第10图 2号住居跡遺物图(2)

0 10cm

5. 検出された遺構と遺物



第11図 2号住居跡遺物図(3)

第3表 2号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	形状・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏土 罎	(口径)10.2 (高)3.1	覆土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②褐色 ③細砂粒含む ④欠残存
No-2	坏土 罎	(口径)11.0 (高)3.6	覆土	口縁部 内傾する。外面 口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②褐色 ③細砂粒含む ④欠残存
No-3	坏土 罎	(口径)11.6	覆土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②にぶい褐色 ③細砂粒含む ④欠残存
No-4	坏土 罎	(口径)9.8 (高)3.1	覆土	口縁部 内側に屈曲する。外面 口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②にぶい褐色 ③細砂粒含む ④欠残存
No-5	坏土 罎	(口径)10.8	覆土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②褐色 ③細砂粒含む ④欠残存
No-6	坏土 罎	(口径)3.8 (高)4.2	貯蔵穴内	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ痕不明瞭。内面 ナデ。	①酸化 ②褐色 ③細砂粒含む ④ほぼ完形

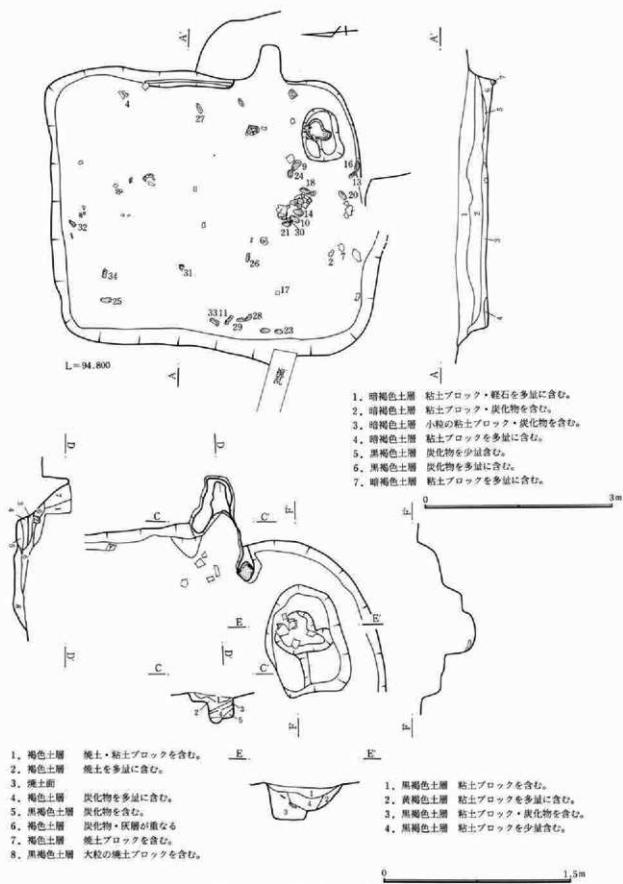
(1) 竪穴住居跡

番号	器種別	計測値(cm) (口径・高さ・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	
Ni-7	坏土部	(口)9.8 (高)3.5	覆土	口縁部 内傾する。外面 口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②褐色 ③細砂粒含む ④残存	
Ni-8	坏土部	(口)11.8	覆土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②褐色 ③細砂粒含む ④残存	
Ni-9	坏土部	(口)14.6	覆土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②によい褐色 ③細砂粒含む ④残存	
Ni-10	坏土部	(口)9.2 (高)3.6 (底)6.2	覆土	雑な整形。底部 回転ヘラ調整(右廻り)。	①還元 ②灰褐色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁部一部欠損	
Ni-11	瓶土部		貯蔵穴内		①還元 ②灰褐色 ③密 ④面下欠残存	
Ni-12	坏土部	(口)20.4 (高)33.3 (底)3.6	貯蔵穴内	外面 口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 口縁部 ヨコナデ。体部 ナデ。	①酸化 ②によい褐色 ③細砂粒含む ④ほぼ完形	
Ni-13	石	(長)19.0cm (底)21.8×7.5	貯蔵穴内	輝石安山岩。	粗粒	
Ni-14	石	11.2×6.6	271	覆土	輝石安山岩。	粗粒
Ni-15	石	16.0×5.5	450	覆土	石英閃緑岩。	
Ni-16	石	9.5×6.8	305	覆土	輝石安山岩。	粗粒
Ni-17	石	9.0×6.0	426	覆土	珪質頁岩。	
Ni-18	石	13.2×5.4	412	覆土	溶結凝灰岩。	
Ni-19	石	11.5×5.8	587	覆土	輝石安山岩。	細粒
Ni-20	石	16.4×6.0	722	貯蔵穴内	石英閃緑岩。	
Ni-21	石	15.6×7.5	948	貯蔵穴内	輝石安山岩。	粗粒
Ni-22	石	14.4×7.0	728	覆土	輝石安山岩。	粗粒
Ni-23	石	13.3×8.8	699	覆土	閃緑岩。	

3号住居跡 (第12図、PL1・32・76・84・85)

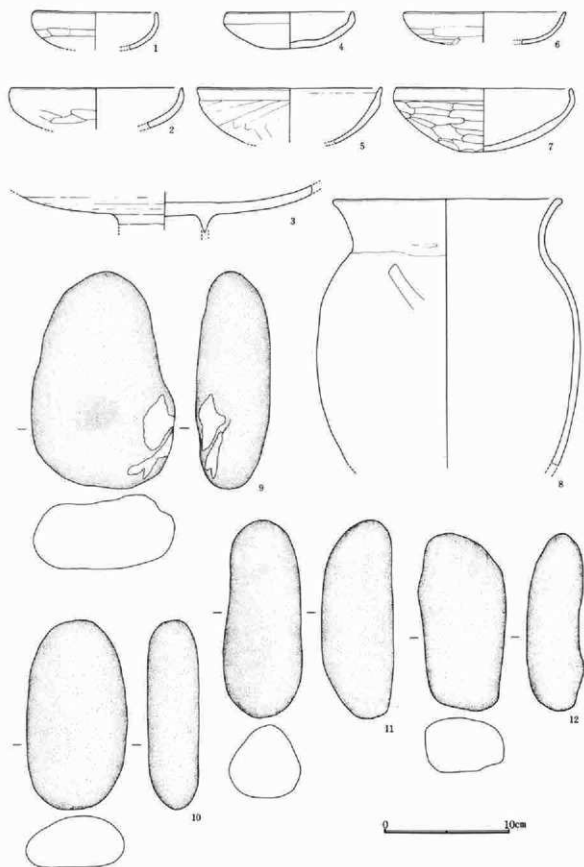
当住居跡はC区東南部に位置し2号住居跡の南にある。他の遺構との重複は東南部で7号住居跡と重複する。また住居跡上に2号掘立柱建物跡がある。新旧関係は7号住居跡より新しくさらに2号掘立柱建物跡は両住居跡より新しい。規模は長辺5.6m、短辺4.3mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-97-Eである。壁高は約40cmを測りほぼ垂直に立ち上がる。床面はほぼ平坦をなし貯蔵穴は南東コーナーに検出された。規模は約90cm×約60cm、深さ約30cmを測る。壁周溝・柱穴などの諸施設は検出されていない。竈は東壁やや南寄りに検出された。左袖部は掘立柱建物跡の柱穴により一部削平されているが右袖部からは石が検出された。袖幅は約40cm、燃焼部長約80cmを測る。燃焼部と煙道部との境は明確でない。

5. 検出された遺構と遺物



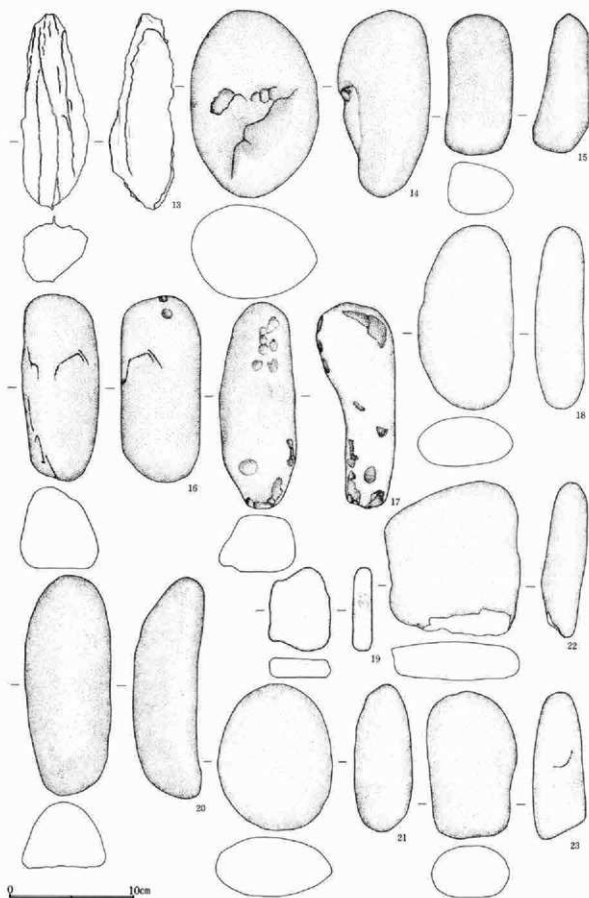
第12図 3号住居跡遺構図・断面図

(1) 竖穴住居跡



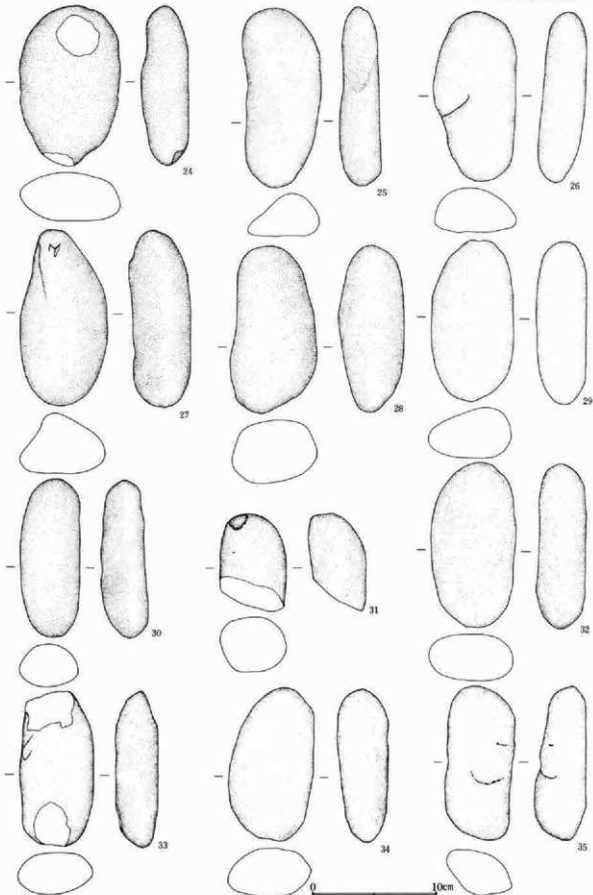
第13图 3号住居跡遺物图(1)

5. 検出された遺構と遺物



第14図 3号住居跡遺物図(2)

(1) 整穴住居跡



第15図 3号住居跡遺物図(3)

5. 検出された遺構と遺物

第4表 3号住居跡遺物観察表

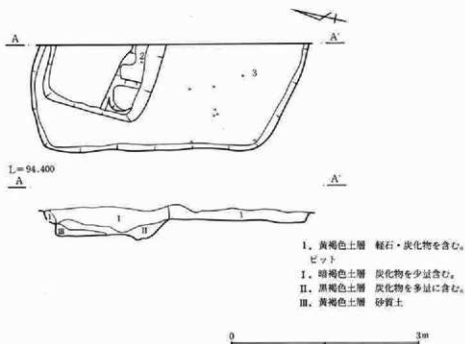
番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・高さ)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	
No-1	坏土師	(口)10.1	覆土	口縁部 ココナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②にぶい橙色 ③細砂粒含む ④破片	
No-2	坏土師	(口)13.7	貯蔵穴内	口縁部 ココナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④口縁一部残存	
No-3	広盆類		覆土	回転ヘラ調整。	①還元 ②灰白色 ③細砂粒含む ④片残存	
No-4	坏土師	(口)10.1 (高)2.9	貯蔵穴内	口縁やや内傾する。口縁部 ココナデ。内面 ナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④片残存	
No-5	坏土師	(口)14.9	覆土	口縁部 ココナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②にぶい橙色。外面黒褐色 ③細砂粒含む ④破片	
No-6	坏土師	(口)13.0	覆土	口縁部 ココナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②にぶい橙色 ③細砂粒含む ④口縁片残存	
No-7	坏土師	(口)14.0 (高)5.0	覆土	口縁部内傾する。口縁部 外面 ココナデ。内面 ナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④片残存	
No-8	要土師	(口)18.2	覆土	口縁部 ココナデ。頸部 ヘラ破残る。胴部 ヘラケズリ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④片残存	
No-9	石	(長) (厚) cm 17.0× 5.9 g 1,622	覆土	輝石安山岩。	粗粒	
No-10	石	15.0× 8.0	778	覆土	石英閃緑岩。	
No-11	石	15.5× 6.3	863	覆土	輝石安山岩。	粗粒
No-12	石	14.0× 6.8	693	覆土	輝石安山岩。	粗粒
No-13	石	15.4× 5.0	470	覆土	輝緑岩。	
No-14	石	14.8× 10.2	1,376	覆土	輝石安山岩。	粗粒
No-15	石	11.0× 4.2	416	覆土	輝石安山岩。	粗粒
No-16	石	14.7× 6.3	935	覆土	石英閃緑岩。	
No-17	石	16.3× 6.0	782	覆土	輝石安山岩。	粗粒
No-18	石	14.5× 7.5	702	覆土	輝石安山岩。	粗粒
No-19	石	6.5× 4.8	89	覆土	滑結凝灰岩。	
No-20	石	17.3× 6.8	1,032	覆土	閃緑岩。	
No-21	石	11.5× 9.2	692	覆土	輝石安山岩。	粗粒
No-22	石	12.2× 10.5	712	覆土	輝石安山岩。	粗粒
No-23	石	11.6× 7.2	553	覆土	輝石安山岩。	粗粒
No-24	石	12.7× 8.0	537	覆土	輝石安山岩。	粗粒

(1) 竪穴住居跡

番号	種類	計測値(cm) (口徑・直径・高さ)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-25	石	(口) 199cm 14.2×6.0	覆土	輝石安山岩。	粗粒
No-26	石	13.3×6.5	覆土	輝石安山岩。	粗粒
No-27	石	13.8×7.0	覆土	かこう岩。	
No-28	石	13.2×6.8	覆土	輝石安山岩。	粗粒
No-29	石	12.8×6.6	覆土	輝石安山岩。	細粒
No-30	石	12.5×4.8	覆土	輝石安山岩。	粗粒
No-31	石	7.3×5.3	覆土	石英斑岩。	
No-32	石	13.0×6.7	覆土	石英閃緑岩。	
No-33	石	12.3×5.8	覆土	実質安山岩。	
No-34	石	12.2×6.7	覆土	溶結凝灰岩。	
No-35	石	12.1×5.4	覆土	輝石安山岩。	粗粒

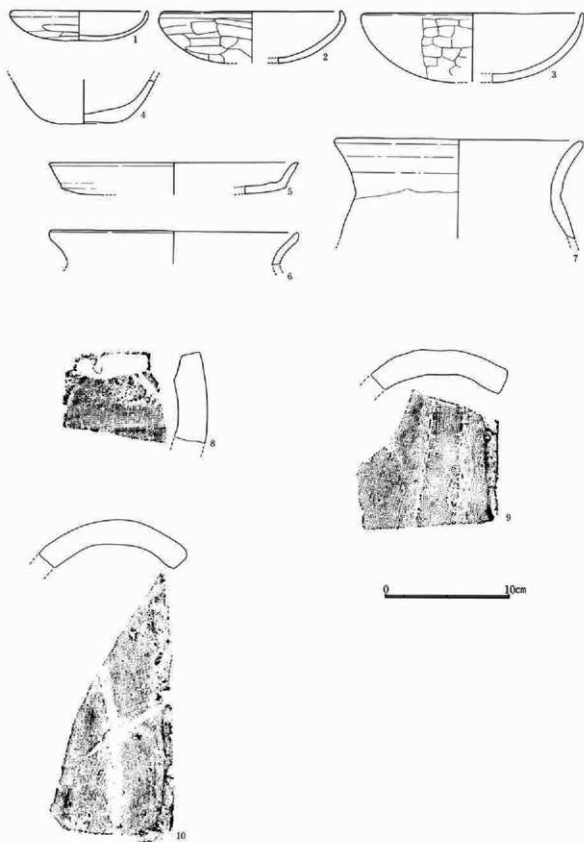
4号住居跡 (第16図、PL1・32・59・69)

当住居跡はC区南東部に位置し2号掘立柱建物跡の東にある。他の遺構との重複は床東部に土坑が検出されている。新旧関係は土坑が新しい。住居跡の東半部は調査区域外にある。規模・主軸方位は不明であるが西壁長は3.4mを測る。壁高は約10cmを測る。床面は約10cmの比高を持ち南が低くなる。土坑は床面西に検出され東半部は調査区域外にある。西壁約1.6mで深さ約30cm~40cmを測る。



第16図 4号住居跡遺構図

5. 検出された遺構と遺物



第17図 4号住居跡遺物図

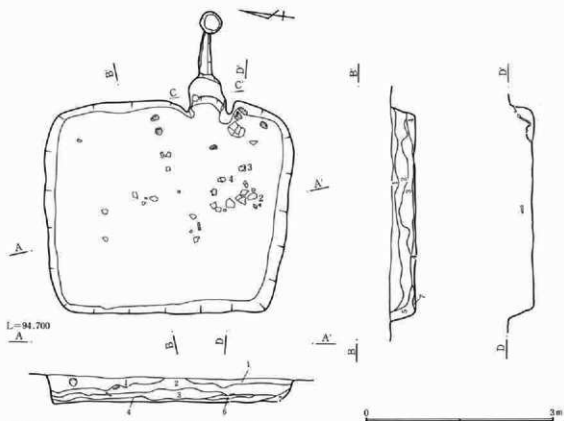
第5表 4号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏土 土師	(口)11.0 (高)2.3	覆土	口縁部: ココナデ。体部: ヘラケズリ。 内面: ナデ。	①酸化 ②褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-2	坏土 土師	(口)4.3	覆土	口縁部: 内・外面共にココナデ。体部: ヘラ ケズリ。内面: ナデ。	①酸化 ②褐色 ③細砂粒含む ④片残存
No-3	坏土 土師	(口)17.8	覆土	口縁部: 内・外面共にココナデ。体部: ヘラ ケズリ。内面: ナデ。	①酸化 ②褐色 ③細砂粒含む ④片残存
No-4	坏須 土師	(底)5.2	覆土	底部: 手持ちヘラ調整。	①還元 ②灰白色 ③細砂粒含む ④片残存
No-5	坏須 土師	(口)19.0	覆土	底部: 手持ちヘラ調整。	①還元 ②灰白色 ③細砂粒含む ④片残存
No-6	要土 土師	(口)19.9	覆土	口縁部: 内・外面共に雑なナデ。	①酸化 ②明赤褐色 ③細砂粒含む ④口縁破片
No-7	要土 土師	(口)20.0	覆土	口縁部: 内・外面共にココナデ。	①酸化 ②褐色 ③細砂粒含む ④片残存
No-8	平瓦	互観察表、1類A-住8参照			
No-9	丸瓦	互観察表、1類A-住9参照			
No-10	丸瓦	互観察表、1類A-住10参照			

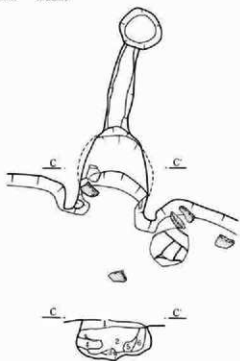
5号住居跡 (第18図、PL2・32・76)

当住居跡はC区南に位置し1号住居跡の南にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺4m、短辺3.4mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-85°-Eである。壁高は30cm~40cmを測る。床面はほぼ平坦をなす。貯蔵穴・壁周溝・柱穴などの諸施設は検出されていない。竈は東壁や南寄りに検出された。袖幅約50cm、燃焼部長約60cm、煙道部長約90cmを測る。竈の遺存状況は良く長い煙道部と煙り出しの小穴も確認された。両袖はやや内湾する形で壁を掘り残してある。煙道部は約70cmの長さを持ちほぼ平坦をなす。煙道部先端の小穴は約30cmの深さを測る。

5. 検出された遺構と遺物



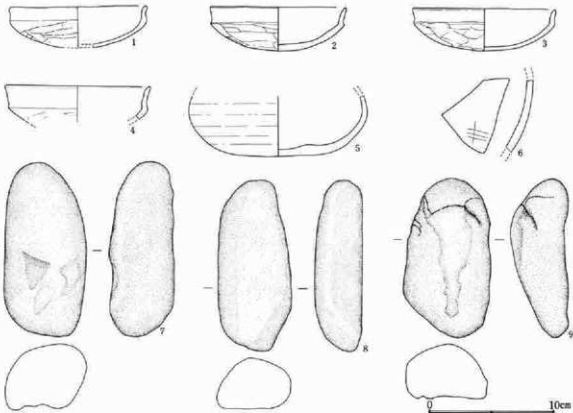
1. 黒褐色土層 大粒の軽石・炭化物と少量の焼土を含む。
2. 黒褐色土層 軽石・ロームブロック・炭化物を少量含む。
3. 黒褐色土層 軽石・炭化物を少量含む。
4. 灰褐色土層 軽石・炭化物を少量含む。
5. 黒褐色土層 軽石を少量含む。
6. 黒褐色土層
7. 褐色土層 砂質土。



1. 黒褐色土層 大粒の軽石を多量に含む。
2. 黒褐色土層 小粒の軽石・焼土・炭化物を含む。
3. 褐色土層 少量の軽石・焼土を含む。
4. 褐色土層 焼土を少量含む。
5. 褐色土層 多量の焼土と炭化物を少量含む。
6. 褐色土層 粘土ブロックと少量の焼土・炭化物を含む。
7. 褐色土層 多量の焼土を含む。

第18図 5号住居跡遺構図・竈図

(I) 竪穴住居跡



第19図 5号住居跡遺物図

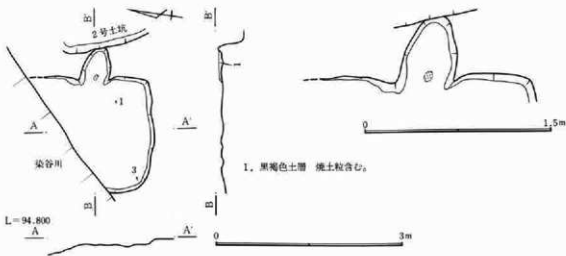
第6表 5号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏土 鉢	(口)11.0	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。体部 外面ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④片残存
No-2	坏土 鉢	(口)11.0 (高)3.5	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。体部 外面ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④ほぼ完形
No-3	坏土 鉢	(口)11.4 (高)3.4	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。体部 外面ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②橙色 ③1mm程の砂粒含む ④片残存
No-4	坏土 鉢	(口)11.8 (高)4.0	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。体部 外面ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②にぶい橙色 ③細砂粒含む ④片残存
No-5	煮頭 恵		覆土	底部 手持ちヘラ調整。	①還元 ②灰白色 ③密 ④片残存
No-6	坏土 鉢		覆土	内面 卍へろ記号状に確認。	①酸化 ②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④破片
No-7	石	(長) (厚) cm 13.6×6.5 # 707	覆土	輝石安山岩。	粗粒
No-8	石	13.5×5.8 470	覆土	輝石安山岩。	粗粒
No-9	石	12.5×7.0 468	覆土	デイサイト?	

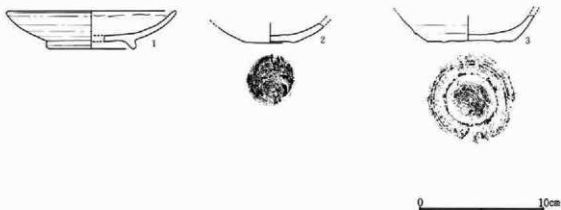
5. 検出された遺構と遺物

6号住居跡 (第20図、PL1・32)

当住居跡はC区東部に位置し2号住居跡の西にあり、北部を染谷川により削平されている。他の遺構との重複は東で竈の煙道部の先端を2号土坑と重複するが新旧関係は不明である。規模は南壁で約1.8mを測る。主軸方位はN-85°-Eである。壁高は約10cmを測り床面はほぼ平坦をなす。壁周溝・貯蔵穴・柱穴などの諸施設は検出されていない。竈は東壁に検出された。袖幅約40cm、燃焼部長約55cmを測る。



第20図 6号住居跡遺構図・竈図



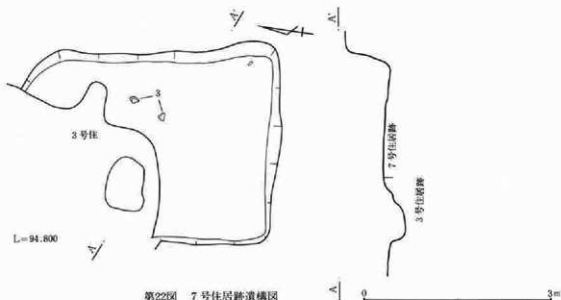
第21図 6号住居跡遺物図

第7表 6号住居跡遺物観察表

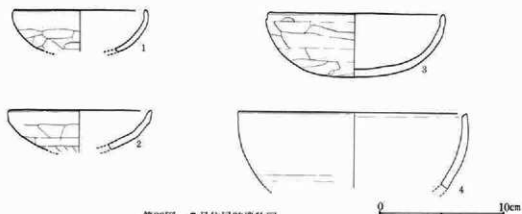
番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	皿 頸 患	(口径)13.6 (高)2.9 (底)7.9	覆土	口縁部 輪(内面)。 付高台。	①還元 ②灰色 ③細砂粒含む ④5残存
No-2	杯 頸 患	(底)4.0	覆土	底部 回転糸切り。	①還元 ②灰褐色 ③細砂粒含む ④底部のみ残存
No-3	杯 頸 患	(底)6.5	覆土	付高台欠落。底部 糸切痕2面。 2回切り直しが考えられる。	①還元 ②灰褐色 ③細砂粒含む ④底部のみ残存

7号住居跡 (第22図、PL1・32)

当住居跡はC区南東部に位置し2号住居跡の南にある。他の遺構との関係は住居跡北部で3号住居跡、住居跡中央部で2号掘立柱建物跡と重複している。新旧関係は旧い順に7号住→3号住→2号掘立柱建物跡である。規模は長辺約3.7m、短辺約3mである。壁高は約20cmを測る。床面はほぼ平坦をなし壁周溝・柱穴などの諸施設は検出されていない。電は検出されていない。



第22図 7号住居跡遺構図



第23図 7号住居跡遺物図

第8表 7号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	環土師	(口)10.7	覆土	口縁部 内・外面共にココナデ。体部 外面ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④%残存
No-2	環土師	(口)11.5	覆土	口縁部 内・外面共にココナデ。体部 外面ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④%残存
No-3	環土師	(口)14.0 (高)5.0	覆土	口縁部 内・外面共にココナデ。体部 外面ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④ほぼ完形
No-4	鉢 類	(口)18.2	覆土	底部 回転ヘラ調整。	①還元 ②灰色 ③細砂粒含む ④%残存

5. 検出された遺構と遺物

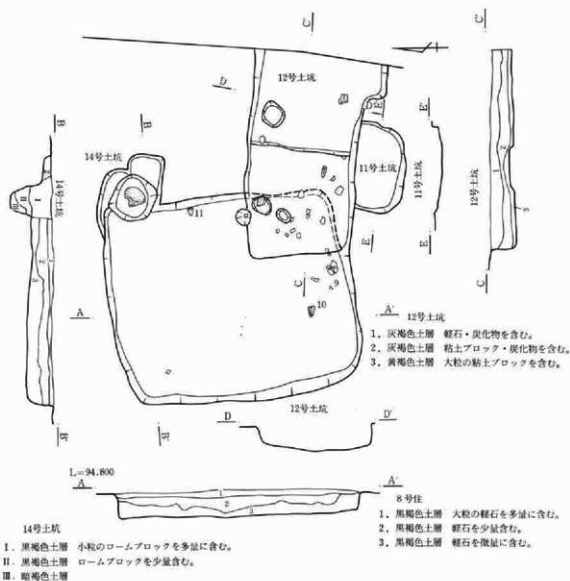
8号住居跡 (第24図、PL 2・69・86)

当住居跡はC区南東部に位置し6号掘立柱建物跡の南にある。他の遺構との関係は南東部で12号土坑と重複している。新旧関係は住居跡が旧い。また東北部で住居跡より新しい14号土坑と重複している。規模は長辺4m、短辺3.3mである。壁高は約30cm~40cmを測る。床面はほぼ平坦をなす。竈は12号土坑による削平により検出されていない。

12号土坑は東西に約1.1mを測り東壁は調査区域外に延びている。南北は約1.7mを測り11号土坑と重複している。深さは約30cmである。また土坑を東西に分けるように段を持ち更に約5cm東側が深くなっている。

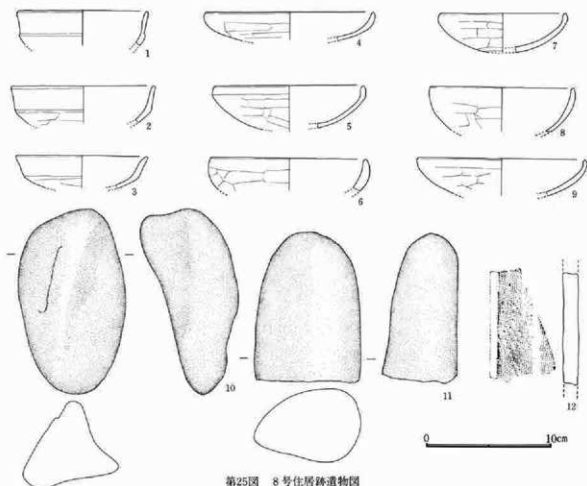
11号土坑は北側は12号土坑により切られているが東西長は約1.4mを測り深さ約15cmを測る。

14号土坑は北東コーナーにあり8号住居跡の壁を壊す形で検出されている。



第24図 8号住居跡遺構図

(1) 竪穴住居跡



第25図 8号住居跡遺物図

第9表 8号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・高さ)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①酸化 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏 土 器	(口径)10.6	覆 土	口径部 内・外面共にココナデ。内面 ナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④破片
No-2	坏 土 器	(口径)11.4	覆 土	口径部 内・外面共にココナデ。体部 外面 ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④破片
No-3	坏 土 器	(口径)10.6	覆 土	口径部 内・外面共にココナデ。体部 外面 ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④破片
No-4	坏 土 器	(口径)13.7	覆 土	口径部 内・外面共にココナデ。体部 外面 ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②にぶい橙色 ③細砂粒 含む ④破片
No-5	坏 土 器	(口径)12.2	覆 土	口径部 内・外面共にココナデ。体部 外面 ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②にぶい橙色 ③細砂粒 含む ④破片
No-6	坏 土 器	(口径)13.0	覆 土	口径部 内・外面共にココナデ。体部 外面 ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④破片
No-7	坏 土 器	(口径)10.3	覆 土	口径部 内・外面共にココナデ。体部 外面 ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②にぶい橙色 ③細砂粒 含む ④破片
No-8	坏 土 器	(口径)11.6	覆 土	口径部 内・外面共にココナデ。体部 外面 ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④破片

5. 検出された遺構と遺物

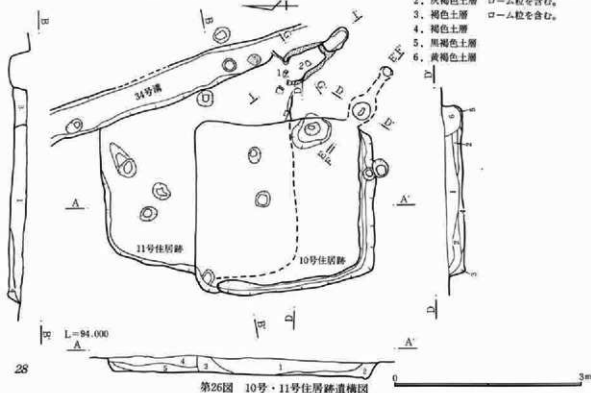
番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-9	坏土 罎	(口)13.6	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナガ。体部 外面ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②棕色 ③細砂粒含む ④破片
No-10	石	(長) (厚) cm 14.5×8.5 865	覆土	板状岩。	
No-11	石	11.8×8.5 932	覆土	石瓦四縁瓦。	
No-12	平瓦	瓦観察表、1期A-住12参照			

10号住居跡 (第26・27図、PL 2・33)

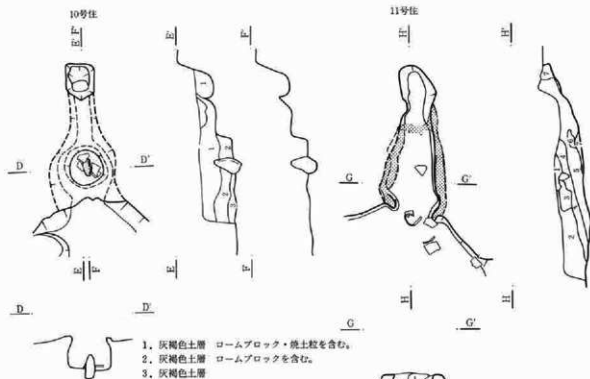
当住居跡は築谷川河川改修部最西端に位置し東側半分を11号住居跡と重複している。新旧関係は11号住居跡より新しい。平面形態はほぼ正方形を呈する。主軸方位は竈主軸でN-92°Eである。壁高は約20cmを測り床面は平坦である。貯蔵穴は確認されず、竈左側約60cm×50cm、深さ約20cmの小穴が確認された。壁周溝は幅約10cm、深さ約5cmで南・西壁に沿って確認された。柱穴は検出されていない。竈は東壁南コーナーに検出され、遺存状況は良好である。燃焼部幅約20cm、同長約50cm、煙道部長約60cmを測る。天井部は凹面状に遺存し燃焼部上に直径約27cmの円形の髷掛け坑を確認した。この坑の下からは棒状の川原石が支脚として使われている。煙道部断面は凹面状で、内面に粘土を貼付している。底面は平坦をなし煙出し部は約50度の傾斜をもって立ち上がる。

11号住居跡 (第26・27図、PL 2・3・33・59)

当住居跡は築谷川河川改修部最西端に位置し、東壁を34号溝南壁を10号住居跡と重複する。新旧関係は34号溝より旧く10号住居跡より新しい。規模は西壁で3mを測る。主軸方位は竈主軸でN-75°Eである。壁高は約10cmを測る。床面はほぼ平坦をなし小穴は検出されたが、壁周溝・貯蔵穴・柱穴など諸施設は確認されていない。竈は南西コーナーに検出された。燃焼部両側は壁を利用しており、燃焼部幅約30cm、同長約60cm、煙道部長約50cmを測り燃焼部内壁には薄く粘土を貼っている。

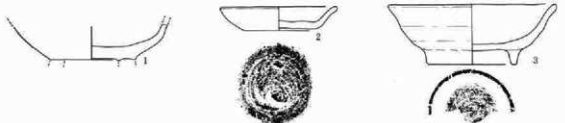


(I) 竪穴住居跡



第27図 10号・11号住居跡断面図

1. 灰褐色土層 ローム粒・焼土ブロックを含む。
2. 褐色土層 ローム粒・焼土ブロックを含む。
3. 砂岩
4. 褐色土層 ローム粒・灰を含む。
5. 褐色土層 焼土ブロック・灰を含む。
6. 焼土面
7. 黒褐色土層 焼土粒・灰を多量に含む。

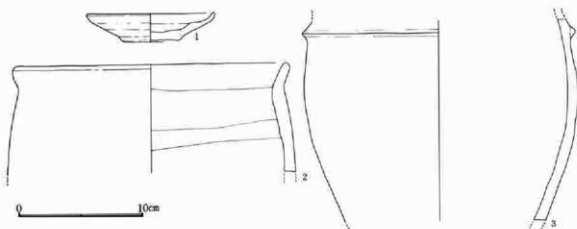


第28図 10号住居跡遺物図

第10表 10号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①酸化 ②色調 ③粘土 ④残存
No-1	碗 土器	(底)6.8	覆土	高台穴落。底部 手持らへつ調整。	①酸化 ②にぶい・橙色 ③細砂粒含む ④片残存
No-2	皿 土器	(口)9.5 (高)1.8 (底)5.8	竈内	底部 回転糸切り。	①酸化 ②にぶい・橙色 ③細砂粒含む ④片残存
No-3	碗 土器	(口)13.4 (高)4.7 (底)7.0	覆土	付高台。	①酸化 ②にぶい・橙色 ③細砂粒含む ④片残存

5. 検出された遺構と遺物



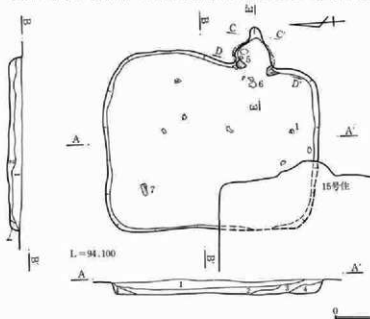
第29図 11号住居跡遺物図

第11表 11号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	皿 土師	(口)10.2 (高)2.2 (底)4.3	覆土	内面輪轆痕明瞭に残る。	①酸化 ②褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④片残存
No-2	壺 土師	(口)22.2	覆土	内・外面共難なナゲ調整。	①酸化 ②赤褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④片残存(口縁~胴部)
No-3	羽釜		覆土	内・外面共難なナゲ調整。	①酸化 ②褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁~胴部破片

14号住居跡 (第30・31図、PL 3・33・59・86)

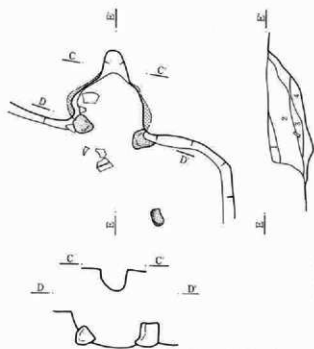
当住居跡は染谷川改修部にあり南西部で15号住居跡北壁で73号土坑と重複している。新旧関係は15号住居跡より旧く73号土坑より新しい。規模は長辺3.5m、短辺2.6mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-104°-Eである。壁高は約20cmを測りほぼ垂直に立ち上がる。床面は平坦であり壁の周辺ではやや高くなる。壁周溝・貯蔵穴・柱穴など諸施設は確認されていない。甕は東壁やや南寄りに検出された。燃烧部幅



約50cm、同長約50cmを測り、さらに燃烧部長約15cmを測る。遺存状況は良く燃烧部四壁、煙道部の一部が残っており、壁は内傾した状態で焼土ブロックとなり残存している。燃烧部内からは炭化物・焼土・灰が多く検出され、特に天井部の崩壊した焼土ブロックが煙道部から多量に検出されている。

1. 褐色土層 軽石を多量に含む。
2. 暗褐色土層 軽石を含む。
3. 灰褐色土層 粘土粒多量を含む。
4. 暗褐色土層

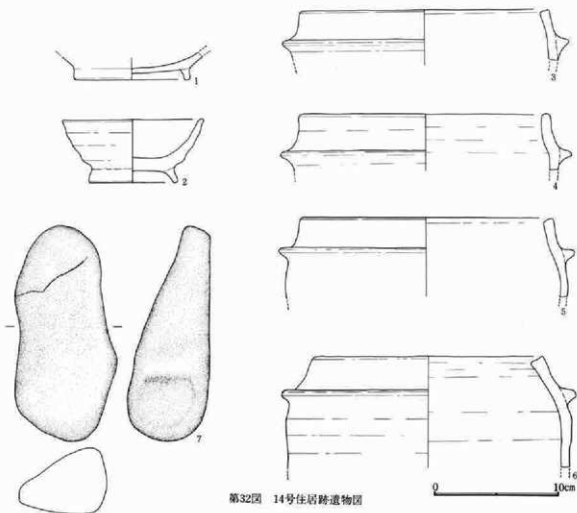
第30図 14号住居跡遺構図



1. 黒褐色土層 軽石を含む。
2. 黒褐色土層 軽石・炭化物・焼土粒を含む。
3. 赤褐色土層 焼土ブロックを含む。
4. 灰層 炭化物を含む。

0 1.5m

第31図 14号住居跡平面図



第32図 14号住居跡遺物図

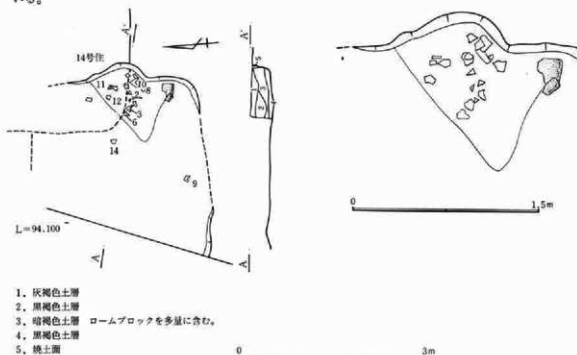
5. 検出された遺構と遺物

第12表 14号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	埴 須 恵	(底)9.2	覆土	付高台。蓋部 回転へう調整。内面 釉。	①還元 ②灰色 ③密 ④底部のみ残存
No-2	埴 須 恵	(口)11.3 (高)5.0 (底)7.0	覆土	付高台。外面 輪轆痕明瞭に残る。	①やや酸化 ②にぶい褐色 ③細砂粒含む ④片残存
No-3	羽 蓋	(口)20.0	覆土	内・外共ナデ。胴 断面短く、やや上を向く。胴の貼り付け痕明瞭。	①酸化 ②にぶい褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-4	羽 蓋	(口)20.0	甕内	口縁部はやや内傾し、端部は直立する。内・外面 ナデ。	①酸化 ②にぶい褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-5	羽 蓋	(口)20.2	覆土	口縁部はやや内傾する。	①酸化 ②褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-6	羽 蓋	(口)18.2	覆土	口縁部 内傾する。内・外面丁寧なナデ。	①酸化 ②褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④片残存
No-7	石	(長) (厚) cm 17.0×7.8	覆土	輝石安山岩。	粗粒

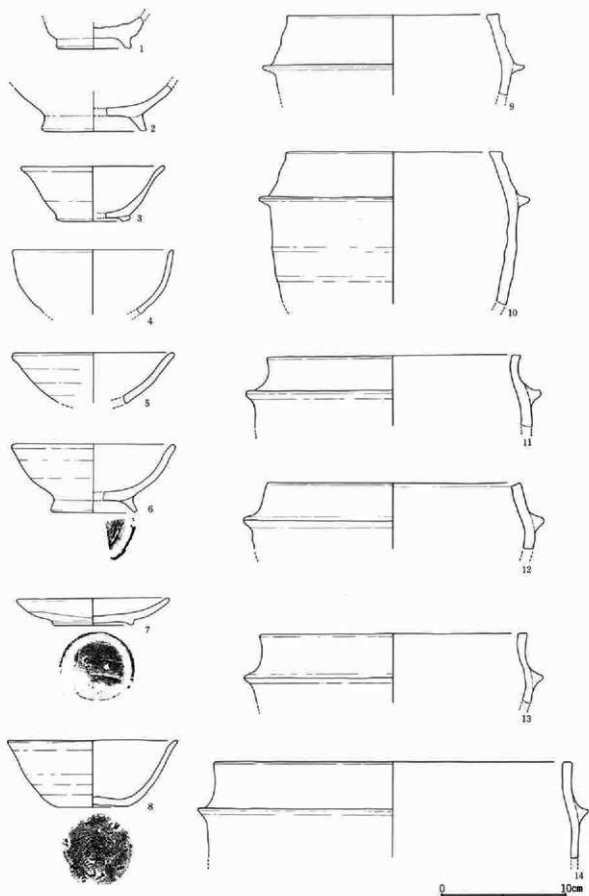
15号住居跡 (第33図、PL 3・33・59)

当住居跡は染谷川河川改修部にあり、西部を染谷川により消失している。北東部で14号住居跡と重複している。新旧関係は14号住居跡より新しい。平面形態は長方形を呈するものと考えられる。主軸方位は電長軸でN-94'-Eである。壁高は約10cmを測り、床面はほぼ平坦であるが床面が堅く遺存しているのは電周辺のみである。甕は東壁に検出された。燃焼部幅約70cm、同長約20cmを測る。焼土は燃焼部奥壁より検出されている。



第33図 15号住居跡遺構図・電図

(1) 整穴住居跡



第34図 15号住居跡遺物図

5. 検出された遺構と遺物

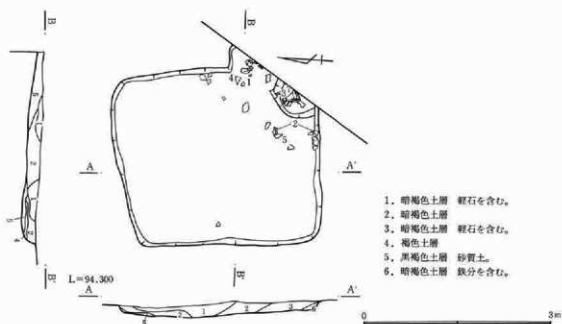
第13表 15号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	埴土師	(底)6.0	覆土	内面底部に轆轤痕跡。底部 手持ちへら調整。付高台。	①酸化 ②にぶい褐色 ③細砂粒含む ④底部のみ残存
No-2	埴土師	(底)8.4	覆土	付高台。	①酸化 ②にぶい褐色 ③細砂粒含む ④底部のみ残存
No-3	埴土師	(口)11.5 (高)4.4 (底)5.9	覆土	付高台。	①酸化 ②にぶい褐色 ③細砂粒含む ④片残存
No-4	環須恵	(口)12.8	覆土		①還元 ②灰白色 ③密 ④破片
No-5	埴土師	(口)14.0	覆土	内面黒色付着。	①やや酸化 ②にぶい褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-6	埴土師	(口)13.1 (底)6.9	覆土	付高台。底部 回転糸切り。	①やや酸化 ②にぶい褐色 ③細砂粒含む ④片残存
No-7	皿須恵	(口)12.2 (高)2.1 (底)6.3	覆土	付高台。回転糸切り。口縁付近軸。	①還元 ②灰色 ③密 ④片残存
No-8	環須恵	(口)13.6 (高)5.3 (底)5.6	覆土	底部 回転糸切り、右廻り。	①還元 ②灰色 ③細砂粒含む ④片残存
No-9	羽釜	(口)15.0	覆土	胴 接合部より口縁部に向けて内傾する。内外面共直ナデ。	①酸化 ②黒褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-10	羽釜	(口)17.3	覆土	胴 接合部より口縁部に向けて内傾する。内外面共直ナデ。	①酸化 ②にぶい褐色 ③細砂粒含む ④片残存
No-11	羽釜	(口)20.2	覆土	胴 接合部より口縁部に向けて外反する。胴接合丁寧ナデ。内・外面共にナデ。	①酸化 ②にぶい褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-12	羽釜	(口)20.6	覆土	胴 接合部より口縁部に向けやや内傾する。胴接合部内・外面共に丁寧ナデ。	①酸化 ②にぶい褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-13	羽釜	(口)21.5	覆土	内・外面ナデ。胴 断面三角形。	①酸化 ②にぶい褐色 ③細砂粒含む ④破片
No-14	羽釜	(口)28.5	覆土	大型の羽釜。内・外面共にナデ。胴 やや短く、上を向く。	①酸化 ②にぶい褐色 ③細砂粒含む ④片残存

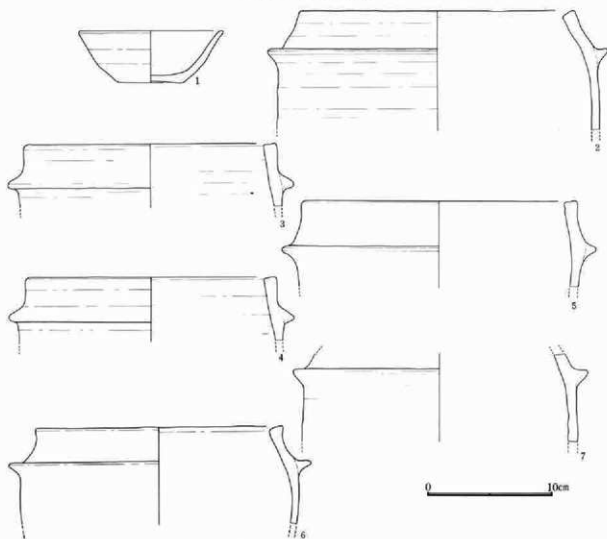
17号住居跡 (第35図、PL.3・33)

当住居跡は染谷川河川改修部中央南端部に位置する。南東部と竈の一部及び南東部は河川改修予定外に入り未調査である。規模は長辺3.3m、短辺2.9mである。平面形態は長方形を呈し主軸方位はN-80°-Eである。壁高は約10~20cmを測り、垂直に立ち上がり遺存は良好であった。床面は堅く締まりほぼ平坦をなし中央部がやや低くなる。竈周辺はとくに堅くなる。床面直下には軽石が1~2cm堆積していた。竈は南半部は調査区域外のため正確な規模は確認されていないが、燃焼部は壁外に約40cmを測る。燃焼部内壁は崩壊し壁面は明確でない。また竈手前右側に深さ約10cmの浅い掘り込みが検出された。

(1) 竪穴住居跡



第35図 17号住居跡遺構図



第36図 17号住居跡遺物図

5. 検出された遺構と遺物

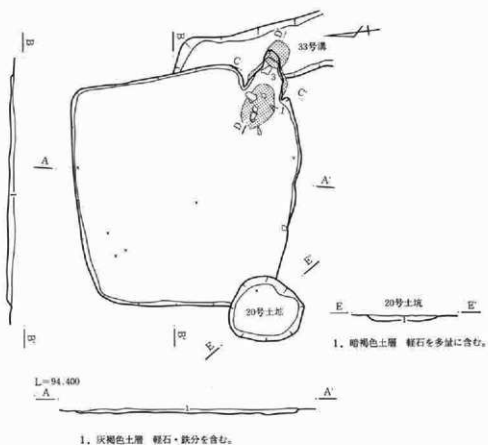
第14表 17号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・高さ)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏 須恵	口-11.6 高-4.1 底-5.1	覆土	底部 手持ちへ調整。	①やや酸化 ②淡褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④欠残存
No-2	羽釜	(口)22.0	覆土	口縁部 内傾する。罫は丁寧な貼り付。	①還元 ②灰褐色 ③細砂粒含む ④片残存
No-3	羽釜	(口)20.0	覆土	罫 断面やや下を向く。	①還元 ②よい褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-4	羽釜	(口)20.0	覆土	罫 断面やや下を向く。	①還元 ②灰褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-5	羽釜	(口)22.0	覆土	内・外面 罫共にナデ。	①還元 ②灰褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-6	羽釜	(口)19.8	覆土	罫 接合部より口縁部に向けて内傾する。罫は上を向く。	①還元 ②灰褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部のみ片残存
No-7	羽釜		覆土	内・外面共にナデ。	①還元 ②灰褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④破片

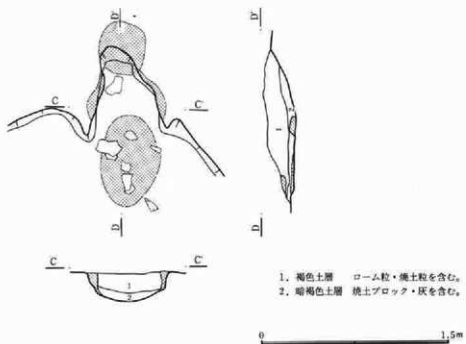
第18号住居跡 (第37・38回、PL 3・33)

当住居跡は染谷川河川改修部やや西に位置する。東南部・西南部でそれぞれ20号土坑・33号溝と重複している。新旧関係は33号溝より新しく20号土坑より古い。規模は長辺3.8m、短辺3.7mを測る。平面形態はほぼ正方形を呈する。壁高は約5cmを測り主軸方位はN-89°-Eである。床面はほぼ平坦であるが堅く締まっ
てはいない。壁周溝・貯蔵穴・柱穴などの諸施設は確認されていない。甕は東南コーナーに検出された。甕の上半部は消失している。下半部の残りは少ないが、内壁の立ち上がり、底面の状況等比較的遺存度は良い。内壁面は良く焼け、また灰・焼土も多量にあり長期に渡る使用が考えられる。

(1) 竪穴住居跡

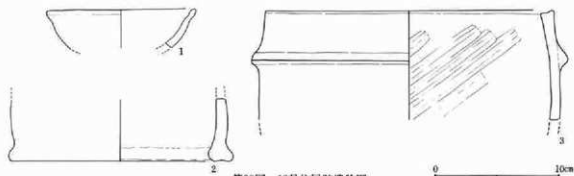


第37図 18号住居跡遺構図



第38図 18号住居跡遺構図

5. 検出された遺構と遺物



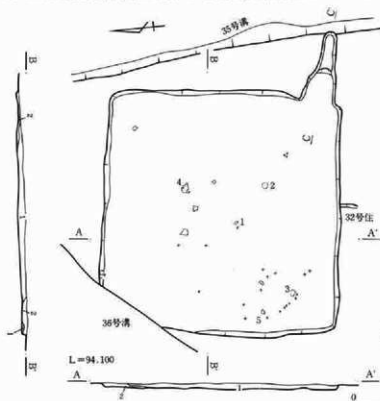
第39図 18号住居跡遺物図

第15表 18号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏土部	(口)12.0	覆土		①焼成 ②明赤褐色 ③細砂粒含む ④片残存
No-2	瓶土部	(底)18.0	覆土	内・外面共に雑なナデ。	①焼成 ②褐色 ③2~3mmの砂粒含む ④底部破片
No-3	羽蓋	(口)23.0	覆土	踵は短く、貼付は雑である。内面へた状工具によるナデ。	①還元 ②灰褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片

第19号住居跡 (第40・41図、PL.4・34)

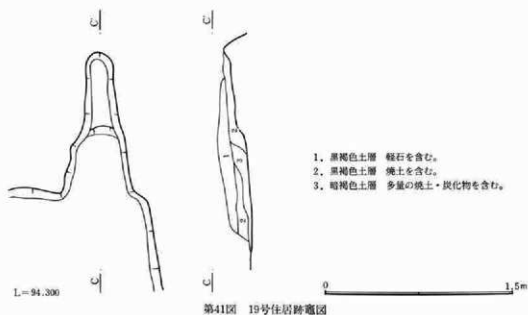
当住居跡は染谷川河川改修区やや西寄りに位置する。他の遺構との重複関係は南西部で32号住居跡、北西部で36号溝と重複している。新旧関係は32号住居跡より新しくさらに両住居跡より36号溝が新しい。平面形態は正方形を呈し、規模は1辺3.9mを測る。主軸方位はN-96°-Eである。壁高は約5~8cmを測る。床面



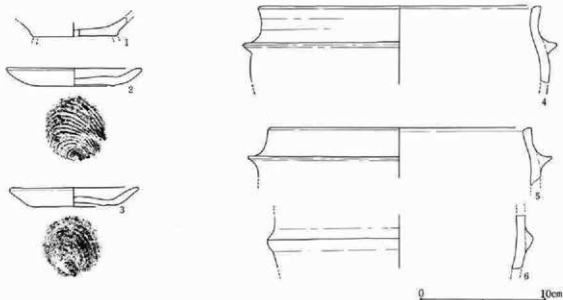
は堅く締まりほぼ平坦をなす。壁周溝・貯蔵穴・柱穴などの諸施設は検出されていない。電は東南部に検出され、南壁の延長線上にある。袖幅は約40cm、燃焼部長約60cmを測り、燃焼部底面はほぼ平坦で内壁は良く焼けている。両袖部と燃焼部中央からは石が検出された。さらに約40cmの緩やかに立ち上がる煙道部を持つ。

1. 暗褐色土層 軽石を少量含む。
2. 暗褐色土層 軽石を微量含む。

(1) 竪穴住居跡



第41図 19号住居跡平面図



第42図 19号住居跡遺物図

第16表 19号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏 土 部		覆 土	高台欠落。	①酸化 ②にぶい赤褐色 ③細砂粒含む ④底部破片
No-2	皿 土 部	口-10.9 高-1.4 底-6.3	覆 土	底部 回転糸切り。右廻り。	①酸化 ②褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④片残存
No-3	皿 土 部	口-10.4 高-1.5 底-6.6	覆 土	底部 回転糸切り。	①酸化 ②褐色 ③細砂粒含む ④片残存
No-4	別 蓋	(口)22.4	覆 土	鈿 丁寧な貼付。	①還元 ②灰白色 ③細砂粒含む ④口縁部破片

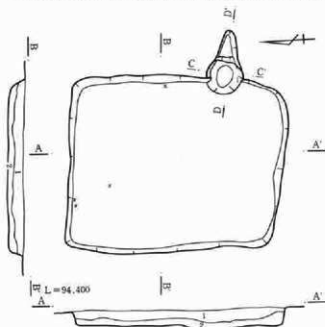
5. 検出された遺構と遺物

No-5	羽 蓋 (口)21.0	覆 土	内・外面共に丁寧なナデ。	①還元 ②灰赤色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-6	羽 蓋	堆 付 近 覆 土	蹄 短く、丁寧な貼付。	①還元 ②灰褐色 ③細砂粒含む ④破片

第20号住居跡 (第43・44図、PL 4・34・59)

当住居跡は染谷川河川改修部ほぼ中央に位置し、56号住居跡と重複している。新旧関係は56号住居跡より

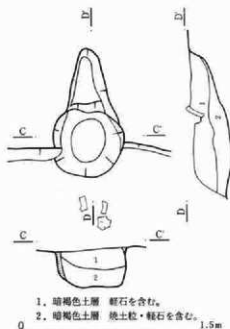
新しい。平面形態は長方形を呈し、規模は長辺3.7m、短辺2.9mである。主軸方位はN-93°-Eである。壁の遺存は良好で約25cmを測りほぼ垂直に立ち上がる。床面は比高差約5cmあり堅く、中央部はやや低くなっている。また竈周辺は特に堅い。壁周溝・貯蔵穴・柱穴などの諸施設は確認されていない。竈は東壁やや南寄りに検出された。燃焼部幅約50cm、同長約30cm、煙道部長約40cmを測る。燃焼部中央には河原石を支脚として用いている。内壁面は崩壊し、内部に焼土ブロックとして堆積していた。燃焼部と煙道部の境に臺を横臥して補強材としている。



1. 暗褐色土層 軽石を含む。
2. 暗褐色土層 軽石・粘土粒を含む。

0 3m

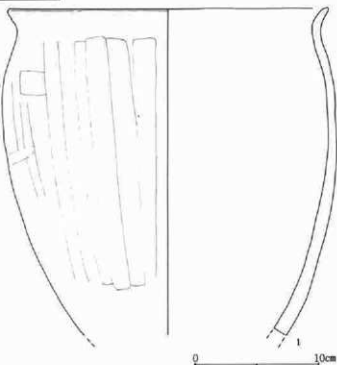
第43図 20号住居跡遺構図



1. 暗褐色土層 軽石を含む。
2. 暗褐色土層 焼土粒・軽石を含む。

0 1.5m

第44図 20号住居跡竈図



第45図 20号住居跡遺物(1)



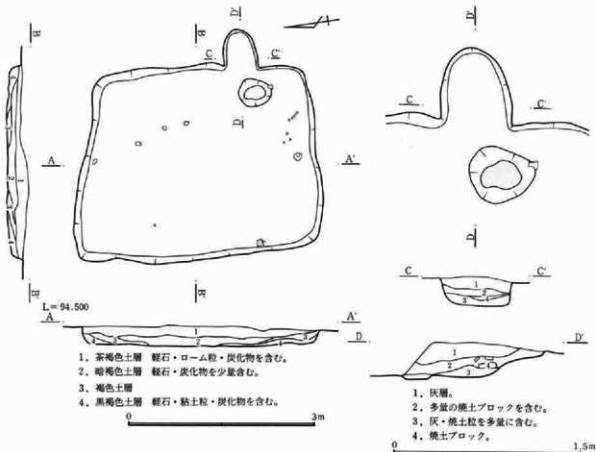
第46図 20号住居跡遺物図(2)

第17表 20号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・直径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	灰土部	口-25.7	覆土	口縁部 ココナデ。胴部 外面 ヘラケズリ。 内面 ナデ調整。	①強化 ②にぶい橙色 ③2~3mmの砂粒含む ④破片
No-2	羽釜		覆土	器 短くやや下を向く。	①還元 ②灰褐色 ③細砂粒含む ④破片

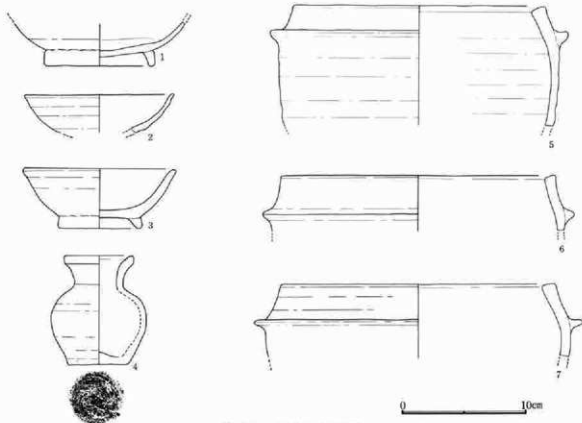
21号住居跡 (第47図、PL4・34・59)

当住居跡は染谷川河川改修部中央に位置し20・56号住居跡の東にある。他の遺構との重複は無い。規模は長辺4m、短辺3.1mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-96°-Eである。壁高は約20cm~30cmを測る。床面はほぼ平坦をなし壁周溝・貯蔵穴・柱穴などの諸施設は検出されていない。また電前前から約50cm×40cm、深さ約10cmで灰を堆積した小穴を検出した。この小穴のそばから石を検出した。電は東壁やや南寄りに検出された。規模は燃焼部幅約55cm、同長約70cmを測る。煙道部は明確に確認できなかったが燃焼部奥壁寄りに緩やかに傾斜する段を持つ。



第47図 21号住居跡遺構図・断面

5. 検出された遺構と遺物



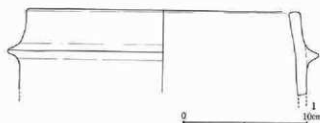
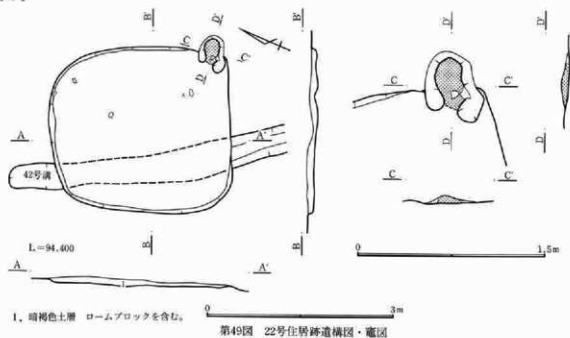
第48図 21号住居跡遺物図

第18表 21号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	埴 須 恵	(底)9.0	覆土	内・外面共にナデ。内面に重ね焼痕あり。付高台やや丸。胎内厚く粘。底部 回転ヘラ調整。	①還元 ②灰色 ③密 ④底部のみ残存
No-2	坏 須 恵	(口)12.0	覆土	口縁部 内・外面共粘。	①還元 ②灰色 ③密 ④口縁部破片
No-3	埴 須 恵	口-12.0 高-4.6 底-6.7	覆土	付高台。底部 糸切り後、ナデ調整。	①酸化 ②褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④残存
No-4	埴 須 恵	口-5.6 高-8.6 底-4.8	覆土	体部 回転ヘラ削痕あり。底部 回転糸切り。	①還元 ②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④完形
No-5	羽 釜	(口)20.5	覆土	内・外面 丁寧なナデ。踵は上を向く。	①やや酸化 ②にぶい褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④残存
No-6	羽 釜	(口)22.0	覆土	踵は短かく、丁寧な貼付。	①酸化 ②褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-7	羽 釜	(口)22.0	覆土	踵は薄く、やや上を向く。	①還元 ②灰褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片

22号住居跡 (第49回、PL59)

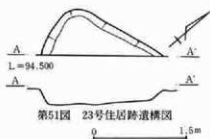
当住居跡は染谷川河川改修部中央に位置し21号住居跡の東南にある。他の遺構との関係は住居跡西側で42号溝と重複している。新旧関係は住居跡が新しい。規模は長辺2.9m、短辺2.7mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-66°-Eである。壁高は約3~5cmと壁の遺存状況は良くない。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴などの諸施設は検出されていない。竈は東壁、南壁コーナーに検出された。左右の袖はやや内湾して遺存しており、袖幅は約30cm、燃焼部長約50cmを測る。両袖は壁より約20cm住居跡内にある。竈内は住居跡と同様遺存状況は悪く覆土は火床に近くなると焼土の量が増え灰は余り含まない単一の状況を示す。



第19表 22号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計 測 値 (cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	羽 釜	(口)22.0	覆 土	器は短く、断面は三角形。貼付けのナデは薄。	①やや酸化 ②にやや橙色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁部破片

5. 検出された遺構と遺物

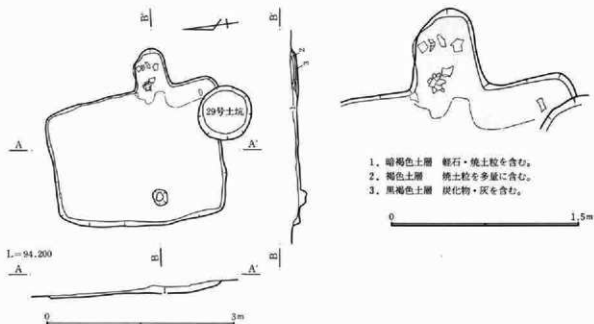


23号住居跡 (第51図)

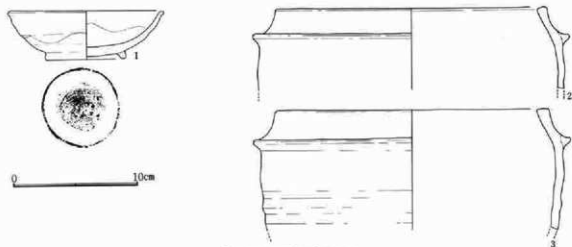
当住居跡は染谷川河川改修部中央東端に位置し33号住居跡の東にある。住居跡の大半は調査区域外にあるため部分的に検出された。壁高は約20cmを測る。床面はほぼ平坦をなす。竈・壁周溝・貯蔵穴・柱穴などの諸施設は検出されていない。

24号住居跡 (第52図、PL 4・34・59)

当住居跡は染谷川河川改修部ほぼ中央に位置し20・56号住居跡の南にある。南東コーナー付近で29号土坑と重複している。新旧関係は住居跡が古い。規模は長辺3m、短辺2.2mを測る。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-86°-Eである。壁高は約10cmを測り、床面はほぼ平坦をなす。壁周溝・貯蔵穴・柱穴などの諸施設は確認されていない。西壁中央付近床面に小穴を1基確認している。竈は東壁や南寄りに検出された。規模は燃焼部幅約60cm、同長約60cmである。焼土・灰層が右袖部から南東コーナーにまで及んでいる。



1. 暗褐色土層 軽石・焼土粒を含む。
2. 褐色土層 焼土粒を多量に含む。
3. 黒褐色土層 炭化物・灰を含む。



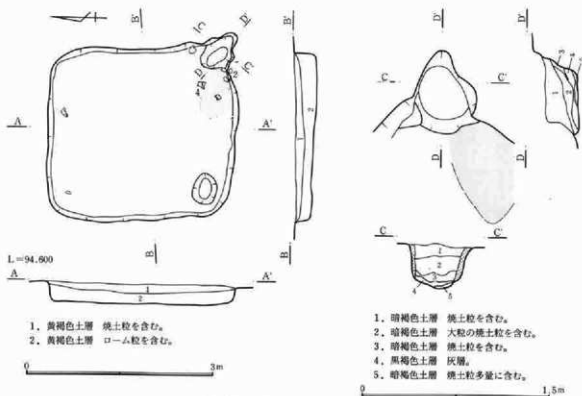
第53図 24号住居跡遺物図

第20表 24号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・高さ)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	焼 灰 軸	口径12.5 高3.8 底6.5	覆土	口縁部 内・外面共に軸、付高台。底部 回転未切り。	①還元 ②灰白色 ③密 ④残存
No-2	羽 蓋	(口径)21.5	覆土	内・外面共雑なナデ。脚は上を向く。	①やや酸化 ②淡黄褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-3	羽 蓋	(口径)21.8	覆土	内・外面共ナデ。脚は短く上を向く。縁部破片残る。	①酸化 ②褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片

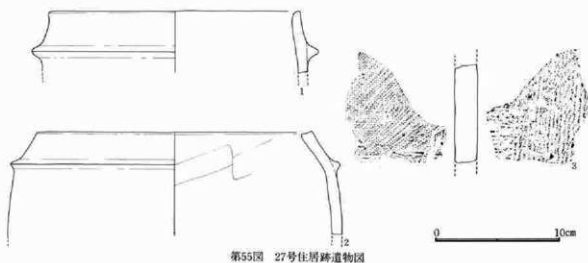
27号住居跡 (第54図、PL.5・59・69)

当住居跡は染谷川河川改修部東北部に位置し36号住居跡の東南にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺3.2m、短辺2.9mを測る。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-89°-Eである。壁高は20cm~30cmを測る。床面は平坦をなし、南西コーナーに貯蔵穴と思われる落ち込みを確認した。規模は約50cm×35cm、深さ約30cmを測る。壁周溝・柱穴などの施設は確認されていない。竈は南東コーナーで確認された。燃焼部幅約60cm、同長約55cmを測る。灰層が着手前南壁に沿って広がっている。



第54図 27号住居跡遺構図・竈図

5. 検出された遺構と遺物



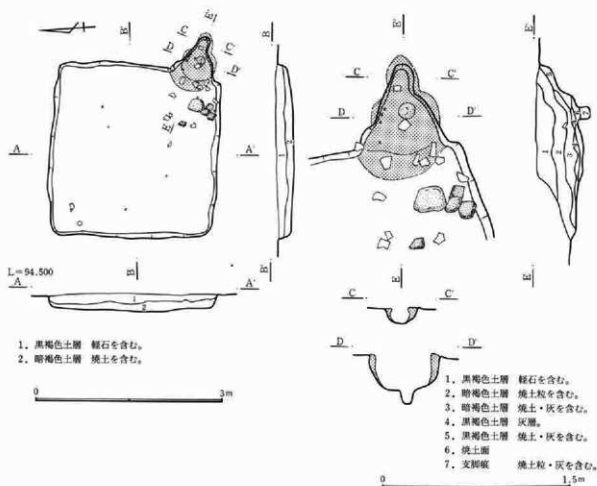
第21表 27号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計 画 値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	羽 釜	(口)20.1	覆 土	胴 短く、断面は三角形。体部 内・外面共 雑なナデ。	①やや酸化 ②にぶい藍色 ③1 ～2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-2	羽 釜	(口)22.2	覆 土	胴 短い。体部 内面 ヘラ状工具によるナ デ。	①やや酸化 ②にぶい赤褐色 ③ 1～2mmの砂粒含む ④口縁部破 片
No-3	平 瓦	互観察表、1類B-2 No.4参照			

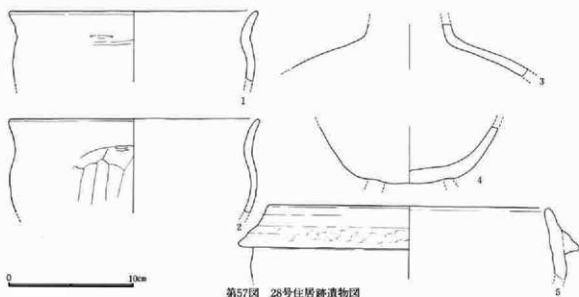
28号住居跡 (第56図、PL 5・34・59)

当住居跡は染谷川河川改修部中央に位置する。他の遺構との重複はない。規模は1辺2.8mで、平面形態はほぼ正方形に近い。主軸方位はN-93°Eである。壁高は約15cm～20cmを測り、やや斜めに立ち上がる。床面はほぼ平坦をなし堅く締まっている。床面に焼けた部分があり、床上にも焼土が散布しており、焼失家屋の可能性もある。壁周溝・貯蔵穴・柱穴などの諸施設は確認されていない。竈は東南コーナーに検出された。燃焼部幅約60cm、同長約40cm、煙道部長約25cmを測る。煙出しの部分は直に立ち上がる。燃焼部壁は良く焼けており粘土を張った事が確認できた。袖部右手前より砂岩が検出された。燃焼部中央より支脚の痕と思われる小穴が検出された。

(I) 竪穴住居跡



第56図 28号住居跡遺構図・断面図



第57図 28号住居跡遺物図

5. 検出された遺構と遺物

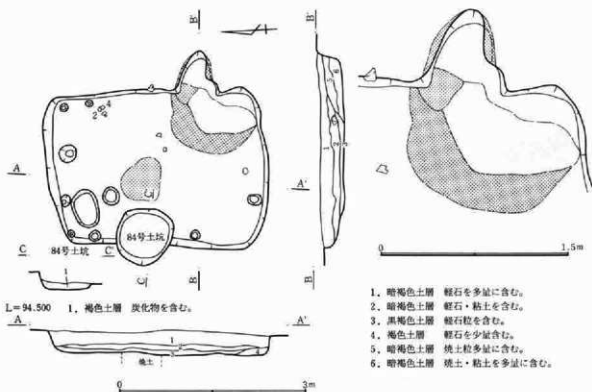
第22表 28号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	甕 土 師	(口)20.0	覆 土	頸部にヘラ痕あり。	①難化 ②橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-2	甕 土 師	(口)20.0	覆 土	頸部にヘラ痕あり。頸部より下 ヘラケズリ。	①難化 ②橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-3	長頸 甕 頸 恵		覆 土		①還元 ②灰色 ③密 ④頸部破片
No-4	埴 土 師	(底)7.0	覆 土	高台穴落。底部 手持ちヘラ調整。	①難化 ②にぶい橙色 ③細砂粒含む ④残存
No-5	羽 蓋		覆 土	全体的に細なナデ調整。脚 下を向く。甕上に指頭痕あり。	①難化 ②橙色 ③1～2mmの砂粒含む ④口縁部破片

30号住居跡 (第58図、PL 5・35・60)

当住居跡は東谷川河川改修部ほぼ中央に位置し28号住居跡の南にある。他の遺構との関係は西壁で84号土坑と重複している。新旧関係は土坑が新しい。規模は長辺3.6m、短辺2.6mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-91°Eである。壁高は約20cm～30cmを測る。床面はほぼ平坦をなす。壁周溝・貯蔵穴・柱穴と確定することは難しいが小穴が7ヶ所で確認されている。1番大きなもので約60cm×40cm、深さ約7～8cmあり、他の小穴も同様の深さをもつ。約20cmを越える深さのものもあるが配置などからみて柱穴と断定しがたい。甕は東壁南寄りに検出された。燃焼部幅約60cm、同長約60cmである。甕の遺存状況は良好で燃焼部内に焼土が堆積している。甕前面に広い範囲で灰・焼土の散布がある。また住居跡中央に焼土が堆積していた。

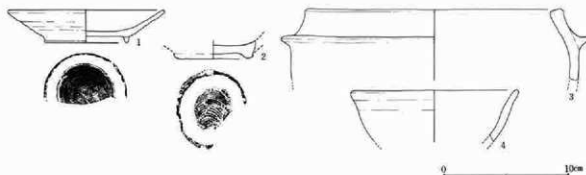
(I) 竪穴住居跡



L=94.500 1. 褐色土層 炭化物を含む。

1. 暗褐色土層 軽石を多量に含む。
2. 暗褐色土層 軽石・粘土を含む。
3. 黒褐色土層 軽石粒を含む。
4. 褐色土層 軽石を少量含む。
5. 暗褐色土層 焼土粒多量を含む。
6. 暗褐色土層 焼土・粘土を多量に含む。

第58図 30号住居跡遺構図・竪穴



第59図 30号住居跡遺物図

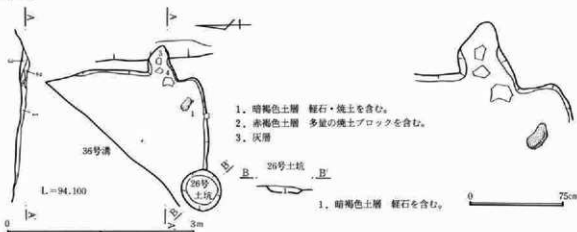
第23表 30号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	皿 胎	口-12.5 高-2.6 底-6.6	覆土	口縁部 内・外面共輪。付高台。底部 回転へう調整。	①還元 ②灰白色 ③細砂粒含む ④片残存
No-2	埴 土 胎	底-6.0	覆土	底部 回転糸切り。内面 黒色付着。	①酸化 ②にぶい・橙色 ③細砂粒含む ④底部片残存
No-3	羽 蓋	(口)20.5	覆土	脚 上を向き、丁寧な貼付、ナデ。	①やや酸化 ②灰褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-4	坏 土 胎	(口)13.0	覆土		①やや酸化②にぶい・赤褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片

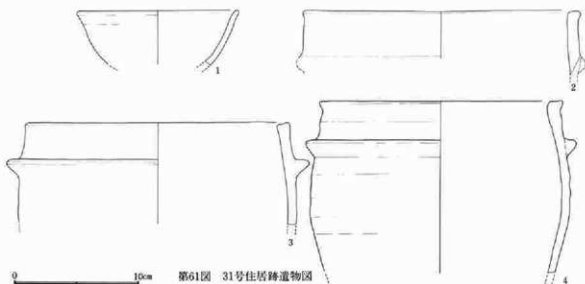
5. 検出された遺構と遺物

31号住居跡 (第60図、PL.5・35・60)

当住居跡は築谷川河川改修部中央西端に位置し19号住居跡の北にある。他の遺構との関係は西半分で36号溝と重複しており、南壁で26号土坑と重複している。新旧関係は溝土坑が新しい。規模、平面形態は不明である。壁高は約5cmを測り、床面はほぼ平坦をなす。竈は東壁に検出された。焼燃部幅約50cm、同長約60cmである。



第60図 31号住居跡遺構図・竈図



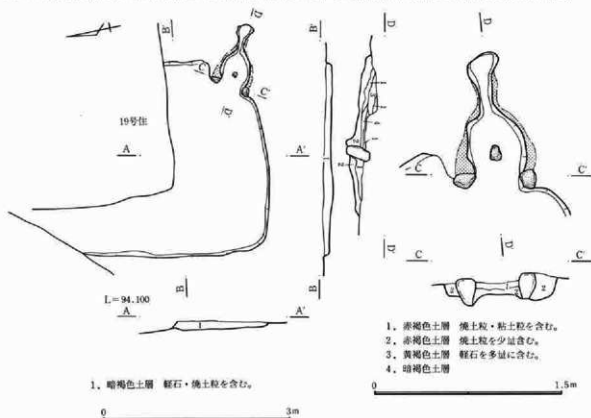
第61図 31号住居跡遺物図

第24表 31号住居跡遺物観察表

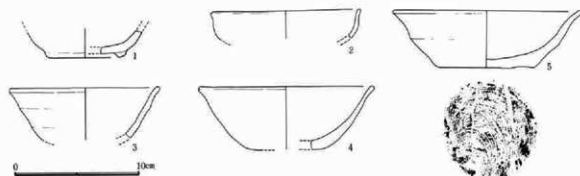
番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏 思	(口)13.0	覆 土	外面 轆轤成形痕あり。	①やや還元 ②灰褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-2	羽 釜	(口)22.1	覆 土	跨 下半部欠落	①還元 ②灰褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-3	羽 釜	(口)21.2	覆 土	跨 上を向く。	①還元 ②灰褐色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-4	羽 釜	口-19.2	覆 土	跨 短く上を向く。体部 外面 轆轤成形痕 明確に残る。	①還元 ②濃い褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④片残存

32号住居跡 (第62図、PL 6・35・60・69)

当住居跡は染谷川河川改修部南西部に位置し31号住居跡の南にある。他の遺構との関係は19号住居跡と重複している。新旧関係は19号住居跡が新しい。さらに北西部を36号溝と重複しており、溝より古い。規模は東西長約3m、南北長約3.6mを測る。平面形態は長方形を呈するものと思われる。主軸方位は竜長軸でN-97°-Eである。壁高は5cm~10cmを測り、床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴などの諸施設は確認できなかった。竈は南東コーナーに検出された。遺存状況は良好で、両袖部は住居跡の床面内に突き出している。規模は燃焼部幅約50cm、同長約60cm、煙道部長約45cmを測る。燃焼部煙道部との境はレベル的には差がなく平坦に延びる。平面形の上では燃焼部奥壁で約10cmの幅になり約25cmの長さを測る。更に煙出し部では約20cmの幅をもつ。両袖部からは砂岩が検出された。また燃焼部中央部より支脚石が検出された。

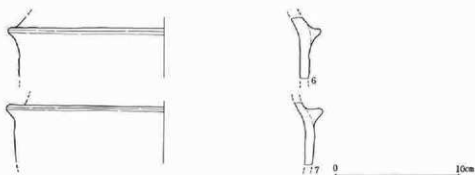


第62図 32号住居跡遺構図・竈図



第63図 32号住居跡遺物図(1)

5. 検出された遺構と遺物



第64図 32号住居跡遺物図(2)

第25表 32号住居跡遺物観察表

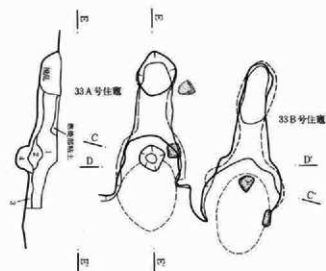
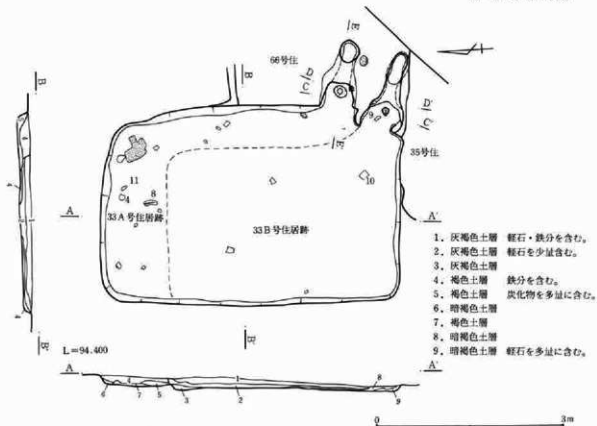
番号	遺物種別	計 画 寸 法 (cm) (口径・底径・高さ)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	焼 須	(底)6.1	覆 土	底部 糸切痕あり。	①酸化 ②褐色 ③2~3mmの砂粒含む ④底部破片
No-2	坏 土 器	(口)12.0	覆 土	口縁部 内・外面共にリコナデ。	①酸化 ②褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-3	坏 須 意	(口)12.0	覆 土	口縁部 やや外反する。体部 外面 轆轤成形痕あり。	①酸化 ②にぶい褐色 ③1~2mm砂粒含む ④口縁部破片
No-4	坏	口-14.0 高-5.0 底-6.0	覆 土	口縁部 外反する。	①酸化 ②にぶい褐色 ③細砂粒含む ④片残存
No-5	坏 須 意	口-15.0 高-4.6 底-7.7	覆 土	口縁部 外反する。底部 回転糸切り。体部 外面 轆轤成形痕あり。	①やや酸化 ②灰褐色 ③細砂粒含む ④片残存
No-6	羽 釜		覆 土		①やや酸化 ②灰褐色 ③細砂粒含む ④破片
No-7	羽 釜		覆 土	脣 上を向き、貼付は丁寧なデ。	①やや酸化 ②にぶい褐色 ③密 ④口縁部破片

33A・B号住居跡 (第65図、PL.6・35・60・69)

33A住居跡は染谷川河川改修区中央東端に位置し21号住居跡の東にある。当初1軒と考えられたが床面やセクションの状況などから2軒と判断しそれぞれにA・Bと分けた。これは平面プラン上でA・Bとの間で約5cmBが低くなること、床面境に壁の立ち上がりを確認したことによる。他の遺構との関係は34・35・66号住居跡と重複している。新旧関係は旧い順に34号住→66号住→35号住→33A号住→33B号住居跡である。規模は長辺4.7m、短辺3.1mを測る。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-93°-Eである。壁高は約10cm~15cmである。床面はほぼ平坦をなし壁周溝・貯蔵穴・柱穴などの諸施設は確認されていない。竈は東壁南寄りに検出された。燃焼部幅約60cm、同長約60cm、煙道部幅約50cmを測る。竈の遺存状況は良好で燃焼部奥壁、煙道部の天井部が遺存している。燃焼部中央より支脚痕と思われる小穴が検出されている。

33B号住居跡の状況は33A号住居跡に述べたとおりである。33A号住居跡より新しく南壁は2軒共有するものと思われる。規模は長辺3.6m、短辺2.8mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-87°-Wである。壁高は約10cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴などの諸施設は検出されていない。竈は南東コーナーに検出された。遺存状況は良好で煙道部天井が残っている。袖幅約50cm、燃焼部長約50cm、煙道部長約70cmを測る。右袖部、燃焼部中央より石が検出された。

(1) 竪穴住居跡

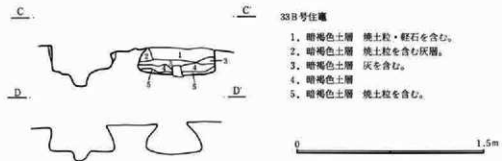


33A号住居窟

1. 暗褐色土層 軽石を含む。
2. 黒褐色土層 炭化物・灰・焼土を含む。
3. 焼土ブロック
4. 暗褐色土層 焼土を少量含む。

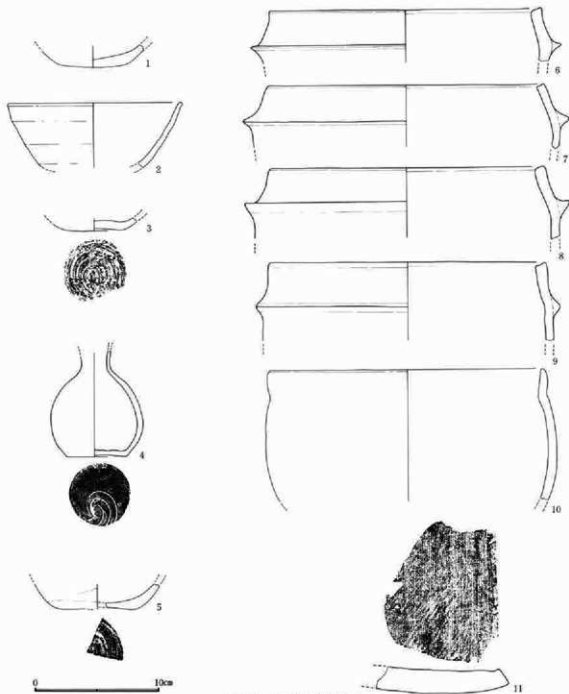
33B号住居窟

1. 暗褐色土層 焼土粒・軽石を含む。
2. 暗褐色土層 焼土粒を含む灰層。
3. 暗褐色土層 灰を含む。
4. 暗褐色土層
5. 暗褐色土層 焼土粒を含む。



第65図 33A・B号住居跡遺構図・窟図

5. 検出された遺構と遺物



第66図 33号住居跡遺物図

第26表 33号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏 土 部	(底)4.5	覆 土	底部 手持ちへラ調整。	①酸化 ②淡黄色 ③1~2mmの 砂粒含む ④底部破片
No-2	坏 須 忠	(口)13.8	覆 土	内・外面釉。	①還元 ②灰白色 ③密 ④口縁 部破片

(1) 竪穴住居跡

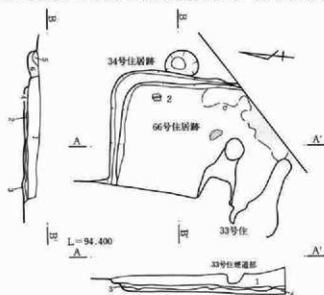
番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・高さ)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
N ₃	坏土 土師	底-4.8	覆土	底部 回転未切り。	①酸化 ②ふいじ色 ③細砂粒含む ④底部のみ残存
N ₄	須恵 土師	底-4.8	覆土	頸部から胴下部に刷毛塗りの軌。底部 回転未切り。右廻り。内面、上部に軸のこぼれ痕	①やや酸化 ②灰白色 ③密 ④胴部上欠落
N ₅	坏土 土師	(底)6.2	覆土	底部 回転調整痕あり。	①酸化 ②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④底部のみ残存
N ₆	羽釜	(口)22.0	覆土	跨 短く断面三角形。貼付は丁寧なナデ。	①還元 ②灰白色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
N ₇	羽釜	(口)22.0	覆土	跨 短く下を向く。貼付は雑なナデ。	①還元 ②灰白色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
N ₈	羽釜	(口)22.0	覆土	跨 短く上を向く。貼付は丁寧なナデ。	①やや酸化 ②灰褐色 ③細砂粒含む ④口縁部欠残存
N ₉	羽釜	(口)22.0	覆土	跨 短く丸味をもつ。貼付は雑なナデ。	①やや還元 ②赤褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
N ₁₀	土師	(口)22.0	覆土	内・外面共に雑なヘラ調整。	①酸化 ②赤褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
N ₁₁	平瓦	瓦籠窠表。1朝A-住11参照			

34号住居跡 (第67図、PL 6)

当住居跡は染谷川河川改修区中央東端に位置し、33号住居跡の東にある。遺存状況は東北壁の一部が残ったのみである。他の遺構との関係は33号住居跡・66号住居跡と重複している。新旧関係は66号住居跡が新しく更に33号住居跡が新しい。規模、主軸方位は不明である。壁高は約10cmを測り床面は平坦をなす。

66号住居跡 (第67図、PL 6)

当住居跡は染谷川河川改修区中央東端に位置し33号住居跡の東にある。東南部は調査区域外に在るため未調査である。他の遺構との関係は33号住居跡・34号住居跡と重複している。規模、主軸方位は不明である。

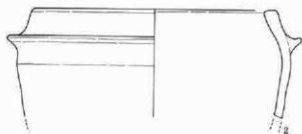
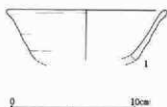


壁高は約10cm~20cmを測り、床面はほぼ平坦をなす。床面南東部に灰の散布を確認し竈の位置が想定できる。

1. 暗褐色土層 軽石・ローム粒を含む。
2. 黒褐色土層
3. 暗褐色土層 軽石・ロームブロックを含む。
4. 暗褐色土層 ローム粒を含む。
5. 暗褐色土層 軽石を含む。
6. 暗褐色土層

第67図 34号・66号住居跡遺構図

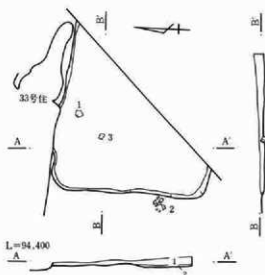
5. 検出された遺構と遺物



第68図 66号住居跡遺物図

第27表 66号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏 須恵	(口)13.0	覆土	口縁部 外反する。外面 轆轤成形痕あり。	①酸化 ②におい褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④破片
No-2	羽 釜	(口)19.5	覆土	筒上を向く、貼付は丁寧なナデ。外面 轆轤成形痕残る。	①還元 ②灰褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片

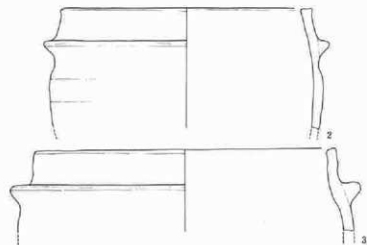


35号住居跡 (第69図、PL 6・60・69)

当住居跡は染谷川河川改修部中央東端に位置し33号住居跡の南にある。南東部は調査区域外に在るため未調査である。他の遺構との関係は33号住居跡・66号住居跡と重複している。新旧関係は66号住居跡が新しく更に33号住居跡が新しい。規模、主軸方位は不明である。壁高は2~3cmを測り床面はほぼ平坦をなす。

1. 暗褐色土層 軽石を含む。
2. 黄褐色土層 ロームブロックを含む。

第69図 35号住居跡遺構図



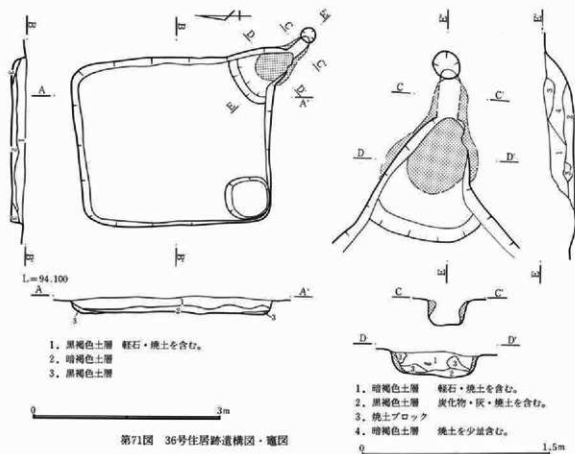
第70図 35号住居跡遺物図

第28表 35号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	丸瓦	互観察表、2類B-No-1参照			
No-2	羽釜	(口)20.1	覆土	脚 狭く上を向く。貼付は丁寧なナデ。外面 輪縁成形痕残る。	①やや還元 ②にぶい橙色 ③粗 砂粒含む ④口縁部破片
No-3	羽釜	(口)23.5	覆土	脚 丸味を持ち上を向く。貼付はやや雑	①やや還元 ②明赤褐色 ③1 ～2mmの砂粒含む ④口縁部破片

36号住居跡 (第71図、PL.6)

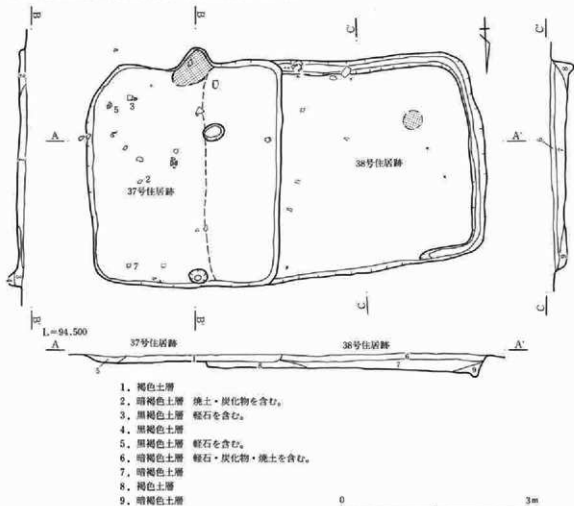
当住居跡は染谷川河川改修区北部に位置し41号住居跡の南にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺3.2m、短辺2.7mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-90°-Eである。壁高は約20cmを測り垂直に立ち上がる。床面はほぼ平坦をなし堅く踏み締めてあり竈前面と中央部が特に堅い。南西コーナーに落ち込みを確認した。規模は約65cm×55cm、深さ約20cmである。最低面より焼土が検出され灰捨て穴と思われる。竈は南東コーナーに検出された。遺存状況は良好で煙道天井部が約30cm残っている。規模は燃焼部幅約70cm、同長約70cm、煙道部長約50cmを測る。煙道部の断面はカマボコ状を呈する。両袖部から煙道部天井にかけて粘土を張っている。燃焼部中央に径約8cmの支脚痕と思われる小穴が検出された。



5. 検出された遺構と遺物

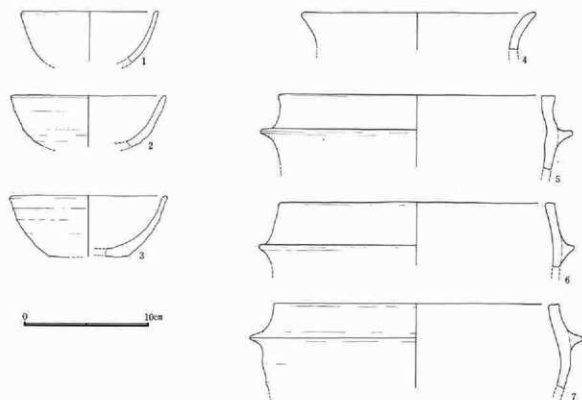
37・38号住居跡（第72図、PL.6・60）

当住居跡は染谷川河川改修区北端中央に位置し41号住居跡の西にある。他の遺構との関係は38号住居跡と重複している。新旧関係は当住居跡が新しい。また38号住居跡からはS字状口縁台付壺など古式土師器や弥生土器が多数検出されている。規模は長辺3.6m、短辺3.2mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-180-Eである。壁の遺存は悪く壁高は5～6cmを測る。床面は竈周辺は堅く平坦をなすが壁周辺になると多いところで約8cmの比高をもち凹凸の状態である。壁周溝・貯蔵穴・柱穴はない。小穴は2ヶ所検出され、竈前面と北壁中央である。規模は約35cm×30cm、深さ約20cmを測る。また北壁中央の小穴は約25cm×20cm、深さ約15cmを測り位置的に考えて出入口が想定できる。竈は南壁中央に検出された。燃焼部幅約45cm、同長約40cmを測る。竈内面には粘土が張ってある。



第72図 37・38号住居跡遺構図

(I) 竪穴住居跡



第73図 37号住居跡遺物図

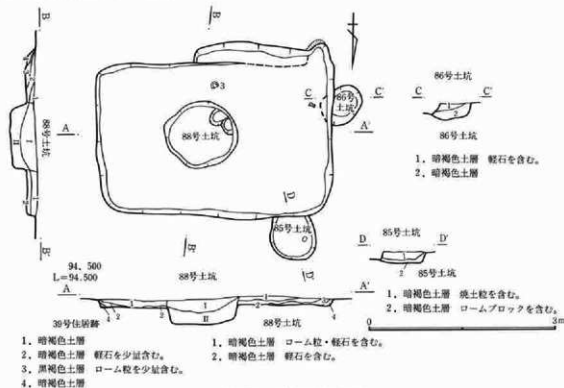
第29表 37号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計 画 値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏 皿	(口)10.7	覆 土		①やや酸化 ②灰褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-2	坏 皿	(口)12.7	覆 土	外面 雑な整形。	①還元 ②灰白色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-3	坏 皿	(口)12.5 (高)5.0 (底)6.0	覆 土	底部 高台穴落痕あり。	①酸化 ②におい橙色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-4	土 器	(口)18.8	覆 土	口縁部 外面 ヨコナデ。	①酸化 ②におい橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-5	羽 蓋	(口)22.0	覆 土	脚 上を向く。丁寧な貼付。	①還元 ②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-6	羽 蓋	(口)22.0	覆 土	脚 上を向く。丁寧なナデ。	①やや還元 ②淡黄色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-7	羽 蓋	(口)22.7	覆 土		①還元 ②灰白色 ③細砂粒含む ④口縁部破片

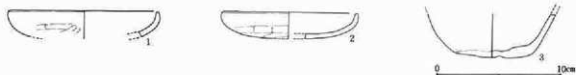
5. 検出された遺構と遺物

39号住居跡 (第74図, PL 7・60)

当住居跡は栄谷川河川改修区とC区との境にあり、41号住居跡の北にある。他の遺構との関係は82・85・88号土坑と重複している。82・85号土坑は住居跡より旧く88号土坑は住居跡より新しい。規模は長辺3.9m、短辺2.5mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-68°-Eである。壁高は約15cmを測り南壁を除き遺存は良好である。床面はほぼ平坦をなし検出の状態は良好である。竈は南壁コーナーに検出された。明確な形での検出は出来なかったが焼土の堆積から判断された。燃焼部は明確には確認できなかったが煙道部の一部が確認されたのみである。



第74図 39号住居跡遺構図



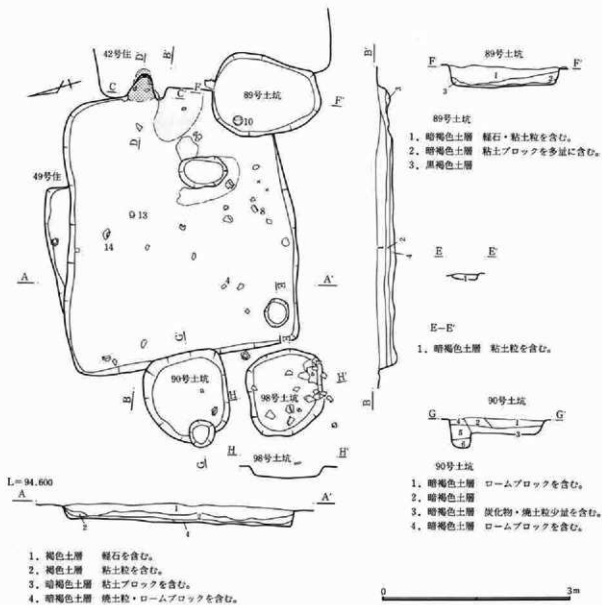
第75図 39号住居跡遺物図

第30表 39号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③粘土 ④残存
No-1	坏土部	(口)12.0	覆土	口縁部 内・外面共ヨコナデ。体部 外面ヘラケズリ。内面 ナデ。	①焼成 ②褐色 ③1-2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-2	坏土部	(口)10.9	覆土	口縁部 内・外面共ヨコナデ。体部 外面ヘラケズリ。内面 ナデ。	①焼成 ②褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-3	坏土部	(底)6.0	覆土	底部 手押ちへラ調整。	①濃元 ②灰褐色 ③1-2mmの砂粒含む ④底部のみ残存

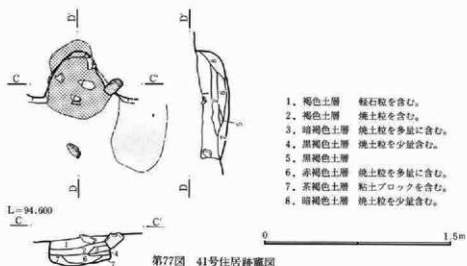
41号住居跡 (第76・77回、PL 7・35・60)

当住居跡はC区と染谷川河川改修区の境に位置し37号住居跡の東にある。他の遺構との関係は42・49号住居跡、89・90号土坑と重複している。住居跡との関係は42・49号住居跡より新しい。規模は長辺4.4m、短辺3.7mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-12°-Eである。壁高は約10cmを測り垂直に立ち上がる。床面はほぼ平坦をなし壁周溝・柱穴・貯蔵穴などの諸施設は検出されていない。竈は東壁に検出された。竈前面には約80cm×50cm、深さ約数cmの落ち込みを確認した。この落ち込みは41号住居跡に伴うものではなく42号住居跡の施設と考えられる。竈の規模は燃焼部幅約50cm、同長約30cmを測る。竈右袖に当たるところから石を検出した。

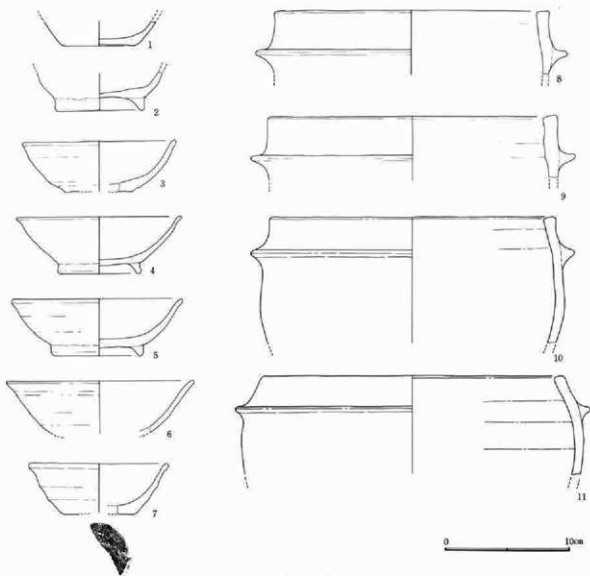


第76回 41号住居跡遺構図

5. 検出された遺構と遺物

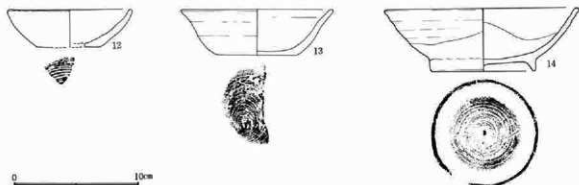


第77図 41号住居跡遺構図



第78図 41号住居跡遺物図(1)

(I) 竪穴住居跡



第79図 41号住居跡遺物図(2)

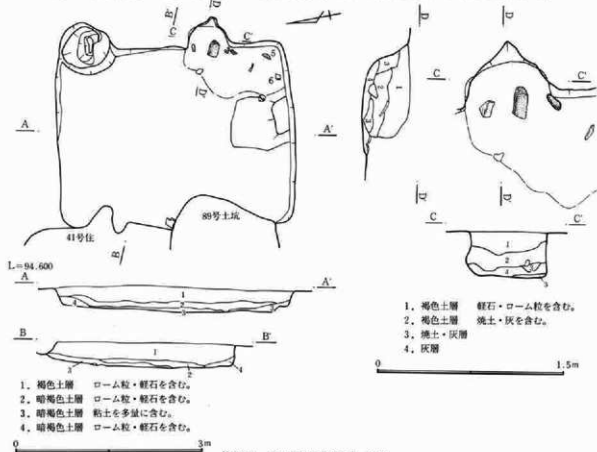
第31表 41号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
Ni-1	坏土師	(口径)6.0	覆土		①酸化 ②棕色 ③1~2mmの砂粒含む ④底部破片
Ni-2	埴土師	(口径)7.0	覆土	付高台。底部 ナデ。	①酸化 ②にぶい棕色 ③細砂粒含む ④底部破片
Ni-3	須恵須恵	(口径)12.3 (高)4.0 (底)5.3	甕内	付高台欠落痕あり。	①やや酸化 ②灰褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④片残存
Ni-4	埴須恵	(口径)13.1 (高)4.5 (底)6.7	覆土	付高台。底部 回転ヘラ調整。内面 軸。口縁部 外反する。	①還元 ②灰色 ③密 ④片残存
Ni-5	埴須恵	(口径)13.5 (高)4.5 (底)7.4	覆土	口縁部 内・外面に軸。付高台。	①還元 ②灰色 ③1~2mmの砂粒含む ④片残存
Ni-6	坏須恵	(口径)15.0	覆土	口縁部 外反する。外面 一部軸。	①還元 ②灰白色 ③密 ④口縁部破片
Ni-7	坏須恵	(口径)11.2 (高)4.0 (底)5.8	覆土	口縁部 外反する。底部 回転糸切痕あり。	①酸化 ②にぶい棕色 ③細砂粒含む ④破片
Ni-8	羽釜	(口径)22.0	覆土	踵 上を向く。内・外面 丁寧なナデ。	①還元 ②灰褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
Ni-9	羽釜	(口径)23.0	覆土	踵 上を向く。内・外面 丁寧なナデ。	①還元 ②灰褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
Ni-10	羽釜	(口径)23.0	覆土	踵 上を向き。断面は三角形。口縁部 やや内傾する。	①還元 ②灰褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
Ni-11	羽釜	(口径)24.0	覆土	踵 断面は三角形。内・外面 丁寧なナデ。口縁部 やや内傾する。	①還元 ②灰褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
Ni-12	坏須恵	(口径)10.0 (高)3.0 (底)5.0	覆土	底部 回転糸切痕あり。	①酸化 ②褐色 ③細砂粒含む ④破片
Ni-13	坏須恵	(口径)12.3 高-3.6 (底)3.6	覆土	底部 回転糸切り。右廻り。	①やや酸化 ②灰色 ③1~2mmの砂粒含む ④片残存
Ni-14	埴灰軸	口径-15.4 高-4.9 底-4.9	覆土	口縁部 内・外面に軸。底部 回転ヘラ切り。付高台。	①やや酸化 ②灰色 ③細砂粒含む ④光形

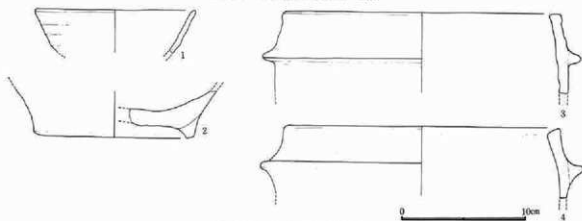
5. 検出された遺構と遺物

42号住居跡 (第80図、PL 7・35・61)

当住居跡はC区と染谷川河川改修区の境に位置し37号住居跡の東にある。他の遺構との関係は41号・43号住居跡・89号土坑と重複している。新旧関係は住居跡、土坑より古い。また北東コーナーの落ち込みは覆土が当住居跡の覆土とほぼ同じであり当住居跡に伴うと考えられる。規模は長辺3.9m、短辺2.9mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-9°-Eである。壁高は約30cmを測り、垂直に立ち上がる。床面は平坦をなす。また南壁際に壁に沿って約50cm壁から約20cmの広さを持ち約15cm~20cmの高さのテラス状の部分を持つ。北東壁周溝・柱穴・貯蔵穴などの諸施設は確認されていない。竈は東壁やや南に検出された。燃焼部幅約70cm、同長約35cm、煙道部約15cmの痕跡を遺す。燃焼部中央竈前面より砂岩を検出した。



第80図 42号住居跡遺構図・竈図



第81図 42号住居跡遺物図(1)

(1) 竪穴住居跡



第82図 42号住居跡遺物図(2)

第32表 42号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・直径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③粘土 ④残存
No-1	坏 煎 器	(口径)13.0	貯蔵穴内		①還元 ②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-2	埴 土 師	(径)12.5	甕付近 付高台。		①酸化 ②よい橙色 ③3~4mmの砂粒含む ④底部破片
No-3	羽 釜	(口径)22.0	覆土	口縁部 やや内傾し、丁寧なナデ。	①やや酸化 ②淡黄色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-4	羽 釜	(口径)22.0	覆土	肩 上を向く。整形は丁寧なナデ。	①やや酸化 ②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-5	埴 灰 輪	口径-13 高-4.2 底-7.2	覆土	口縁部 内面 透明釉。外面 横ナデ。付高台。底部 回転ヘラ調整。内面 底部に重ね焼成。	①還元 ②灰色 ③密 ④残存
No-6	羽 釜	(口径)22.0	覆土	口縁部 やや内傾する。肩 下を向く。	①やや酸化 ②橙色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁部破片

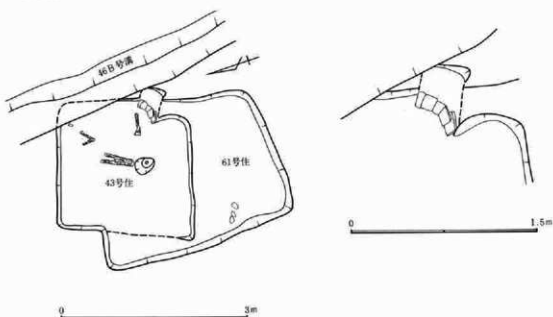
61号住居跡 (第83図、PL 7・70・86)

当住居跡はC区と染谷川河川改修区との境に位置し42号住居跡の東にある。他の遺構との関係は43号住居跡と重複している。新旧関係は43号住居跡が新しい。規模・平面形態・主軸方位は計測出来ないが西壁長は約3.1mを測る。壁高は約15cm~20cmを測り、垂直に立ち上がる。床面は平坦をなす。壁周溝・柱穴・貯蔵穴などの諸施設は検出されていない。甕は検出されていないが南東コーナーから約70cm北に約30cmの幅を持ち壁に焼土が検出された。

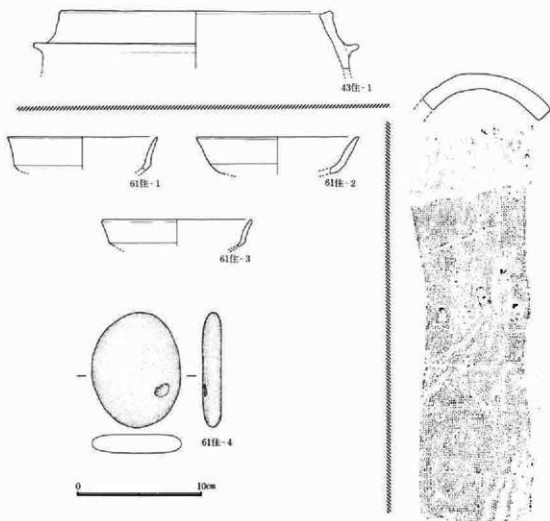
43号住居跡 (第83図、PL 7・61)

当住居跡の位置は61号住居跡と同様である。他の遺構との関係は61号住居跡・46B号溝と重複している。新旧関係は61号住居跡より新しくさらに46B号溝が新しい。規模は長辺2.3m、短辺2mである。平面形態は正方形に近くコーナーは直角状を呈する。主軸方位はN-153-Eである。壁高は約10cm~20cmを測る。床面は平坦をなし、全面に加熱を受けており赤変している。床上には炭化材も多く見られ焼失家屋と考えられる。甕は東壁や南寄りへ検出された。袖幅約30cm、燃焼部長約40cmを測る。また瓦が燃焼部前面より検出され構築に当たっての袖材と考えられる。燃焼部内部は粘土などの使用は見られずルーム面がよく焼けた状態であった。

5. 検出された遺構と遺物



第83図 43号・61号住居跡遺構図・断面図



第84図 43号・61号住居跡遺物図

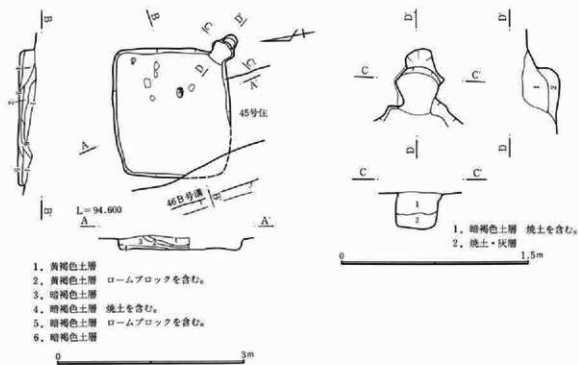
43住-2

第33表 43・61号住居跡遺物観察表

番号	遺物種別	計測値(cm) (口径・直径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①酸化 ②色調 ③胎土 ④残存
43号住居 No-1	羽釜	(口)22.0	覆土	口縁部 やや内傾する。脚上を向く。	①やや酸化 ②におい赤褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
43号住居 No-2	丸瓦	瓦観察表、1類A一住4参照			
61号住居 No-1	土師	(口)12.0	覆土	口縁部 内・外面共ココナデ。	①酸化 ②褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
61号住居 No-2	土師	(口)13.0	覆土	口縁部 内・外面共ココナデ。横ゆるやか。	①酸化 ②褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
61号住居 No-3	土師	(口)12.0	覆土	口縁部 内・外面共ココナデ。	①酸化 ②褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
61号住居 No-4	石	(長) 19.0cm (幅) 7.2×1.3 g 129	床直上	輝石安山岩。	粗粒

44号住居跡 (第85図、PL.7・35・61・86)

当住居跡はC区と染谷川河川改修区との境に位置し43号住居跡の東にある。他の遺構との関係は45号住居跡・46B号溝と重複している。新旧関係は当住居跡は45号住居跡より新しくさらにこの2軒を46B号溝が壊して造られており、南西コーナーを消失している。規模は長辺2.1m、短辺1.9mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-101°-Eである。壁高は約20cmを測り垂直に立ち上がる。床面は平坦をなすが中央部に僅かであるが2~3cmの高まりを持つ。壁周溝・柱穴・貯蔵穴などの諸施設は検出されていない。電は東南コーナーに検出された。燃焼部幅約30cm、同長約40cmを測る。燃焼部は大きく壁の外へ張り出している。



第85図 44号住居跡遺構図・電図

5. 検出された遺構と遺物

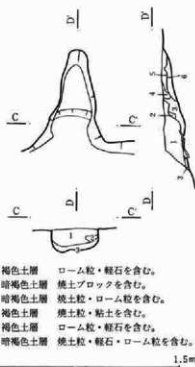
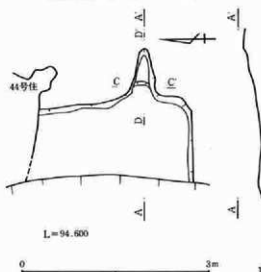


第86図 44号住居跡遺物図

第34表 44号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①酸化 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏 土 罎	(口)12.0	覆 土	口縁部 内・外面共ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。	①酸化 ②棕色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-2	坏 土 罎	(口)10.8 高-3.7 (底)4.5	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面ナデ。	①酸化 ②棕色 ③細砂粒含む ④片残存
No-3	坏 土 罎	(口)12.0	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面ナデ。	①酸化 ②灰褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④片残存
No-4	蓋 須 恵		覆 土		①還元 ②灰白色 ③帯 ④破片
No-5	坏 須 恵	(口)11.0	覆 土	内・外面共ヨコナデ。	①還元 ②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-6	石	(長) (厚) cm g 9.8×7.0×1.5 191	覆 土	輝石安山岩。	粗粒

45号住居跡 (第87図PL 7・69)



1. 褐色土層 ローム粒・軽石を含む。
2. 暗褐色土層 焼土ブロックを含む。
3. 暗褐色土層 焼土粒・ローム粒を含む。
4. 褐色土層 焼土粒・粘土を含む。
5. 褐色土層 ローム粒・軽石を含む。
6. 暗褐色土層 焼土粒・軽石・ローム粒を含む。

第87図 45号住居跡遺構図・窺図

当住居跡はC区と染谷川河川改修区の境に位置し61号住居跡の東にある。他の遺構との関係は44号住居跡・46B号溝と重複している。新旧関係は旧い順に45号住居跡→44号住居跡→46B号溝である。規模・平面形態は不明であるが竈の主軸N-97-Eである。壁高は約10cmを測り床面は平坦をなす。竈は東壁やや南寄り

(1) 竪穴住居跡

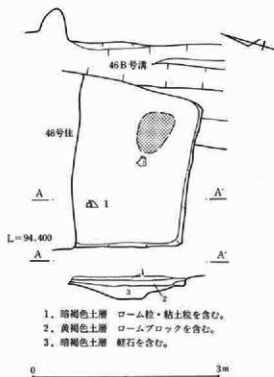
に検出された。燃焼部幅約40cm、同長約75cmを測る。



第88図 45号住居跡遺物図

第35表 45号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	丸瓦	瓦観察表、2類B-No3参照			

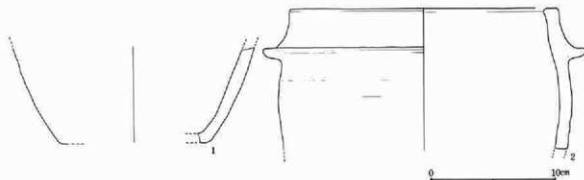


1. 暗褐色土層 ローム粒・粘土粒を含む。
2. 黄褐色土層 ロームブロックを含む。
3. 暗褐色土層 軽石を含む。

第89図 47号住居跡遺構図

47号住居跡 (第89図、PL61)

当住居跡はC区南西に位置し39号住居跡の東にある。他の遺構との関係は48号住居跡・46B号溝と重複している。規模・平面形態・主軸方位は不明である。壁高は約15cmを測り、床面は平坦である。竈は46B号溝により消失している。



第90図 47号住居跡遺物図

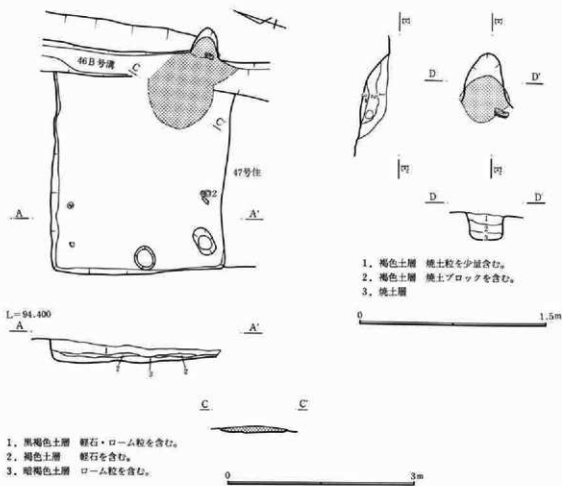
5. 検出された遺構と遺物

第36表 47号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	葉 須 恵	(底)12.0	覆土 内面 ナダ。		①やや酸化 ②灰褐色 ③2~3mmの砂粒含む ④底部破片
No-2	羽 釜	(口)21.5	覆土 跡上を向く。		①酸化 ②褐色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁部破片

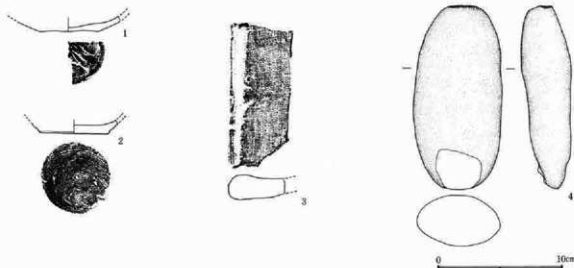
48号住居跡 (第91図, PL 8・61・69・86)

当住居跡はC区南西に位置し39号住居跡の東にある。他の遺構との関係は47号住居跡・46B号溝と重複している。新旧関係は47号住居跡より新しく46B号溝より古い。規模は長辺3.5m、短辺2.7mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-80°-Eである。壁高は約15cm~30cmを測り立ち上がる。床面は約10cmの比高をもち緩やかに西に向い傾斜している。西壁南側に沿って小穴が2基検出された。規模はそれぞれ約40cm×35cm、深さ約20cmで北側は約40cm×30cm、深さ約20cmを測る。竈は東壁やや南寄りに検出された。燃焼部幅約50cm、同長約40cmである。竈前面に広い範囲で焼土・灰が検出された。燃焼部内より瓦が検出された。瓦は表面が僅かに焼けている。



第91図 48号住居跡遺構図・竈図

(I) 竪穴住居跡

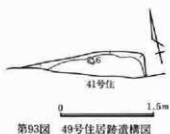


第92図 48号住居跡遺物図

第37表 48号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・高さ)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏土部	(底)4.8	覆土	底部 回転糸切り。	①酸化 ②淡褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④底部破片
No-2	坏土部	底-5.4	覆土	底部 回転糸切り。右廻り。	①酸化 ②淡黄色 ③1~2mmの砂粒含む ④底部のみ残存
No-3	平瓦	互観察表、1類A-住3参照			
No-4	石	(長) (W) cm 14.0×7.0×3.5 GM	覆土	輝石安山岩。	粗粒

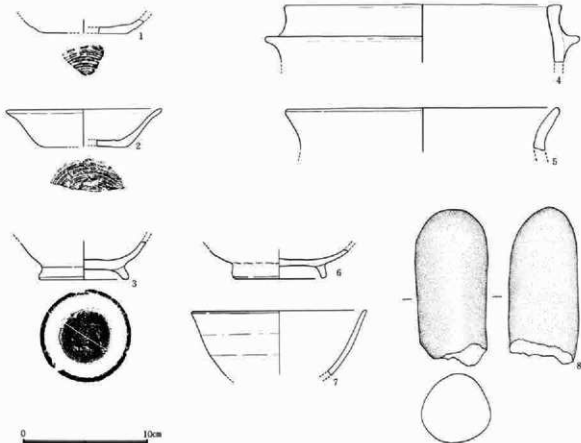
5. 検出された遺構と遺物



第93図 49号住居跡遺構図

49号住居跡 (第93図、PL.35・59・86)

当住居跡はC区と染谷川河川改修区の境に位置し37号住居跡の東にある。他の遺構との関係は41号住居跡と重複している。41号住居跡により住居跡の大部分は消失している。壁高は約10cmを測る。竈は検出されていない。



第94図 49号住居跡遺物図

第38表 49号住居跡遺物観察表

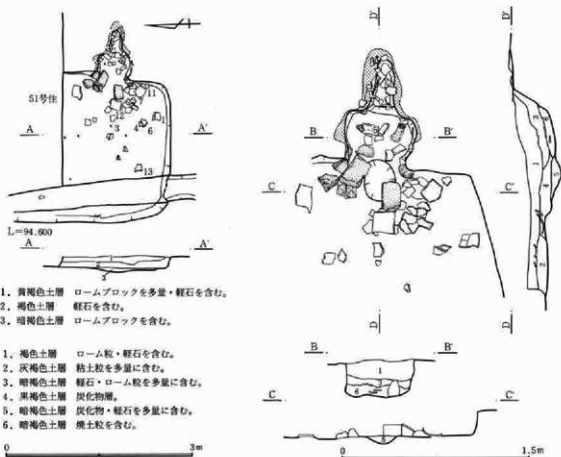
番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏 須恵	(底)6.7	覆土 底部 回転糸切り。		①還元 ②灰色 ③3~4mmの砂粒含む ④底部破片
No-2	坏 須恵	口-12.5 高-3.0 底-6.5	覆土 口縁部 外反する。底部 回転糸切り。		①やや酸化 ②灰褐色 ③細砂粒含む ④5残存
No-3	坏 須恵	底-7.2	覆土 底部 回転糸切り後、ナデ。中心に一本へう痕あり。付高台。		①還元 ②灰褐色 ③1~2mmの砂粒含む。④底部のみ残存
No-4	羽 釜	(口)22.0	覆土 脚 上を向く。口縁部 やや厚い。		①やや酸化 ②にぶい褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片

(1) 竪穴住居跡

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・高さ)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-5	灰土 土器	(口)22.0	覆土	口縁部 内・外面共に縞ナゲ。	①軟化 ②灰色 ③2~3mmの砂粒を含む ④口縁部破片
No-6	灰土 土器	底-7.5	覆土	付高台。底部 回転へう調整。一部に軸。	①還元 ②灰色 ③密 ④底部のみ残存
No-7	灰土 土器	(口)14.0	覆土	口縁部 内面に軸。	①還元 ②灰色 ③密 ④口縁部破片
No-8	石	(長) (厚) cm 12.2×5.7 # 568	覆土	輝石安山岩。	粗粒

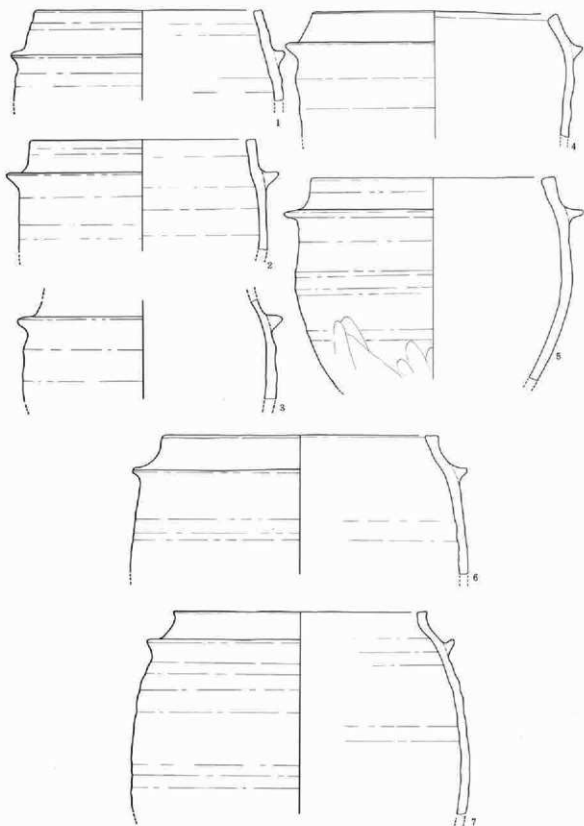
50号住居跡 (第95図、PL 8・36・59・61)

当住居跡はC区南東部に位置し44号住居跡の北東にある。他の遺構との関係は51号住居跡・41号溝と重複している。新旧関係は51号住居跡が新しくさらに41号溝が新しい。規模・平面形態は不明であるが東西長約2.2mを測る。主軸方位はN-95°-Eである。壁高は約15cm~20cmを測る。床面はほぼ平坦をなすが西に向かい約5cmの比高を持ち傾斜している。壁周溝・柱穴・貯蔵穴などの諸施設は検出されていない。床面はほぼ平坦をなし堅く締まっている。特に電前が堅い。電は東壁に検出された。電の遺存状態は良好である。袖幅約50cm、燃燒部約40cm、煙道部約30cmを測る。構築に当たっては粘土の使用は見られず、袖石・支脚石が検出された。袖石は砂岩の角材である。電内から土器片・石が多く検出されている。



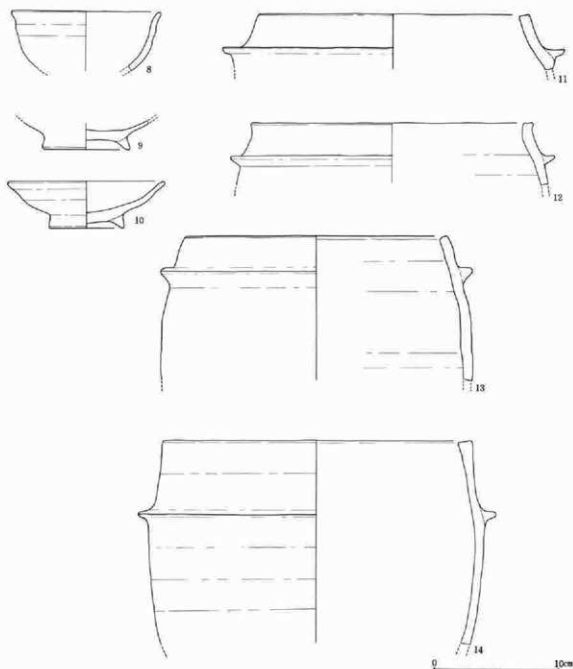
第95図 50号住居跡遺構図・電図

5. 検出された遺構と遺物



第96図 50号住居跡遺物図(1)

(1) 竪穴住居跡



第97図 50号住居跡遺物図(2)

第39表 50号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	羽釜	(口)18.3	覆土	脚短い。口縁部内積する。	①やや酸化 ②灰色 ③細砂粒含む ④口縁のみ残存
No-2	羽釜	(口)18.0	覆土	脚上を向く。器面難なナデ。	①やや酸化 ②灰色 ③細砂粒含む ④口縁～胴部破片
No-3	羽釜		覆土	脚短い。器面難なナデ。	①酸化 ②褐色 ③2～3mmの砂粒含む ④胴部破片

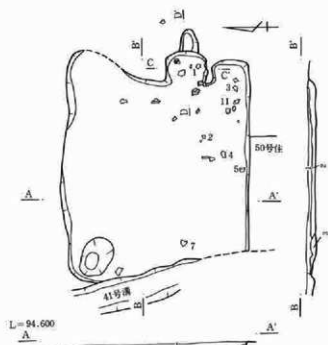
5. 検出された遺構と遺物

番号	器種別	計測値(cm) (口徑・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-4	羽釜	(口)19.5	覆土	蹄 短く、上を向く。口縁部 内傾する。	①やや酸化 ②灰白色 ③細砂粒含む ④口縁～胴部×残存
No-5	羽釜	口-19.3	覆土	蹄 やや上を向く。口縁部は厚く、やや内傾する。胴部 下部へラケズリ。	①やや酸化 ②にぶい褐色 ③2～3mmの砂粒含む ④×残存
No-6	羽釜	(口)22.0	覆土	蹄 短く、丁寧な貼付。口縁部 やや厚く、内傾する。	①やや酸化 ②灰色 ③1～2mmの砂粒含む ④口縁～胴部破片
No-7	羽釜	(口)20.2	覆土	蹄 短く、狭く上を向く。口縁部 内傾する。	①還元 ②灰色 ③細砂粒含む ④口縁～胴部×残存
No-8	坏須恵	(口)12.0	覆土	口縁部 やや外反する。外面 内面、黒色を呈する。	①やや酸化 ②にぶい褐色 ③2～3mmの砂粒含む ④破片
No-9	埴壇	(底)7.1	覆土	付高台。	①やや酸化 ②淡褐色 ③1～2mmの砂粒含む ④底部破片
No-10	皿須恵	口-12.4 高-3.7 底-6.0	覆土	付高台。	①やや酸化 ②淡黄褐色 ③1～2mmの砂粒含む ④×残存
No-11	羽釜	(口)21.5	覆土	蹄 上を向く。口縁部 内傾する。	①還元 ②灰色 ③2～3mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-12	羽釜	(口)22.5	覆土	蹄 短く、上を向く。	①やや酸化 ②強赤褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-13	羽釜	(口)21.0	覆土	器面 雑なナデ。	①やや酸化 ②にぶい褐色 ③2～3mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-14	羽釜	口-24.8	覆土	蹄 横に向く。器面 雑なナデ。	①やや酸化 ②灰褐色 ③1～2mmの砂粒含む ④×残存

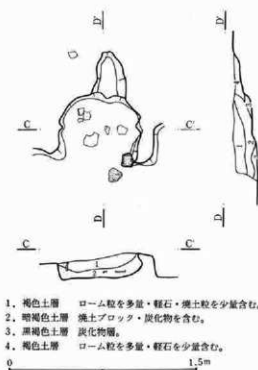
51号住居跡 (第98図、PL 8・61)

当住居跡はC区南西に位置し44号住居跡の北東にある。他の遺構との関係は50号住居跡・41号溝と重複している。新旧関係は51号住居跡が新しくさらに41号溝が新しい。また10号掘立柱建物跡と重複しており当住居跡のなかにP-8・9がある。掘立柱建物跡はさらに旧いものと思われる。規模は西壁が消失しているためにはっきりとしないが南北の長さは約3mを測る。平面形態は長方形を呈するものと思われる。電の主軸方位はN-94°-Eである。壁高は約5～10cmを測る。床面は平坦をなし、壁周溝・柱穴は確認されていない。貯蔵穴は北西コーナーに検出された。規模は約70cm×45cm、深さ約15cmを測る。竈は東壁や南寄りに検出された。竈燃焼部は壁から大きく床に入り込んでいる。このため電筒袖も大きく床面に張り出している。竈北側の壁も大きく張り出している。袖幅約50cm、燃焼部長約50cm、煙道部長約35cmを測る。右袖より砂岩質の石を2個検出している。

(1) 竪穴住居跡



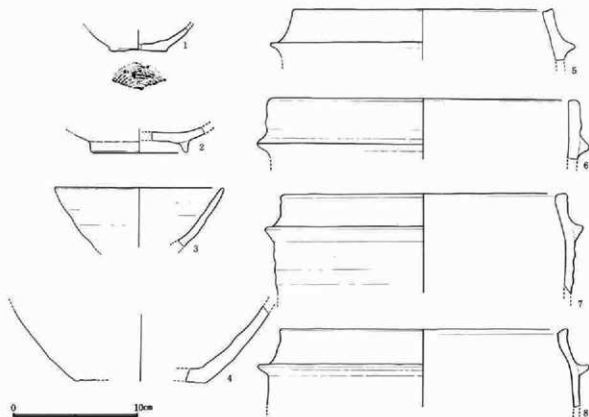
1. 褐色土層 軽石・ローム粒を含む。
2. 暗褐色土層 ロームブロックを含む。



1. 褐色土層 ローム粒を多量・軽石・焼土粒を少量含む。
2. 暗褐色土層 焼土ブロック・炭化物を含む。
3. 黒褐色土層 炭化物層。
4. 褐色土層 ローム粒を多量・軽石を少量含む。

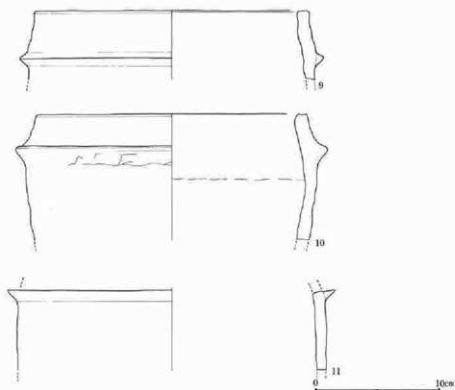
0 3m

第98図 51号住居跡遺構図・断面図



第99図 51号住居跡遺物図(1)

5. 検出された遺構と遺物



第100図 51号住居跡遺物図(2)

第40表 51号住居跡遺物観察表

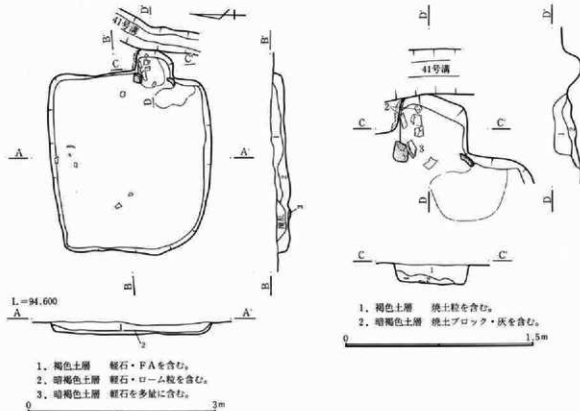
番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・高さ)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	皿 土師	(底)4.2	覆土	底部 回転糸切り。	①酸化 ②によい褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④底部破片
No-2	碗 須恵	(底)7.7	覆土	付高台。	①還元 ②灰白色 ③細砂粒含む ④底部破片
No-3	埴 土師	(口)13.5	覆土	内面 黒色。	①酸化 ②によい褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-4	甕 土師	(底)10.4	覆土	外面 ヘラナデ。内面 ナデ。	①やや還元 ②灰黄色 ③1~2mmの砂粒含む ④底部破片
No-5	羽釜	(口)21.0	覆土	口縁部 内傾する。肩 短く、断面は三角形。	①やや酸化 ②によい褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-6	羽釜	(口)24.5	覆土	口縁部 直立する。肩 小さく断面は三角形。	①還元 ②灰白色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-7	羽釜	(口)2.3	覆土	肩 短く上を向く。器面 内・外面共にナデ。	①還元 ②灰黄色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-8	羽釜	(口)23.0	覆内	肩 上を向く。器面 丁寧なナデ。	①酸化 ②褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-9	羽釜	(口)22.0	覆土	肩 短く、断面は三角形。内・外面共にナデ。	①やや酸化 ②によい褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片

(1) 竪穴住居跡

番号	遺種別	計測値(cm) (口径・底径・跡高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-10	羽釜	(口)22.0	覆土	跗 断面三角形。貼付けは雑なナデ。跗下へ少残残る。	①軟化 ②棕色 ③3~4mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-11	羽釜		覆土	跗 上半を欠損。器面 内・外面共ナデ。	①還元 ②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④破片

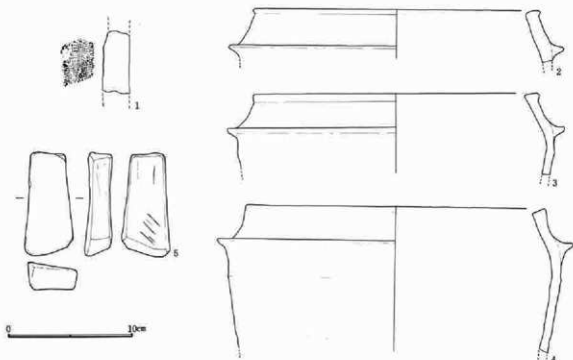
52号住居跡 (第101図、PL 8・36)

当住居跡はC区南西に位置し48号住居跡の北東にある。他の遺構との関係は41号溝と重複している。新旧関係は41号溝が新しい。規模は長辺2.9m、短辺2.7mである。平面形態は正方形に近い形状を呈する。主軸方位はN-94°-Wである。壁高は約10cm~20cmを測り垂直に立ち上がる。床面は約7cmの比高をもち西側が低くなり凹凸が多い。壁溝溝・柱穴・貯蔵穴などの諸施設は検出されていない。竈は東壁やや南寄りに検出された。煙道部先端は41号溝により消失している。燃烧部幅約60cm、同長約50cmを測る。内壁には薄く粘土が張ってあり焼土化している。また火床面の粘土の下から灰が検出され2面の火床が確認された。左袖部と燃烧部中央それぞれ袖石・支脚石が検出された。



第101図 52号住居跡遺構図・断面

5. 検出された遺構と遺物



第102図 52号住居跡遺物図

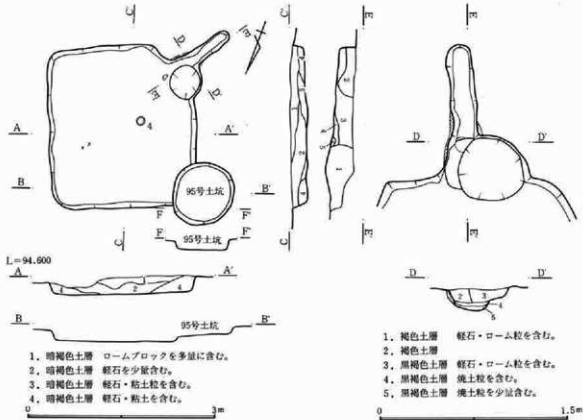
第41表 52号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	平瓦	瓦観察表、1類A-住1参照			
No-2	羽釜	(口)22.8	覆土	口縁部 厚くなり、内傾する。跨上を向く。	①やや軟化 ②濃い褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-3	羽釜	(口)22.7	覆土	口縁部 厚くなり、内傾する。跨上を向き、丁寧なナデ。	①還元 ②灰白色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-4	羽釜	(口)23.8	覆土	口縁部 厚くなり、内傾する。跨上を向く。	①還元 ②灰白色 ③4~5mmの砂粒含む ④口縁~胴部欠残存
No-5	砥石	(長) 440 (厚)cm × 16.5×7.0×4.0 838	覆土	流紋岩(砥沢)。使用痕あり。	

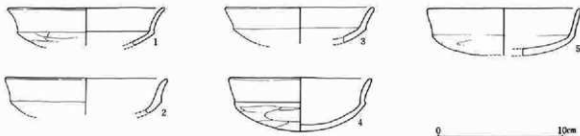
(I) 竪穴住居跡

53号住居跡 (第103図, PL 8・36)

当住居跡はC区南西に位置し52号住居跡の東にある。他の遺構との関係は95号土坑と重複している。規模は長辺2.6m、短辺2.5mである。平面形態は正方形に近い形状を呈する。主軸方位はN-112°-Eである。壁高は約15cm~20cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、竈前面では堅く締まっております遺存状態は良好である。壁周溝・柱穴・貯蔵穴は検出されていない。竈は南西コーナーに検出された。燃焼部・煙道部の遺存は良好であるが右袖部は後世の攪乱により壊されている。燃焼部幅は約30cm~40cmと考えられる。同長は約30cm、煙道部は約75cmを測る。煙道部の遺存は良好であり燃焼部からやや高くなりほぼ平らに長く延びる。



第103図 53号住居跡遺構図・竈図



第104図 53号住居跡遺物図

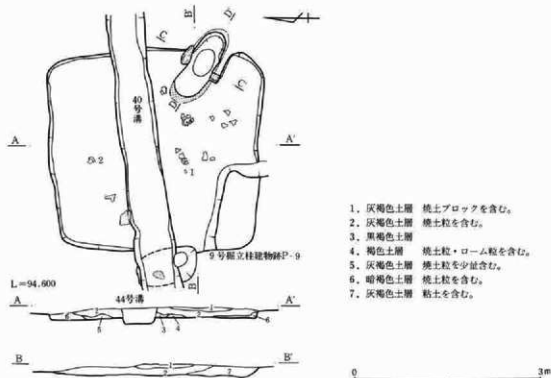
5. 検出された遺構と遺物

第42表 53号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口徑・底徑・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①酸化 ②色調 ③粘土 ④残存
Nu-1	土 土 師	(口)12.6	覆 土	口縁部 やや外高し、内・外面共ココナデ。 体部外面 ヘラクスリ。体部外面に強い稜線。	①酸化 ②褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
Nu-2	土 土 師	(口)13.0	覆 土	口縁部 内・外面共ココナデ。	①酸化 ②褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
Nu-3	土 土 師	(口)12.0	覆 土	口縁部 内・外面共ココナデ。体部外面に、 稜線。	①酸化 ②褐色 ③1～2mmの砂 粒含む ④口縁部破片
Nu-4	土 土 師	口-11.5 高-4.2	覆 土	口縁部 体部間に稜を持つ。口縁部 ココナ デ。体部 ヘラクスリ。内面 ナデ。	①酸化 ②にょい褐色 ③細砂粒 含む ④完形
Nu-5	土 土 師	(口)12.2 (高)3.7 (底)4.5	覆 土	口縁部 内・外面共ココナデ。	①酸化 ②褐色 ③細砂粒含む ④残存

54号住居跡 (第105・106図、PL.9・13・36・62)

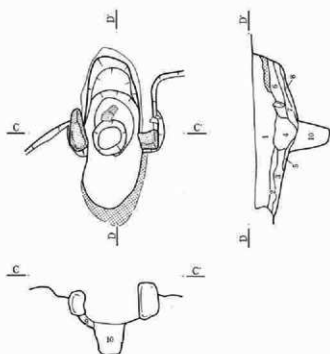
当住居跡はC区北西に位置し62号住居跡の北にある。他の遺構との関係は9号掘立柱建物跡・40号溝と重複している。新旧関係は掘立柱建物跡は住居跡より新しくさらに40号溝が新しい。規模は長辺3.5m、短辺3.2mである。平面形態は正方形に近い形状を呈する。主軸方位はN-90°-Eである。壁高は約5cm~10cmを測り、緩やかな傾斜をもって立ち上がる。床面は平坦をなすが北西コーナーは約5cm高くなる。床面の中央を東西に約50cm~60cmの幅で40号溝が切っている。竈は東壁に検出された。竈の長軸は大きく南へ傾いている。袖幅約60cm、燃焼部長約80cmを測る。両袖は住居内に大きく張り出しており、袖石が検出されている。燃焼部中央に小穴が検出され、覆土に焼土粒を含んでいる。



1. 灰褐色土層 焼土ブロックを含む。
2. 灰褐色土層 焼土粒を含む。
3. 黒褐色土層
4. 褐色土層 焼土粒・ローム粒を含む。
5. 灰褐色土層 焼土粒を少量含む。
6. 暗褐色土層 焼土粒を含む。
7. 灰褐色土層 粘土を含む。

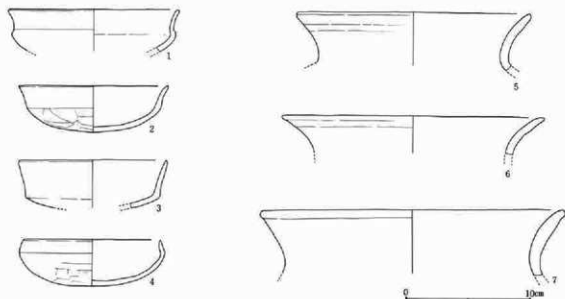
第106図 54号住居跡遺構図

(I) 竪穴住居跡



1. 灰褐色土層 焼土・炭化物を少量含む。
2. 灰褐色土層 焼土・灰を含む。
3. 灰褐色土層 ローム粒を含む。
4. 灰褐色土層
5. 黒褐色土層 灰を多量に含む。
6. 黒褐色土層 炭化物・灰を含む。
7. 黄褐色土層 ローム粒を多量に含む。
8. 暗褐色土層 焼土粒・粘土粒を含む。
9. 暗褐色土層
10. 黒褐色土層 焼土粒を含む。

第106図 54号住居跡平面図



第107図 54号住居跡遺物図

第43表 54号住居跡遺物観察表

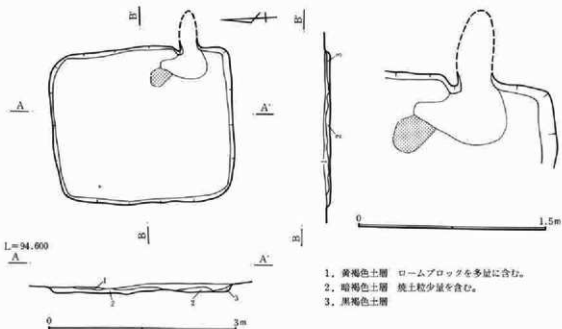
番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏土部	(口径)13.6	覆土	体部 外面に強い横線。器面 内・外面共にナデ。	①酸化 ②にぶい黄褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-2	坏土部	(口径)12.0 (高)3.7	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。体部 外面へラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②にぶい黄褐色 ③細砂粒含む ④残存

5. 検出された遺構と遺物

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①酸化 ②色調 ③粘土 ④残存
No-3	坏土師	(口)12.0	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。縁は明確には表われない。	①酸化 ②棕色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-4	坏土師	(口)7.0 高-3.7	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。体部 外面ヘウケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②棕色 ③細砂粒含む ④破片
No-5	甕土師	(口)18.6		内・外面共にヨコナデ。	①酸化 ②棕色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-6	甕土師	(口)21.0	覆土	内・外面共にヨコナデ。	①酸化 ②棕色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部残存
No-7	甕土師	(口)24.0	覆土	内・外面共にヨコナデ。	①酸化 ②よい黄棕色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片

56号住居跡 (第108図、PL.9)

当住居跡は染谷川河川改修区中央に位置し21号住居跡の西にある。他の遺構との関係は20号住居跡と重複している。当住居跡は20号住居跡のなかに取り壁の共有などもなく床のレベルも異なることから拡張とは考えられない。新旧関係は当住居跡が新しい。規模は長辺3m、短辺2.5mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-93-Eである。壁高は約10cmを測り、遺存状況は悪く崩れが激しい。床面は平坦をなし堅く締まっている。壁周溝・柱穴・貯蔵穴などの諸施設は検出されていない。竈周辺には焼土・灰が多く散布している。竈は東壁やや南寄りに検出された。20号住居跡と同じ所に重なっている。焼焼部幅約40cm、同長約50cmを測る。竈前面に灰・焼土層が広がっている。

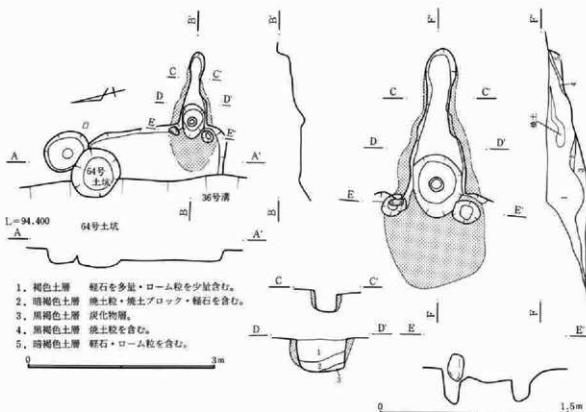


第108図 56号住居跡遺構図・竈図

1. 黄褐色土層 ロームブロックを多量に含む。
2. 暗褐色土層 焼土粒少量を含む。
3. 黒褐色土層

58号住居跡 (第109図, PL 9)

当住居跡は築谷川河川改修区西端に位置し28号住居跡の北西にある。他の遺構との関係は36号溝・64号土坑と重複している。新旧関係は溝が新しくさらに土坑が新しい。西半部は36号溝により削平されている。規模は南北の辺で約2.2mを測る。平面形態は不明である。主軸方位は竈の長軸でN-101°-Eである。壁高は約10cm-15cmを測り垂直に立ち上がる。床面は平坦をなし、壁周溝・柱穴・貯蔵穴などの諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。遺存状況は良好で燃焼部・煙道部の壁に焼土が厚く残っていた。袖幅は約60cm、燃焼部長約50cm、煙道部長約80cmを測る。燃焼部内壁には粘土を張ってある。両袖部には石が検出された。燃焼部から煙道部にかけては明確な段差は見られず煙道部に向い緩やかに傾斜している。



第109図 58号住居跡遺構図・竈図



第110図 58号住居跡遺物図

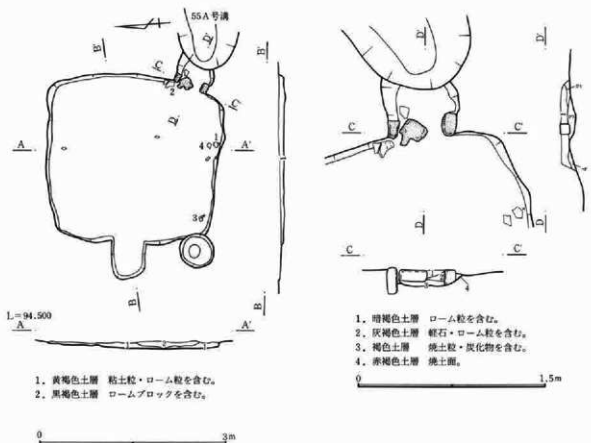
第44表 58号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	灰 皿	(口)12.0	竈内	口縁部 自然釉。	①還元 ②灰白色 ③細砂粒含む ④口縁部破片

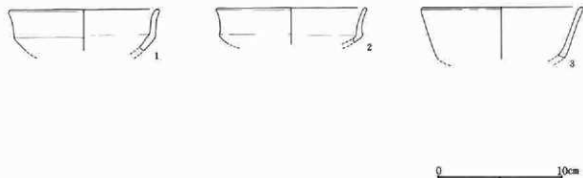
5. 検出された遺構と遺物

59号住居跡 (第111図、PL 9)

当住居跡はC区北西に位置し63号住居跡の南東にある。他の遺構との関係は55A号溝と重複している。新旧関係は55A号溝が新しい。規模は長辺3m、短辺2.8mである。平面形態は正方形に近い形状を呈する。主軸方位はN-106°-Eである。壁高は約10cmを測り緩やかに立ち上がる。床面は平坦をなし遺存状況は良好である。壁周溝・柱穴・貯蔵穴などの諸施設は検出されていない。北壁に幅約50cmで約70cmの張り出しを持つ。張り出し部も床面と同じレベルを持つ。竈は東壁南寄りに検出された。燃焼部先端は55号溝により削平されている。袖幅約50cm、燃焼部長約35cm遺存している。両袖部及び焚口から砂岩が検出された。



第111図 59号住居跡遺構図・断面



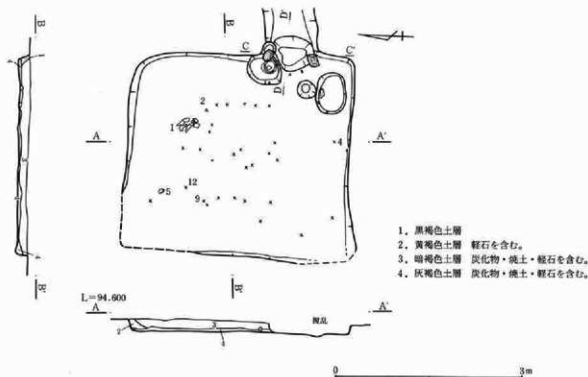
第112図 59号住居跡遺物図

第45表 59号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・直径・高さ)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏土部	(口)12.0	電覆土	内・外面共にヨコナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-2	坏土部	(口)12.0	電覆土	内・外面共にヨコナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-3	坩堝	(口)13.0	覆土		①還元 ②灰褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片

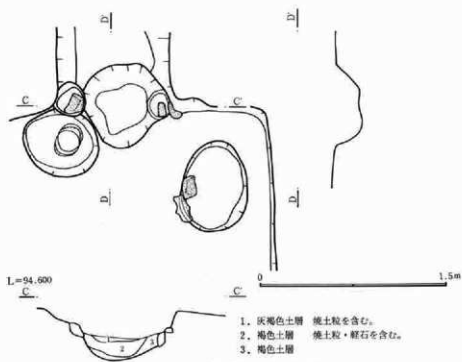
62号住居跡 (第113・114図、PL10・37・62・69・76)

当住居跡はC区北西部に位置し63号住居跡の西にある。他の遺構との関係は43A溝・9号掘立柱建物跡と重複している。新旧関係は溝・掘立柱建物跡が古い。規模は長辺3.8m、短辺3.2mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-92°-Eである。壁高は約20cmを測る。床面は平坦をなし遺存状況は良好である。南部は溝の攪乱を受けている。壁周溝・柱穴・貯蔵穴は検出されていない。しかし、竈両袖部前面と右袖部北に接するように3ヶ所に落ち込みを検出した。それぞれ南からNo 1、2、3とつけた。No 1は約65cm×45cm、深さ約10cmを測る。No 2は約35cm×25cm、深さ約10cmを測る。No 3は約55cm×45cm、深さ約20cmを測る。No 1、2からは石が検出されNo 3からは円筒埴輪が立った状態で検出された。また円筒埴輪の破片が多く検出された。竈は東壁南寄りに検出された。遺存状況は悪く大部分を43A号溝により壊され、両袖部が残存するのみである。左右袖部からは石が検出された。

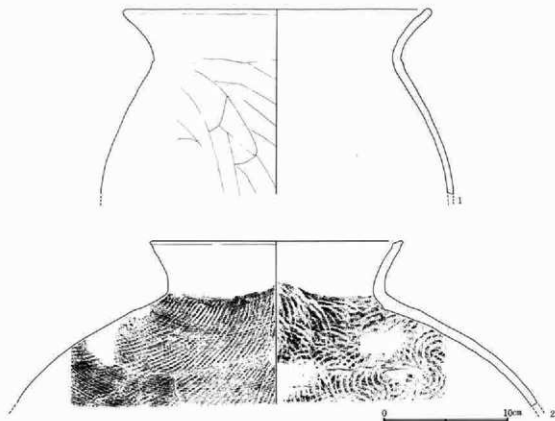


第113図 62号住居跡遺構図

5. 検出された遺構と遺物

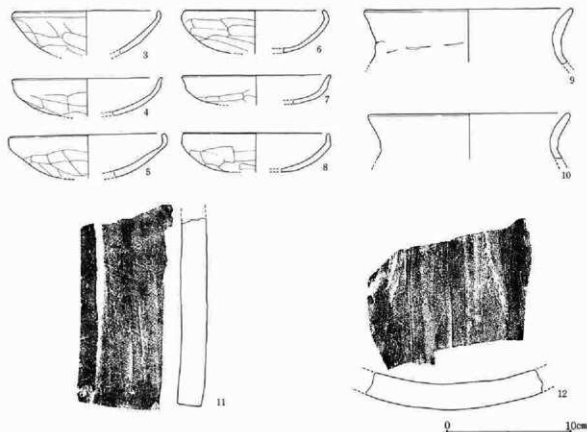


第114図 62号住居跡平面図



第115図 62号住居跡遺物(1)

(1) 竪穴住居跡



第116図 62号住居跡遺物(2)

第46表 62号住居跡遺物観察表

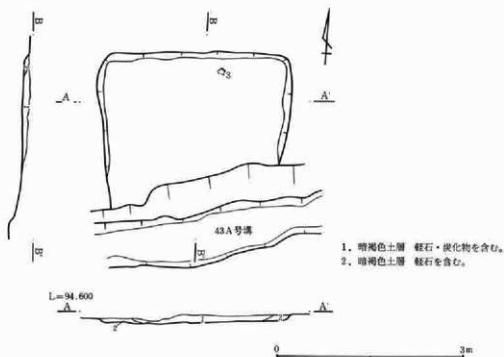
番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①構成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	甕土師	(口)24.4	覆土	胴部 ヘラナデ。頸部にヘラ直残る。口縁部内・外面共にヨコナデ。	①酸化 ②にぶい橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁~胴部片残存
No-2	甕須恵	(口)20.4	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。胴部 外面印き目。内面 当て目。頸部 印き目の後ナデ。	①還元 ②灰白色 ③密 ④口縁~胴部片残存
No-3	坏土師	(口)14.0	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。体部 外面ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-4	坏土師	(口)11.2	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。体部 外面ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④口縁部片残存
No-5	坏土師	(口)12.0	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。体部 外面ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②明橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-6	坏土師	(口)12.0	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。体部 外面ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-7	坏土師	(口)12.2	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。体部 外面ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②明橙色 ③細砂粒含む ④片残存
No-8	坏土師	(口)11.7	床直上	口縁部 内・外面共にヨコナデ。体部 外面ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④片残存

5. 検出された遺構と遺物

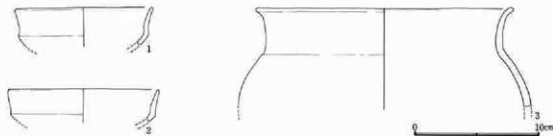
番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-9	甕 土 師	(口)16.4	覆 土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。胴部にヘラ痕明瞭に残る。	①散化 ②棕色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-10	甕 土 師	(口)16.0	覆 土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。胴部にヘラ痕明瞭に残る。	①散化 ②棕色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-11	平 瓦	瓦観察表、1類A-住11参照			
No-12	平 瓦	瓦観察表、1類A-住12参照			

63号住居跡 (第117図、PL10・62)

当住居跡はC区北西に位置し62号住居跡の東にある。他の遺構との関係は43A号溝と重複している。新旧関係は43A号溝が新しい。規模・平面形態・主軸方位は不明であるが東西の壁は約3mを有する。住居跡南部は溝により削平されている。壁高は約10cmを測る。床面は平坦をなす。壁周溝・柱穴・貯蔵穴などの諸施設は検出されていない。竈も溝により削平されている。



第117図 63号住居跡遺構図



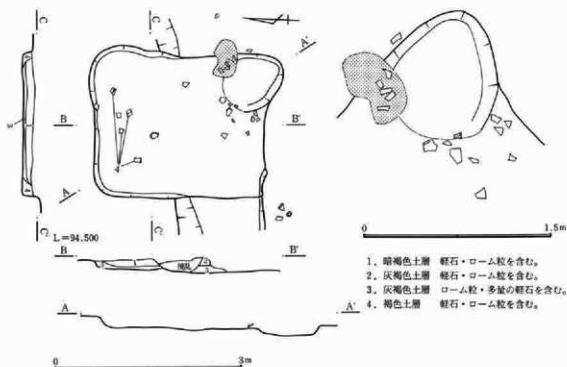
第118図 63号住居跡遺物図

第47表 63号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏土師	(口)12.0	覆土	内・外面共にヨコナデ。	①酸化 ②ふい・橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-2	坏土師	(口)12.0	覆土	内・外面共にヨコナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-3	甕土師	(口)20.6	覆土	口縁部 外反し、内・外面共にヨコナデ。胴部 外面 ヘラ調整。内面 ナデ。頸部に稜あり。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④口縁~胴部破片

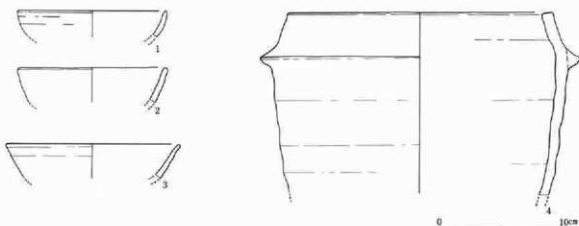
65号住居跡 (第119図、PL10・37・76)

当住居跡はC区北西部に位置し62号住居跡の西にある。他の遺構との関係は43A号溝・67号住居跡と重複している。新旧関係は溝が新しく67号住居跡との関係はコーナーで重複しており65号住居跡が新しいものと思われる。規模は長辺2.9m、短辺2.4mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位は竜長軸でN-146°-Eである。壁高は約20cmを測る。床面は凹凸が多く見られ北側が約5cm高くなる。壁周溝・柱穴・貯蔵穴などの諸施設は検出されていない。竈は東南コーナーに検出された。長軸は壁に対して南にずれている。遺存の状況は後世の耕作により攪乱を受けており良好とは言えない。燃焼部火床の残土が約2cmの厚さで残っていた。燃焼部幅約100cm、同長約100cmを測る。



第119図 65号住居跡遺構図・断面

5. 検出された遺構と遺物



第120図 65号住居跡遺物図

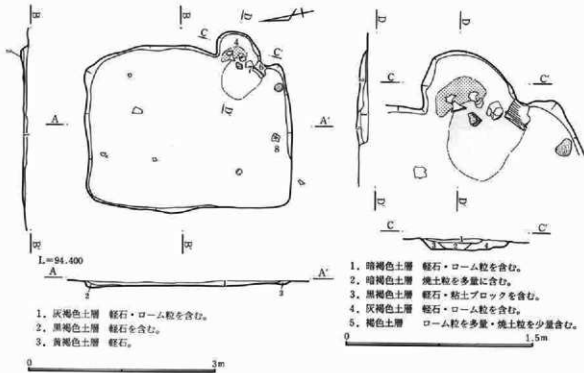
第48表 65号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏 須恵	(口)12.0	覆土		①還元 ②灰色 ③密 ④口縁部破片
No-2	坏 須恵	(口)12.0	覆土	内・外面 煤による黒色付着。	①還元 ②灰褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-3	坏 須恵	(口)13.8	覆土	口縁部 外反する。	①還元 ②灰色 ③密 ④口縁部破片
No-4	羽 蓋	(口)21.4	覆土	筒 短く、断面は三角形。口縁部 内傾する。 内・外面共にヨコナデ。	①やや酸化 ②灰褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁一部破片

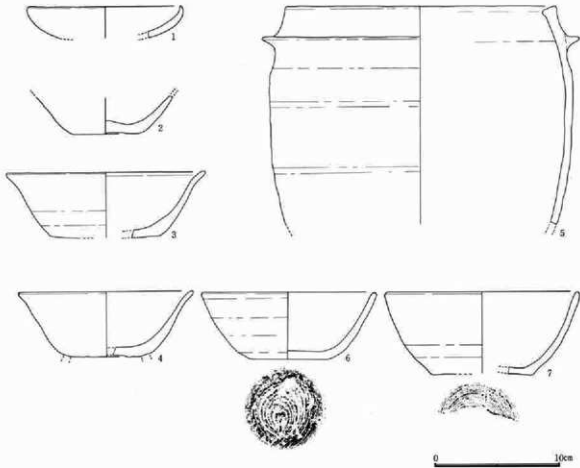
67号住居跡 (第121図、PL10・37・38)

当住居跡はC区北西部に位置し62号住居跡の西にある。他の遺構との関係は65号住居跡・9号掘立柱建物跡と重複している。新旧関係は65号住居跡より旧く9号掘立柱建物跡より新しい。規模は長辺3.6m、短辺2.7mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-114°-Eである。壁高は2~7cmを測る。床面はほぼ平坦をなし中央部9号掘立柱建物跡の上は他の部分より約2cm低くなる。この柱礎の中に約35cm×25cm、深さ約10cmの小穴を検出した。壁周溝・柱穴・貯蔵穴などの諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出した。燃焼部幅約80cm、同長約50cmを測る。燃焼部内に1cmの厚さで炭化物の層が検出された。焚き口の部分より砂岩を検出した。

(1) 竪穴住居跡



第121図 67号住居跡遺構図・断面



第122図 67号住居跡遺物図

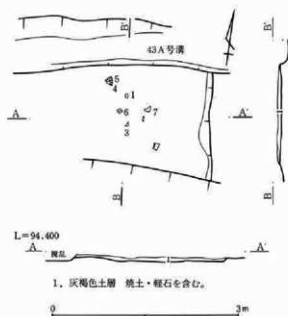
5. 検出された遺構と遺物

第49表 67号住居跡遺物観察表

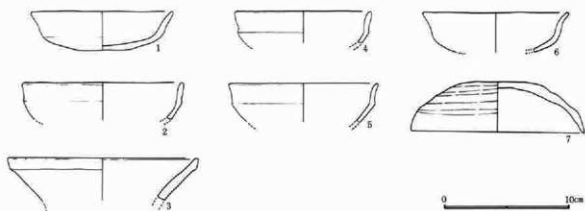
番号	器種別	計 測 値 (cm) 〔口径・底径・器高〕	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③出土 ④残存
No-1	坏 土 甕	(口)12.6	覆 土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。	①酸化 ②にじ黄褐色 ③細砂 粒含む ④口縁部破片
No-2	坏 土 甕	底-5.4	覆 土	底部 回転糸切り。	①やや酸化 ②灰白色 ③1~2 mmの砂粒含む ④底部残存
No-3	坏 土 甕	(口)16.0	覆 土	口縁部 外反する。成形は粗雑。	①還元 ②灰白色 ③2~3mmの 砂粒含む ④%残存
No-4	坏 土 甕	(口)14.0	覆 土	口縁部 外反する。付高台欠落。	①還元 ②灰白色 ③2~3mmの 砂粒含む ④%残存
No-5	羽 土 釜	口-21.5	覆 土	胴 やや上を向く。口縁部 厚くなり、内傾 する。	①やや酸化 ②黒褐色 ③細砂粒 含む ④%残存
No-6	埴 土 甕	口-14.1 高-6.2 底-5.3	覆 土	底部 回転糸切り。右廻り。	①やや酸化 ②灰褐色 ③1~2 mmの砂粒含む ④%残存
No-7	坏 土 甕	(口)15.6	覆 土	底部 回転糸切り。	①還元 ②灰色 ③2~3mmの砂 粒含む ④%残存

68号住居跡 (第123図、PL38・62)

当住居跡はC区北西部に位置し62号住居跡の南にある。他の遺構との関係は43A号溝と重複している。新旧関係は43A号溝が新しい。当住居跡は遺存状況が悪く貼床と東壁の一部を確認したのみである。壁高は約5~10cmを測り立ち上がる。規模・平面形態・主軸方位は不明である。甕は検出されていないが南東部から焼土を検出した。甕の痕跡と思われる。



(1) 竪穴住居跡



第124図 68号住居跡遺物図

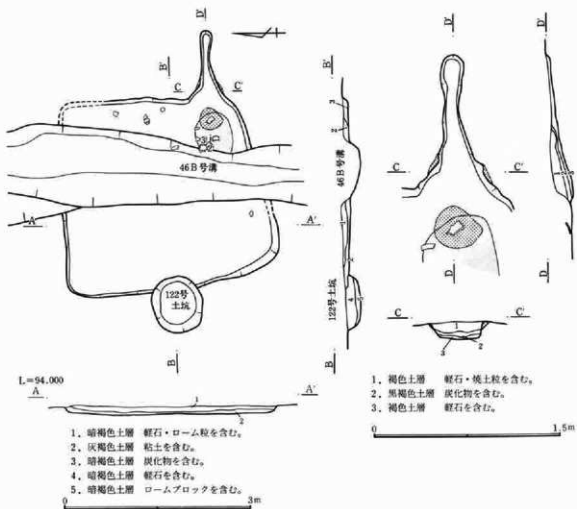
第50表 68号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	土師 土師	(口)11.2 (高)3.1 (底)3.5	覆土	口縁部 内・外面共にココナデ。	①酸化 ②棕色 ③細砂粒含む ④口縁～底部破片
No-2	土師 土師	(口)12.9	覆土	口縁部 内・外面共にココナデ。	①酸化 ②棕色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-3	須恵 須恵	(口)15.3	覆土		①還元 ②灰白色 ③1～2mmの 砂粒含む ④口縁部破片
No-4	土師 土師	(口)11.0	覆土	口縁部 内・外面共にココナデ。	①酸化 ②棕色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-5	土師 土師	(口)12.0	覆土	口縁部 内・外面共にココナデ。	①酸化 ②棕色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-6	土師 土師	(口)11.6	覆土	口縁部 外反する。	①酸化 ②にぶい棕色 ③細砂粒 含む ④口縁部破片
No-7	須恵 須恵	(口)13.8 (高)4.0	覆土	外面 回転へう調整。	①還元 ②灰白色 ③細砂粒含む ④残存

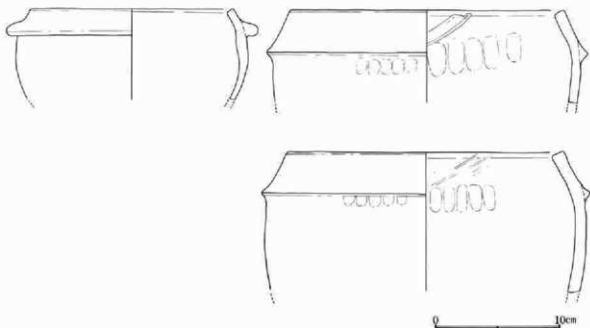
69号住居跡 (第125図、PL10・62)

当住居跡はC区北西部に位置し65号住居跡の南西にある。他の遺構との関係は46B号溝・122号土坑と重複している。新旧関係は46B号溝・122号土坑が新しい。この溝は住居跡の中央を南北に延びており、幅約90cm～120cmをもつ。土坑は西壁中央にあり約80cmの径を持ち深さ約20cmを測る。規模は長辺3.5m、短辺3.2mである。平面形態は正方形に近い形状を呈する。主軸方位はN-90°-Eである。壁高は約10cm～15cmを測る。床面は平坦をなし堅く締まっている。壁周溝・柱穴・貯蔵穴は検出されていない。竈は東壁南端に検出された。燃焼部幅約70cm、同長約40cm、煙道部長約65cmを測る。竈前面に約80cm×約65cmの範囲で焼土・灰の散布が確認された。

5. 検出された遺構と遺物



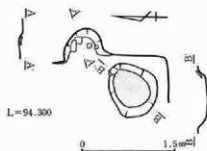
第125図 69号住居跡遺構図・断面



第126図 69号住居跡遺物図

第51表 69号住居跡遺物観察表

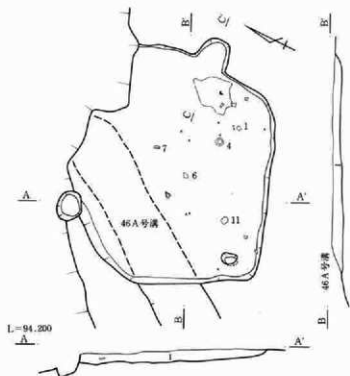
番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・高さ)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	羽釜	(口)16.0	覆土	胴丸味をもち下を向く。貼付は雑なナデ。	①酸化 ②橙色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁部欠残存
No-2	羽釜	(口)22.0	覆土	胴短い。胴下に指頭痕あり。内面へつ状工具による雑なナデ。指頭痕あり。	①酸化 ②橙色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-3	羽釜	(口)22.0	覆土	胴短い。体部外面は雑なナデ。内面へつ状工具による雑なナデ。胴下・内面に指頭痕。	①酸化 ②橙色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁部破片



第127図 71号住居跡遺構図

71号住居跡 (第127図)

当住居跡はC区北西部に位置し69号住居跡の西にある。上面は削平され壁・床面は検出できなかったが竈のみを検出した。規模は燃焼部幅約55cm、同長約40cmを測る。燃焼部内から土器の破片を多く検出した。



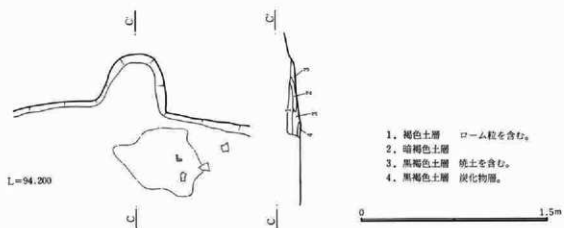
第128図 73号住居跡遺構図

73号住居跡 (第128・129図、PL10・38)

当住居跡はC区北西部端に位置し74号住居跡の西にある。他の遺構との関係は46A号溝と重複している。住居跡西側は築谷川により削平されている。新旧関係は46A号溝が古い。規模は明確には不明であるが東西の壁で3.2mを測る。平面形態は長方形が想定される。主軸方位は竈の長軸の方向でN-95°-Eである。壁高は約15cm~20cmを測る。床面は平坦をなし壁周溝・柱穴・貯蔵穴などの諸施設は検出されていない。竈は東壁に検出された。燃焼部幅約50cm、同長約45cmを測る。右袖部前に約50cm×50cmの不定形で灰の散布が見られる。

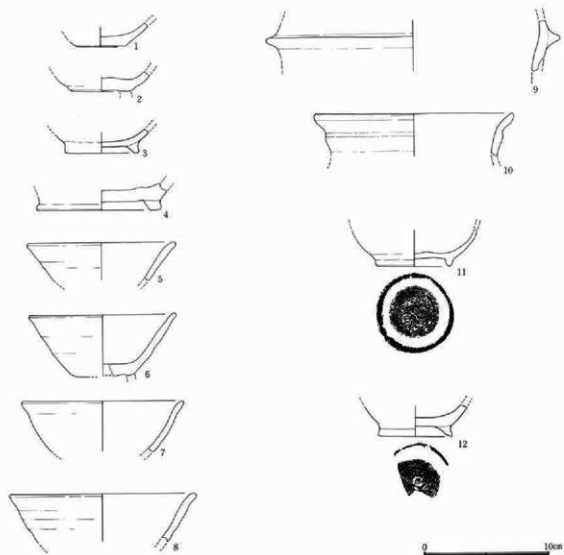
1. 暗褐色土層 軽石多量・炭化物を少量含む。

5. 検出された遺構と遺物



1. 褐色土層 ローム粒を含む。
2. 暗褐色土層
3. 黒褐色土層 焼土を含む。
4. 黒褐色土層 炭化物層。

第129図 73号住居跡断面図



第130図 73号住居跡遺物図

(I) 竪穴住居跡

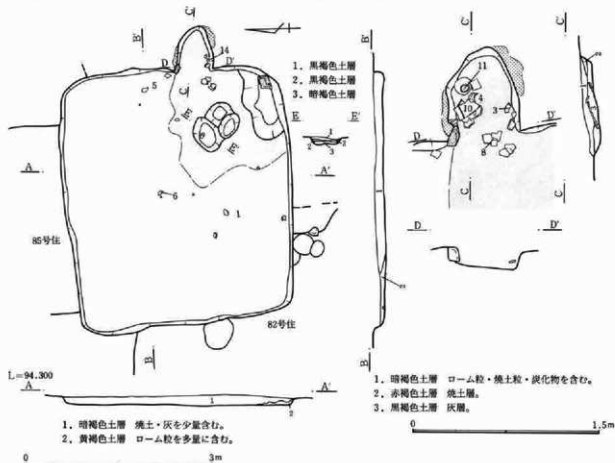
第52表 73号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・高さ)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	環須恵	(底)4.0	覆土	底部 手持ちへ調整。	①やや酸化 ②灰褐色 ③2～3mmの砂粒含む ④底部のみ残存
No-2	埴須恵	(底)4.7	覆土	付高台欠高。	①還元 ②灰白色 ③3～4mmの砂粒含む ④底部破片
No-3	埴須恵	(底)6.0	覆土	付高台。	①やや酸化 ②淡褐色 ③1～2mmの砂粒含む ④底部のみ残存
No-4	埴須恵	(底)10.4	覆土	付高台。底部 回転へ調整。	①還元 ②灰白色 ③3～4mmの砂粒含む ④底部破片
No-5	環須恵	(口)12.0	覆土	口縁部 外反する。	①還元 ②灰白色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-6	埴須恵	(口)11.8 (高)5.0 (底)4.5	覆土	口縁部 外反する。	①還元 ②灰白色 ③1～2mmの砂粒含む ④破片
No-7	埴須恵	(口)13.0	覆土	口縁部 やや外反する。	①やや酸化 ②灰白色 ③2～3mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-8	環須恵	(口)15.0	覆土	口縁部 やや外反する。	①やや酸化 ②明灰褐色 ③1～2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-9	羽釜		覆土	脚 貼付はナシ。	①還元 ②灰褐色 ③2～3mmの砂粒含む ④脚破片
No-10	要土師	(口)16.0	覆土	口縁部 外面に壁をもつ。	①酸化 ②褐色 ③1～2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-11	埴須恵	底-6.0	覆土	付高台。底部 回転未切り。	①酸化 ②褐色 ③2～3mmの砂粒含む ④底部のみ残存
No-12	埴須恵	(底)6.0	覆土	付高台。底部 回転未切り。	①還元 ②灰白色 ③1～2mmの砂粒含む ④底部のみ残存

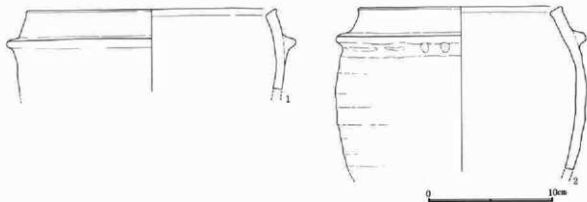
5. 検出された遺構と遺物

75号住居跡 (第131図、PL11・38・62)

当住居跡は染谷川河川改修部とC区北西部の境に位置し73号住居跡の南にある。他の遺構との関係は76・82・85号住居跡と重複関係にある。さらに弥生時代の84号住居跡と重複している。新旧関係は当住居跡が一番新しく82・85号住居跡を壊している。また85号住居跡は76号住居跡を壊している。規模は長辺4.2m、短辺3.8mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-89°-Eである。壁高の遺存は悪く2cmから残りの良いところでも約10cmを測る。床面は平坦をなすが全体的に大きな凹凸がある。南東コーナーにある落ち込みは約100cm×65cm深さ約10cmで甕前に有る小穴も覆土中に灰が充填していた。壁周溝・柱穴・貯蔵穴などの諸施設は検出されていない。竈は東壁に検出された。燃焼部幅約50cm、同長約60cmを測る。

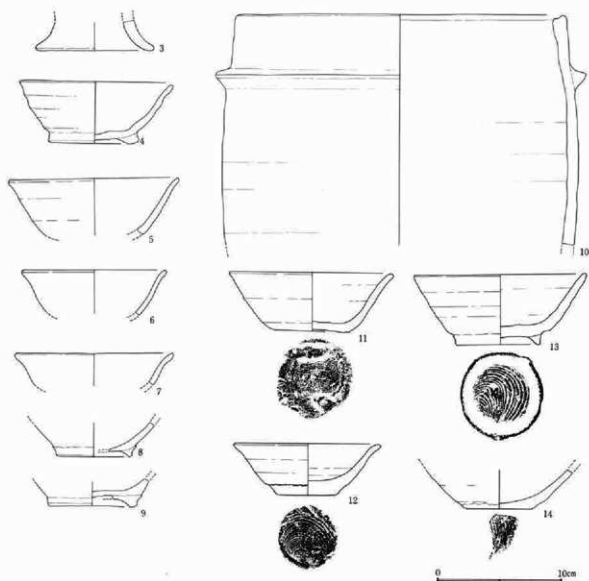


第131図 75号住居跡遺構図・竈図



第132図 75号住居跡遺物図(1)

(1) 竪穴住居跡



第133図 75号住居跡遺物図(2)

第53表 75号住居跡遺物観察表

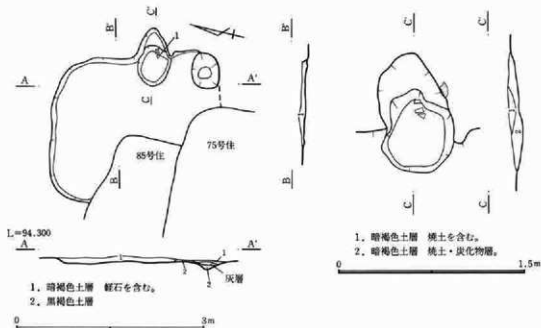
番号	器種別	計測値(cm) (口径・直径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	羽釜	(口)20.0	覆土	胴 下部やや厚くなる。胴の貼付面 明瞭に残る。	①やや還元 ②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-2	羽釜	(口)16.4	覆土	やや小型。胴 短く、断面端部に丸味をもつ。踵下に指痕あり。口縁部 小さい稜あり。	①やや酸化 ②灰褐色 ③2~3mmの砂粒含む ④欠残存
No-3	高台部 須恵	(口)9.4	覆土	高台部 大きく外反する。	①やや酸化 ②灰褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-4	埴 須恵	(口)12.0 (高)5.0 (底)7.2	覆土	付高台。器面は成形痕明瞭で、跡なつくり。	①酸化 ②にぶい橙色 ③2~3mmの砂粒含む ④破片
No-5	埴 須恵	(口)13.6	覆土	口縁部 外反する。	①還元 ②灰白色 ③2~3mmの砂粒含む ④欠残存

5. 検出された遺構と遺物

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-6	坏須恵	(口)11.6	覆土	口縁部 外反する。	①やや酸化 ②灰褐色 ③3~4mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-7	坏部	(口)12.6	覆土	口縁部 外反する。	①酸化 ②にぶい橙色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-8	埴土器	(底)6.0	覆土	付高台の外面に高台部貼付痕跡に残る。	①酸化 ②明褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④底部破片
No-9	埴土器	(底)7.0	覆土	付高台。高台部貼付痕跡に残る。	①酸化 ②橙色 ③2~3mmの砂粒含む ④底部片残存
No-10	羽蓋	(口)26.2	覆土	筒 短く、貼付は難。	①やや酸化 ②にぶい橙色 ③4~5mmの砂粒含む ④片残存
No-11	坏須恵	口-13.2 高-4.6 底-6.2	覆土	底部 回転糸切り。右廻り。口縁部 外反する。	①やや酸化 ②にぶい橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④完形
No-12	坏須恵	口-12.0 高-4.0 底-5.0	覆土	底部 回転糸切り。口縁部 外反する。	①やや酸化 ②灰色 ③1~2mmの砂粒含む ④完形
No-13	埴須恵	口-13.7 高-5.5 底-6.7	覆土	付高台。底部 回転糸切り。右廻り。	①やや酸化 ②灰褐色 ③細砂粒含む ④ほぼ完形
No-14	坏須恵	(底)5.4	覆土	底部 貼付状で、糸切りあり。	①やや酸化 ②灰褐色 ③細砂粒含む ④底部破片

76号住居跡 (第134図、PL11)

当住居跡は75号住居跡と重複しており南西部を75号住居跡に壊され、西側一部を85号住居跡に壊されている。規模は不明であるが東西長約2.4mを測る。電長軸方位でN-79°-Eである。壁高は約10cmを測る。床面は平坦をなし壁周溝・柱穴・貯蔵穴などの諸施設は検出されていない。竈は東壁中央に検出された。燃焼部幅約50cm、同長約55cmを測る。



第134図 76号住居跡遺構図・断面

(I) 竪穴住居跡



0 10cm

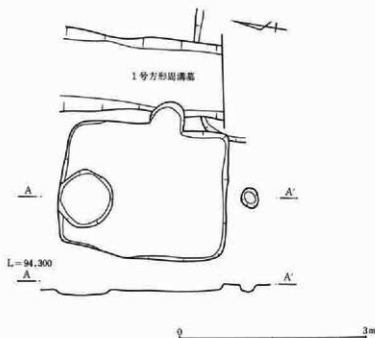
第135図 76号住居跡遺物図

第54表 76号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・高さ)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	須恵	(底)6.4	覆土	付高台。高台部は押し潰れている様な成形。	①還元 ②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④底部破片

78号住居跡 (第136図、PL11)

当住居跡はC区北西部に位置し74号住居跡の東にある。他の遺構との重複関係はない。竈の一部が1号方形周溝墓の上にある。規模は長辺2.8m、短辺2.2mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-88°-Eである。壁高は約5cmを測る。床面は約10cmの比高を持ち南側が高くなる。西壁に接して径約90cm、深さ約5cmの落ち込みを検出した。竈は東壁やや南寄りに検出された。燃焼部幅約50cm、同長約40cmを測る。

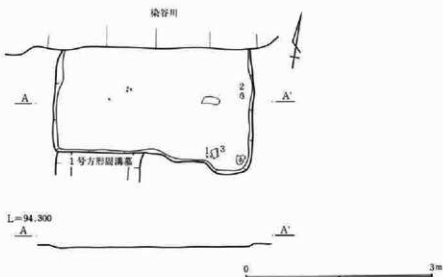


第136図 78号住居跡遺構図

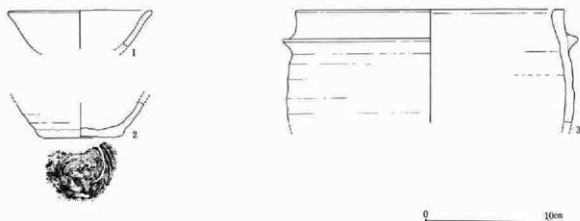
5. 検出された遺構と遺物

79号住居跡 (第137図, PL11・38・63)

当住居跡はC区北西部端に位置し78号住居跡の北東にある。他の遺構との関係は1号方形周溝墓の上に構築している。北側は染谷川により削平されている。規模・主軸方位・平面形態などは不明であるが東西長で約3.2mを測る。壁高は4～5cmで床面は凹凸が多い。竈は検出されていない。



第137図 79号住居跡遺構図



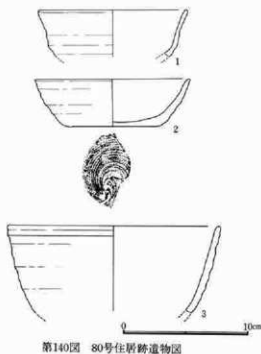
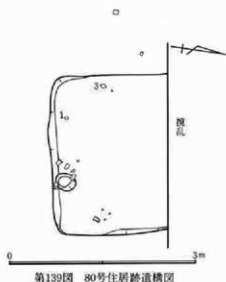
第138図 79号住居跡遺物図

第55表 79号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏土器	(口)11.6	覆土	口縁部 やや外反する。	①酸化 ②によい橙色 ③2～3mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-2	埴須恵	(底)6.0	覆土	底部 貼付状で糸切り。左廻り。	①やや酸化 ②灰褐色 ③2～3mmの砂粒含む ④底部のみ残存
No-3	羽蓋	(口)21.6	覆土	筒 短くやや上を向く。口縁部 わずかに外反する。	①還元 ②灰色 ③5～6mmの砂粒含む ④口縁部残存

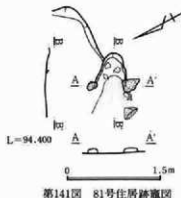
80号住居跡 (第139図、PL11・38)

当住居跡はC区北西部に位置し79号住居跡の東にある。他の遺構との関係は9号掘立柱建物跡と重複している。新旧関係は80号住居跡が新しい。また北側は近代の耕作により攪乱を受けている。壁高は約10cmを測る。床面は約10cmの比高をもち南側が高い。竈は検出されていない。



第56表 80号住居跡遺物観察表

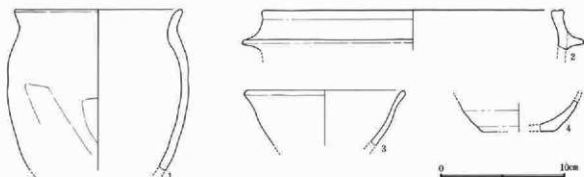
番号	器種別	計測値(cm) (口径・口径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	埴 須 恵	{口}12.0	覆土	轆轤成形痕、明瞭に残る。	①還元 ②灰色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-2	坏 須 恵	{口}12.4 (高)3.8 {底}4.2	覆土	轆轤成形痕、外面に明瞭に残る。底部 回転未切り。	①やや酸化 ②ふい橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④片残存
No-3	鉢 須 恵	{口}17.0	覆土	轆轤成形痕、外面に明瞭に残る。口縁部に稜を持つ。	①やや酸化 ②灰黄色 ③細砂粒含む ④口縁部破片



81号住居跡 (第141図、PL11・38・63)

当住居跡はC区北西部に位置し69号住居跡の北にある。住居跡のプランは不明であり弥生時代83号住居跡の南壁に竈のみを検出した。主軸方位は竈長軸でN-123°-Eである。袖幅約50cm、燃焼部長約60cmを測る。両袖には凝灰岩の石を検出した。

5. 検出された遺構と遺物



第142図 81号住居跡遺物図

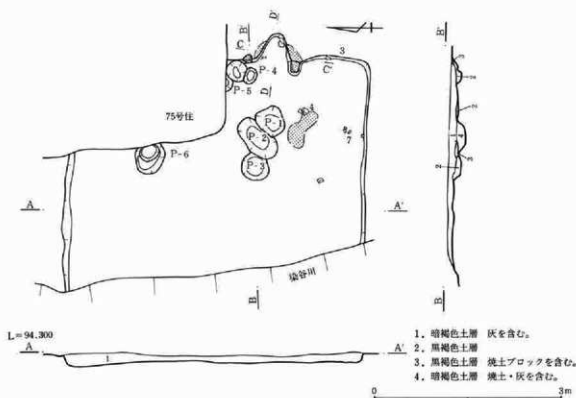
第57表 81号住居跡遺物観察表

番号	器種 類別	計測 値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	甕 土 師	(口)13.4	覆 土	口縁部 ココナデ。胴部 外面ヘラナデ。内面ナデ。	①やや還元 ②青灰色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁~胴部破片
No-2	羽 釜	(口)24.0	覆 土	口縁部 厚みもちやや内湾する。踵は丁寧な貼付。	①やや酸化 ②灰黄褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-3	埴 頭 恵	(口)13.0	覆 土	口縁部 やや外反する。	①還元 ②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部も残存
No-4	坏 土 師	(底)5.8	覆 土	内・外面 ナデ。	①酸化 ②明褐色 ③2~3mmの砂粒含む ④底部破片

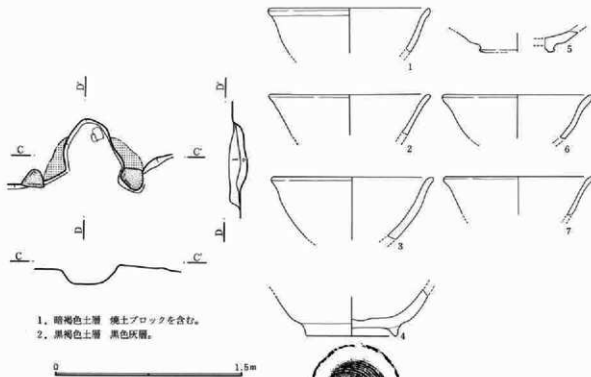
82号住居跡 (第143・144区、PL11・38)

当住居跡は染谷川河川改修区とC区の境に位置し73号住居跡の南にある。他の遺構との関係は75・85号住居跡と重複している。新旧関係は75号住居跡より旧く、85号住居跡より新しい。西半部は染谷川により削平されている。規模・平面形態は不明であるが南北長約47.3mを測る。主軸方位は竈の長軸でN-102°-Eである。壁高は約10cm~20cmを測り、垂直に立ち上がる。床面は平坦をなす。小穴は6基確認され、図のようにNo1~6の番号を付けた。各々の規模はNo1 約55cm×35cm、深さ約25cm、No2 約75cm×45cm、深さ約15cm、No3 約45cm×40cm、深さ約10cm、No4 25cm×20cm、深さ約7cm、No5 30cm×30cm、深さ約10cm、No6 55cm×50cm、深さ約20cmを測る。各々の小穴は配置や深さなどから柱穴・あるいは貯蔵穴とは考えられない。竈は東壁に検出された。袖幅約80cm、燃焼部長約50cmを測る。右袖部からは砂岩が検出され、左袖からは円礫が半分に割れた状態で検出された。この石は焼けた跡が全く見られない。

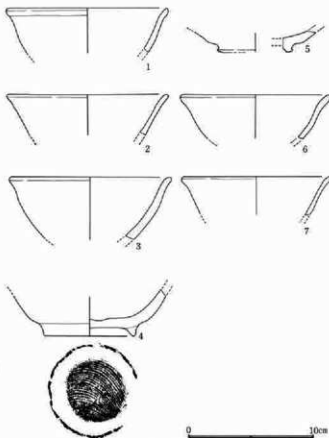
(I) 竪穴住居跡



第143図 82号住居跡遺構図



第144図 182号住居跡遺構図



第145図 82号住居跡遺物図

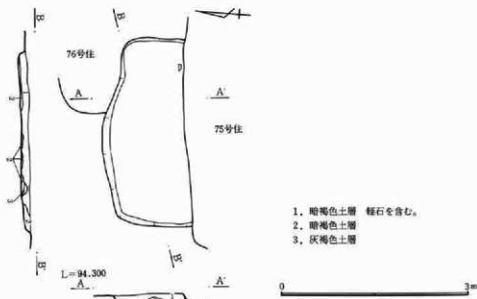
5. 検出された遺構と遺物

第58表 82号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・直径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏 須恵	(口)13.0	覆土	口縁部 やや外反する。粗雑な整形。	①やや酸化 ②浅黄色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-2	坏 須恵	(口)13.0	覆土	内・外面共にナデ。	①やや酸化 ②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-3	坏 須恵	(口)13.0	覆土	口縁部 やや外反する。	①還元 ②灰色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-4	陶 須恵	(底)7.3	覆土	付高台。底部 回転糸切り。	①やや酸化 ②ふい橙色 ③3~4mmの砂粒含む ④底部破片
No-5	埴 須恵	(底)6.0	覆土	付高台。高台中央部に横をもつ。	①還元 ②灰白色 ③細砂粒含む ④底部破片
No-6	坏 須恵	(口)12.0	覆土	口縁部 やや外反する。内・外面共黒色付着。	①やや酸化 ②灰褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-7	坏 須恵	(口)12.0	覆土	口縁部 やや外反する。	①やや酸化 ②灰褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片

85号住居跡 (第146図)

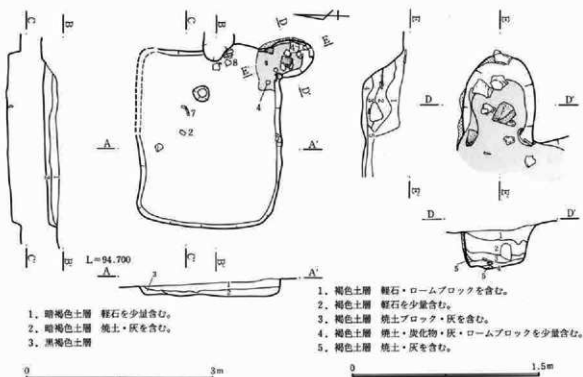
当住居跡は染谷川河川改修区とC区の境に位置し73号住居跡の南にある。他の遺構との関係は75・76号住居跡と重複している。新旧関係は76号住居跡より新しく、75号住居跡より古い。南半部は75号住居跡により削平されている。壁高は約10cmを測り、床面は平坦である。竈は検出されていない。



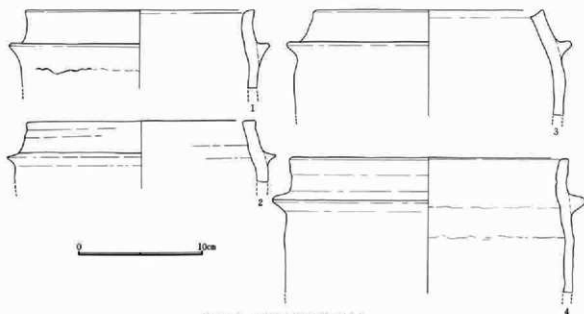
第146図 85号住居跡遺構図

87号住居跡 (第147図、PL12・38・63・70)

当住居跡はC区ほぼ中央に位置し10号掘立柱建物跡の東にある。この区域は他の遺構は少なく遺構の希薄な部分である。南西部は攪乱により壁・床が壊されている。規模は長辺2.9m、短辺2.2mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-3°-Eである。壁高は約7cm~14cmを測る。床面は平坦をなす。壁周溝・柱穴・貯蔵穴などの諸施設は検出されていない。竈は南東コーナーに検出された。長軸は大きく南にずれている。袖幅約50cm、燃焼部幅約70cmを測り、左袖部・燃焼部内より石が検出された。

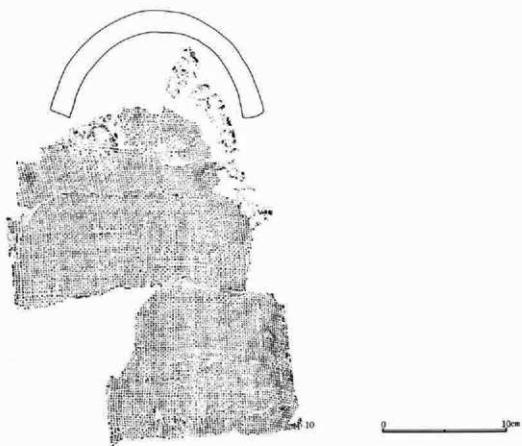
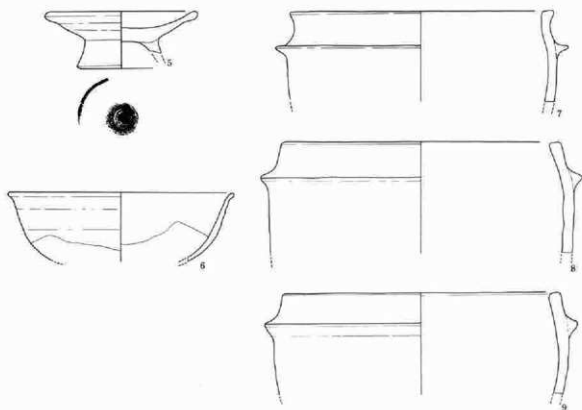


第147図 87号住居跡遺構横断・竈図



第148図 87号住居跡遺物図(1)

5. 検出された遺構と遺物



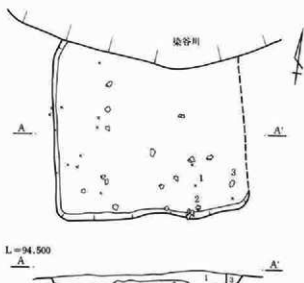
第149図 87号住居跡遺物図(2)

第59表 87号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・直径・高さ)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	羽蓋	(口)18.4	覆土	跡 上を向き、筒下の粘付痕跡に残る。	①やや酸化 ②にぶい褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-2	羽蓋	(口)18.4	覆土	跡 断面三角形。口縁部はやや内傾する。	①還元 ②灰色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-3	羽蓋	(口)18.4	覆土	跡 やや上を向く。口縁部は内傾する。	①やや酸化 ②灰褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-4	羽蓋	(口)22.2	覆土	口縁部 厚くなる。内・外面に、輪模痕跡に残り、難な整形。	①やや酸化 ②灰褐色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-5	皿 須恵	口-12.1 高-4.5 底-5.9	覆土	内・外面共に横ナデ。やや高めの付高台。底面 糸切り後。	①やや酸化 ②明褐色 ③細砂粒・金雲母含む ④底部欠損
No-6	皿 須恵	(口)18.0	覆土	口縁部 外反する。体部 内・外面共にナデ。外面下部 ヘラクスリ。	①還元 ②灰色 ③素 ④残存
No-7	羽蓋	(口)21.0	覆土	口縁部 やや厚く、外反する。跡 上を向く。	①やや酸化 ②褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部残存
No-8	羽蓋	(口)22.0	覆土	口縁部 やや内傾する。跡 短く、丁寧な粘付。	①やや酸化 ②にぶい褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-9	羽蓋	(口)22.0	覆土	口縁部 やや外反する。跡 短い。	①やや酸化 ②灰褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-10	丸瓦	瓦観察表、2類-A No1参照			

89号住居跡 (第150図、PL12・63)

当住居跡はC区北西端部に位置し8号掘立柱建物跡の北東にある。北半部を染谷川により削平されている。

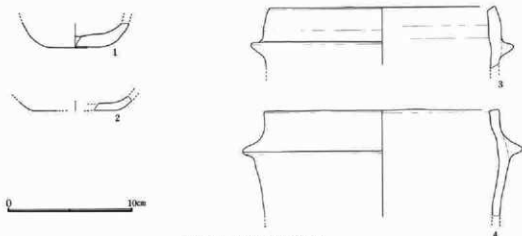


他の遺構との関係は11号掘立柱建物跡と重複している。新旧関係は住居跡が新しい。規模・その他は不明である。壁高は約10cmを測る。床面は平坦をなす。電は検出されていない。

1. 灰褐色土層 ロームブロック・炭化物を含む。
2. 灰褐色土層 軽石を含む。
3. 黒褐色土層

第150図 89号住居跡遺構図

5. 検出された遺構と遺物



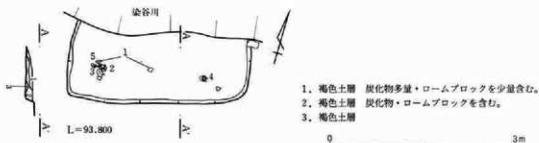
第151図 89号住居跡遺物図

第60表 89号住居跡遺物観察表

番号	遺物種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏 須恵	(底)4.2	覆土	底部 回転糸切り。	①やや酸化 ②にぶい黄褐色 ③細砂粒含む ④底部破片
No-2	埴 須恵	(底)6.8	覆土	底部 回転糸切り。付高台穴落。	①還元 ②灰色 ③細砂粒含む ④底部破片
No-3	羽釜	(口)18.0	覆土	罎上を向き、丁寧なナダ。	①やや酸化 ②灰褐色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-4	羽釜	(口)18.8	覆土	罎下を向き、丁寧なナダ。	①やや酸化 ②にぶい褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片

90号住居跡 (第152図、PL38・63)

当住居跡はC区北部に位置し89号住居跡の東にある。北半部は染谷川により削平されている。他の遺構との重複関係はない。規模・平面形態は不明であるが東西の壁長は2.9mを測る。壁高は約5cmであり、床面は平坦をなす。

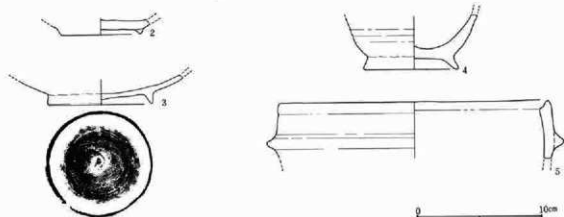


第152図 90号住居跡遺構図



第153図 90号住居跡遺物図(1)

(1) 竪穴住居跡



第154図 90号住居跡遺物図(2)

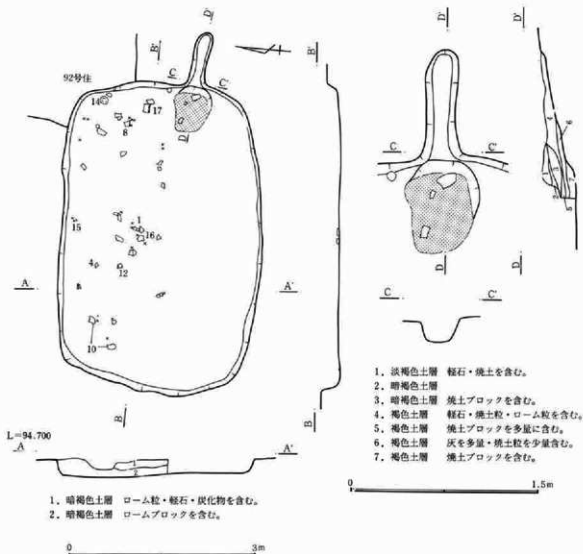
第61表 90号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	羽釜	(口)21.0	覆土	肩 上を向く。	①やや酸化 ②淡赤褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-2	灰釉 碗	(底)6.4	覆土	底部 内・外面共軸。付高台。	①還元 ②灰白色 ③密 ④底部破片
No-3	灰釉 須恵	(底)8.5	覆土	底部 回転ヘラ切り後、ヘラ調整。付高台。	①還元 ②灰白色 ③密 ④底部破片
No-4	灰釉 須恵	(底)7.5	覆土	内面 底部中心部に厚みをもつ。 底部 回転ヘラ調整。付高台。	①やや酸化 ②褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④底部破片
No-5	羽釜	(口)21.4	覆土	肩 雑な貼付。	①やや酸化 ②にぶい褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片

5. 検出された遺構と遺物

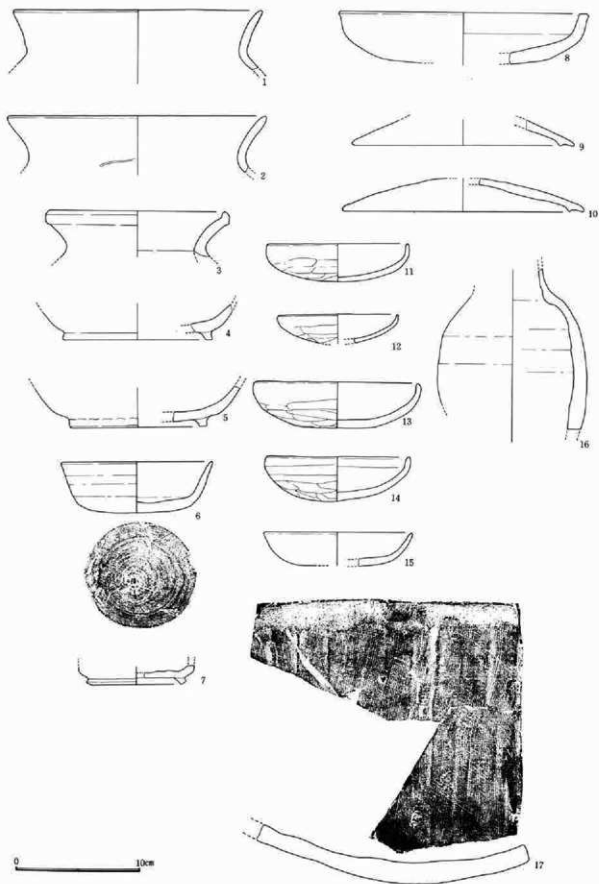
91号住居跡 (第155図、PL12・38・39・63・69)

当住居跡はC区南西部に位置し10号掘立柱建物跡の南にある。他の遺構との関係は92号住居跡・204号土坑と重複している。新旧関係は92号住居跡より新しく土坑より新しい。規模は長辺4.9m、短辺3.3mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-91°-Eである。壁高は10cm~20cmを測る。床面は平坦をなすが細かな凹凸が見られた。壁周溝・柱穴・貯蔵穴などの諸施設は検出されていない。竈は東壁やや南寄りに検出された。燃烧部幅約40cm、同長約20cm、煙道部長約60cmを測る。竈の燃烧部は床面上に張り出していたものと思われる。煙道部はほぼ平らに延びている。



第155図 91号住居跡遺構図・竈図

(1) 整穴住居跡



第156圖 91号住居跡遺物図

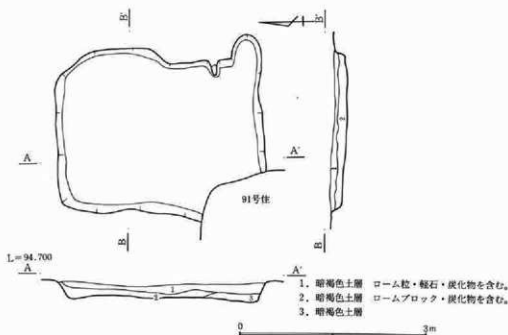
5. 検出された遺構と遺物

第62表 91号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①酸化 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	葉土 土師	(口)20.0	覆土	内・外面共に雑なナデ。	①酸化 ②にぶい褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-2	葉土 土師	(口)20.8	覆土	口縁部 内・外面共ナデ, 頸部にヘラ痕あり。	①酸化 ②にぶい褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-3	葉土 土師	(口)14.8	覆土	口縁部に稜をもつ。	①やや酸化 ②灰褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-4	埴土 土師	(底)12.0	覆土	付高有。	①還元 ②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④底部破片
No-5	埴土 土師	(底)11.0	覆土	付高有。底部 ヘラ調整。	①還元 ②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④底部破片
No-6	埴土 土師	(口)12.0 (高)4.0 (底)4.0	床面下	底部 ヘラ切り後、ヘラ調整。	①還元 ②灰白色 ③密 ④片残存
No-7	埴土 土師	(底)8.0	覆土	付高有。底部 回転ヘラ調整。	①還元 ②灰白色 ③密 ④底部破片
No-8	埴土 土師	(口)20.0 (高)4.0	覆土	底部 回転ヘラ調整。	①還元 ②灰色 ③密 ④破片
No-9	蓋土 土師	(口)18.0	覆土	外面 回転ヘラ調整。	①還元 ②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④破片
No-10	蓋土 土師	(口)19.6	覆土	外面 回転ヘラ調整。	①やや酸化 ②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④片残存
No-11	埴土 土師	(口)10.4 (高)3.0	覆土	口縁部 ナデ。体部 外面 ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②にぶい黄褐色 ③細砂粒含む ④片残存
No-12	埴土 土師	(口)12.0 (高)2.4	覆土	口縁部 ナデ。体部 外面 ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②褐色 ③細砂粒含む ④破片
No-13	埴土 土師	(口)13.2 (高)3.7	覆土	口縁部 ナデ。体部 外面 ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②明赤褐色 ③細砂粒含む ④片残存
No-14	埴土 土師	口-11.5 高-3.5	覆土	口縁部 直上に立ち上り、外面 ココナデ。内面 ミガキ。体部 外面 ヘラケズリ。	①酸化 ②赤褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④完形
No-15	埴土 土師	(口)11.0 (高)2.6	覆土	底部 回転ヘラ調整。	①還元 ②灰白色 ③細砂粒含む ④破片
No-16	埴土 土師		覆土	胴下部に向かい厚くなる。	①還元 ②灰白色 ③密 ④胴部片残存
No-17	平瓦	瓦観察表、1型A-住17参照			

92号住居跡 (第157図、PL69)

当住居跡はC区南西部に位置し10号掘立柱建物跡の南にある。他の遺構との関係は91号住居跡と重複している。新旧関係は91号住居跡が新しい。規模は長辺3.4m、短辺2.5mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-91°-Eである。壁高は約10cmを測る。床面は平坦をなす。壁周溝・柱穴・貯蔵穴などの諸施設は検出されていない。竈は南東コーナーに検出された。燃焼部幅約50cm、同長約60cmを測る。



第157図 92号住居跡遺構図



第158図 92号住居跡遺物図

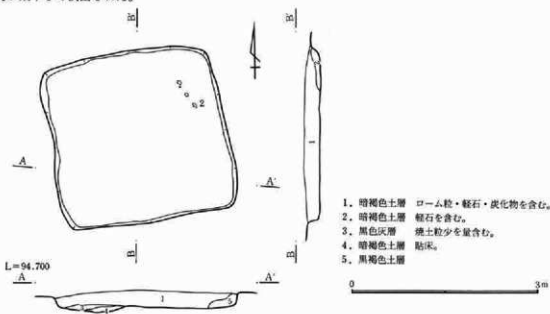
第63表 92号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口徑・底徑・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	平瓦	瓦観察表、1類A-住1参照			

5. 検出された遺構と遺物

93号住居跡 (第159図、PL12・39)

当住居跡はC区南西部に位置し91号住居跡の北にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺3.1m、短辺2.8mである。平面形態は正方形に近い形状を呈する。壁高は10cm~15cmを測る。床面は平坦をなす。壁周溝・柱穴・貯蔵穴などの諸施設は検出されていない。竈は検出されていないが西壁やや南寄りの部分から焼土・炭化物が集中して検出された。



第159図 93号住居跡遺構図



第160図 93号住居跡遺物図

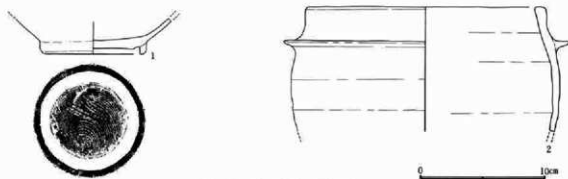
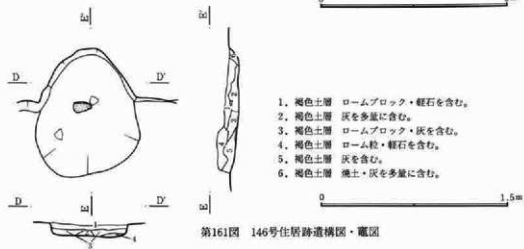
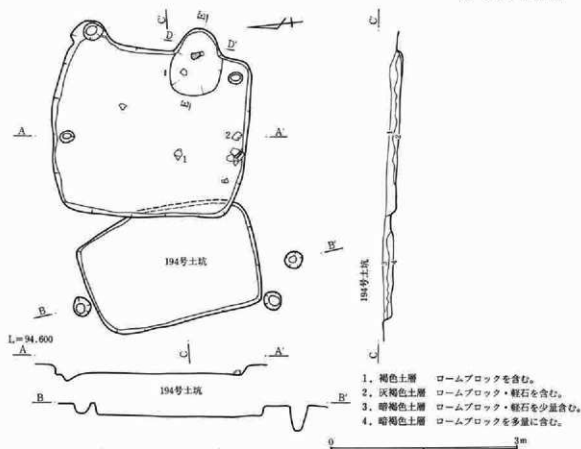
第64表 93号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏土 罎	(口)12.0	覆土	口縁部 ヨコナズ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-2	坏土 甕	(口)12.0	覆土	体部と底部間に襷をもつ。底部 ヘラ調整。	①やや酸化 ②灰色 ③1~2mmの砂粒含む ④残存

146号住居跡 (第161図、PL12・39・63)

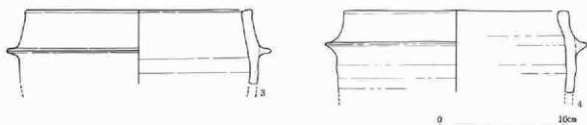
当住居跡はC区南に位置し91号住居跡の南東にある。他の遺構との関係は194号土坑と重複している。新旧関係は194号土坑が古い。規模は長辺3.2m、短辺2.8mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN 106° -Eである。壁高は10cm~15cmを測る。床面は平坦をなし竈周辺は堅く締まっている。床面に小穴が3基検出されたが当住居跡に伴うものではない。竈は東壁やや南寄りに検出された。焼焼部幅約70cm、同長約40cmを測る。焼焼部中央より熱を受けた砂岩が検出された。位置からこれは支脚として使用されたものと思われる。また当住居跡の西壁を壊す形で194号土坑が検出された。立ち上がり約10cmを測り約15cmの深さで平坦な底面をもつ。

(1) 竪穴住居跡



第162図 146号住居跡遺物図(1)

5. 検出された遺構と遺物



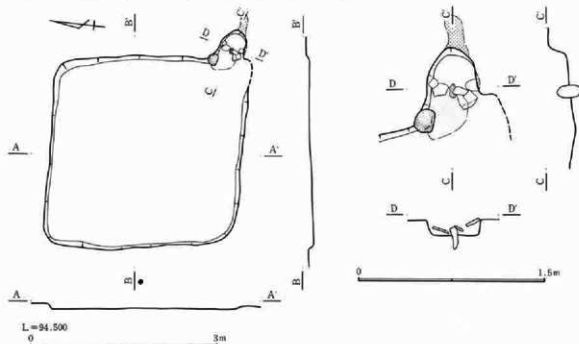
第163図 146号住居跡遺物図(2)

第165表 146号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	埴 須 壺	底-8.0	覆土	付高台。底面 回転未切り。右廻り。	①還元 ②灰色 ③密 ④底部のみ残存
No-2	羽 蓋	(口)19.4	覆土	口縁部 厚くなる。罫 上を向く。	①還元 ②にぶい黄褐色 ③細砂粒含む ④反残存
No-3	羽 蓋	(口)18.4	覆土	罫 下を向く。	①酸化 ②にぶい橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-4	羽 蓋	(口)18.0	覆土	罫 上を向く。断面は三角形。	①酸化 ②にぶい橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片

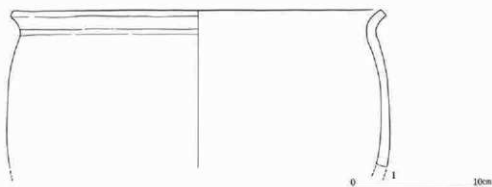
147号住居跡 (第164図、PL63)

当住居跡はC区東部に位置し13号掘立柱建物跡の北にある。他の遺構との関係は137・138号溝と重複している。新旧関係は住居跡が新しい。規模は一辺3.2mである。平面形態は正方形を呈する。主軸方位はN-85°-Eである。壁高は約10cm~20cmを測る。床面は中央部が約5cm高い。壁周溝・柱穴・貯蔵穴などの諸施設は検出されていない。竈は東壁南東コーナーに近い所で検出された。袖幅約45cm、燃焼部長約50cmを測る。また煙道部には焼土が認められた。左袖より石が検出された。



第164図 147号住居跡遺構図・竈図

(I) 竪穴住居跡



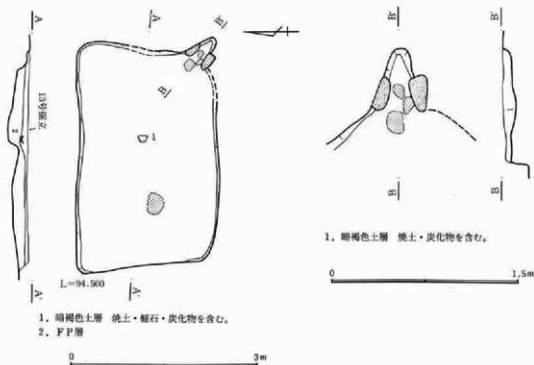
第165図 147号住居跡遺物図

第66表 147号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・高さ)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	瓦 土 師	(口)30.0	覆土	口縁部は外反する。頸部 ココナデ。	①酸化 ②褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④残存

148号住居跡 (第166図、PL12・39)

当住居跡はC区東部に位置し147号住居跡の南にある。他の遺構との関係は57号溝・13号掘立柱建物跡と重複関係にある。新旧関係は溝より新しく、掘立柱建物跡より古い。規模は長辺3.6m、短辺2.4mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-88°Eである。壁高は約5cmを測る。床面は平坦をなす。壁周溝・柱穴・貯蔵穴などの諸施設は検出されていない。竈は南東コーナーに検出された。焼燃部幅約35cm、同長約40cmを測る。



第166図 148号住居跡遺構図・竈図

5. 検出された遺構と遺物



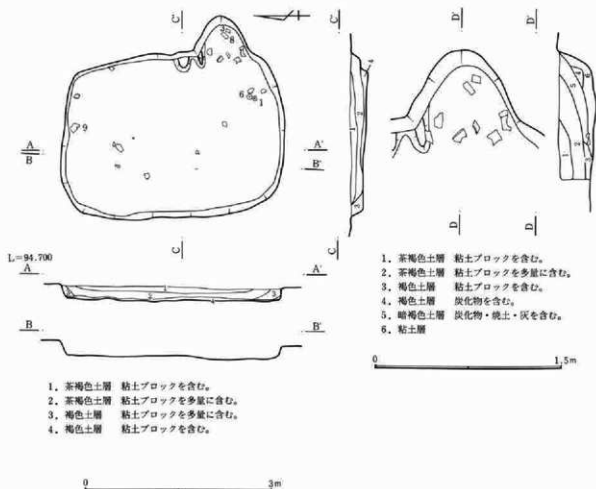
第167図 148号住居跡遺物図

第67表 148号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計 画 値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③粘土 ④残存
No-1	坏土 甕	(口)12.1 (高)14.0	覆土	口縁部 体部間に横をもつ。口縁部 ヨコナデ。体部 外面 ヘラケズリ。内面 ナデ。	①酸化 ②棕色 ③細砂粒含む ④残存

207号住居跡 (第168図、PL12・13・39・63)

当住居跡はB区に位置し他の住居跡群から離れたところに207号～210A号住居跡が集中している。規模は長辺3.7m、短辺2.7mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-88°-Eである。壁高は約10cm～15cmを測る。床面は堅く締まっており、中央部は約4cm～5cm低い。壁周溝・柱穴・貯蔵穴などの諸施設は検出されていない。甕は南東コーナーに検出された。燃烧部幅約70cm、同長約50cmを測る。



第168図 207号住居跡遺構図・甕図

(1) 竪穴住居跡



第169図 207号住居跡遺物図

第68表 207号住居跡遺物観察表

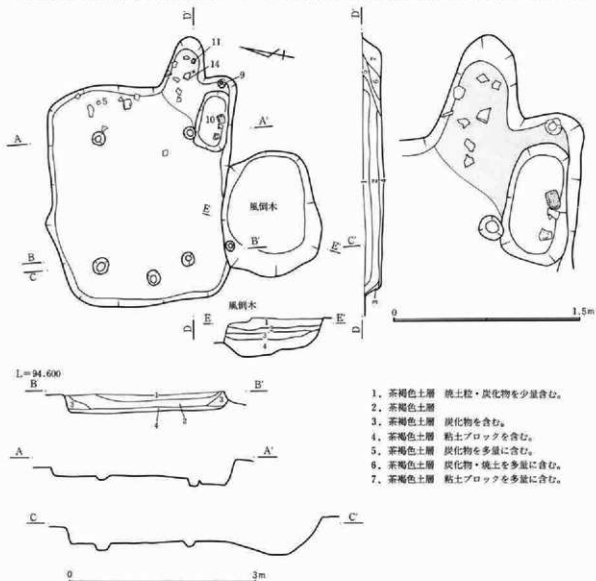
番号	器種別	計 画 値 (cm) (口径・底径・高さ)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏 須恵	(口)11.3 高-3.5 底-5.5	覆 土	口縁部 外反する。底部 手持らへう調整。	①やや酸化 ②にぶい褐色 ③細砂粒含む ④片残存
No-2	埴 須恵	底-8.5	覆 土	付高台。高面 回転へう調整。底部 中心部に盛り上がりあり。	①還元 ②灰白色 ③密 ④底部片残存
No-3	埴 須恵	底-5.5	覆 土	高台穴落。底部 回転糸切り。	①やや酸化 ②浅黄褐色 ③細砂粒含む ④底部片残存
No-4	坏 須恵	(底)6.7	覆 土	底部 回転糸切り。	①還元 ②灰白色 ③細砂粒含む ④底部片残存
No-5	坏 須恵	(底)6.5	覆 土	底部 回転糸切り。	①還元 ②灰色 ③5~6mmの砂粒含む ④底部破片
No-6	埴 須恵	底-7.0	覆 土	付高台。底部 回転糸切り。雑な調整。	①還元 ②灰白色 ③2~3mmの砂粒含む ④底部のみ残存
No-7	羽 蓋	(口)22.0	覆 土	口縁部 厚くなる。脚 上を向く。	①酸化 ②褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片

5. 検出された遺構と遺物

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-8	羽釜	(口)22.0	覆土	口縁は内傾する。脚上を向き、丁寧な貼り付け。	①酸化 ②棕色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-9	羽釜	(口)22.0	覆土	脚上を向く。内・外面共黒色付着。	①やや酸化 ②暗赤灰色 ③1~2mmの砂粒含む ④残存

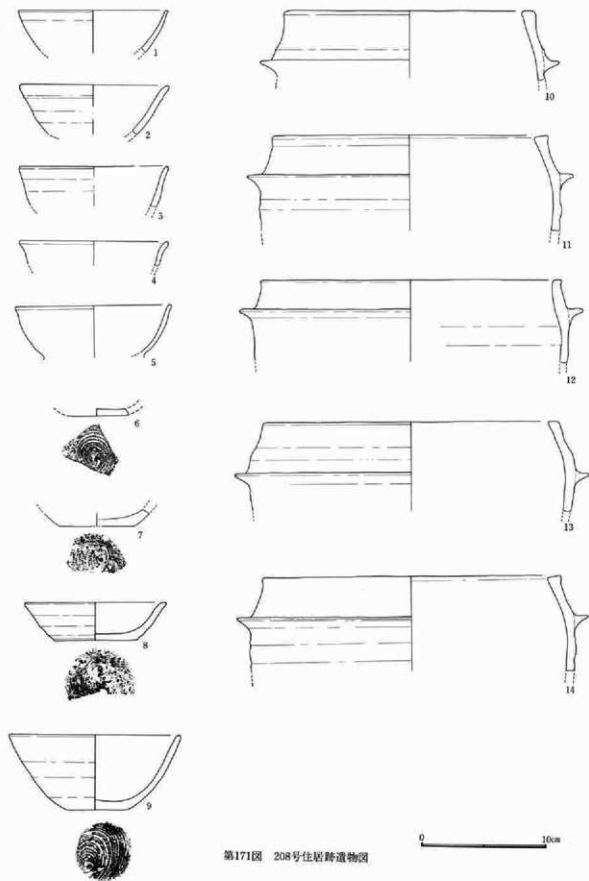
208号住居跡 (第170図、PL.13・39・63・64)

当住居跡はB区に位置し207号住居跡の西にある。他の遺構との関係は209号住居跡・南壁部で風倒木跡と重複している。新旧関係は208号住居跡・風倒木跡が新しい。規模は長辺3.6m、短辺3.2mである。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-107-Eである。壁高は約10cm~25cmを測る。床面は遺存が良く中央部はやや低くなる。壁周溝・柱穴などの諸施設は検出されていない。貯蔵穴は南東コーナーに検出された。規模は約95cm×50cmで楕円形を呈する。深さは約8cm~9cmを測る。この穴の中から石が検出されている。覆土には主に灰・炭化物が多い。東壁南東コーナー近くに検出された。燃焼部幅約70cm、同長約100cmを測る。



第170図 208号住居跡遺構図・断面図

(1) 竖穴住居跡



第171图 208号住居跡遺物图

5. 検出された遺構と遺物

第69表 208号住居跡遺物観察表

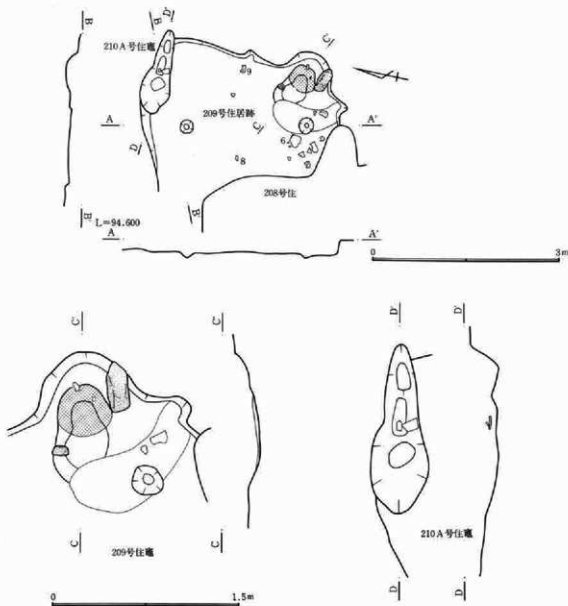
番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	環須恵	(口)12.0	覆土		①還元 ②灰白色 ③密 ④口縁部破片
No-2	埴須恵	(口)12.0	覆土	口縁部 やや外反する。	①還元 ②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-3	埴須恵	(口)11.8	覆土	口縁部 やや外反する。	①還元 ②灰白色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-4	埴須恵	(口)12.0	覆土	口縁部 やや外反する。	①還元 ②灰色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-5	埴須恵	(口)12.4	覆土	口縁部 部分的に軸。高台部と思われる断面あり。	①還元 ②灰白色 ③密 ④口縁部破片
No-6	環須恵 (底)4.7		覆土	底部 回転糸切り。	①やや酸化 ②灰褐色 ③細砂粒含む ④底部破片
No-7	環須恵 (底)5.8		覆土	底部 回転糸切り。	①やや酸化 ②灰褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④底部破片
No-8	環須恵	口-11.3 高-3.0 底-6.6	覆土	底部 回転ヘラ調整。右廻り。	①やや酸化 ②褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④残存
No-9	埴須恵	口-13.7 高-5.9 底-4.8		底部 回転糸切り。右廻り。	①還元 ②灰褐色 ③細砂粒含む ④ほぼ完形
No-10	羽釜	(口)20.2	覆土	口縁部 やや厚くなる。脚 上を向く。	①やや酸化 ②によい褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-11	羽釜	(口)22.0	覆土	口縁部 やや厚くなる。脚 上を向く。	①やや酸化 ②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-12	羽釜	(口)24.0	覆土	脚 上を向く。	①やや酸化 ②灰色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-13	羽釜	(口)24.0	覆土	口縁部 内傾する。脚 やや上を向く。	①やや酸化 ②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-14	羽釜	(口)24.0	覆土	口縁部 やや厚くなり内傾する。脚 上を向き、丁寧な貼付。	①酸化 ②褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片

209号住居跡 (第172図、PL13・39・64)

当住居跡はB区に位置し207号住居跡の北にある。他の遺構との関係は208号住居跡と重複している。新旧関係は208号住居跡が新しい。また209号住居跡の北壁の上に竈のみを検出した210A号住居跡がある。規模・平面形態は不明であるが南北長約3.2mを測る。主軸方位は竈長軸でN-92°-Eである。壁高は約10cmを測る。床面は平坦をなす。壁周溝・柱穴・貯蔵穴などの諸施設は検出されていない。北側に径約20cmの小穴を検出した。竈は東壁南寄りに検出された。燃焼部幅約80cm、同長約40cmを測る。

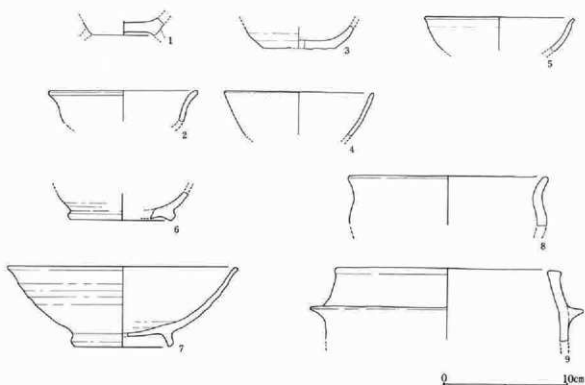
210A号住居跡 (第172図、PL13)

当住居跡はB区に位置し207号住居跡の北にある。C区に検出された210号住居跡と区別するため当住居跡をA、C区に検出された住居跡をBと命名した。209号住居跡の北壁の上に竈のみを検出した。主軸方位は竈長軸でN-92°-Eである。長軸130cm、短軸45cmの規模で検出された。



第172図 209号・210A号住居跡遺構図・竈図

5. 検出された遺構と遺物



第173図 209号住居跡遺物図

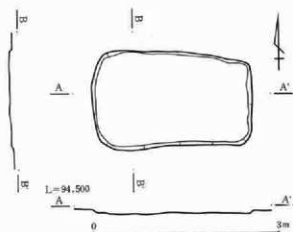
第70表 209号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	埴 須恵	底-5.0	覆土	高台欠落。底面 回転ナデ調整。底部 内面 黒色付着。	①酸化 ②にぶい褐色 ③細砂粒 含む ④底部残存
No-2	坏 須恵	(口)12.0	覆土	口縁部 外反する。	①還元 ②黄灰色 ③1~2mmの 砂粒含む ④口縁部破片
No-3	坏 須恵	(底)6.0	覆土	底部 ヘラ調整。	①やや酸化 ②にぶい黄褐色 ③ 細砂粒含む ④底部破片
No-4	坏 須恵	(口)12.0	覆土	口縁部 一部軸。	①還元 ②灰色 ③密 ④口縁部 破片
No-5	坏 須恵	(口)12.0	覆土	口縁部 やや外反する。	①還元 ②灰白色 ③密 ④口縁部 破片
No-6	埴 須恵	(底)8.0	覆土	付高台。	①還元 ②灰白色 ③1~2mmの 砂粒含む ④底部破片
No-7	埴 須恵	口-18.4 高-6.4 底-7.5	覆土	付高台。底部 回転ヘラ調整。	①還元 ②灰白色 ③密 ④片 残存
No-8	糜 土器	(口)16.0	覆土	口縁部 内・外面共コナデ。内・外面黒色 付着。	①酸化 ②灰褐色 ③1~2mmの 砂粒含む ④口縁部破片
No-9	羽 釜	(口)18.0	覆土	口縁部 やや内傾する。脚 上を向く。	①還元 ②灰色 ③1~2mmの砂 粒含む ④口縁部破片

(1) 竪穴住居跡

210B号住居跡 (第174図、PL13)

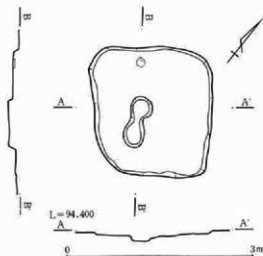
当住居跡はC区南西部に位置し91号住居跡の南にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺2.6m、短辺1.6mである。平面形態は長方形を呈する。竈は検出されておらず、主軸方位は不明である。壁高は約5cmを測り、床面の凹凸が激しい。遺物は須恵器の破片を検出した。



第174図 210B号住居跡遺構図

211号住居跡 (第175図、PL13・39)

当住居跡はC区南西部に位置し210B号住居跡の南にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺2.1m、短辺2mである。平面形態は長方形を呈する。壁高は約2cm~15cmを測る。床面は平坦をなし堅く締まっており遺存は良好であった。住居跡中央に8字状に小穴が2基検出された。この小穴は約8cm~10cmの深さをもつ。竈は検出されていない。



第175図 211号住居跡遺構図



第176図 211号住居跡遺物図

第71表 211号住居跡遺物観察表

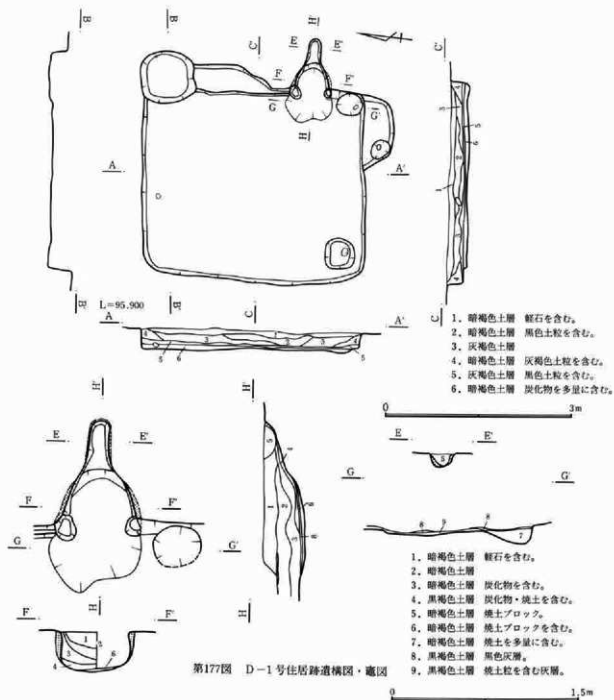
番号	器種別	計測値(cm) (口径・直径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏土部	口-11.5 高-3.8	覆土	口縁部 ココナデ、外部 外面 ヘラケズリ、 内面 ナデ。	①酸化 ②橙色 ③細砂粒含む ④完形

D-1号住居跡 (第177図、PL14)

当住居跡はD区北西に位置し、南に集中する住居群とは離れて存在する。平面形態は長方形を呈し、規模は、長辺3.6m、短辺3.2mを測る。壁高は20cm~25cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。壁周溝は、確認されていない。主軸方位はN-88°-Eである。東壁北寄りに張り出して、落ち込みと南壁東寄りに張り出しを持つ。柱穴は確認されていないが、南西コーナー部に48cm×47cm深さ22cmを測る貯蔵穴と考えられる落ち込みが確認

5. 検出された遺構と遺物

された。床は2面確認されているが2軒の重複とは考えられず建て替えあるいは拡張と考えられる。上の床面は張り出し部を持ち、下の床面は落ち込みを持つ。この張り出し部と落ち込みは底面に炭化物が確認されている。上の床面は堅く締まっており全面に炭化物が散布する。下の床面は軟弱で、炭化物は竈周辺に集中する。竈は東壁南寄りに検出され、袖幅は約50cm、燃焼部長約70cmを測る。両袖部に小穴が確認されたが、石などの構築材は検出されていない。出土遺物は、床面から坏が1点検出されたのみである。





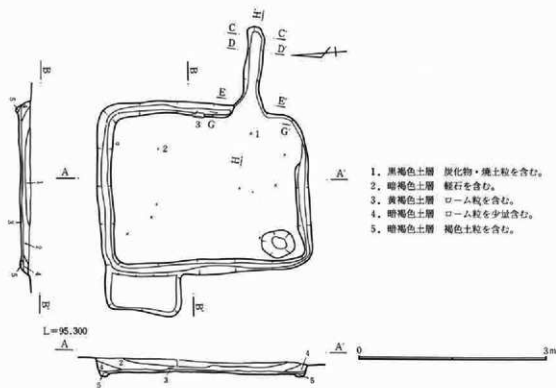
第178図 D-1号住居跡遺物図

第72表 D-1号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏 須	(口径)10.0	覆土	口縁端部 外面へ屈曲する。	②灰白色 ③密 ④口縁部破片

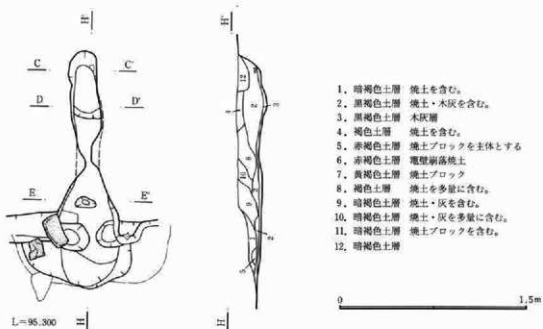
D-2号住居跡 (第179・180図、PL14・40・64・71)

当住居跡は、D区の両住居群の中に位置し、D区を北東から南西に延びるD-4号溝の埋没後に構築されている。平面形態は、長方形を呈し、北西部に張り出しを持つ。規模は長辺3.6m、短辺2.7mを測る。壁高は、10~20cmを測る。壁周溝は、約15~20cmの幅を持ち4~5cmの深さでほぼ住居内を全周する。主軸方位は、N-103°-Eである。張り出し部は、北壁を延長する形で西へ0.75m、南へ1.3mの方形を呈する。この張り出し部は床面より約5cm高くなっている。床面はほぼ平坦である。南西部隅に50×40cmの小穴が確認され貯蔵穴と考えられる。柱穴は確認されていない。竈は、東壁南寄りに検出され袖幅約50cm、燃燒部と煙道部は明瞭な境は無く、袖から約1.2mを測る。竈前面より炭化物が集中して検出された。遺存状態は良好で両袖部より花崗岩の構築材が検出された。出土遺物は北壁付近の床面より集中して同一固体の羽釜の破片が検出された。また、住居内より甗の破片が検出された。

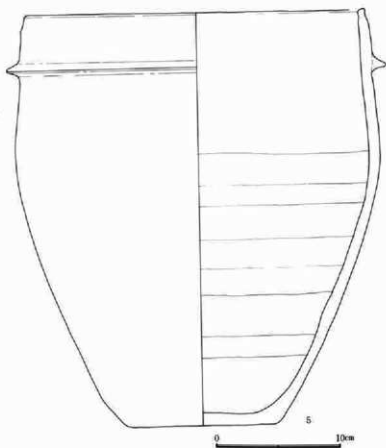
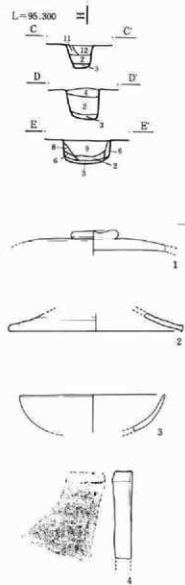


第179図 D-2号住居跡遺構図

5. 検出された遺構と遺物

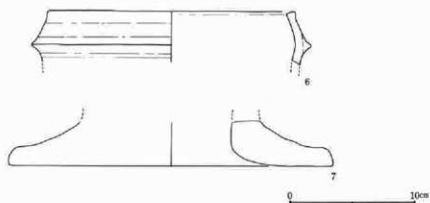


第180図 D-2号住居跡平面図



第181図 D-2号住居跡遺物図(1)

(1) 竪穴住居跡



第182図 D-2号住居跡遺物図(2)

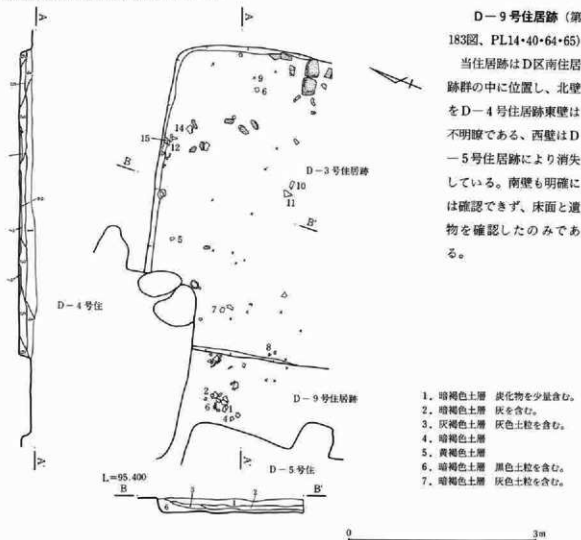
第73表 D-2号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・直径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	蓋 須恵		覆土	外面 回転へう調整。	②灰白色 ③細砂粒含む ④破片
No-2	蓋 須恵	(口)7.0	覆土		②灰白色 ③細砂粒含む ④破片
No-3	坏 土師	(口)12.0	覆土		②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-4	平瓦	瓦観察表、1類A-D住4参照			
No-5	羽釜	口-27.3 高-32.8 底-12.0	覆土	脚 短く、断面は三角形を呈す。内面 輪痕 痕残す。	②にふい赤褐色 ③細砂粒含む ④ほぼ完形
No-6	羽釜	(口)19.2	覆土	脚 短く、断面は三角形を呈す。	①還元 ②灰白色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-7	甕 土師	(底)26.0	覆土	器壁が厚く、難な調整。	②にふい橙色 ③2~3mmの砂粒 含む ④欠残存

5. 検出された遺構と遺物

D-3号住居跡 (第183図、PL14・40・64・71・86・87)

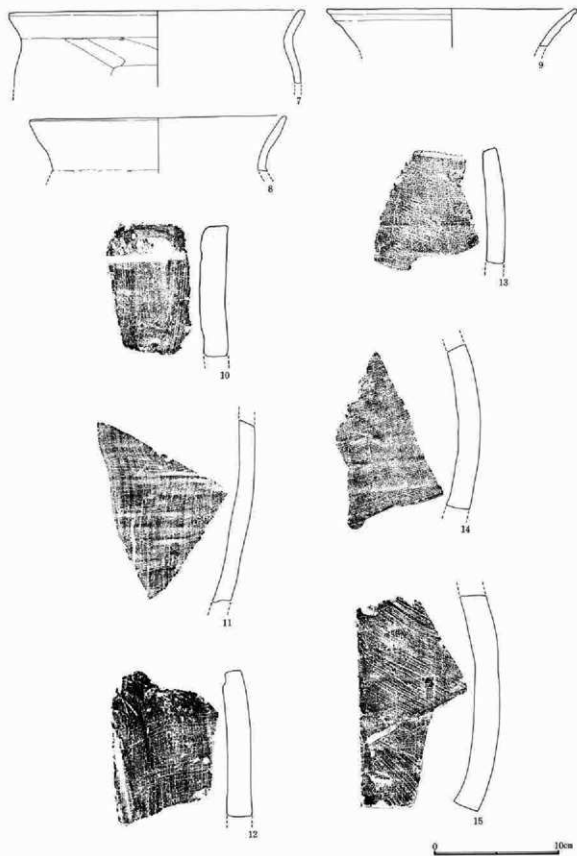
当住居跡はD区南住居跡群の中に位置し、住居跡の北西で4号住居跡と西でD-9号住居跡と重複関係にある。新旧は9号住居跡より新しく、4号住居跡より古い。また南半部は擾乱により削平を受けており南壁と東・西壁の一部は消失しており、竈の検出はされなかった。平面形態は、東西に長軸をもつ長方形が想定される。規模は長辺約3.8mを測る。壁高は約20cmを測り、竈・貯蔵穴などの諸施設は検出されていない。出土遺物は、瓦や石が多く検出されている。



第183図 D-3号・D-9号住居跡遺構図

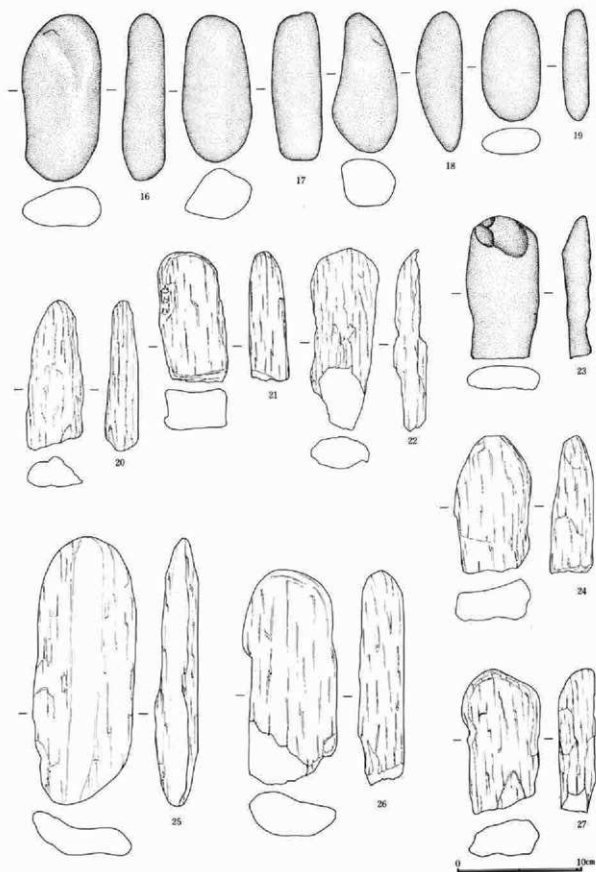


(1) 竖穴住居跡



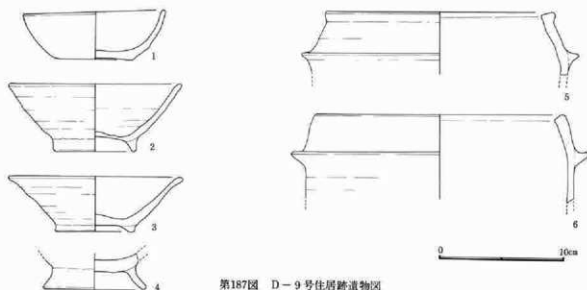
第185图 D-3号住居跡遺物(2)

5. 検出された遺構と遺物



第186図 D-3号住居跡遺物図(3)

(1) 竪穴住居跡



第187図 D-9号住居跡遺物区

第74表 D-3号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計 測 値 (cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	土 器 土 器	口-12.1 高-3.7	覆 土	口縁部と体部の中位に梗がある。外面 口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②棕色 ③底面黒色 ④1~2mmの砂粒含む ④完形
No-2	土 器 土 器	(口)12.6	覆 土	外面 口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②棕色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-3	土 器 土 器	口-14.9高-4.4	覆 土	口縁部と体部の中位に梗がある。外面 口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②棕色 ③細砂粒含む ④残存
No-4	土 器 須 恵	(底)8.0	覆 土	底部 回転糸切り。	②灰白色 ③細砂粒含む ④底部破片
No-5	土 器 須 恵	(口)13.4	覆 土	外面に釉。	②暗オリーブ色 ③密 ④破片
No-6	土 器 須 恵	(口)15.6	覆 土		①やや酸化 ②明オリーブ灰色 ③軟質、細砂粒含む ④破片
No-7	土 器 土 器	(口)23.8	覆 土	外面 口縁部 ヨコナデ。肩部 ヘラケ。頸部へ下 ヘラケズリ。	②明赤褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-8	土 器 土 器	(口)26.0	覆 土	外面 口縁部 ヨコナデ。肩部 ヘラケ。	②棕色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-9	土 器 土 器	(口)20.0	覆 土	内・外面 口縁部 ヨコナデ。	②明赤褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-10	平 瓦	瓦観察表、1型A-D住10参照			
No-11	平 瓦	瓦観察表、1型A-D住11参照			
No-12	平 瓦	瓦観察表、1型A-D住12参照			

5. 検出された遺構と遺物

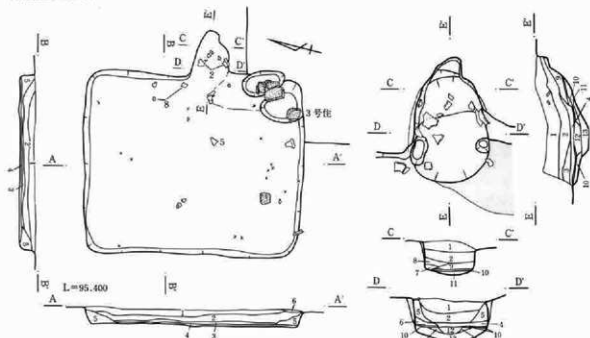
No-13	平瓦	瓦観察表、1類A-D住13参照			
No-14	平瓦	瓦観察表、1類A-D住14参照			
No-15	平瓦	瓦観察表、1類C-No3参照			
No-16	石	(長)×(巾)×(厚) 8.0×6.8×3.5	433	覆土 輝石安山岩。	粗粒
No-17	石	11.5×5.5×1.5	355	覆土 輝石安山岩。	粗粒
No-18	石	11.0×8.5×3.5	275	覆土 閃緑岩。	
No-19	石	7.5×4.8×18.0	143	覆土 輝石安山岩。	粗粒
No-20	石	11.0×4.5×2.0	183	覆土 緑色片岩。	
No-21	石	10.0×5.0×3.0	333	覆土 緑色片岩。	
No-22	石	9.0×5.0×2.5	298	覆土 緑色片岩。	
No-23	石	11.0×5.8×4.0	203	覆土 輝石安山岩。	粗粒
No-24	石	11.0×6.2×2.5	348	覆土 緑色片岩。	
No-25	石	20.0×8.0×2.0	722	覆土 緑色片岩。	
No-26	石	16.0×7.0×3.2	663	覆土 黒色片岩。	
No-27	石	11.0×8.5×2.5	316	覆土 緑色片岩。	

第75表 D-9号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・高さ)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏 須恵	□-11.3 高-3.8 底-6.0	覆土	底部 回転糸切り。	①酸化 ②にんい・橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④ほぼ完形
No-2	埴 須恵	□-13.8 高-5.4 底-6.6	覆土	付高台。	①酸化 ②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④ほぼ完形
No-3	埴 須恵	(底)6.4	覆土	雑な作りで、口縁部 やや外湾する。	②灰白色 ③2~3mmの砂粒含む ④片残存
No-4	埴 須恵	底-8.0	覆土	底部 回転糸切り。高い高台が付き。	①酸化 ②にんい・黄褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④底部破片
No-5	羽 釜	(口)18.2	覆土	脚 上を向き、口縁部 内傾する。	①酸化 ②褐色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-6	羽 釜	(口)20.0	覆土	脚 上を向き、丁寧な貼付け。	①還元 ②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④片残存

D-4号住居跡 (第188図、PL.14・40・41・64・71)

当住居跡は南住居群の中に位置し、D-3号住居跡・D-9号住居跡と重複関係にある。新旧は3号住居跡・9号住居跡より新しい。規模は長辺3.6m、短辺2.9mである。平面形態は長方形を呈する。壁高は約20cmを測り、主軸方位はN-79°-Eである。床面は平坦である。貯蔵穴は南東コーナー部に並び2つ確認された。北の貯蔵穴は径70cm×50cm、深さ10cm、南の貯蔵穴は径65cm×40cm、深さ15cmである。両貯蔵穴から砂岩が検出された。壁周溝・柱穴等の施設は確認されていない。竈は東壁ほぼ中央にあり、袖幅60cm、燃焼部長60cmである。



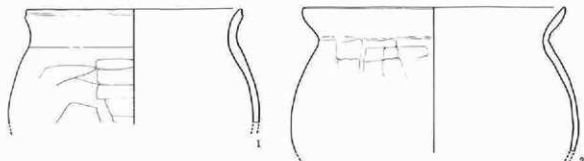
1. 暗褐色土層 焼土・炭化物を少量含む。
2. 暗褐色土層 灰白色粘土ブロック(3mm~1cm)を多量に含む。
3. 暗褐色土層 黒色土粒を含む。
4. 暗褐色土層
5. 暗褐色土層 灰色土粒を含む。
6. 黒褐色土層 炭化物を多量に含む。

0 3m

第188図 D-4号住居跡遺構図・竈図

1. 暗褐色土層 焼土・炭化物を少量含む。
2. 暗褐色土層 灰白色粘土ブロックを多量に含む。
3. 暗褐色土層
4. 暗褐色土層 焼土ブロック・炭化物を多量に含む。
5. 暗褐色土層 焼土を少量含む。
6. 赤褐色土層 壁崩落焼土ブロック。
7. 褐色土層 焼土粒を多量に含む。
8. 黒褐色土層 焼土ブロック・炭化物を含む。
9. 褐色土層 焼土を多量に含む。
10. 黒褐色土層 木炭燻漬。
11. 暗褐色土層 焼土ブロック・灰を含む。
12. 赤褐色土層 焼土面。
13. 暗褐色土層 焼土・灰を含む。

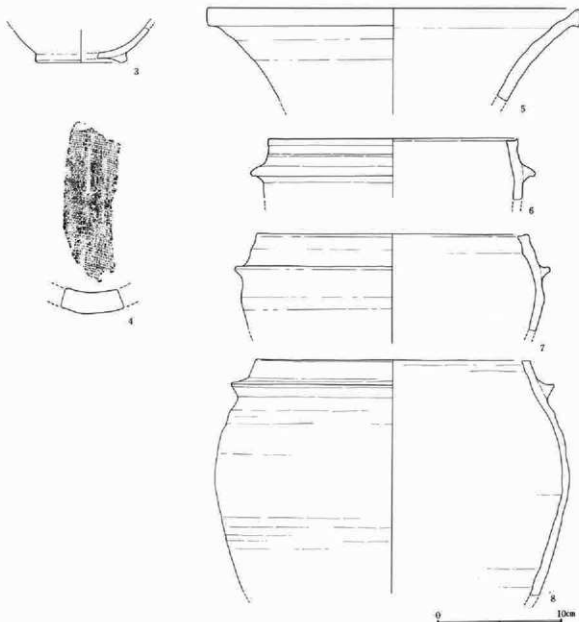
0 1.5m



第189図 D-4号住居跡遺物図(1)

0 10cm

5. 検出された遺構と遺物



第190図 D-4号住居跡遺物図(2)

第76表 D-4号住居跡遺物観察表

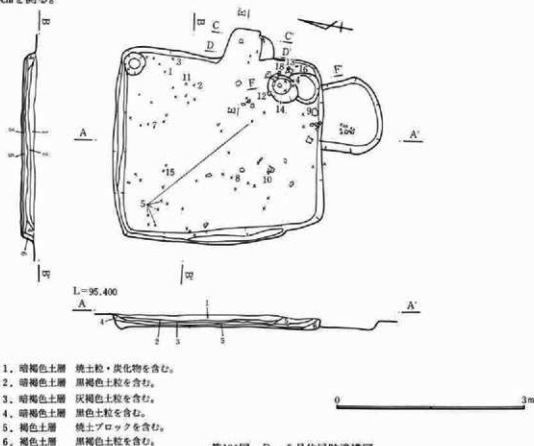
番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	甕 土 師	口-17.2	覆 土	口縁部 沈線状の線が入る。	①酸化 ②によい褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部片残存
No-2	甕 土 師	口-20.8	覆 土	外面 口縁部 ココナデ。頸部 ヘラケズリ。ヘラ肌。内面 ナデ。	②褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部片残存
No-3	坏 須 恵	(底)7.4	覆 土	付高台。高台部 雑なナデ付け。	①還元 ②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④底部破片
No-4	丸 瓦	瓦観察表、1類A-D住4帯照			

(1) 竪穴住居跡

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-5	葉形	(口)30.0	覆土	口縁部 縁を持つ。	②褐色色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-6	羽釜	(口)20.0	覆土	踵 下を向く。丁寧な貼付け。	①やや酸化 ②オリブ黒色 ③ 1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-7	羽釜	口-22.0	竈内	踵 上を向く。丁寧な貼付け。口縁部 やや内傾する。	①やや還元 ②にぶい赤褐色 ③ 細砂粒含む ④口縁部破片
No-8	羽釜	(口)22.0	覆土	口縁部 内傾する。踵 短く、断面は三角形を呈す。	①還元 ②灰白色 ③2~3mmの 砂粒含む ④口縁部破片

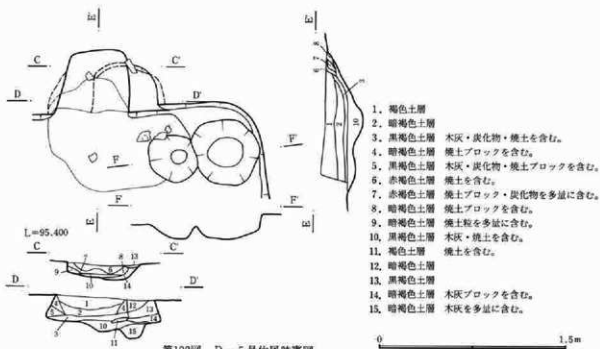
D-5号住居跡 (第191・192図、PL14・41・64・65)

当住居跡はD区南住居群の中に位置し、D-9号住居跡と重複関係にある。新旧関係は、D-9号住居跡より新しい。規模は、長辺3.5m、短辺3mである。平面形態は、長方形を呈する。主軸方位は、N-84°-Eである。壁高は、約15~20cmを測り、壁周溝は、浅く幅約10cm~30cmで北・西壁で浅い溝が確認された。床面は、平坦をなし貯蔵穴は、南東コーナーに南・北に並び2箇所落ち込みが確認された。新旧関係は北が新しい。南の貯蔵穴は約50cm×45cm、深さ20cm、北の貯蔵穴は約50cm×35cm、深さ約20cmを測る。また北東コーナーにも約40cm×35cm、深さ約6cmの落ち込みが確認されている。竈は東壁中央に2箇所重複して検出され、作り替えと思われる。新旧関係は北が新しく燃焼部幅約55cm、同長約50cm、南は燃焼部幅約50cm、同長約40cmを測る。

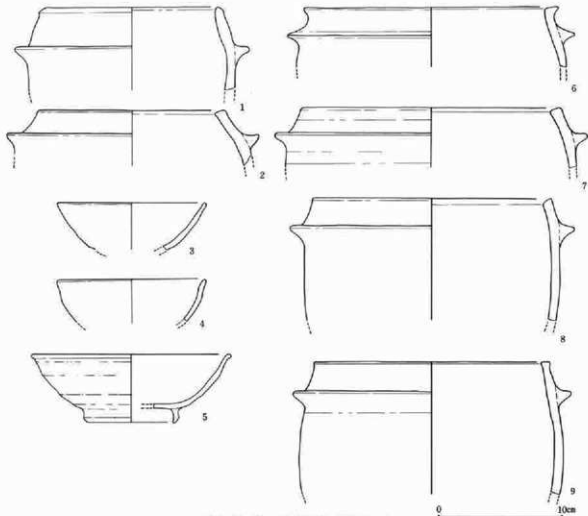


第191図 D-5号住居跡遺構図

5. 検出された遺構と遺物

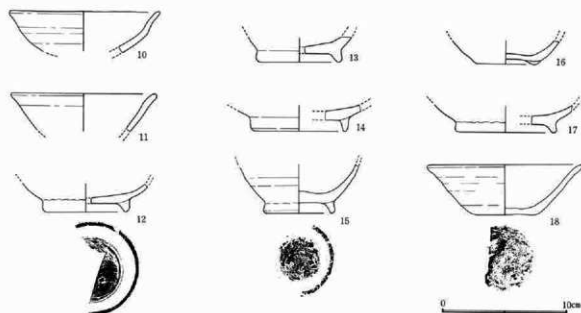


第192図 D-5号住居跡遺構図



第193図 D-5号住居跡遺物図(1)

(I) 竪穴住居跡



第194図 D-5号住居跡遺物図(2)

第77表 D-5号住居跡遺物観察表

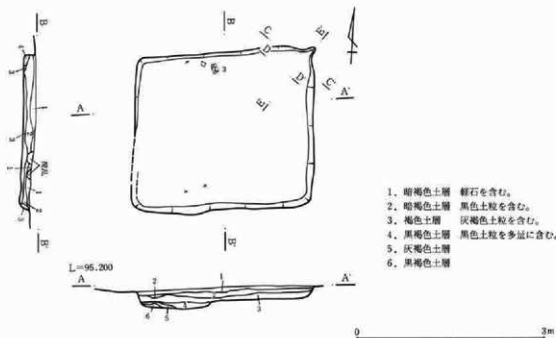
番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	羽釜	(口径)15.0	覆土	罎上を向く。	①還元 ②暗灰色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-2	羽釜	(口径)15.0	覆土	罎上を向く。口縁部内傾する。	①酸化 ②明赤褐色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-3	坏須恵	(口径)12.0	覆土		②灰白色 ③密 ④口縁部破片
No-4	埴須恵	(口径)12.0	覆土	口縁部一部軸。	②灰白色 ③密 ④口縁部破片
No-5	埴須恵	(口径)6.0 高一5.4 (底)7.6	覆土	口唇部外傾する。丁寧な作り。付高台。	①やや酸化 ②灰白色 ③密 ④片残存
No-6	羽釜	(口径)20.4	覆土	口縁部外側に屈曲する。罎上を向く。	①酸化 ②にぶい褐色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁部のみ残存
No-7	羽釜	(口径)21.0	覆土	罎上を向く。	①酸化 ②明赤褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-8	羽釜	(口径)19.0	覆土	罎上を向く。断面は三角形を呈す。	①やや酸化 ②にぶい褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-9	羽釜	(口径)19.0	覆土	罎上を向く。丁寧な貼付け。	①酸化 ②褐色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-10	坏須恵	(口径)12.0	覆土	口縁部やや外傾する。	①やや酸化 ②にぶい褐色 ③2~3mmの砂粒含む ④片残存
No-11	坏須恵	(口径)11.8	覆土	雑な作り。口縁部外傾する。	①やや酸化 ②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部片残存

5. 検出された遺構と遺物

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・高さ)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-12	埴 須 恵	(底)7.0	覆土	付高台。底部 回転糸切り。	②灰白色 ③密 ④底部破片
No-13	埴 須 恵	(底)7.0	覆土	付高台。底部 回転ヘラ調整。	①やや酸化 ②明黄褐色 ③2～3mmの砂粒含む ④底部に残存
No-14	埴 須 恵	(底)7.4	覆土	付高台。	②灰白色 ③密 ④底部破片
No-15	埴 須 恵	(底)5.8	覆土	付高台。底部 回転糸切り。	②灰白色 ③1～2mmの砂粒含む ④底部のみ残存
No-16	埴 須 恵	(底)3.0	覆土	付高台。底部 回転糸切り。	②灰白色 ③1～2mmの砂粒含む ④底部のみ残存
No-17	埴 須 恵	(底)8.0	覆土	付高台。	②灰白色 ③細砂粒含む ④底部破片
No-18	坏 須 恵	口-12.4 高-3.9 底-5.0	覆土	口縁部 わずかに外湾する。底部 回転糸切り。右廻り。	②灰白色 ③3～4mmの砂粒含む ④片残存

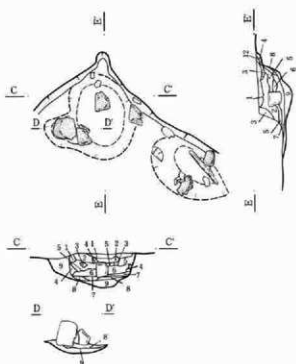
D-6号住居跡 (第195・196図、PL15・41)

当住居跡はD区南に位置しD-2号住居跡の南、D-8号住居跡の西にある。D-2・D-8号住居跡と同様D-4号溝埋没後に作られている。平面形態はほぼ正方形を呈する。規模は長辺3m、短辺2.7mを測る。壁高は約10cmを測る。主軸方位は竈の長軸がN-46°Eである。床面は東から西へ向い緩やかな傾斜を持ち、その比高は約10cmである。貯蔵穴・柱穴・壁周溝などの諸施設は確認されていない。竈は北東コーナーに検出された。袖幅約50cm、燃焼部長約45cmを測る。右袖部から砂岩質の袖材が、左袖部から同質の石が検出された。さらに燃焼部中央より石が検出され支脚と思われる。



第195図 D-6号住居跡遺構図

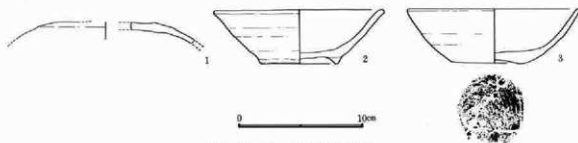
(1) 竪穴住居跡



1. 黄褐色土層 焼土ブロックを含む。
2. 黄褐色土層 焼土ブロック・炭化物を含む。
3. 黄褐色土層
4. 褐色土層 焼土を含む。
5. 黒褐色土層 焼土・炭化物を含む。
6. 灰褐色土層
7. 灰褐色土層 焼土を少し含む。
8. 灰褐色土層 焼土・炭化物を含む。
9. 黒褐色土層 焼土を含む。

0 1.5m

第196図 D-6号住居跡遺面図



第197図 D-6号住居跡遺物図

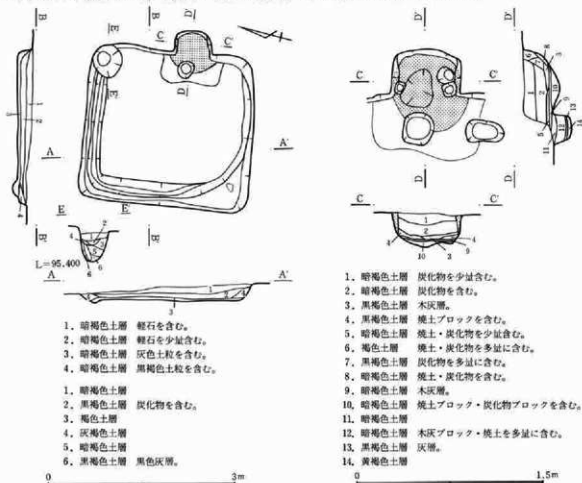
第78表 D-6号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	蓋 須恵		覆土	外面 回転ヘラ調整。	②灰白色 ③細砂粒含む ④破片
No-2	埴 須恵	口-13.6 高-4.3 底-6.0	覆土	付高台。底部 回転糸切り。	②黒褐色 ③2~3mmの砂粒含む ④½残存
No-3	坏 須恵	口-13.7 高-4.3 底-5.6	覆土	底部 回転糸切り。雑な作り。	①やや酸化 ②浅黄褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④½残存

5. 検出された遺構と遺物

D-7号住居跡 (第198図, PL15)

当住居跡はD区南に位置しD-8号住居跡の北にある。平面形態はほぼ正方形を呈する。規模は長辺2.8m、短辺2.6mである。壁高は約10~20cmを測る。東壁を除く3壁に幅約15~30cm、深さ約10cmの壁周溝が巡る。この周溝は南壁で浅くなり北西コーナーの位置から拡張あるいは建て替えなどが想定される。主軸方位はN-83°-Eである。貯蔵穴は北東コーナーに確認され規模は約50×45cm、深さ約40cmである。柱穴は確認されていない。竈は東壁南寄りに検出された。袖幅約40cm、燃焼部長約35cmである。両軸部には構築材の跡と思われる小穴が2穴検出された。竈前面から焼土・炭化物が厚く堆積した状態で検出された。

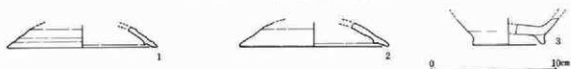


1. 暗褐色土層 軽石を含む。
2. 暗褐色土層 軽石を少量含む。
3. 暗褐色土層 灰色土粒を含む。
4. 暗褐色土層 黒褐色土粒を含む。

1. 暗褐色土層
2. 黒褐色土層 炭化物を含む。
3. 褐色土層
4. 灰褐色土層
5. 暗褐色土層
6. 黒褐色土層 黒色灰層。

1. 暗褐色土層 炭化物を少量含む。
2. 暗褐色土層 炭化物を含む。
3. 黒褐色土層 木灰層。
4. 黒褐色土層 焼土ブロックを含む。
5. 暗褐色土層 焼土・炭化物を少量含む。
6. 褐色土層 焼土・炭化物を多量に含む。
7. 黒褐色土層 炭化物を多量に含む。
8. 暗褐色土層 焼土・炭化物を含む。
9. 暗褐色土層 木灰層。
10. 暗褐色土層 焼土ブロック・炭化物ブロックを含む。
11. 暗褐色土層
12. 暗褐色土層 木灰ブロック・焼土を多量に含む。
13. 黒褐色土層 灰層。
14. 黄褐色土層

第198図 D-7号住居跡遺構図・竈図



第199図 D-7号住居跡遺物図

第79表 D-7号住居跡遺物観察表

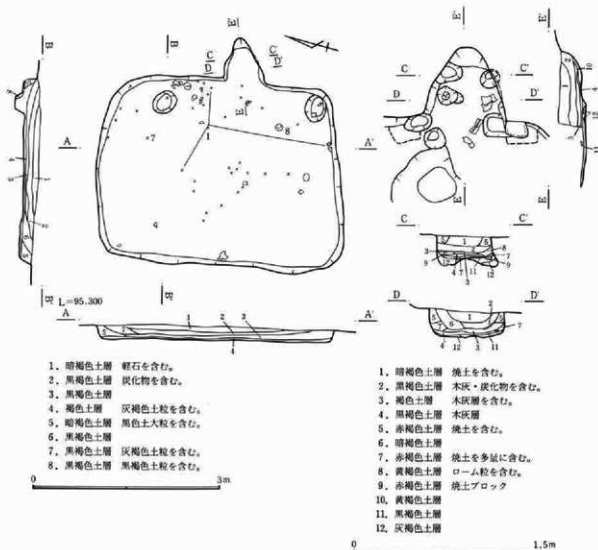
番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③粘土 ④残存
No-1	蓋 須恵	(口)12.0	覆土	内面に返りを持つ。	②灰白色 ③細砂粒含む ④縁部破片

(I) 竪穴住居跡

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-2	蓋 須恵	(口)12.0	覆土	内面に返りを持つ。	②灰白色 ③細砂粒含む ④端部破片
No-3	埴 須恵	(底)8.0	覆土	付高台。	②灰色 ③細砂粒含む ④底部破片

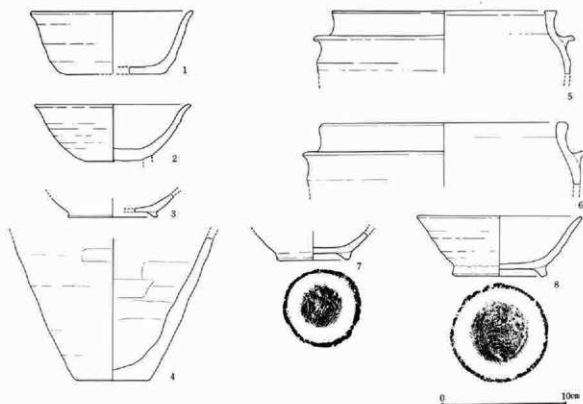
D-8号住居跡 (第200図、PL15・41)

当住居跡はD区南住居跡群の中に位置しD-5号住居跡の東にある。他の遺構との重複はない。平面形態は長方形を呈する。規模は長辺4m、短辺3mである。主軸方位はN-82°-Eであり、壁高は約20cmを測る。床面は平坦である。貯蔵穴は南東コーナーと東壁寄りやや北に2箇所検出された。規模はコーナーにあるものが約40cm×約35cmで深さ約10cm、もう一つは約35cm×30cm、深さは約10cmを測る。壁周溝・柱穴は確認されていない。竪は東壁中央に検出され袖幅約70cm、燃焼部長約70cmを測る。右袖部より石が検出され左袖からは袖材跡と思われる小穴が確認された。



第200図 D-8号住居跡遺構図・断面図

5. 検出された遺構と遺物



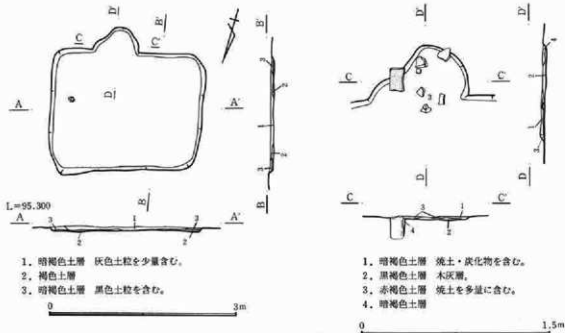
第201図 D-8号住居跡遺物図

第80表 D-8号住居跡遺物観察表

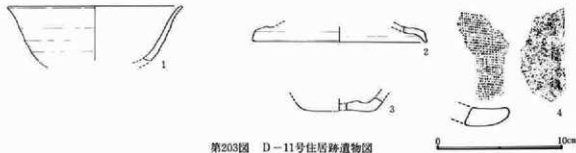
番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏 須恵	口-13.0 高-5.0 底-8.0	覆土	底部 やや広い高台。欠落したものと思われる。	①やや酸化 ②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④残存
No-2	坏 須恵	口-12.4	覆土	高台欠落。	②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④残存
No-3	碗 須恵	(底)7.0	覆土	付高台。雑な作り。	②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④底部破片
No-4	羽釜	(底)6.0	覆土	内・外面 ナデ。	②明焼灰色 ③1~2mmの砂粒含む
No-5	羽釜	(口)18.0	覆土	口縁部 厚くなり内傾する。脚 上を向く。	②によい棕色 ③細砂粒含む ④口縁部残存
No-6	羽釜	(口)20.0	覆土	脚 上を向く。脚から上は薄くなり、口唇部は厚くなる。	②灰褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-7	碗 須恵	(底)6.0	覆土	付高台。底部 回転糸切り。	①やや酸化 ②2~3mm砂粒含む ④底部のみ残存
No-8	碗 須恵	口-13.2	覆土	付高台。底部 回転糸切り。	①やや酸化 ②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④残存

D-11号住居跡 (第202図、PL15・65・71)

当住居跡はD区南住居群の中に位置し、D-7号住居跡の北にある。他の遺構との重複はない。平面形態は長方形を呈する。規模は、長辺2.5m、短辺2mである。主軸方位はN-177-Eである。壁は南東部は北西部に比べ低くなる。高さは約3~10cmである。床面は平坦をなし柱穴・貯蔵穴は検出されていない。竈は南壁や東寄りに検出され、袖幅約50cm、燃焼部長約30cmを測る。左袖部より砂岩質の袖材が検出された。



第202図 D-11号住居跡遺構図・竈図



第203図 D-11号住居跡遺物図

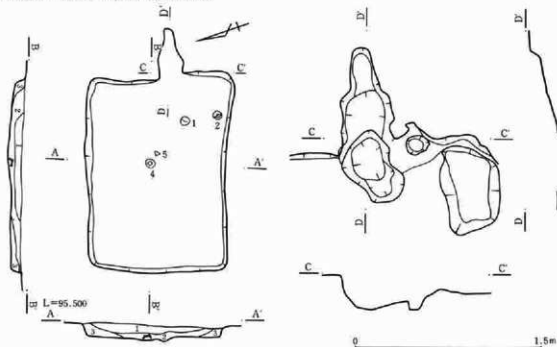
第81表 D-11号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	環 須	(口)12.3	覆土	口縁部 やや外湾する。	①やや酸化 ②にんじいろ ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-2	蓋 須	(口)13.8	覆土		②灰白色 ③細砂粒含む ④破片
No-3	環 須	(底)5.7	覆土		②灰色 ③1~2mmの砂粒含む ④底部破片
No-4	丸瓦	瓦観察表、2類B-No2参照			

5. 検出された遺構と遺物

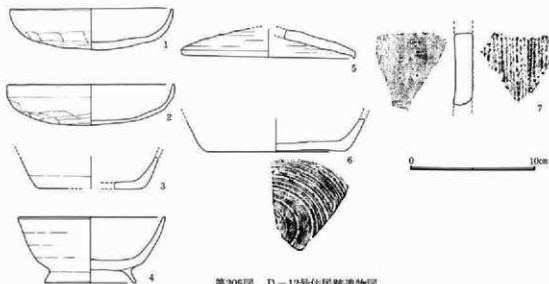
D-12号住居跡 (第204図、PL16・41・65・71)

当住居跡はD区南住居群の中に位置し、D-14号住居跡の東、D-16号住居跡の南にある。他の遺構との重複は弥生時代の溝上にある。平面形態は東西に長い長方形を呈する。規模は長辺3.2m、短辺2.5mである。主軸方位はN-103°-Eである。壁高は約5~10cmを測る。床面は平坦をなし貯蔵穴・柱穴・壁周溝などの諸施設は確認されていない。竈は東壁中央に検出された。袖幅は約50cm、燃焼部長約70cm、煙道部長約35cmを測る。右袖部より袖石が検出された。



1. 暗褐色土層 軽石を多量に含む。
2. 暗褐色土層
3. 暗褐色土層 軽石を少量含む。

第204図 D-12号住居跡遺構図・断面図



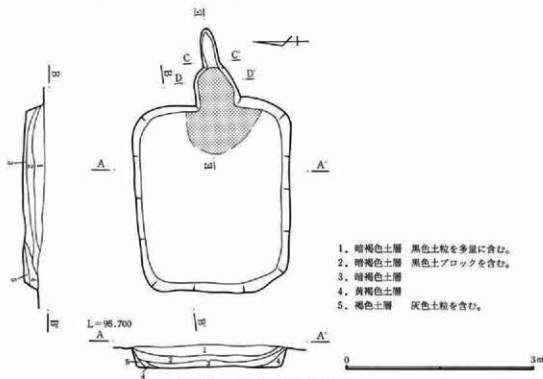
第205図 D-12号住居跡遺物図

第82表 D-12号住居跡遺物観察表

番号	器種 類別	計測 値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏 土 罎	口-13.1 高-3.2	覆土	口縁部 ココナデ。体部 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	②褐色 ③細砂粒含む ④完形
No-2	坏 土 罎	口-13.4 高-3.2	覆土	口縁部 ココナデ。体部 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	②にふい褐色 ③1~2mmの砂粒 含む ④ほぼ完形
No-3	坏 須恵	(底)8.4	覆土	底部 ヘラ調整。	②明赤灰色 ③1~2mmの砂粒含 む ④底部破片
No-4	坏 須恵	口-12.0高-5.2 底-7.2	覆土	付高台。	②灰色 ③1~2mmの砂粒含む ④ほぼ完形
No-5	蓋 須恵	(口)15.0	覆土	外面 回転ヘラ調整。	②灰白色 ③密 ④破片
No-6	坏 須恵	(底)11.0	覆土	底部 回転ヘラ調整。	②灰白色 ③細砂粒含む ④底部破片
No-7	平瓦	互観察表、1種B-2No.5参照			

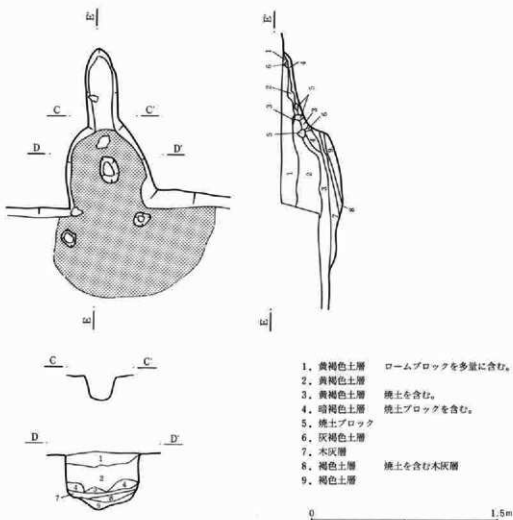
D-13号住居跡 (第206・207図、PL16・42)

当住居跡はD区南住居跡群の中の北端に位置しD-15号住居跡の南西にある。また北にD-2号掘立柱建物跡がある。平面形態は東西に長軸をもつ長方形を呈し、規模は長辺3.1m、短辺2.6mである。主軸方位はN-84°-Eである。壁高は約30cm~35cmを測る。床面は平坦をなし貯蔵穴・柱穴などの諸施設は検出されていない。竈は東壁中央に検出され、燃焼部幅約70cm、同長約60cm、煙道部長約65cmを測る。燃焼部中央から支脚の跡と思われる小穴が検出されている。



第206図 D-13号住居跡遺構図

5. 検出された遺構と遺物



第207図 D-13号住居跡遺構図



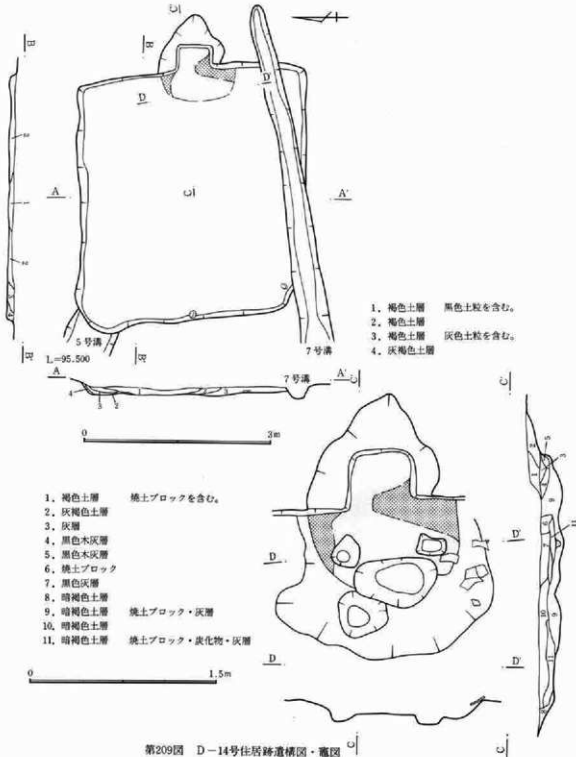
第208図 D-13号住居跡遺物図

第83表 D-13号住居跡遺物観察表

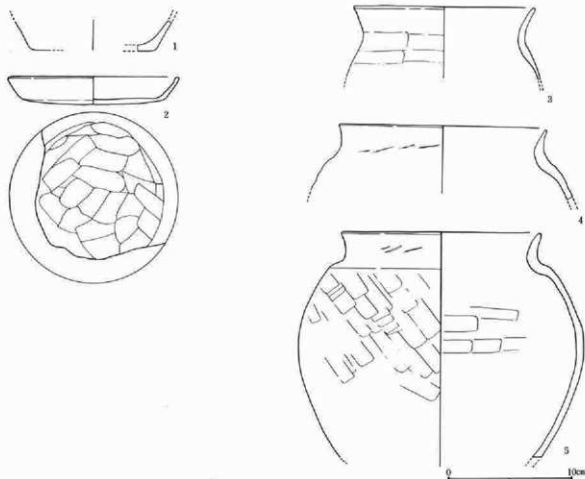
番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	台付灰土 鉢		覆土	内・外面 ヘラ調整。	②橙色 ③細砂粒含む ④破片

D-14号住居跡 (第209図, PL16・42)

当住居跡はD区南に位置し南壁・東壁の一部をD-7号溝により切られている。平面形態はほぼ正方形を呈する。規模は長辺4.2m、短辺4mを測る。主軸方位はN-78°-Eである。壁高は約5~15cmを測る。床面は平坦をなし貯蔵穴・柱穴・壁周溝などの諸施設は確認されていない。竈は東壁中央に検出された。袖幅は約70cm、燃焼部長約60cmを測る。両袖部から小穴が各々検出された。



5. 検出された遺構と遺物



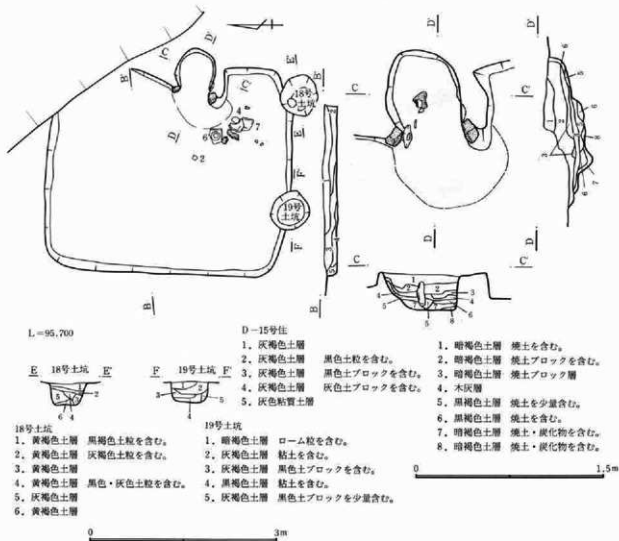
第210図 D-14号住居跡遺物図

第84表 D-14号住居跡遺物観察表

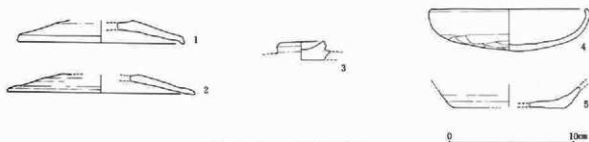
番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	環須恵	(底)10.0	覆土	底部 回転未切り。	②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④底部破片
No-2	環土師	口-13.5 高-2.2 底-11.4	覆土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	②褐色 ③細砂粒含む ④残存
No-3	壺土師	(口)14.5	覆土	頸部 ヘラケズリ。	②赤褐色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-4	壺土師	(口)16.5	床面	頸部 ヘラ残る。	②褐色 ③3~4mmの砂粒含む ④口縁部残存
No-5	壺土師	口-15.9	亀付近	外・口辺部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。 内・口辺部 ヨコナデ。体部 ナデ。	②褐色 ③3~4mmの砂粒含む ④口縁部残存

D-15号住居跡 (第211図、PL16・42・65)

当住居跡はD区南に位置しD-13号住居跡の北東D-2号掘立柱建物跡の東にある。他の遺構との重複は南壁を2箇所土坑により切られている。また東北部を攪乱により削平されている。平面形態は長方形を呈する。規模は長辺4m、短辺3.3mであり、主軸方位はN-92°-Eである。壁高は約10~20cmを測る。床面は平坦をなし貯蔵穴・柱穴・壁周溝などの諸施設は確認されていない。竈は東壁南寄りに検出された。袖幅約60cm、燃烧部長約70cmを測り、両袖と支脚の位置から構築材の石が検出された。

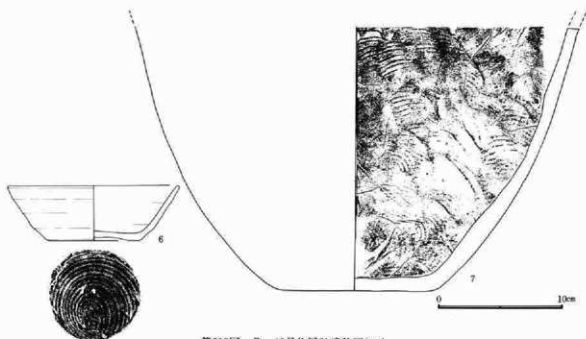


第211図 D-15号住居跡遺構図・竈図



第212図 D-15号住居跡遺構物(1)

5. 検出された遺構と遺物



第213図 D-15号住居跡遺物図(2)

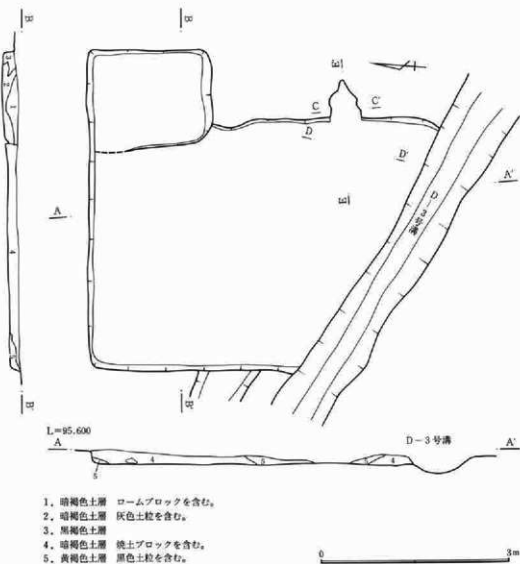
第85表 D-15号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計 画 値 (cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	蓋 須恵	(口)15.0	覆 土	外面 回転ヘラ調整。	②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④破片
No-2	蓋 須恵	(口)13.5	覆 土	外面 回転ヘラ調整。	②灰色 ③赤 ④破片
No-3	蓋 須恵		覆 土		②灰色 ③1~2mmの砂粒含む ④つまみのみ残存
No-4	坏 土 器	口-12.4	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	②に白い赤褐色 ③細砂粒含む ④欠残存
No-5	坏 須恵	(底)9.0	覆 土	底部 回転ヘラ調整。	②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④底部破片
No-6	坏 須恵	口-13.8 高-4.3 底-7.4	覆 土	底部 回転糸切り。右廻り。	②灰白色 ③細砂粒含む ④完形
No-7	蓋 須恵	(底)12.6	覆 土	外面 ナデ。内面 あて目後、ナデ。	②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④底部割下半部残存

(I) 竪穴住居跡

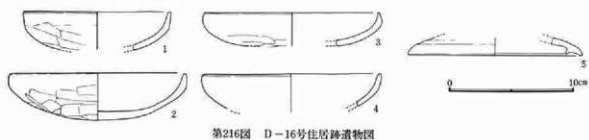
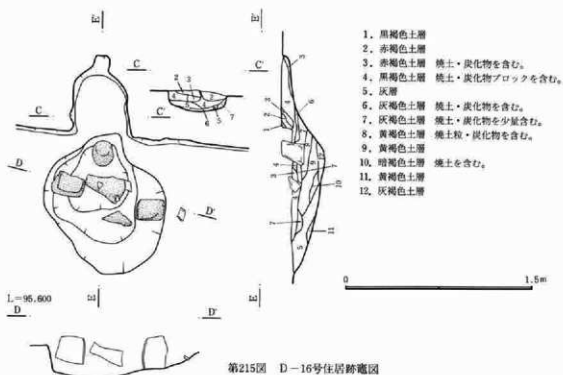
D-16号住居跡 (第214・215図、PL42)

当住居跡はD区南に位置し、北東部を径2.5m、1.5mの方形の土坑によって切られている。また南壁はD-3号溝により削平され確認できなかった。平面形態は南北に長軸を持つ長方形である。規模は長辺は確認できず短辺は4mであり、主軸方位はN-84°-Eである。壁高は約10~20cmを測る。床面は平坦をなし、北東部土坑との比高は約10cm土坑の床面が高くなる。貯蔵穴・柱穴・壁周溝などの諸施設は確認されていない。竈は東壁やや南寄りに検出された。燃焼部幅約50cm、同長50cm、さらに煙道部が約15cmを測る。



第214図 D-16号住居跡遺構図

5. 検出された遺構と遺物

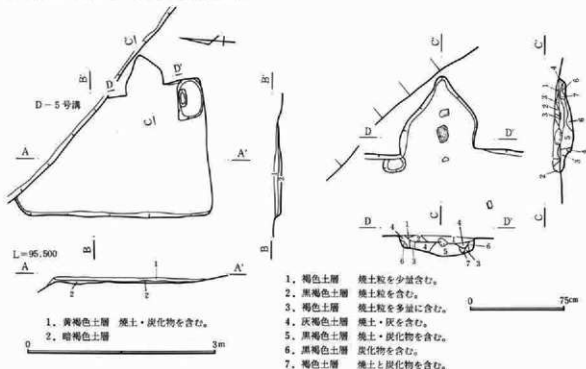


第86表 D-16号住居跡遺物観察表

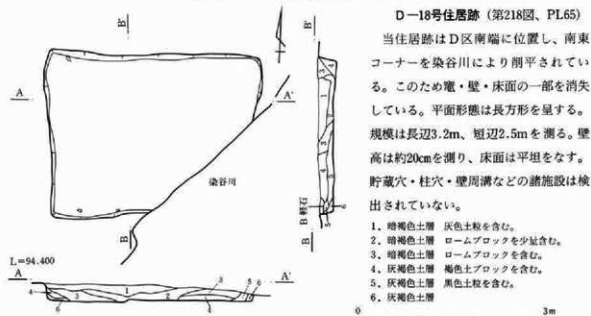
番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調査の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏土 甕	(口)6.8	覆土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-2	坏土 甕	口-14.0 高-3.7	覆土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④残存
No-3	坏土 甕	(口)14.0	覆土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②赤褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-4	坏土 甕	(口)14.0	覆土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-5	蓋 甕	(口)14.0	覆土	内面に返りを持つ。	②灰白色 ③細砂粒含む ④破片

D-17号住居跡 (第217図、PL16)

当住居跡はD区南西に位置し北東部をD-5号溝により切られている。平面形態は南北に長軸をもつ長方形である。規模は長辺3.1m、短辺2.2mである。主軸方位はN-74°-Eである。壁高は約5~10cmを測る。床面は平坦をなし貯蔵穴を南東コーナーに検出した。径は約120×約80cm、深さ約10cmを測る。柱穴・壁周溝は検出されていない。竈は東壁やや南寄りに検出された。袖幅約1.2m、同長約1.2mを測る。さらに燃焼部より約5cmの長さの煙道の一部を確認した。左袖部に袖材の跡と思われる小穴が検出された。燃焼部中央の支脚と思われる石の下からも小穴を確認した。



第217図 D-17号住居跡遺構図・断面



第218図 D-18号住居跡遺構図

5. 検出された遺構と遺物



第219図 D-18号住居跡遺物図

第87表 D-18号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・口径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏土器	(口)6.2	覆土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	②褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-2	坏土器	(口)15.0	覆土	口縁部 内傾する。	②褐色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁部破片

(2) 掘立柱建物跡

当遺跡では奈良時代から中近世に至るまでの掘立柱建物跡が21棟検出された。このうち奈良時代と考えられる建物は13号掘立柱建物跡の南東に検出される6号掘立柱建物跡、8号掘立柱建物跡の北東に検出された11号掘立柱建物跡とを合わせると10棟が認められる。奈良時代の掘立柱建物跡はC区内に南北に主軸をもち東西に分かれてブロックで検出された。掘立柱建物跡は土器や瓦から奈良時代に考えられ後の平安時代の集落跡まで継続したのではない。中近世掘立柱建物跡はC・D区で検出されC区内では溝により区画された屋敷内に6棟が検出された。屋敷内には他にも小穴が多数検出されている。掘立柱建物跡は1・6号掘立柱建物跡が東西に主軸をもちほかはすべて南北に主軸をもち区画溝と走行が合う。D区では6棟が検出され柱間が1.8mをとるものもある。D区に検出された掘立柱建物跡群は重複するものもあり中近世の間に時間的な開きが考えられる。

奈良時代掘立柱建物跡

1号掘立柱建物跡 (第220図、PL17・77)

2間×2間の総柱建物跡である。中心柱を除き他の柱穴は2穴を単位として溝によってつながれている。溝の規模は長さ約3～3.5m、幅約1m、柱穴の深さは約0.9～1.1mを測る。総ての柱穴の底面には石が配されている。桁間・梁間は総て2.4mである。桁方向はN-10°-Wである。

2号掘立柱建物跡 (第221・222図、PL17・43・72・77)

3間×3間の総柱建物跡である。内側の4穴を除き1号掘立柱建物跡と同じく2穴を単位として溝によってつながれている。溝の規模は長さ約2～3m、幅約0.8～1mである。内側の4本は方形・長円形を呈し径約0.8～1m、深さ約0.8～1mである。総ての柱穴の底面には石が配されている。桁間は2.1m、梁間は1.9mである。桁方向はN-13°-Eである。

3号掘立柱建物跡 (第222・223図、PL17・43)

3間×5間の建物跡である。柱穴の形状はほぼ円形に近く規模は径約60～80cm、深さ約50～80cmを測る。桁間は北から1.8m、2.7m、2.7m、2.7m、1.8m、梁間は1.2mである。桁方向はN-16.5°-Wである。

6号掘立柱建物跡 (第224図)

当掘立柱建物跡は調査区域外との境界線上にあり柱穴群を検出したのみで形態・規模は不明である。柱穴の形状はほぼ円形で規模は径約0.7～0.9m、深さ約0.6～0.7mを測るものもあり、柱穴の底面には石が配してある。

7号掘立柱建物跡 (第225図、PL17)

1間×3間の建物跡であるが北東部は染谷川により削平され、正確な規模は確認されていない。柱穴の形状はほぼ円形で径約0.7～0.8m、深さ約20cmを測る。底面に石を配してある柱穴も認められる。柱間は東西1.5m、南北2.4mである。

8号掘立柱建物跡 (第225図、PL18)

2間×2間の建物跡であるが北側は梁間に柱穴が検出されていない。柱穴の形状は方形で規模は約0.5～0.9m×0.5～0.6m、深さ約0.2～0.8mである。桁間は2.4m、梁間は1.8mを測る。桁方向はN-6°-Wである。

5. 検出された遺構と建物

9号掘立柱建物跡 (第226図、PL18・43・77)

2間×5間の建物跡である。柱穴の形状はほぼ方形で径約0.9~1.2m、深さ約0.3~0.9mを測る。底面に石を配してある柱穴も認められる。桁間は不揃いで北から2.1m、2.7m、2.1m、2.1m、2.1m、梁間は2.7mである。桁方向はN-6'-Wである。

10号掘立柱建物跡 (第227図、PL18・43・72・77)

2間×5間の建物跡である。柱穴はP5、8以外は2本を単位として溝によってつながれている。小穴の状況から2時期に渡って改築されたことが伺える。溝は幅約0.9~1m、長さ約3m、深さ約0.5~0.7mを測る。柱穴の底面に石が配してある。桁間は2.1m、梁間は2.7mである。桁方向はN-4'-Wである。

13号掘立柱建物跡 (第228図、PL18・43)

3間×6間の建物跡である。P1、10を除き柱穴は溝によりつながれている。柱穴の形状は円・楕円形で規模は径約0.8~1.3m、深さ約0.4~0.6mを測る。溝幅は約0.4~0.8mである。柱穴の底面に石を配してある。桁間は2.1m、梁間は1.4mである。桁方向はN-8'-Wである。

第88表 掘立柱建物跡遺構一覧表 (奈良)

遺構名	規模(間)	桁方位	桁総長(m)	桁間(m)	梁総長(m)	梁間(m)	備考
1号掘立	2×2	N-10'-W	4.8	2.4	4.8	2.4	根石。(第220図)
2号掘立	3×3	N-13'-E	6.3	2.1	5.7	1.9	根石。(第221、222図)
3号掘立	5×3	N-16.5'-W	11.7	2.7	3.6	1.2	(第221、223図)
7号掘立	(3×1)	N-12'-E	2.7	2.7	3.3	1.65	根石。(第225図)
8号掘立	2×2	N-6'-W	4.8	2.4	3.6	1.8	(第225図)
9号掘立	5×2	N-6'-W	11.1	2.1 2.7	5.4	2.7	(第226図)
10号掘立	5×2	N-4'-W N-6'-W	10.5	2.1	5.4	2.7	根石。(第227図)
13号掘立	6×3	N-8'-W	12.6	2.1	4.2	1.4	根石。(第228図)

第89表 掘立柱建物跡遺構一覧表 (奈良)

番	号	形状	柱穴規模 (cm) 長径×短径×深さ	溝規模 (cm) 長径×短径×深さ	出土遺物	備考
1号掘立 (第220図)	P-1	円	75×73×108	長不明×110×60	土師器片、須恵器片、瓦片、埴輪片。	根石あり。2号溝と重複する。根石あり。
	P-2	長円	88×62×90			
	P-3	方	75×68×105	340×110×25	埴輪片。	根石あり。根石あり。
	P-4	長方	100×88×98			
	P-5	円	58×58×95	308×95×32	須恵器破片。	根石あり。根石あり。
	P-6	方	58×50×98			
	P-7	長方	105×72×115	不明	埴輪破片、須恵器坏片、土師器葉片。	根石あり。2号溝と重複する。根石あり。2号溝と重複する。
	P-8	楕円	120×70×92			

(2) 掘立柱建物跡

2号掘立 (第221、222図)	P-1	円	55×50×85	305×85×40	土師器片、須恵器片、瓦片。	根石あり。 根石あり。
	P-2	円	50×50×93			
	P-3	円	60×55×73	320×110×35	土師器坏片、甍片、埴輪片。	根石あり。 根石あり。
	P-4	円	53×50×70			
	P-5	円	70×55×65	295×95×60	須恵器坏片。 須恵器片、埴輪片。	根石あり。 根石あり。
	P-6	楕円	70×55×95			
	P-7	円	70×60×55	360×100×15	土師器坏片、瓦片。 埴輪片、須恵器甍片。	根石あり。 根石あり。3号住と重複する。
	P-8	長円	60×35×45			
	P-9	長円	50×40×50	305×88×25	埴輪片、瓦片。 埴輪片。	根石あり。3号住と重複する。 根石あり。3号住と重複する。
	P-10	長円	60×55×39			
	P-11	方	50×42×65	265×85×40	須恵器片、埴輪片。	根石あり。 根石あり。
	P-12	円	40×38×80			
	P-13	長方	95×80×80		土師器片、埴輪片。	根石あり。
	P-14	長方	120×85×75		土師器片、埴輪片。	根石あり。7号住と重複する。
	P-15	方	95×90×60		瓦片、埴輪片。	根石あり。7号住と重複する。
	P-16	方	85×80×55		須恵器坏片。	根石あり。7号住と重複する。
3号掘立 (第222、223図)	P-1	円	70×65×55		土師器坏片、埴輪片。	3号溝と重複する。
	P-2	円	75×62×68			
	P-3	円	70×68×55		土師器坏片、埴輪片。	
	P-4	円	70×65×60			
	P-5	円	70×68×60			
	P-6	円	70×65×48			
	P-7	方	75×65×85			
	P-8	円	75×68×40			
	P-9	円	62×60×60			
	P-10	円	62×60×65			
	P-11	円	80×65×62			
	P-12	円	62×60×85			
	P-13	円	70×65×58			
	P-14	円	79×70×65			3号溝と重複する。
	P-15	円	80×72×65			3号溝と重複する。
6号掘立 (第224図)	P-1	円	50×45×45		土師器甍片、坏片。	
	P-2	円	70×68×65		土師器坏片、埴輪片。	
	P-3	長円	90×73×50		土師器坏片、埴輪片。	

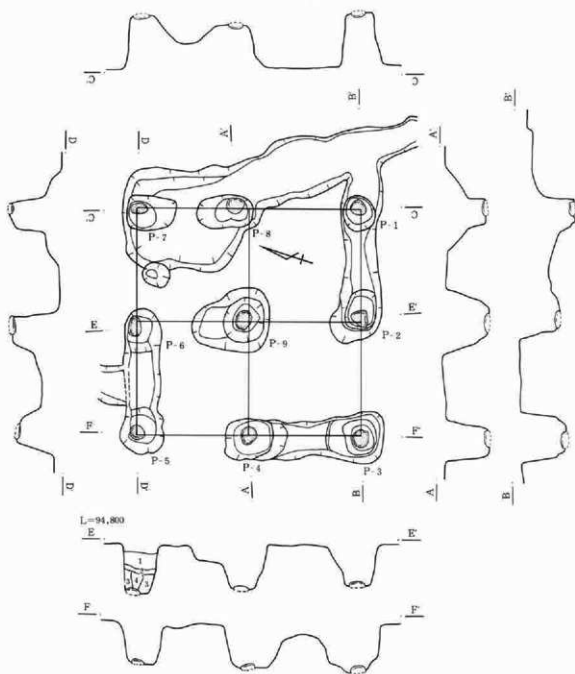
5. 検出された遺構と遺物

	P-4	円	70×55×35		土師器坏片、甕片。	
	P-5	方	68×68×48		土師器坏片。	8号住居跡と重複する。
	P-6	不整形方	70×60×70		土師器坏片、埴輪片。	
	P-7	不整形方	118×70×68		土師器坏片、埴輪片。	
	P-8	円	53×48×45		土師器坏片、酒器器底片。	
	P-9	不整形方	105×95×30		土師器坏片、埴輪片。	
	P-10	長円	65×52×25			
7号掘立 (第225図)	P-1	円	50×45×45		土師器甕片、坏片。	根石あり。
	P-2	円	70×70×22			根石あり。
	P-3	円	88×73×25		土師器坏片、甕片。	根石あり。
	P-4	円	70×70×15			
	P-5	円	55×43×20			根石あり。
8号掘立 (第225図)	P-1	方	68×62×80		須恵器甕片、土師器坏片。	
	P-2	長方	92×52×35		瓦片。	
	P-3	方	62×57×32		土師器甕片、坏片。	
	P-4	円	50×48×15			
	P-5	方	68×63×40			
	P-6	方	63×50×23			
	P-7	方	75×65×45			
9号掘立 (第226図)	P-1	方	73×70×50			
	P-2	不整形方	152×80×38		須恵器坏片、土師器坏片。	
	P-3	長方	88×75×85		土師器坏片。	
	P-4	長方	103×70×53			44号溝と重複する。
	P-5	長方	100×80×58			根石あり。
	P-6	円	90×80×53		土師器甕片。	
	P-7	不整形方	75×70×28		埴輪片。	63号住と重複する。根石あり。
	P-8	長方	120×83×40		埴輪片。	67号住と重複する。
	P-9	長方	75×60×25			
	P-10	長方	98×50×32		土師器坏片。	44号溝と重複する。根石あり。
	P-11	方	95×95×48		土師器坏片。	根石あり。
	P-12	方 ?	105×?×10		埴輪片。	80号住と重複する。根石あり。

(2) 掘立柱建物跡

	P-13	方	75×73×50		埴輪片。	
	P-14	不整方	85×7×23			
10号掘立 (第227回)	P-1	不整方	75×65×65	300×95×22	土師器片。 埴輪片。	根石2個あり。
	P-2	方	90×70×62			
	P-3	方	82×80×70	275×88×55		根石2個あり。 根石2個あり。
	P-4	不整方	95×88×75			
	P-5	不整三角	208×170×65		瓦片。	根石あり。
	P-6	長方	140×55×60	425×73×25	土師器坏片、斐片。 土師器坏片、斐片。	根石あり。他に多量の石あり。 根石2個あり。50住、51住と重複する。
	P-7	不整長方	125×65×50			
	P-8	長方	208×73×60			根石2個あり。
	P-9	不整方	130×115×65	328×130×30		根石2個あり。 根石あり。
	P-10	不整方	90×75×68			
P-11	方	105×75×60	290×80×55	土師器坏片、斐片。	根石あり。169号土坑と重複する。	
P-12	方	100×80×55				
P-13	長方	110×70×60	375×90×30	土師器坏片。 瓦片。	根石あり。41号溝と重複する。 根石、瓦片重なり出土。	
P-14	方	70×60×48				
13号掘立 (第228回)	P-1	長方	135×79×83		土師器坏片、埴輪片。	
	P-2	不整円	90×75×65			P-2～7まで一連ビット。
	P-3	不整円	68×65×70			
	P-4	長円	120×85×68		須恵器覆片、坏片。	根石あり。
	P-5	不整円	120×105×58			根石あり。
	P-6	不整方	115×75×88		土師器斐片。	根石あり。
	P-7	不整円	85×80×100			根石2個あり。
	P-8	長円	105×70×88	265×130×40		根石あり。
	P-9	長円	95×75×95			
	P-10	長円	98×68×38		須恵器覆片。	
	P-11	不整円	115×87×62			根石あり。P-11～16まで一連ビット。
	P-12	不整円	112×105×75			根石あり。
	P-13	不整円	100×92×70		須恵器覆片。	根石あり。
	P-14	不整円	98×95×48			根石あり。
	P-15	不整円	82×78×68			
	P-16	不整円	90×70×100			根石あり。
	P-17	不整円	60×58×80			
	P-18	不整円	118×75×72			

5. 検出された遺構と遺物

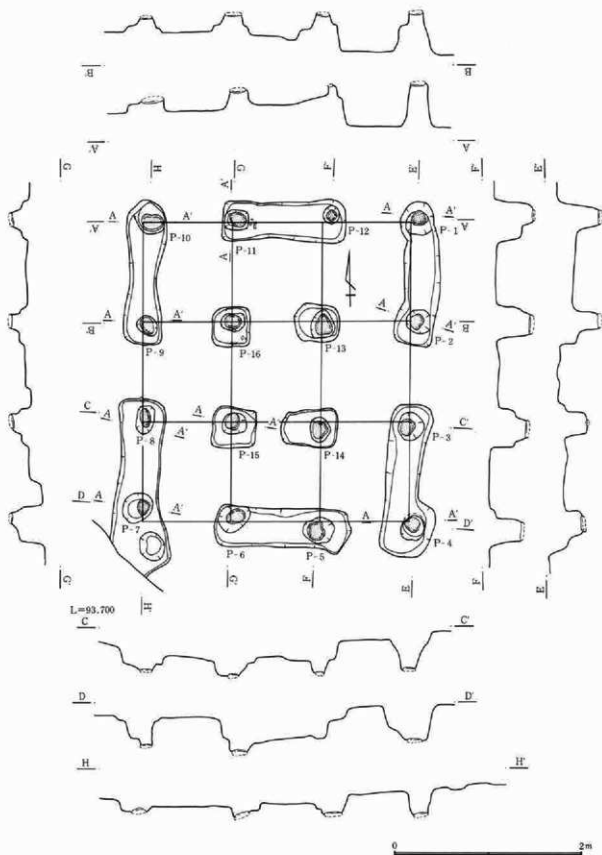


1. 黒褐色土層 粘土塊含む。
2. 黒褐色土層 炭化物含む。
3. 黒褐色土層 粘土塊多量に含む。
4. 黒褐色土層 粘土塊少量含む。

0 2m

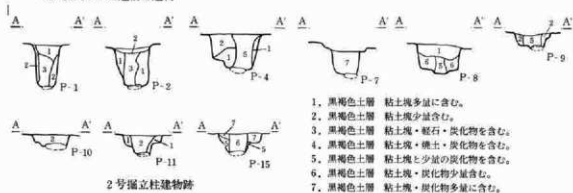
第220図 1号掘立柱建物跡遺構図

(2) 掘立柱建物跡



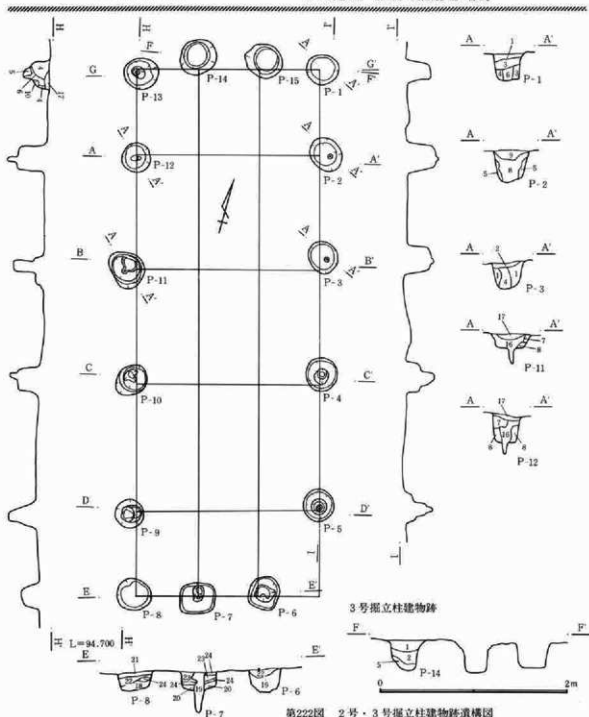
第221图 2号掘立柱建物跡遺構图

5. 検出された遺構と遺物



1. 黒褐色土層 粘土塊多量に含む。
2. 黒褐色土層 粘土塊少量含む。
3. 黒褐色土層 粘土塊・軽石・炭化物を含む。
4. 黒褐色土層 粘土塊・焼土・炭化物を含む。
5. 黒褐色土層 粘土塊と少量の炭化物を含む。
6. 黒褐色土層 粘土塊・炭化物少量含む。
7. 黒褐色土層 粘土塊・炭化物多量に含む。

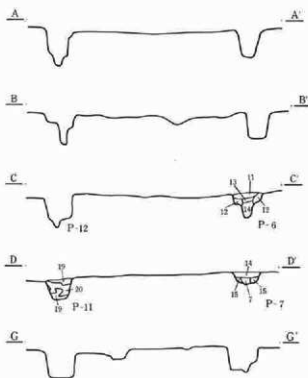
2号獨立柱建物跡



3号獨立柱建物跡

第222図 2号・3号獨立柱建物跡遺構図

(2) 掘立柱建物跡

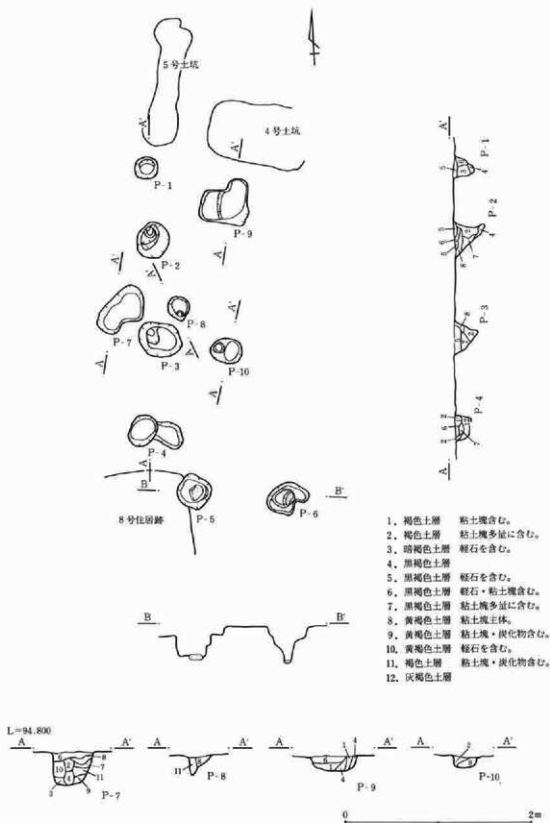


1. 灰褐色土層 鉄分を多量に含む。
2. 灰褐色土層 多量の鉄分と炭化物少量含む。
3. 灰褐色土層 粘土塊多量に含む。
4. 灰褐色土層 粘土塊・炭化物少量含む。
5. 黒褐色土層
6. 黒褐色土層 炭化物を含む。
7. 黒褐色土層 炭化物・粘土塊含む。
8. 黒褐色土層 炭化物・粘土塊多量に含む。
9. 黒褐色土層 鉄分・炭水物・焼土を含む。
10. 黒褐色土層 粘土塊含む。
11. 黒褐色土層 軽石を多量に含む。
12. 黒褐色土層 炭化物・粘土塊を含む砂質土。
13. 黒褐色土層 炭化物を少量含む砂質土。
14. 黒褐色土層 炭化物・粘土塊・軽石を含む。
15. 黒褐色土層 炭化物・軽石と多量の粘土塊含む。
16. 黒褐色土層 炭化物・粘土塊少量含む。
17. 黒褐色土層 鉄分・軽石を含む。
18. 黄褐色土層 軽石を含む。
19. 黄褐色土層 軽石を多量に含む。
20. 暗褐色土層 軽石を含む。
21. 褐色土層 軽石を含む。
22. 褐色土層 軽石・炭化物を含む。
23. 褐色土層 砂質土。
24. 軽石層

0 2m

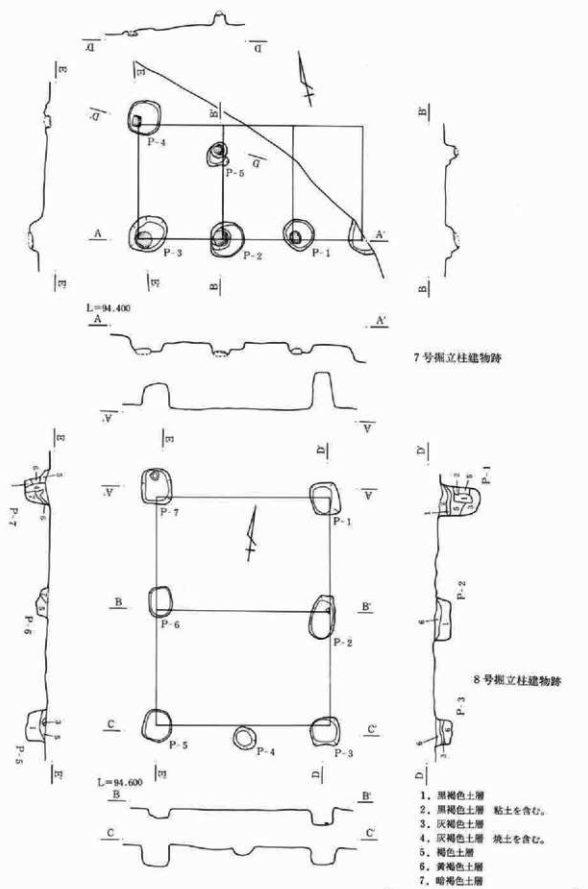
第223図 3号掘立柱建物跡遺構図

5. 検出された遺構と遺物



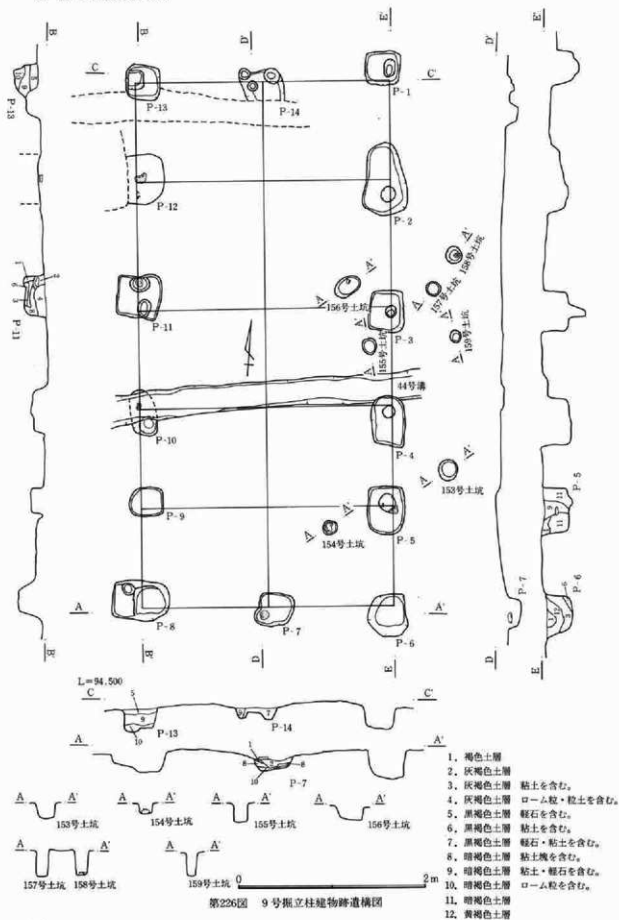
第224図 6号掘立柱建物跡遺構図

(2) 獨立柱建物跡

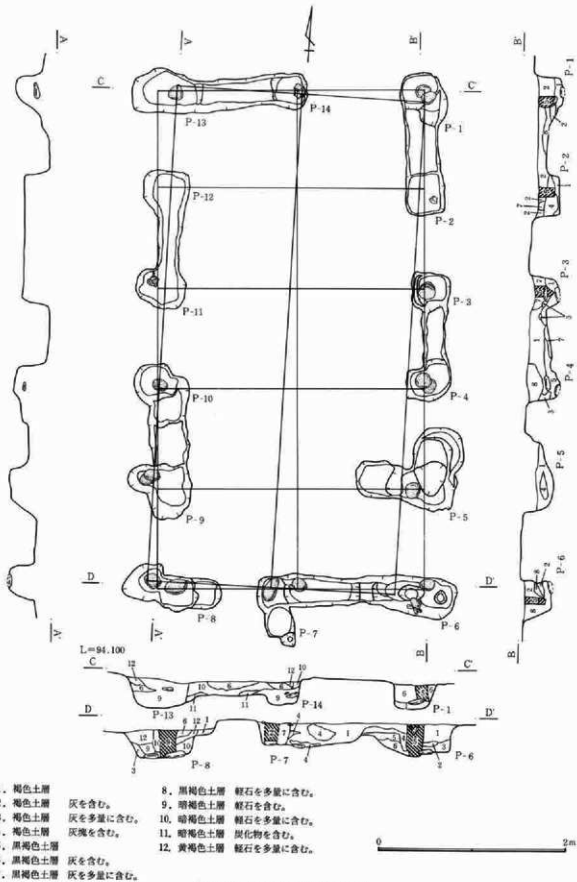


第225図 7号・8号獨立柱建物跡遺構図

5. 検出された遺構と遺物

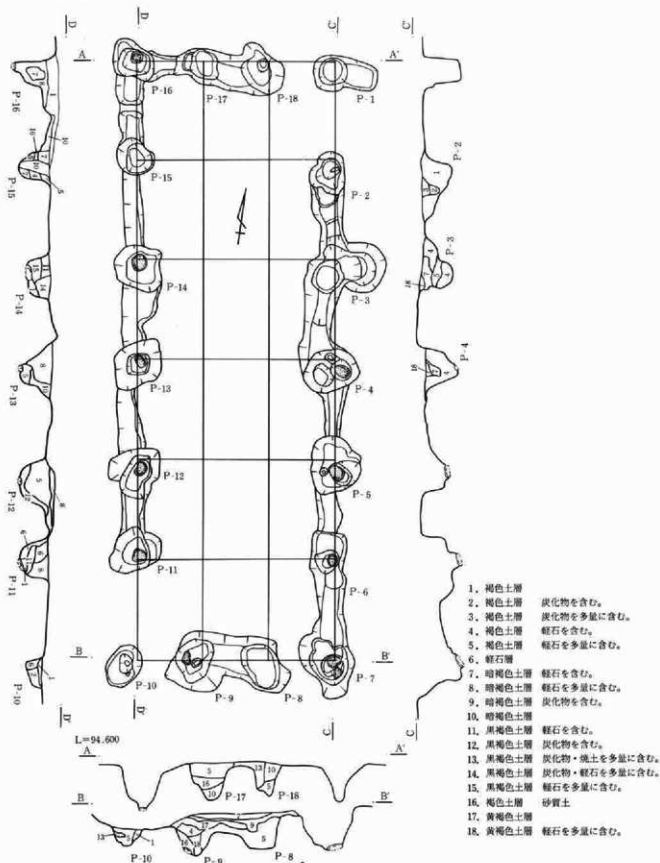


5. 検出された遺構と遺物



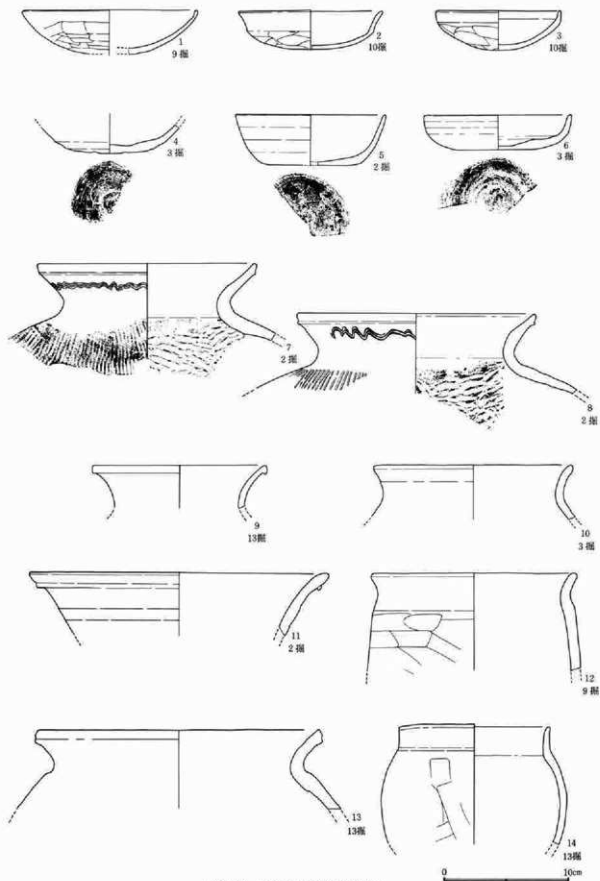
第227図 10号掘立柱建物跡遺構図

5. 検出された遺構と遺物



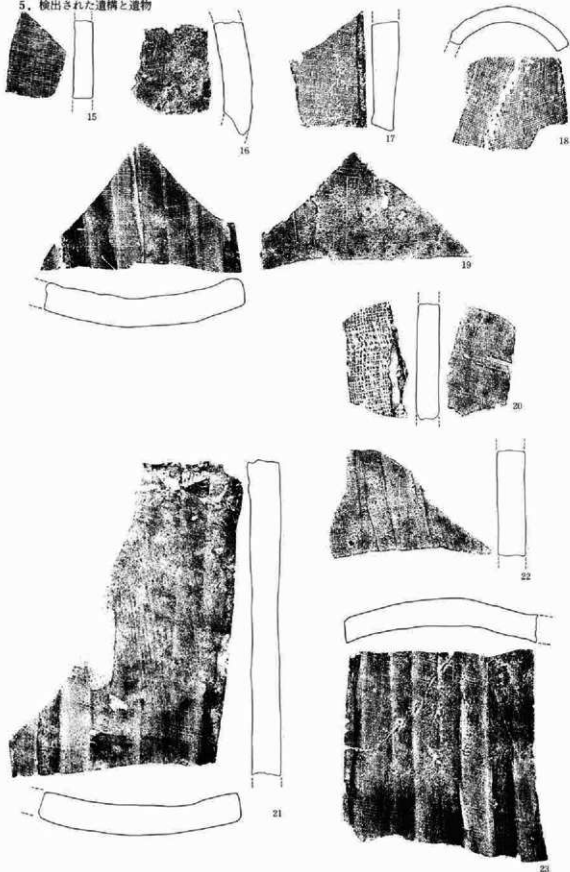
第228図 13号隔立柱建物跡遺構図

(2) 掘立柱建物跡



第229図 掘立柱建物跡遺物図(1)

5. 検出された遺構と遺物



0 10cm

第230図 掘立柱建物跡遺物図(2)

(2) 掘立柱建物跡

第90表 掘立柱建物跡遺物観察表

No	遺構名	器種 類別	計 画 値(cm) (口徑・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
1	9掘立	坏土部	(口)14.0	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	②褐色 ③細砂粒含む ④残存
2	10掘立	坏土部	(口)11.6	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	②褐色 ③細砂粒含む ④残存
3	10掘立	坏土部	(口)10.0 高-3.2	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	②褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④残存
4	3掘立	坏須恵 (底)6.0		覆 土	底部 回転ヘラ切り。	②暗灰色 ③細砂粒含む ④底部残存
5	2掘立	坏須恵	(口)12.0	覆 土	底部 回転ヘラ調整。	②灰色 ③密 ④残存
6	3掘立	坏須恵	(口)14.8	覆 土		②灰色 ③密 ④残存
7	2掘立	須恵	口-17.5	覆 土	口辺部 波状文。胴上部 叩き目。内面 あて目肌。	②灰色 ③細砂粒含む ④残存
8	2掘立	須恵	(口)19.1	覆 土	口縁部 横をもち、口辺部に波状文。 胴部 叩き目。内面 あて目。	②明青灰色 ③密 ④口縁残存
9	13掘立	須恵	(口)14.0	覆 土	口縁部 横をもち。	②灰色 ③密 ④口縁残存
10	3掘立	土部	(口)16.0	覆 土	口縁部 ヨコナデ。	②褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁破片
11	2掘立	須恵	(口)24.0	覆 土	口縁部 折り返し。内面 ナデ。	①やや酸化 ②にぶい褐色 ③1 ~2mmの砂粒含む ④口縁破片
12	9掘立	土部	(口)16.5	覆 土	口縁部 やや外湾する。胴部 張り出し弱い。 整形 雑。	②にぶい褐色 ③2~3mmの砂粒 含む ④口縁破片
13	13掘立	須恵	(口)23.0	覆 土	口縁部 横をもち。叩き目。内面 あて目。	②灰色 ③密 ④口縁破片
14	13掘立	土部	(口)12.0	覆 土	口縁部 ヨコナデ。頸部 波線。 胴部 ヘラナデ。内面 ナデ。	②明黄褐色 ③細砂粒含む ④口縁~胴部残存
15	1掘立	平瓦	瓦観察表 1類A-図1参照			
16	2掘立	平瓦	瓦観察表 1類A-図4参照			
17	2掘立	平瓦	瓦観察表 1類A-図8参照			
18	11掘立	丸瓦	瓦観察表 1類A-図22参照			
19	8掘立	平瓦	瓦観察表 1類A-図24参照			
20	2掘立	平瓦	瓦観察表 1類A-図7参照			

5. 検出された遺構と遺物

21	2号掘立	平瓦	瓦観察表 1類A-掘13参照	
22	10号掘立	平瓦	瓦観察表 1類A-掘20参照	
23	10号掘立	平瓦	瓦観察表 1類A-掘19参照	

中近世掘立柱建物跡

1号掘立柱建物跡 (第231図、PL18)

当建物跡は他の掘立柱建物跡のように四辺を直角に結べず、三辺が直線に結べるのみである。柱穴の形状はほぼ長円形で径約0.5～0.9m、深さ約0.4～0.6mである。柱間は北側が東より3.4m、1.75m、南側で東より1.8m、1.5m、1.7m、東側で北より2m、1.8m、1.65mである。

2号掘立柱建物跡 (第231図)

1号掘立柱建物跡の東側にあり、主軸方位はN-4°-Wである。柱間は桁東側北から2m、1.8m、1.8m、西側は北から1.8m、1.4m、1.8m、0.6m、梁北側は西から1.7m、1.6m、0.8m南側1.3m、1.8m、0.9mである。柱穴の深さは0.2m～0.4mを測る。

3号掘立柱建物跡 (第232図)

2号掘立柱建物跡と東桁側を重複する。主軸方位はN-1°-Wである。柱間は桁東側で北から1.8m、1.95m、1.8mで西側は北から3.7m、1.85m、梁北側で西から2m、2m、南側は西から1.75m、2.25m、柱穴の深さは0.2m～0.6mを測る。

4号掘立柱建物跡 (第232図)

3号掘立柱建物跡の南にあり東側の一部を3号掘立柱建物跡と重複している。主軸方位はN-7°-Wである。柱間は桁東側北から1.95m、1.2m、2.3m西側では北から2.3m、1.1m、2.05m梁北側は西から2.4m、1.7m、南側では西から1.1m、1.7m、1.4mを測る。柱穴の深さは0.2m～0.6mを測る。

5号掘立柱建物跡 (第233図)

4号掘立柱建物跡の西側にある。主軸方位はN-8°-Wである。柱間は桁東側は北から2.2m、2.4m、2.4m西側は北から1.2m、1.7m、1.5m、2.4m、0.8m梁北側は西から1.4m、0.9m、1.7m南側は西から1.5m、1.4m、1.1mである。

6号掘立柱建物跡 (第233図)

5号掘立柱建物跡の南にあり主軸方位はN-81°-Eと他の掘立柱建物跡群と方位を異にする。柱間は桁南側東より1.4m、2.7m、0.9m北側は東より1.4m、1.9m、0.8m、1.1m、梁側は東西共に3.6m、柱穴の深さは0.2m～0.6mを測る。

D区中近世掘立柱建物跡

D-1号掘立柱建物跡 (第234図、PL19)

2間×2間の建物跡である。柱穴の形状は長円形で径約0.6～1.1m、深さ約0.4～0.5mを測る。桁間・梁間共に1.95mを測る。桁方向はN-12°-Wである。

(2) 掘立柱建物跡

D-2号掘立柱建物跡(第234図、PL19)

1間×2間の建物跡である。柱穴の形状は楕円形で規模は径約0.6~0.8m、深さ約0.3~0.4mである。桁間は1.35m、梁間は1.8mを測る。桁方向はN-83°-Eである。

D-3号掘立柱建物跡(第235図、PL19)

1間×2間の建物跡である。柱穴の形状はほぼ円形で規模は径約0.5~0.6m、深さ約0.3~0.4mである。桁間は1.5m、梁間は2.4mである。桁方向はN-86°-Wである。

D-4号掘立柱建物跡(第235図、PL19)

2間×2間の建物跡である。柱穴の形状はほぼ円形で径約0.6~0.7m、深さ約0.2~0.4mである。桁間は2.1m、梁間は1.65mである。桁方向はN-6°-Wである。

D-5号掘立柱建物跡(第236図、PL19)

2間×2間東側に廂をもつ建物跡である。柱穴の形状はほぼ円形で規模は径約0.4~0.6m、深さ約0.3~0.4mを測る。廂穴は約12~40cm、深さ約15~20cmを測る。桁間は西から1.8m、1.8m、1.2m、梁間は2.4mである。桁方向はN-82°-Eである。

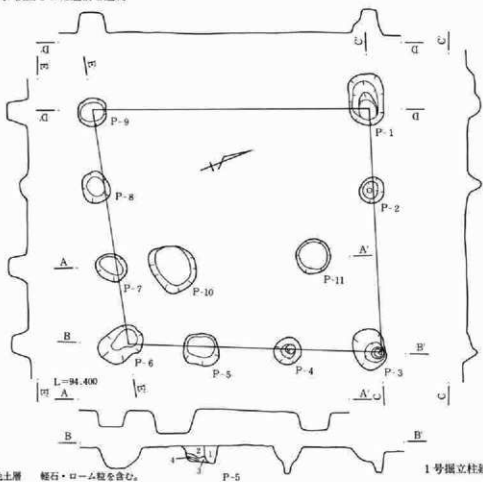
D-6号掘立柱建物跡(第237図、PL19)

2間×3間の建物跡である。柱穴の形状はほぼ円形で径約0.5~0.9m、深さ約0.4~0.9mである。桁間は1.8m、梁間は2.1mである。桁方向はN-90°-Eである。

第91表 掘立柱建物跡遺構一覧表(中世)

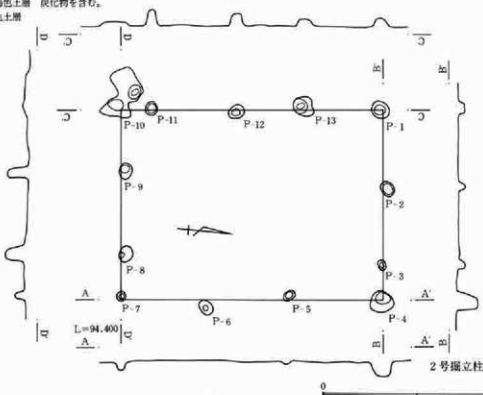
遺構名	規模(間)	桁方位	桁総長(m)	桁間(m)	梁総長(m)	梁間(m)	備考
1号掘立	3×4(5)	N-13°-E	5.5		5.3		屋敷内。第231図
2号掘立	3×3	N-4°-W	5.2		3.6		屋敷内。第231図
3号掘立	3×2	N-1°-W	5.7		3.8		屋敷内。第232図
4号掘立	3(?)×2	N-7°-W	7.7		4.3		屋敷内。第232図
5号掘立	4×3	N-8°-W	6.8		4.1		屋敷内。第233図
6号掘立	3×1	N-81°-E	5.2		3.7		屋敷内。第233図
D-1号掘立	2×2	N-12°-W	3.9	1.95	3.9	1.95	第234図
D-2号掘立	2×1	N-83°-E	2.7	1.35	1.8	1.8	第234図
D-3号掘立	2×1	N-86°-W	3.0	1.5	2.4	2.4	第235図
D-4号掘立	2×2	N-6°-W	4.2	2.1	3.3	1.65	第235図
D-5号掘立	3×2	N-82°-E	4.8	1.2 1.8	5.1	2.4	第236図
D-6号掘立	3×2	N-90°-E	5.4	1.8	4.2	2.1	第237図

5. 検出された遺構と遺物



1. 褐色土層 軽石・ローム層を含む。
2. 褐色土層 ロームブロックを含む。
3. 黒褐色土層 炭化物を含む。
4. 褐色土層

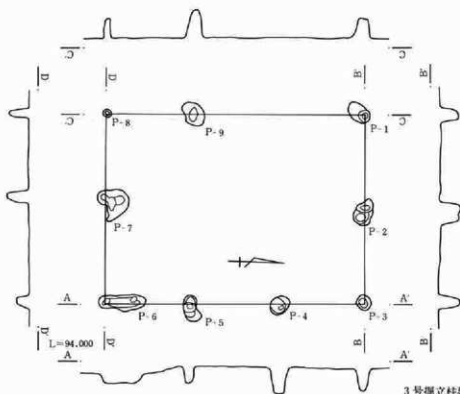
1号掘立柱建物跡



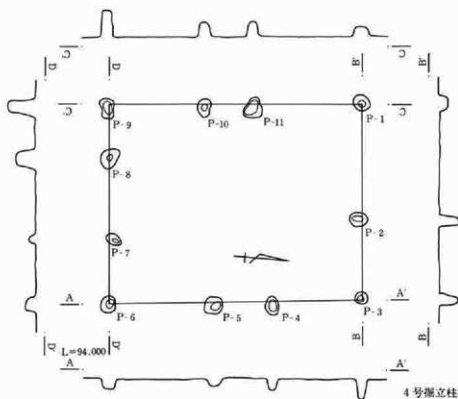
2号掘立柱建物跡

第231図 1号・2号掘立柱建物跡遺構図

(2) 獨立柱建物跡



3号獨立柱建物跡

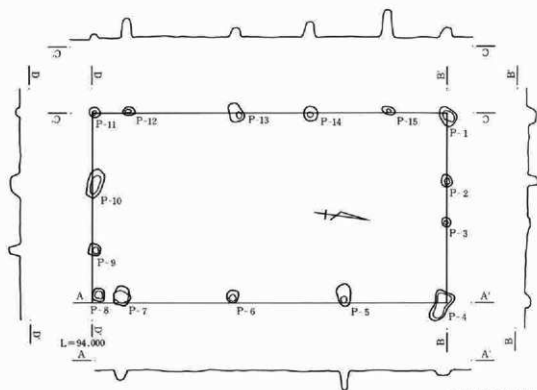


4号獨立柱建物跡

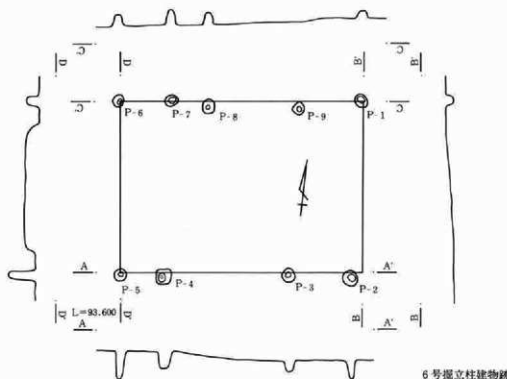


第232号 3号・4号獨立柱建物跡遺構圖

5. 検出された遺構と遺物



5号掘立柱建物跡

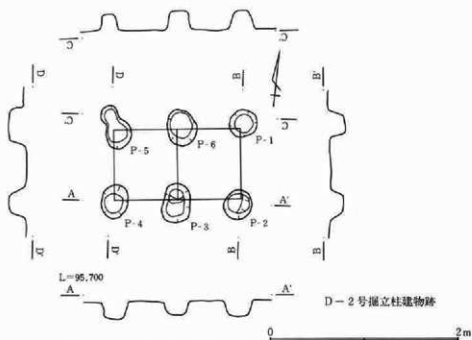
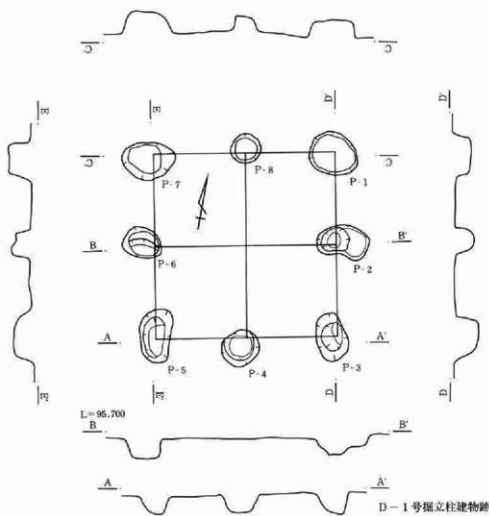


6号掘立柱建物跡

0 2m

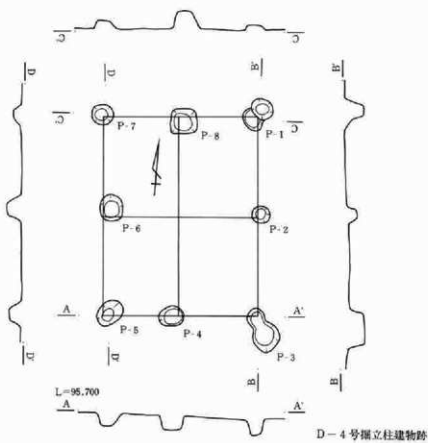
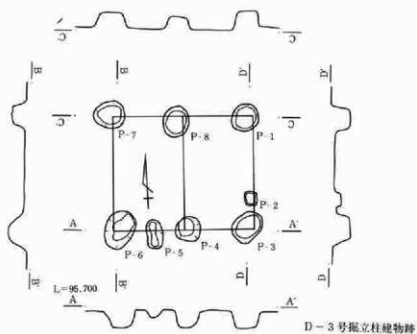
第233図 5号・6号掘立柱建物跡遺構図

(2) 掘立柱建物跡



第234图 D-1号·D-2号掘立柱建物跡遺構图

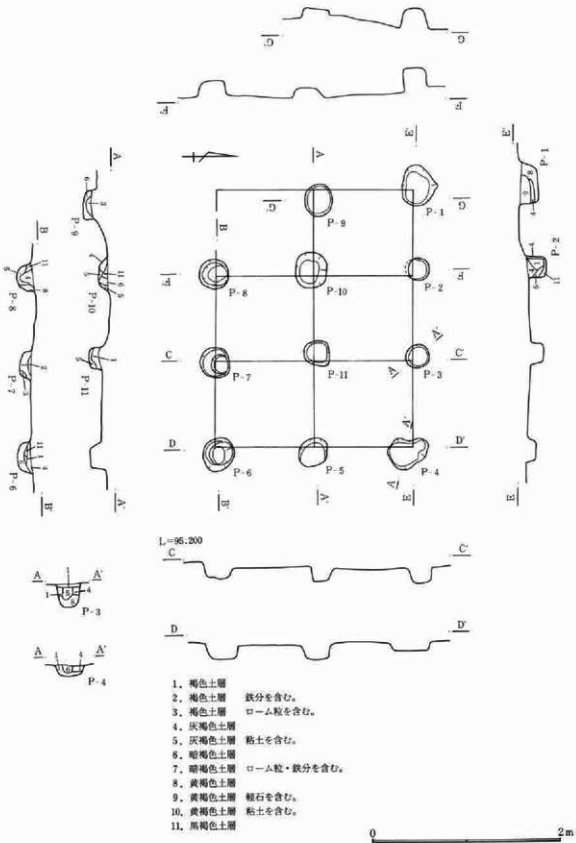
5. 検出された遺構と遺物



0 2m

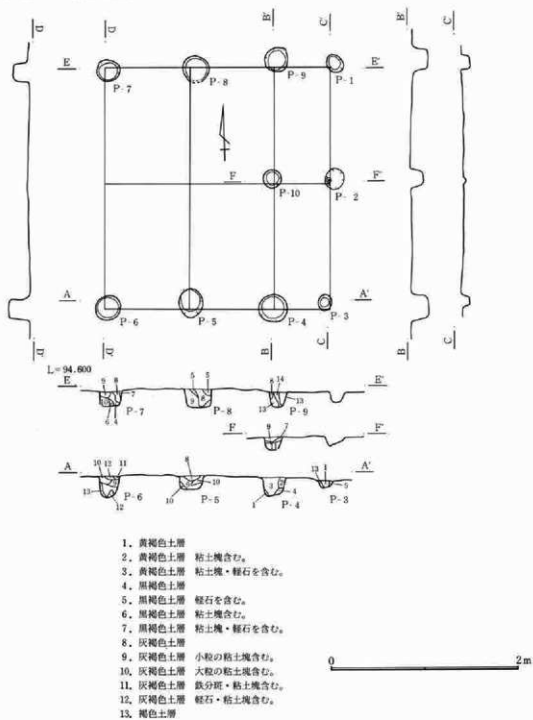
第235図 D-3号・D-4号獨立柱建物跡

(2) 掘立柱建物跡

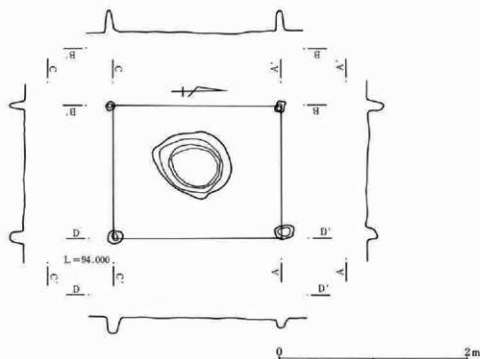


第238図 D-5号掘立柱建物跡遺構図

5. 検出された遺構と遺物



第237図 D-6号掘立柱建物跡道横図



第238図 9号井戸遺構図

(3) 井戸・土坑・溝・奈良時代生活面

住居跡・掘立柱建物跡以外に検出された遺構は井戸、土坑、溝、奈良時代生活面の遺物群である。この内遺物の検出されないものもあるが以下に一括してまとめて報告した。この内井戸は出土遺物等や土層などの点から中近世と考えられるものがほとんどである。土坑群は羽釜等の遺物が検出され、平安期と考えられるものもあるが時期不明のものが多い。溝は出土遺物が少ないが近世の陶磁器を多量に検出するものもある。また明確な形での遺構の検出は見られなかったがC区内において奈良時代の遺物を集中して検出された部分があり、奈良時代生活面として扱った。

井 戸

井戸は総数で、39基が検出されている。検出されたのはB、C、D区内である。断面は円筒状、ロート状を呈し深さは約1m～2mを測り、11・15・17・26号井戸は3mを越え、17号井戸では2.1mより下位には掘り増しをしたクワ痕が認められる。検出された遺物は石臼等のほか中近世の陶磁器類さらに木器が多数ある。木器は井戸枠を始めとし曲物や板材が検出されており加工の痕が残されている。陶磁器類は近世のものが多く出土している。井戸の覆土中からは種子類も検出された。またC区中央部46B・55号溝により区画された中世屋敷内からは井戸が4基検出された。9号井戸には上屋があったことが考えられる小穴が4基検出され、屋敷に伴う井戸であることが考えられる。C区22号井戸覆土中からは応永9年の銘が読める板碑が検出された。

5. 検出された遺構と遺物

土 坑

土坑は総数で、171基が検出された。このうち3基は墓塚である。C区中央部46B・55号溝区画内には長方形土坑が検出されるなど屋敷内の墓とも考えられるが遺物が検出されないために不明である。D区内25号土坑は形状、規模ともに不明であるが土師器環が完形で検出されている。

溝

溝は総数で、57条が検出された。検出遺物は奈良・平安時代土器、近世陶磁器類のほか木器が検出され木製椀が検出された。15号溝覆土中からは須恵器口縁部外面に2文字の墨書が縦に確認でき下の文字は「田」と読める。また128号溝からは須恵器の底面にヘラ書きで「寺」と刻んだものがある。中近世の溝からは陶磁器が多数検出されている。D区1号溝には墨書土器が2点検出され1点は須恵器の内面に、もう1点は同じく須恵器の底面に確認したが判読できない。底面に書かれた墨書は記号と考えられる。

奈良時代生活面

検出されたものは遺物のみであり明確な形での遺構は検出されていない。13号掘立柱建物跡の南に接し57号溝埋没後のくぼみの上に集中して検出された遺物群である。土器、瓦、埴輪が多数検出され掘立柱建物跡から検出された瓦と同時期の物である。埴輪の器種は形象埴輪の破片が数点検出されたほかは円筒埴輪、朝顔型埴輪がほとんどである。埴輪の調整の特徴は縦方向のハケ調整であり、時期は6世紀前半代と後半代の、2時期に分けられる。周辺には当該する時期の古墳は検出、確認されておらず破壊されたものである。集中して検出された遺物は掘立柱建物跡の時期と並行するものもあり、瓦や埴輪が一括して検出されることから前後関係はあまりなくおそらくは捨てられたものと考えられる。13号掘立柱建物跡の南部分は、掘立柱建物跡群の南限に当たり一部13号掘立柱建物跡と重複する部分も見られるが、その他の遺構とは重複することもない。掘立柱建物跡群を意識していることは充分に考えられ、瓦とも考え合わせ掘立柱建物跡群が造られる時期の所産と考えられる。

そ の 他

以上検出された遺構、遺物のほかに遺構外出土遺物として須恵器甕、天目茶碗、青白磁裂皿、古銭等が検出されている。

(3) 井戸・土坑・溝・奈良時代生活面

第92表 井戸遺構一覧表

番号	形状	断面形状	規模(m) (長径×短径×深さ)	出土遺物	備考	
1	楕円形	ロート状	3.02×2.68×2.67	土師器甕、坏破片、瓦、煎墨器坏。	55号溝中に位置する。	第239図
3	楕円形	袋状	1.43×1.28×2.68	種子(瓜)。	南北朝。	第239図
4	円形	円筒状	0.93×0.89×1.62	種子(桃)。		第240図
5	円形	円筒状	1.06×1.05×1.20	竹材、種子(クロモジ)。		第240図
6	楕円形	ロート状	1.92×1.80×1.80	曲物、丸板(楕の底)木製品、 種子(桐、杉、ケヤキ)、昆虫片。	江戸。	第240図
7	楕円形	ロート状	1.42×1.37×1.42			第240図
8	円形	円筒状	1.45×1.43×1.42		55号溝区画内に位置する。	第240図
9	楕円形	円筒状	1.70×1.35×2.02		55号溝区画内に位置する。	第240図
11	不整形円形	円筒状	1.43×1.43×3.20	木製品(井桁?)。		第241図
12	楕円形	ロート状	2.00×1.75×2.30	土師器甕、坏破片。	55号溝中に位置する。	第241図
13	不整形円形	円筒状	0.75×0.63×2.43	曲物、木製环、木製杖。		第241図
15	円形	袋状	0.90×0.82×4.45	土師器甕、種子(トチノキ、杉)、 内耳平鏡片。	底部にて26号井戸と通じる。 明治～大正、壁面に工具痕。	第241図
16	楕円形	ロート状	2.30×1.85×1.98	板磚、木材、木器(桶側木)。	中世的な砂質土。	第242図
17	楕円形	袋状	1.45×1.16×3.52	板材、竹材。	幕末～明治、2.10mより後で 掘り増した様子があつた(クワの 痕跡あり)。	第242図
18	円形	ロート状	1.03×0.90×1.75	磨鉢破片、板材、木材、竹材。	江戸中期。未完掘井戸か?	第242図
19	楕円形	方形状	1.08×1.00×1.65	土師器坏破片、羽釜片、葎の茎、 石臼片。	近世。掘り方及び、底部は四角形。	第242図
20	円形	ロート状	0.95×0.89×1.60		未完掘井戸か?	第242図
21	不整形円形	ロート状	1.17×1.15×1.70	陶器碗、土師器坏破片。	中世的な砂質土。未完掘か?	第243図
22	円形	ロート状	1.14×1.05×1.18	板磚「応永□年十月」(室町様式)、 板材、竹材。	中世。	第243図
23	楕円形	ロート状	0.90×0.72×0.88	板磚片、丸板、土師器坏破片。	中世的な砂質土。	第243図
24	円形	円筒状	0.84×0.80×0.88		中世。上面土層にF.Aを多量に 含み、意識的に埋めたか?	第243図
25	円形	円筒状	1.45×1.37×0.60	丸板(楕の底か?)。	中世。掘削途中で中止したか?	第243図
26	方形	袋状	0.92×0.90×3.25	種子(杉)。	底部にて15号井戸に通じる。 江戸中期～江戸後期。	第243図
27	円形	円筒状	0.80×0.75×1.19		下層の火山泥流に当り掘削調査中止。	第243図

5. 検出された遺構と遺物

28	不整楕円形	円筒状	1.50×1.10×1.58		下層の火山泥流に当り掘削調査中止。	第243回
29	楕円形	ロート状	1.26×1.10×1.20		下層の火山泥流に当り掘削調査中止。	第244回
30	楕円形	ロート状	1.55×1.33×1.58	板破片、板材（桐?）。	下層の火山泥流に当り掘削調査中止。	第244回
31	楕円形	円筒状	0.92×0.82×0.67		掘り始めて中止した井戸か？底部に1～2mmの粗砂層あり。	第244回
32	不整形円形	円筒状	1.02×0.90×1.86	板材。	底部は中央が高い掘削。	第244回
33	方形	円筒状	0.65×0.58×2.20	内耳平鉢片、擦鉢片（指軸、口縁部外面3段の桃山風）、曲物御木。	33号井戸と34号井戸とは重複する。地表下50cmに樹枝でからんだ杭が、両端円筒にて積み上げてある。 33号井戸、江戸前期。34号井戸、江戸初期～江戸前期。	第244回
34	円形	円筒状	0.78×0.78×1.38	染付埴（染付は見込鮫目輪落し）土師器環破片、木片多量。		
35	楕円形	袋状	0.53×0.43×2.60	板材、木の葉、陶器、須恵器破片。	未広がりの典型的な近世井戸	第244回
36	円形	円筒状	0.95×0.93×1.17		36号井戸と37号井戸とは重複している。	第244回
37	円形	円筒状	0.73× - ×1.15			
38	不整形方形	円筒状	1.10×0.97×0.92			第244回
39	円形	円筒状	1.32×1.30×2.02	擦鉢片、板破片、砥石（流紋岩）陶器埴破片。	地表下1.70mより下は後に掘り増した跡あり。江戸後期～明治。	第245回
41	円形	円筒状	1.40×1.45×1.85			第245回
D-1	円形	ロート状	1.98×1.87×1.24			第245回
D-2	不整形円形	ロート状	1.50×1.48×0.75		未完掘井戸か？	第245回

第93表 土坑遺構一覧表

番号	形状	方位	規模 (直径×短径×長径)	出土遺物	備考
1	円形		104 × 95 × 10		
2	不整形長方形	N-68°-E	254 × 198 × 45	埴輪破片。	焼土検出。
3	長方形?		280 × 40 × -	埴輪破片、瓦破片、須恵器環破片。	炭化物検出。約5調査区外。
4	長方形	N-61°-W	225 × 125 × 18		炭化物検出。一部調査区外。
5	長方形	N-11°-E	270 × 45 × 52		両端部が深い。
6	不整形長方形	N-77°-W	215 × 115 × 12		炭化物検出。
7	不整形長方形	N-65°-E	185 × 90 × 11		炭化物検出。
9	不整形長方形	N-7°-W	238 × 205 × 38	土師器環。	炭化物検出。

(3) 井戸・土坑・溝・奈良時代生活面

10	長方形	N-9'-W	235 × 180 × 30	土師器坏、埴輪破片、須恵器蓋。	炭化物、焼土検出。
11	長方形?		150 × 15 × -		8号住居跡と重複する。
12	長方形?		180 × 35 × -	土師器坏、埴、埴輪破片。	8号住居跡と重複する。
14	方形		75 × 60 × 15	須恵器坏。	8号住居跡と重複する。
15	長円形		57 × 41 × 31		
20	円形		112 × 110 × 9		18号住居跡と重複する。
21	円形		84 × 82 × 18		炭化物検出。18号住居跡と重複する。
22	楕円形		146 × 98 × 17		
23	円形		94 × 78 × 10		炭化物検出。
25	円形		72 × 68 × 20	高台付埴(須恵器)。	
26	円形		67 × 59 × 10		31号住居跡と重複する。
27	円形		65 × 54 × 12		
28	楕円形		117 × 91 × 22	羽釜、石多量。	34号溝と重複する。
29	円形		90 × 85 × 16		炭化物、焼土検出。24号住居跡と重複する。
30	円形		92 × 89 × 25	瓦破片。	炭化物、焼土検出。
31	長円形		136 × 59 × 17		炭化物、焼土検出。
32	円形		79 × 70 × 17	羽釜破片、須恵器坏。	
33	楕円形		161 × 112 × 23		炭化物、焼土検出。
34	円形		81 × 78 × 13		33号住居跡と重複し焼土検出。
35	不整長方形	N-89'-W	136 × 103 × 18		炭化物、焼土検出。
36	楕円形		172 × 102 × 12		
38	長円形		88 × 72 × 35		39号土坑と重複する。
39	不整長方形	N-54'-W	118 × 102 × 15		炭化物、焼土検出。38号土坑に切られる。
40	円形		148 × 132 × 23		炭化物検出。37号溝と重複。
41	長方形	N-18'-E	118 × 90 × 22	石(根石?)。	42号土坑と重複する。
42	不整長円形		118 × 85 × 19	石(根石?)。	41号土坑と重複する。
43	長方形	N-10'-E	213 × 98 × 15	土師器坏。	焼土検出。
44	不整長方形	N-0"	128 × 110 × 6	土師器坏破片。	
45	楕丸長方形	N-7'-W	110 × 83 × 17		炭化物検出。

5. 検出された遺構と遺物

46	円形		60 × 58 × 13		炭化物検出。29号住居跡と重複する。
47	円形		118 × 114 × 36		
48	円形		125 × 113 × 9		
49	長円形		67 × 54 × 9		
50	不整形円形		132 × 10 × -		51号土坑に切られる。
51	円形		134 × 132 × 35		50号土坑と重複する。
53	円形?		45 × 16 × -		54号土坑に切られる。
54	隅丸長方形	N-5'-E	152 × 107 × 21	須恵器環。	53号土坑と重複する。
55	円形		102 × 92 × 13		29号住居跡と重複する。炭化物検出。
56	円形		117 × 107 × 12		炭化物検出。
57	長円形	N-89'-W	140 × 102 × 12		28号住居跡と重複する。
58	長円形	N-0'	78 × 43 × 15		
59	円形		92 × 90 × 13		
60	円形		48 × 47 × 42		
61	長円形	N-0'	75 × 59 × 14		炭化物、焼土検出。
62	円形		52 × 48 × 12		炭化物、焼土検出。
63	円形?		98 × 32 × -		約半分未調査区。
64	円形		80 × 72 × 27		58号住居跡と重複する。炭化物、焼土検出。
65	円形		74 × 68 × 5		
66	長円形	N-67'-E	140 × 98 × 30		
67	円形		73 × 72 × 14		
68	円形		60 × 54 × 21		
69	円形		68 × 58 × 33		33号溝と重複する。
70	楕円形	N-0'	90 × 51 × 20		33号溝と重複する。
71	長方形	N-7'-E	98 × 80 × 12		33号溝と重複する。
72	不整形円形		245 × 122 × 22		
73	円形		120 × 110 × 50		14号住居跡と重複する。
74	長円形	N-74'-W	135 × 94 × 13		
75	楕円形	N-0'	132 × 80 × 14		
76	円形		48 × 47 × 13		炭化物、焼土検出。

(3) 井戸・土坑・溝・奈良時代生活面

77	円形		47 × 43 × 52		
78	円形		47 × 44 × 18		焼土検出。113号土坑と重複する。
81	円形		74 × 66 × 18		炭化物、焼土検出。
83	楕円形	N-77-E	110 × 72 × 28		
84	円形		92 × 88 × 12		炭化物検出。39号住居跡と重複する。
85	円形?		72 × 17 × -		炭化物検出。39号住居跡と重複する。
86	長円形		68 × 55 × 25		39号住居跡と重複する。
88	円形		112 × 105 × 42		39号住居跡と重複する。
89	長円形		173 × 132 × 33	須恵器環、瓦破片、羽釜破片。	41、42号住居跡と重複する。
90	円形		138 × 134 × 23		炭化物、焼土検出。41号住居跡と重複する。
92	不整長方形	N-17-W	265 × 182 × 20	土師器壺破片。	
93	不整長方形	N-14-W	143 × 115 × 25	瓦破片。	
95	円形		102 × 95 × 18		53号住居跡、10号掘立、と重複し、55号溝区画内に位置する。
96	円形		50 × 48 × 48		
97	円形		94 × 85 × 25		55号溝区画内に位置する。
98	円形		132 × 123 × 18	羽釜、須恵器碗。	41号住居跡と重複する。
99	長円形	N-0'	105 × 82 × 37		炭化物、焼土多量に検出。
100	円形		150 × 148 × 13		55号溝区画内に位置する。
102	円形		43 × 40 × 27		炭化物、焼土検出。18号住居跡東部、33号溝と重複する。
103	不整円形		60 × 40 × 75		炭化物、焼土検出。33号溝と重複する。
104	円形		53 × 50 × 20		33号溝と重複する。
105	不整長円形		68 × 38 × 32		32号住居跡と重複する。
106	楕円形		60 × 45 × 12	羽釜。	55号溝区画内に位置する。
108	長円形		104 × 86 × 18		炭化物、焼土検出。
109	方形		37 × 37 × 42		柱穴か?
110	円形		60 × 60 × 15		
113	円形		75 × 75 × 5		焼土検出。
114	円形		43 × 40 × 48		柱穴か?

5. 検出された遺構と遺物

115	円形		46 × 45 × 56		柱穴か?
116	円形		30 × 30 × 40		柱穴か?
120	円形		48 × 42 × 55	石(根石?)。	柱穴か?
122	円形		90 × 85 × 10		69号住居跡と重複する。
124	円形		40 × 40 × 45		柱穴か?
126	円形		48 × 38 × 48	土師器環。	柱穴か?
128	円形		78 × 72 × 23		78号住居跡と重複する。
149	円形		38 × 35 × 13		
150	楕円形	N-13'-E	156 × 64 × 8		
153	円形		48 × 44 × 33		8号掘立、9号掘立遺構の中間に位置する。
154	円形		32 × 32 × 25	瓦破片、石(根石?)。	9号掘立遺構内に位置する。
155	円形		37 × 32 × 42		9号掘立遺構内に位置する。
156	楕円形		60 × 40 × 30		9号掘立遺構内に位置する。
157	円形		30 × 28 × 57		8号掘立、9号掘立遺構の中間に位置する。
158	円形		38 × 35 × 55	石(根石?)。	8号掘立、9号掘立遺構の中間に位置する。
159	円形		28 × 25 × 52		8号掘立、9号掘立遺構の中間に位置する。
162	不整形三角形		452 × 305 × 5	埴輪破片。	
163	不整形長方形	N-84'-E	278 × 122 × 16		
172	円形		138 × 130 × 15		
174	不整形長方形		152 × 145 × 53		
175	長方形	N-68'-E	118 × 83 × 20		55号溝区画内に位置する。
177	円形		73 × 72 × 58		55号溝区画内に位置する。
178	長方形	N-0'	208 × 91 × 35		55号溝区画内に位置する。
179	長方形	N-62'-W	290 × 125 × 18		55号溝区画内に位置する。
180	長方形	N-79'-W	170 × 76 × 7		55号溝区画内に位置する。
181	方形		75 × 67 × 28		55号溝区画内に位置する。
183	長方形	N-80'-E	267 × 118 × 10		55号溝区画内に位置する。
184	長方形	N-82'-E	285 × 90 × 35		55号溝区画内に位置する。
185	長方形	N-84'-E	342 × 160 × 50		55号溝区画内に位置する。

(3) 井戸・土坑・溝・奈良時代生活面

191	長方形	N-15'-W	110 × 88 × 10		55号溝区画内に位置する。
192	長方形	N-8'-W	165 × 85 × 20		55号溝区画内に位置する。
193	不整形		103 × 75 × 40		
194	長方形	N-2'-W	285 × 185 × 21		146号住居跡と重複し、55号溝区画内に位置する。
195	不整形	N-83'-E	248 × 152 × 13		55号溝区画内に位置する。
196	長方形	N-0'	185 × 130 × 18		55号溝区画内に位置する。
197	不整形		245 × 160 × 13	轆轤破片。	55号溝区画内に位置する。
198	長方形	N-0'	223 × 125 × 17	瓦破片。	55号溝区画内に位置し、199号土坑と重複する。
199	長方形?		185 × 11 × 18		55号溝区画内に位置し、198号土坑に切られる。
201	方形	N-9'-W	240 × 235 × 27		住居か?
202	方形	N-0'	222 × 190 × 18		
204	不整形		140 × 90 × 10		91号住居跡と重複する。
211	円形		75 × 72 × 24	陶輪皿 (完形品2点)。	
D-3	楕円形		110 × 63 × 46	瓦破片。	
D-5	楕円形		46 × 32 × 18		
D-8	円形		48 × 42 × 43		
D-11	ヒョウタン形		112 × 85 × 45		
D-12	円形		62 × 52 × 48	瓦破片。	
D-13	円形		52 × 43 × 42	瓦破片。	
D-14	円形		55 × 45 × 42		
D-17	円形		80 × 75 × 46		
D-18	円形		62 × 56 × 32		D-15号住居跡と重複する。
D-19	円形		62 × 55 × 33		D-15号住居跡と重複する。
D-20	円形		55 × 52 × 60		柱穴か?
D-21	楕円形		43 × 30 × 9	瓦破片。	
D-23	ヒョウタン形		85 × 60 × 40		D-3号溝と重複する。
D-25	外形不明瞭			須恵器片。	
D-27	円形		35 × 33 × 22		
D-29	長方形	N-60'-W	215 × 50 × 36		底部周囲に窪みあり。
D-30	円形		55 × 50 × 40		

5. 検出された遺構と遺物

D-31	円形		78 × 62 × 49		
D-32	円形?		35 × - × 9	須恵器環、埴、羽釜。	D-15号溝に切られる。
D-33	円形		23 × 22 × 18		D-16号溝と重複する。
D-34	円形		34 × 30 × 29		
D-35	円形		23 × 22 × 18		
D-36	円形		25 × 25 × 8		
D-37	円形		45 × 45 × 40		D-3号溝と重複する。
D-38	円形		40 × 36 × 35		D-3号溝と重複する。
D-39	円形		35 × 35 × 28		D-3号溝と重複する。
D-40	円形		46 × 45 × 50		柱穴か?
D-41	円形		33 × 26 × 23		D-3号溝と重複する。
D-42	円形		24 × 24 × 17		
D-43	円形		40 × 35 × 19		
D-44	円形		35 × 34 × 19		
D-45	円形				D-46、47号土坑と連なる。
D-46	円形		90 × 45 × 21		D-45、47号土坑と連なる。
D-47	円形				D-45、46号土坑と連なる。

第94表 基壇遺構一覧表

番号	形状	方位	規模 (cm) (長さ×短径×深さ)	出土遺物	備考
1	長方形	N-0°	105 × 60 × 28		炭化物、灰を多量に検出。55号溝区画内に位置する。
2	長方形	N-14°-E	218 × 100 × 15		1号基壇と重複し、55号溝区画内に位置する。
3	円形		67 × 65 × 34		底石あり。
4			80 × × 30		集石遺構。炭化物多量に検出。

第95表 溝・遺構一覧表

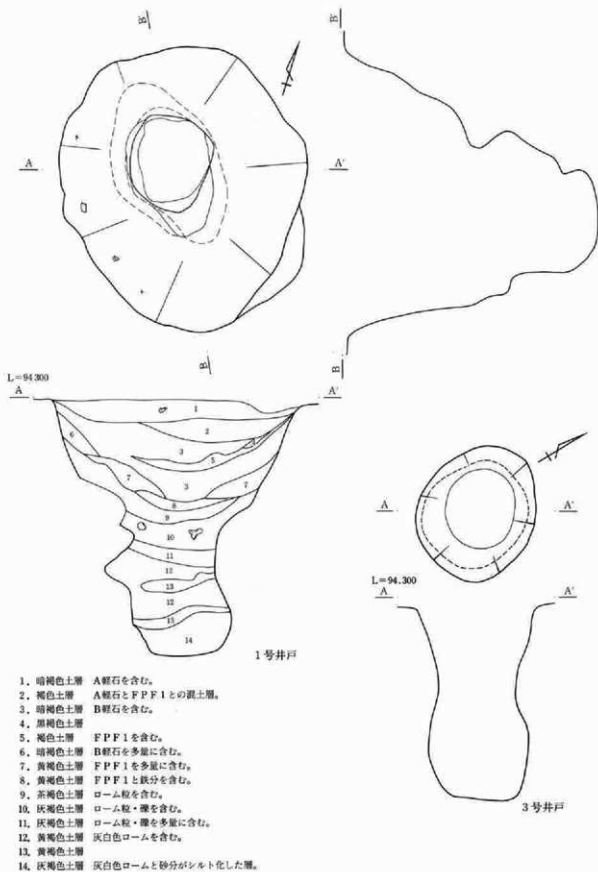
番号	規模 (cm)				出土遺物	備考
	長さ	深さ	幅(大)	幅(小)		
1	350	5	60	30	土師器環、須恵器壺、環破片。	
2	1200	27	220	30	土師器環破片。	1号獨立、2号獨立遺構と重複する。
3	520	9	100	80	須恵器大壺破片、瓦破片、土師器環、須恵器環・埴。	3号獨立遺構と重複する。

(3) 井戸・土坑・溝・奈良時代生活面

15	1600	106	595	355	杭5本、土師器坏、須恵器坏(墨書)、埴、種子(桃)。	水路の堰か? 杭あり。16号溝と並ぶ。
16	3550	65	465	155	杭7本、須恵器坏、土師器坏破片。	水路の堰か? 杭あり。15号溝と並ぶ。
33	2350	25	160	80		18号、32号住居跡、69号、70号、71号、102号、103号、104号土坑と重複する。
34	850	30	50	48		11号住居跡、28号土坑と重複する。
35	2550	22	170	100	土師器坏破片。	31号住居跡と重複する。
36	4800	114	270	190		染谷川に沿う。19号住居跡、29号、31号、58号、64号土坑と重複する。
37	950	29	70	30		33号住居跡、47号、49号、50号、51号土坑と重複する。
38	1580	18	170	40	土師器坏、埴破片。	28号住居跡と重複する。
40	1700	22	80	50	埴輪破片、須恵器坏。	43号、61号住居跡と重複する。
41	1680	17	70	40		50号、51号、52号住居跡と重複する。
42	800	15	30	25		21号、22号住居跡と重複する。
43A	1750	16	150	50	土師器坏、埴(底面に十印)。	62号、63号、65号住居跡と重複する。
43B	500	13	70	30		55号溝区画内に位置する。
43C	860	16	70	20		
44	1350	24	60	30		54号住居跡、9号掘立遺構と重複する。
46A	600	37	90	50	羽釜破片。	73号住居跡と重複する。
46B	3600	20	170	70		43号、44号、45号、47号、48号、61号、69号住居跡、162号土坑と重複する。
48	1500	9	50	30		
52	700		70	30		
53	950		100	50		
55A	6600	57	380	100		59号住居跡、1号、12号井戸と重複する。大きく区画性を持つ溝。
55B	1450	42	250	100		未調査区にかかる。55A溝と共に大きく区画性を持つ。
56	1200	23	100	20		55号溝区画内に位置する。
57	3650	95	330	50		148号住居跡、13号掘立遺構と重複する。55号溝の外側に並行する。
58	1100	20	100	30	須恵器坏。	
59	1750	58	180	50	埴輪破片。	
83	5150	80	680	480	丸板(桶の底?)。	

5. 検出された遺構と遺物

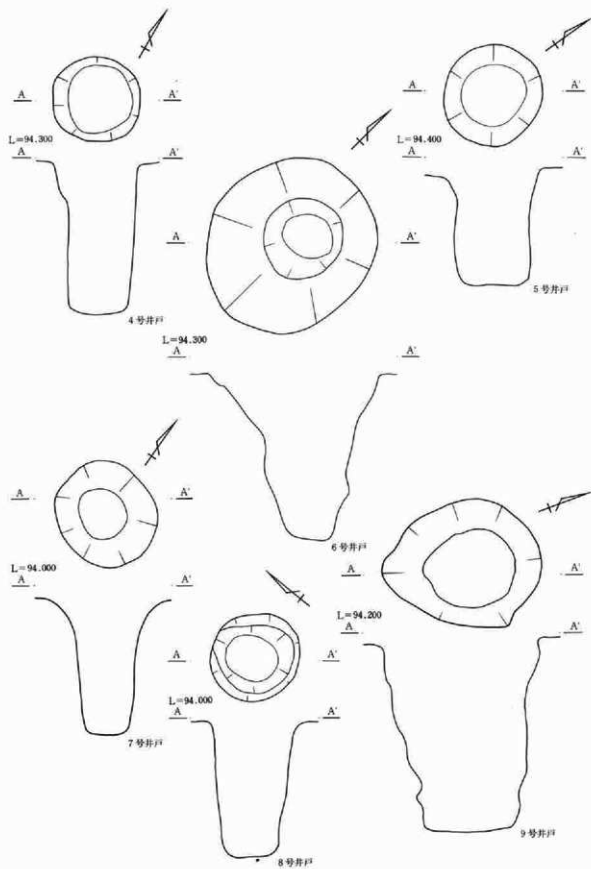
123	1200	20	80	70		
124	980	13	50	30		
127	3350	79	50	30	土師器内耳鍋。	16号、17号、20号井戸と重複する。
128	1400		150	100	木製埴壇、須恵器環、埴（寺）、磨石。	
131	3100	84	350	120		
132	1600	35	120	100		
133	1300	33	30	20		
134	8150	151	700	350	丸版(桶?)、木製埴壇、漆鉢、陶器染付碗、皿、杯、鉢、火鉢他多量。	
137	550	20	105	85		147号住居跡と重複し、85号溝の外側に並行する。
138	1050	15	30	25		147号住居跡、13号副立遺構と重複し、55号溝の外側に並行する。
139	550	8	45	20		
142	1450	20	100	80		
143	2000	55	200	150		
144	770	24	70	50		
145	3100	30	150	100		
D-1	8850	267	900	300	須恵器埴（内面黒書）、埴、埴破片多量、瓦破片多量。	
D-2	1750	55	230	150	土師器環、須恵器環、瓦破片。	
D-3	3100	29	200	70	須恵器環、埴、瓦破片。	D-16号住居跡、D-37号、D-38号、D-39号、D-41号土坑と重複する。
D-4	3600	103	480	150	須恵器環、埴、皿、鉢、蓋、壺多量、土師器環（暗文）、甕、埴破片多量、瓦破片多量。	D-2号、D-6号、D-8号住居跡と重複する。
D-5	2800	13	350	50	土師器環。	
D-7	1100	30	50	30		
D-8	450	15	70	30		
D-9	700	15	30	20		
D-10	330	20	20	15		
D-11	600	18	30	25		
D-15	600	20	30	20		
D-16	350	18	10	30		



1. 暗褐色土層 A軽石を含む。
2. 褐色土層 A軽石とPPF1との混土層。
3. 暗褐色土層 B軽石を含む。
4. 黒褐色土層
5. 褐色土層 PPF1を含む。
6. 暗褐色土層 B軽石を多量に含む。
7. 黄褐色土層 PPF1を多量に含む。
8. 黄褐色土層 PPF1と鉄分を含む。
9. 茶褐色土層 ローム粒を含む。
10. 灰褐色土層 ローム粒・礫を含む。
11. 灰褐色土層 ローム粒・礫を多量に含む。
12. 黄褐色土層 灰白色ロームを含む。
13. 黄褐色土層
14. 灰褐色土層 灰白色ロームと砂分がシット化した層。

第239図 1号・3号井戸遺構図

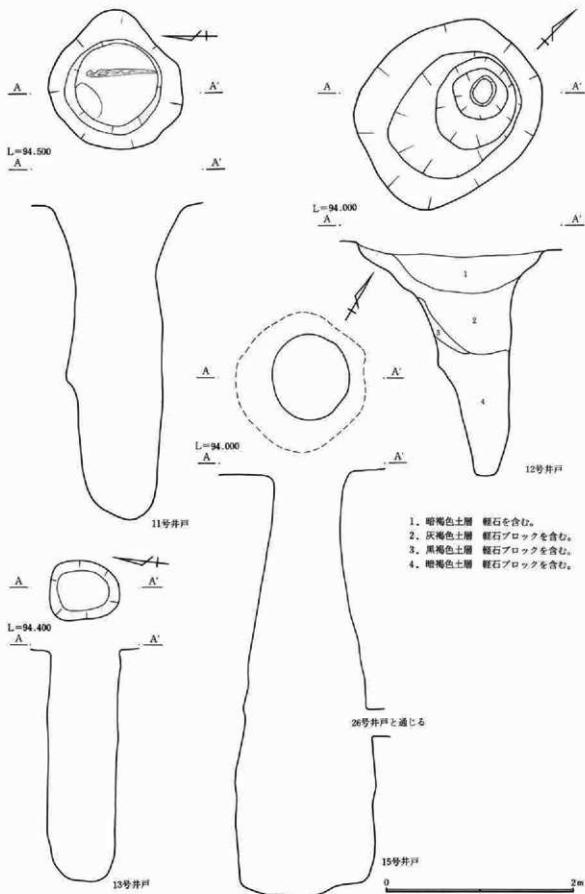
5. 検出された遺構と遺物



第240図 4号～9号井戸遺構図

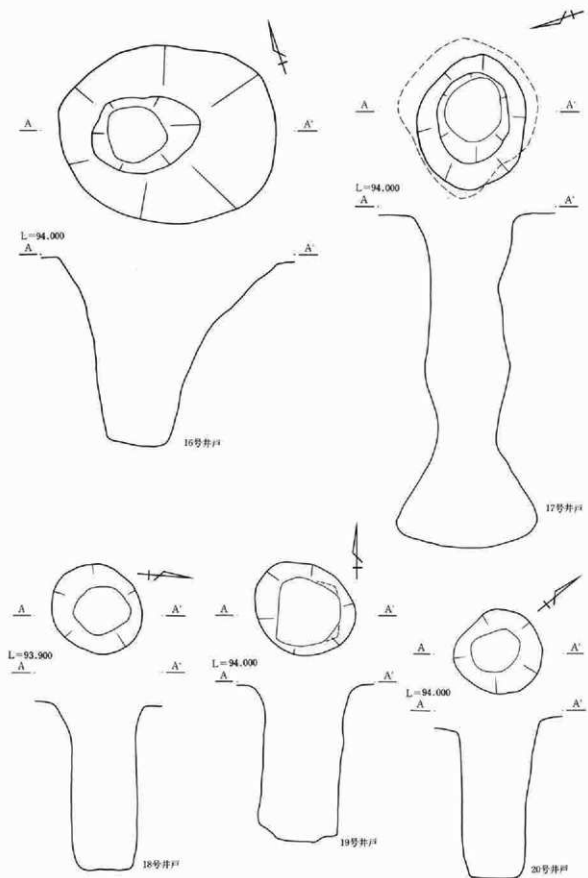
0 2m

(3) 井戸・土坑・溝・奈良時代生活面

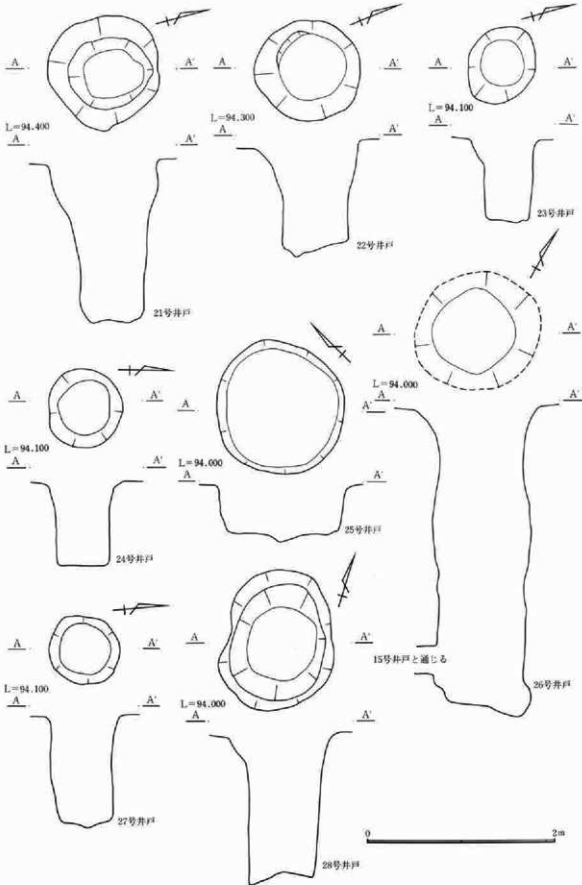


第241図 11号~15号井戸遺構図

5. 検出された遺構と遺物

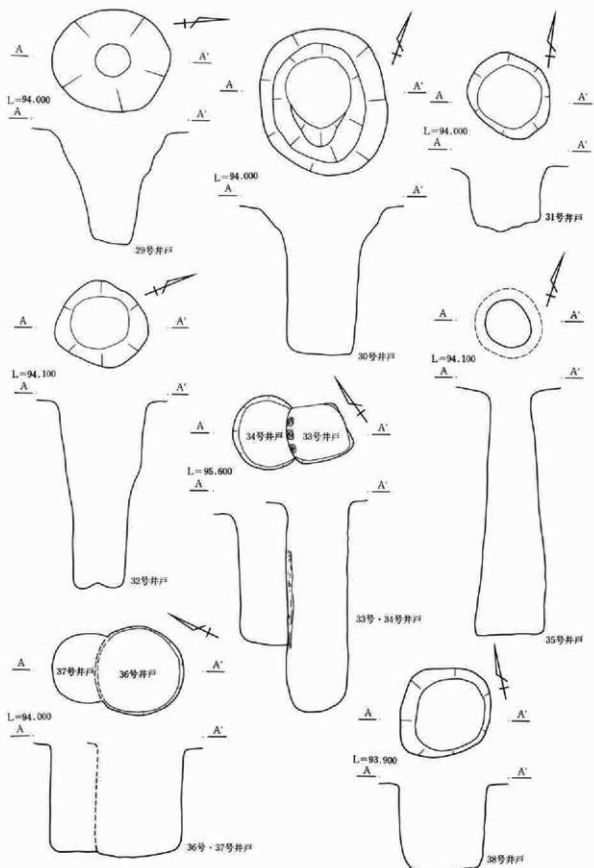


第242図 16~20号井戸遺構図



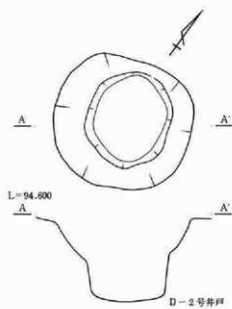
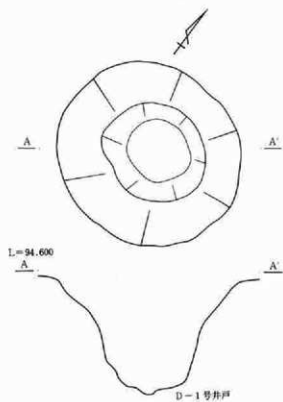
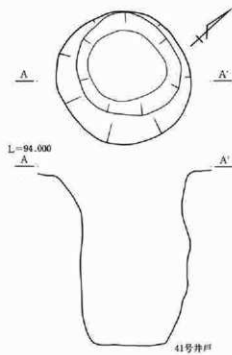
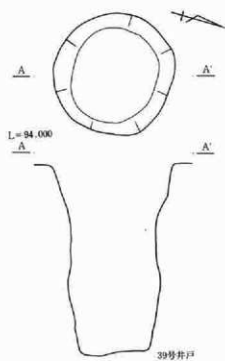
第243図 21号-28号井戸遺構図

5. 検出された遺構と遺物



第244図 29号～38号井戸遺構図

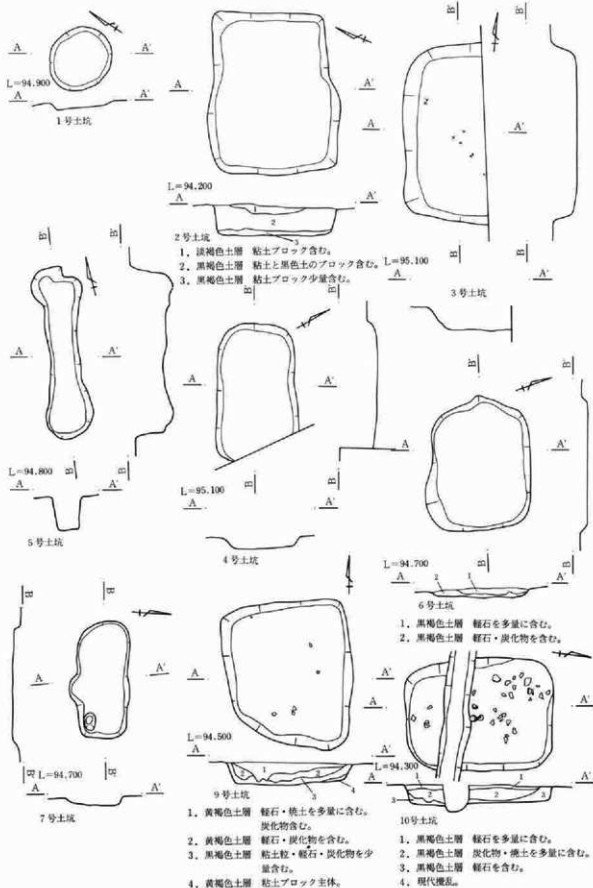
(3) 井戸・土坑・溝・奈良時代生活面



0 2m

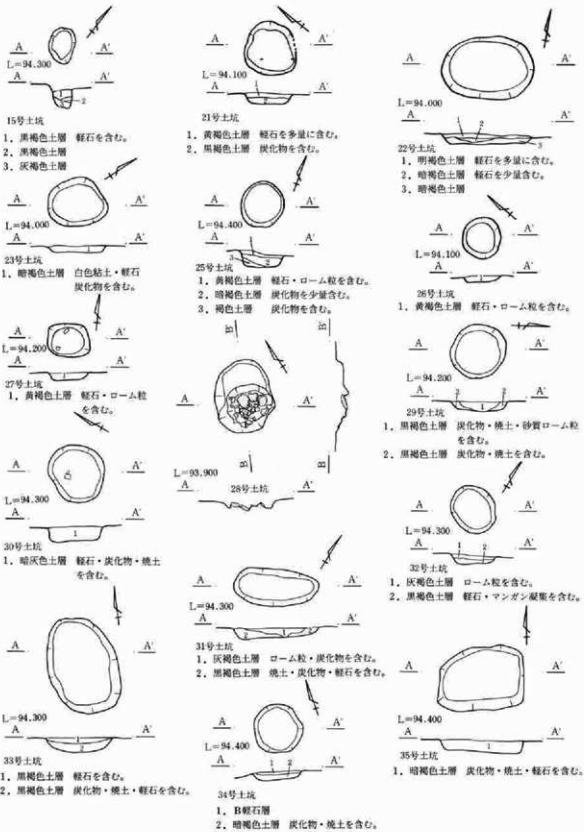
第245図 39号・41号・D-1号・D-2号井戸遺構図

5. 検出された遺構と遺物



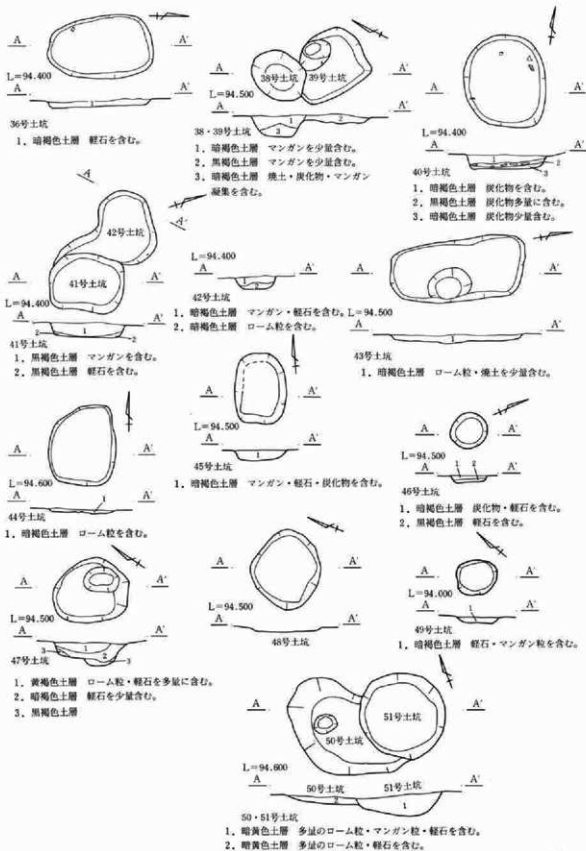
第246図 土坑遺構図(1)

0 3m

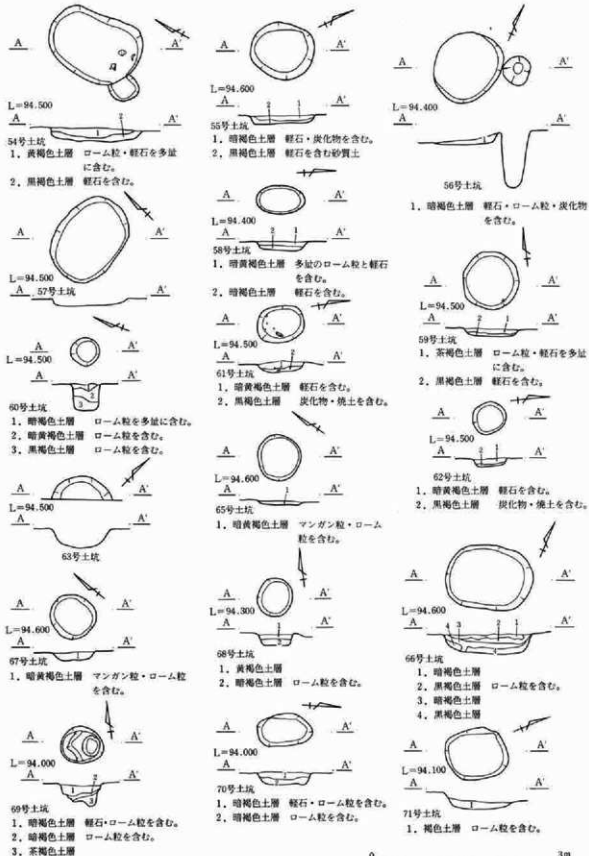


第247図 土坑遺構図(2)

5. 検出された遺構と遺物

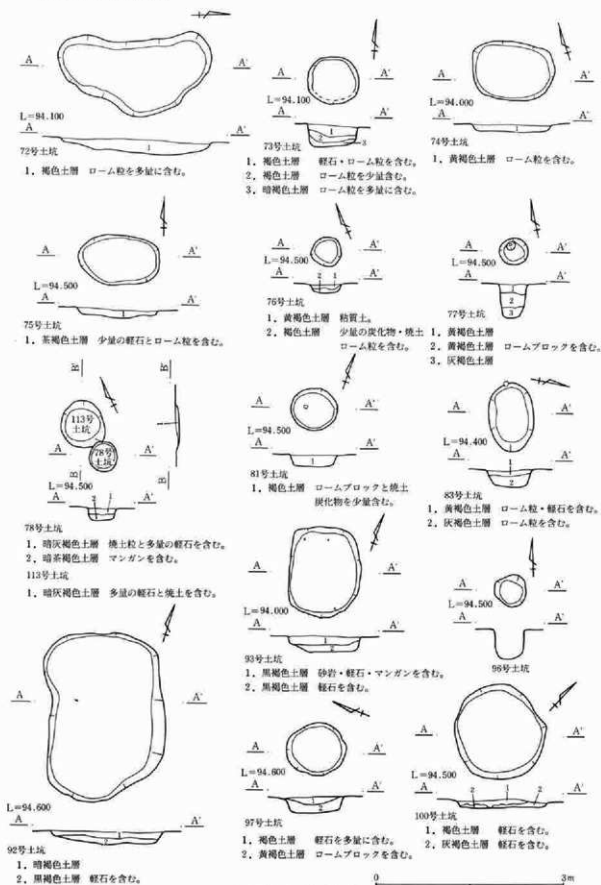


第248図 土坑遺構図(3)



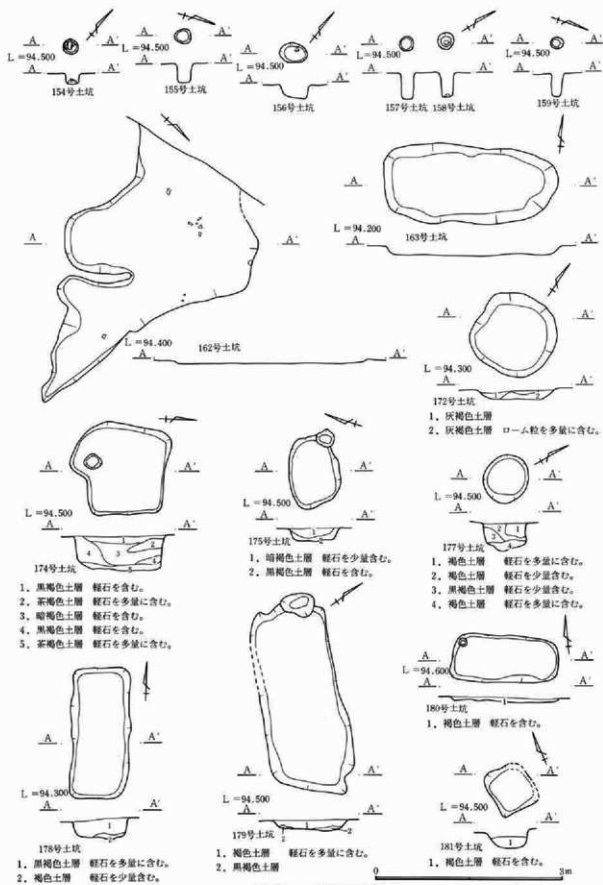
第249図 土坑遺構図(4)

5. 検出された遺構と遺物

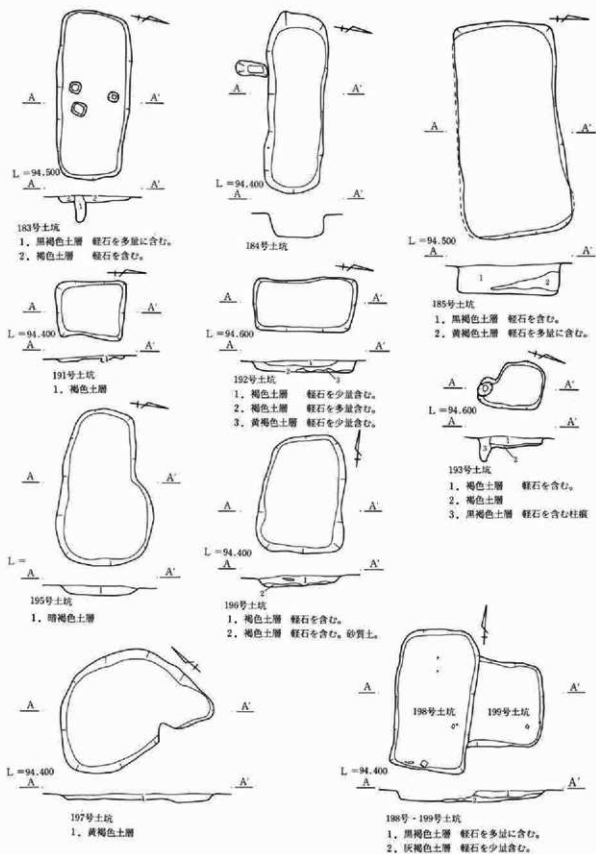


第250区 土坑遺構図(5)

5. 検出された遺構と遺物



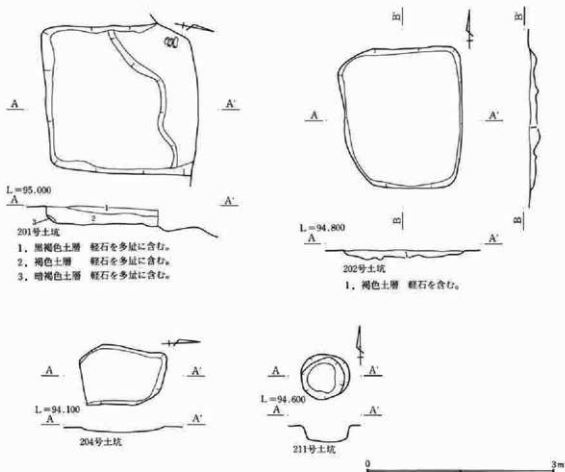
第252図 土坑遺構図(7)



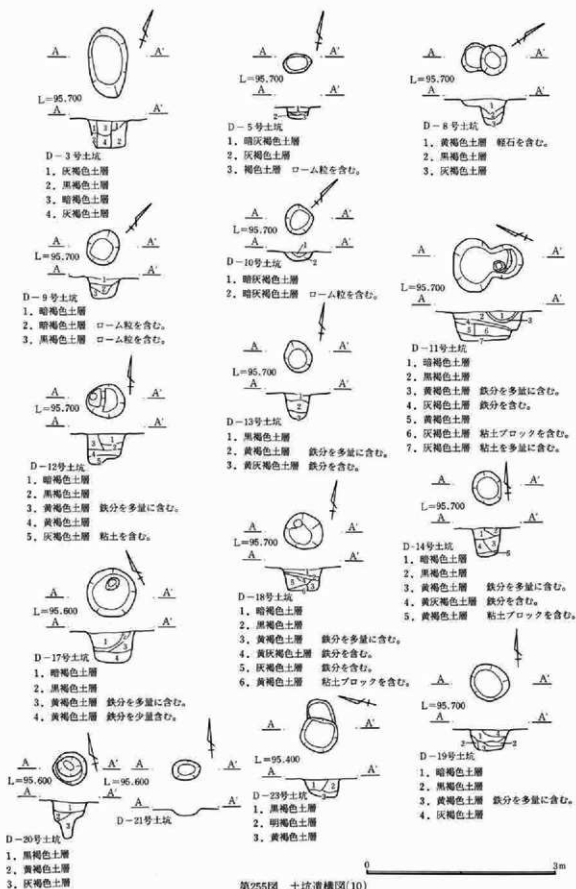
0 3m

第253図 土坑遺構図(8)

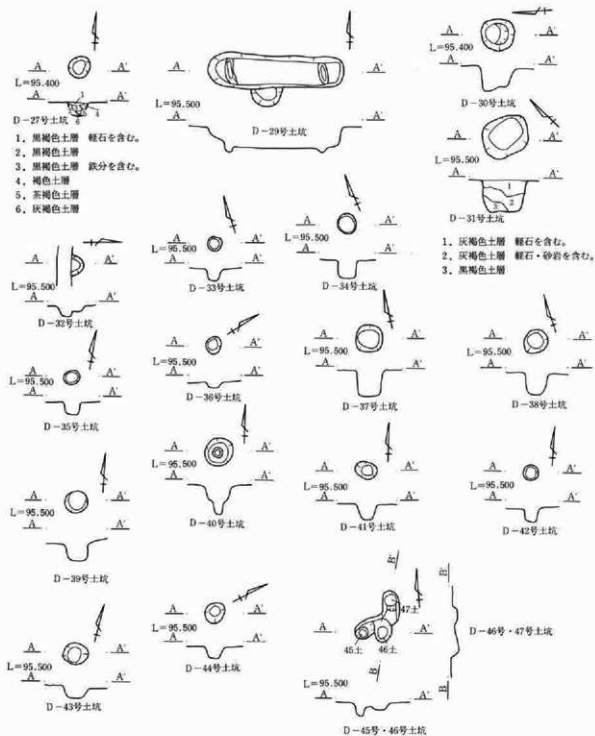
5. 検出された遺構と遺物



第254図 土坑遺構図(9)



5. 検出された遺構と遺物



第256図 土坑遺構図(11)



1号墓

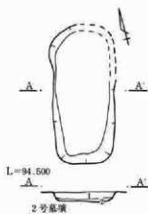
1. 褐色土層 灰を含む。
2. 褐色土層 軽石・炭化物を含む。
3. 褐色土層 多量の炭化物を含む。
4. 褐色土層



L=94.700

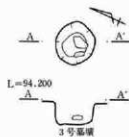
4号墓

1. 黒褐色土層 炭化物を含む。



2号墓

1. 褐色土層 軽石を少量含む。
2. 暗褐色土層

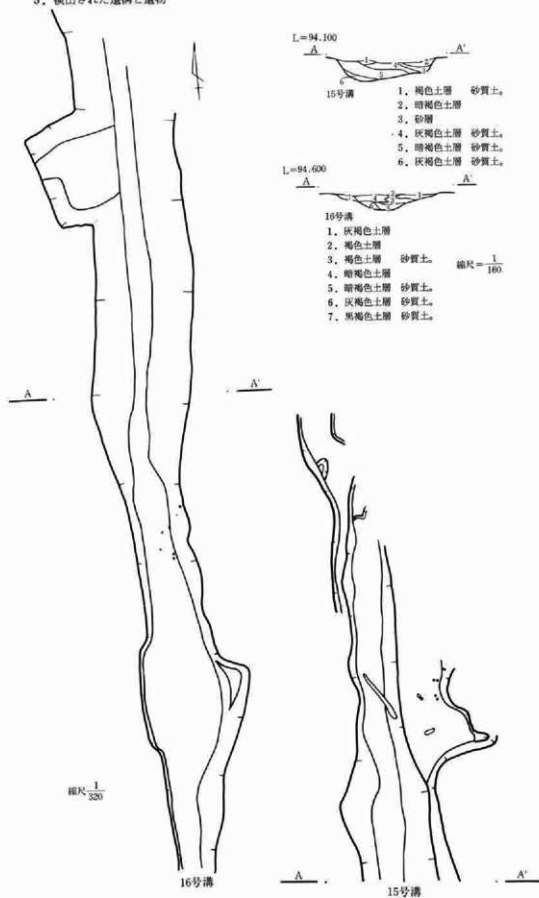


3号墓

0 3m

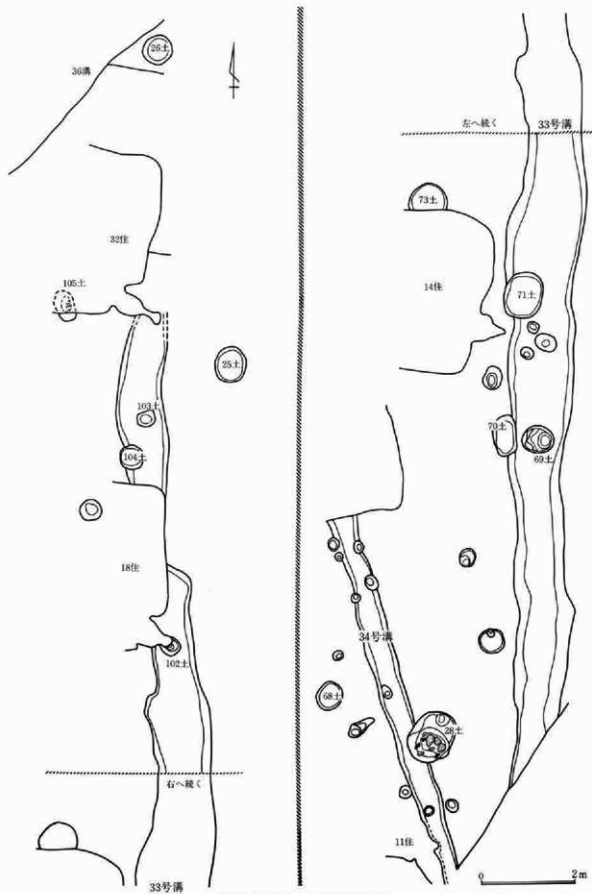
第257図 墓塚遺構図

5. 検出された遺構と遺物



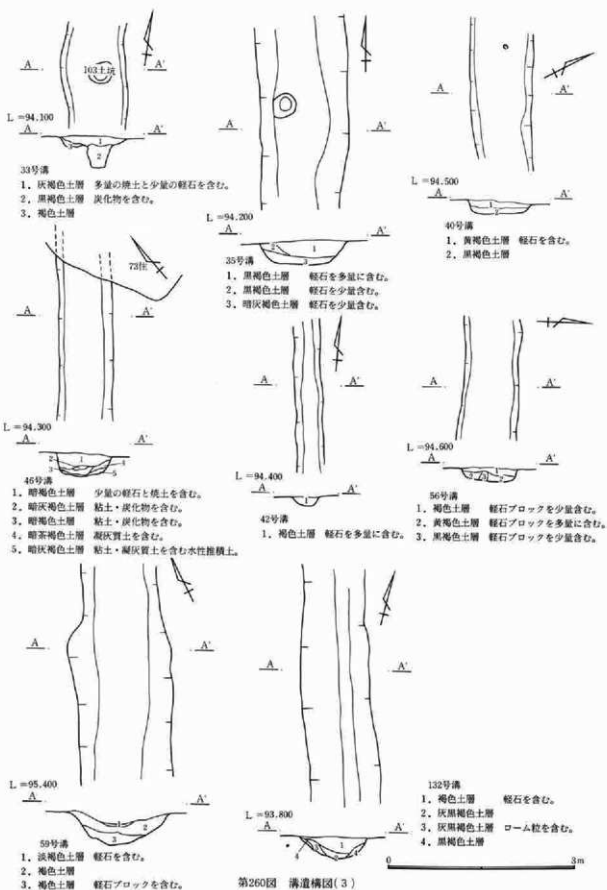
第258図 溝遺構図(1)

(3) 井戸・土坑・溝・奈良時代生活面

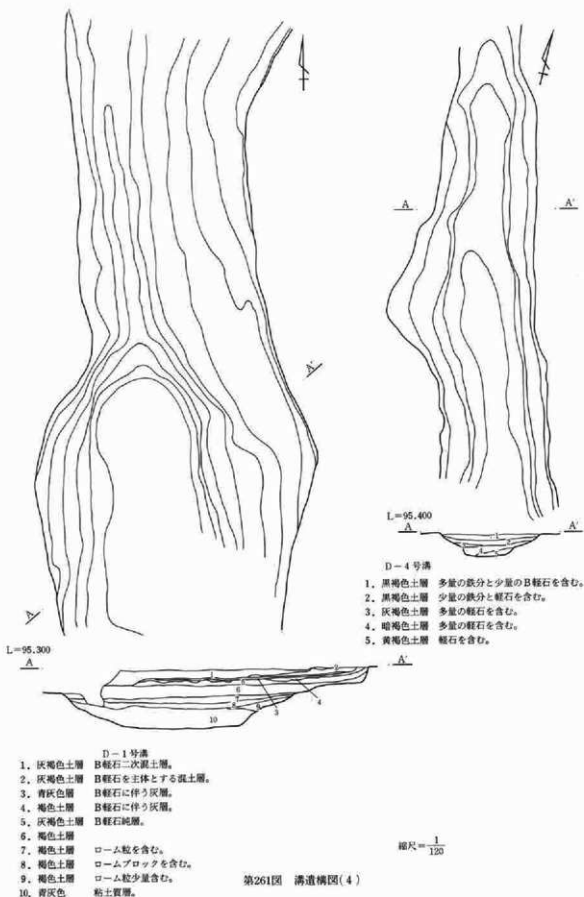


第259図 33号・34号溝遺構図(2)

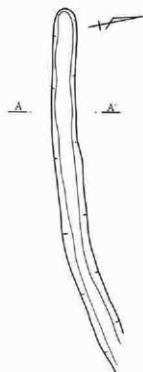
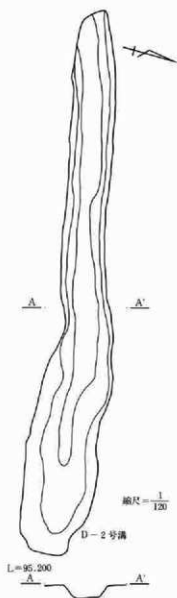
5. 検出された遺構と遺物



第260図 溝遺構図(3)

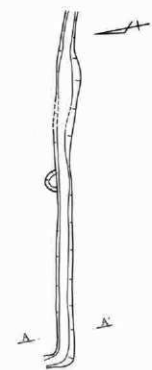


5. 検出された遺構と遺物



D-11号溝

1. 暗褐色土層
2. 灰褐色土層
3. 黄褐色土層 軽石を含む。
4. 黒褐色土層

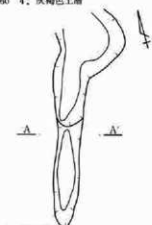


D-15号溝

1. 明褐色土層 ローム粒を含む。
 2. 明褐色土層
 3. 暗褐色土層 粘土を含む。
 4. 灰褐色土層
- 縮尺=1/60

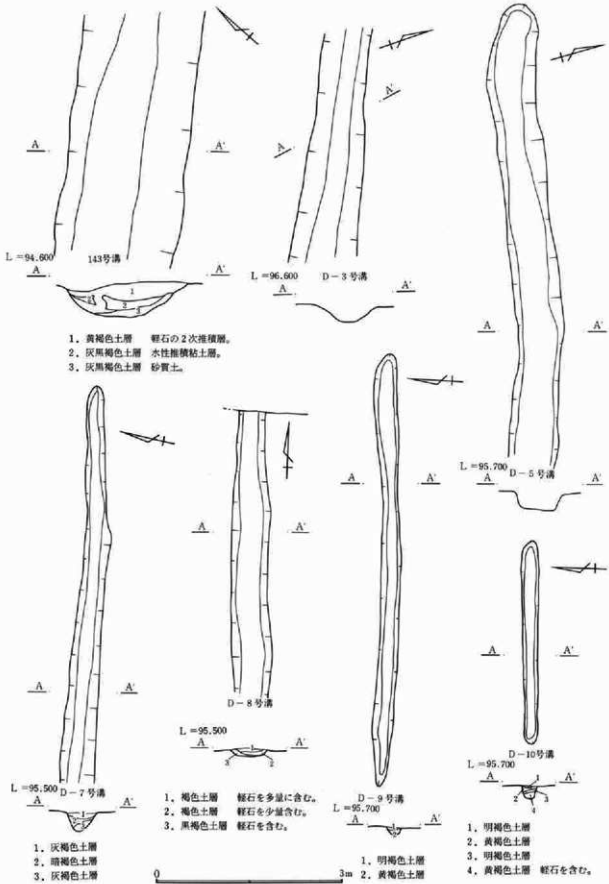
D-16号溝

1. 茶褐色土層 軽石を含む。
2. 暗褐色土層 軽石を少量含む。
3. 黒灰褐色土層 軽石を少量含む。



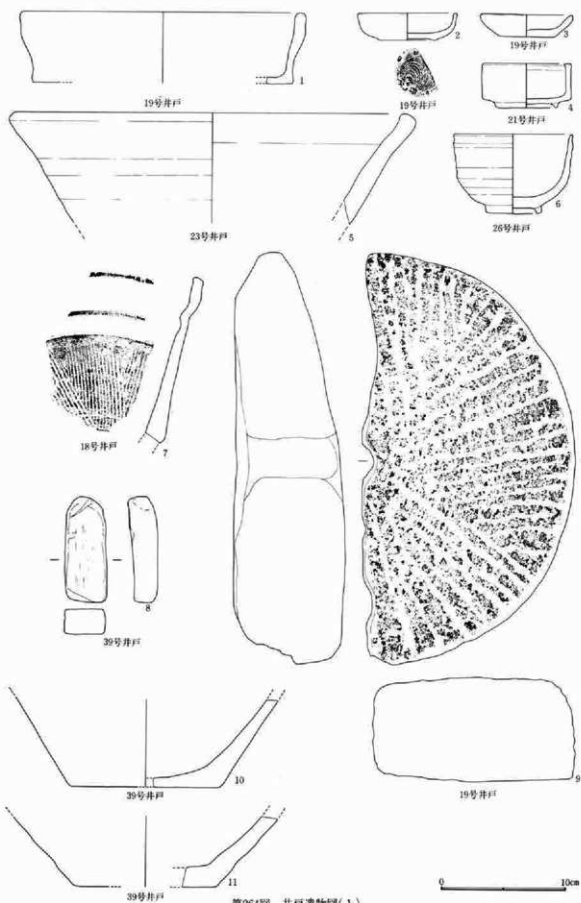
縮尺=1/60

第262図 溝遺構図(5)



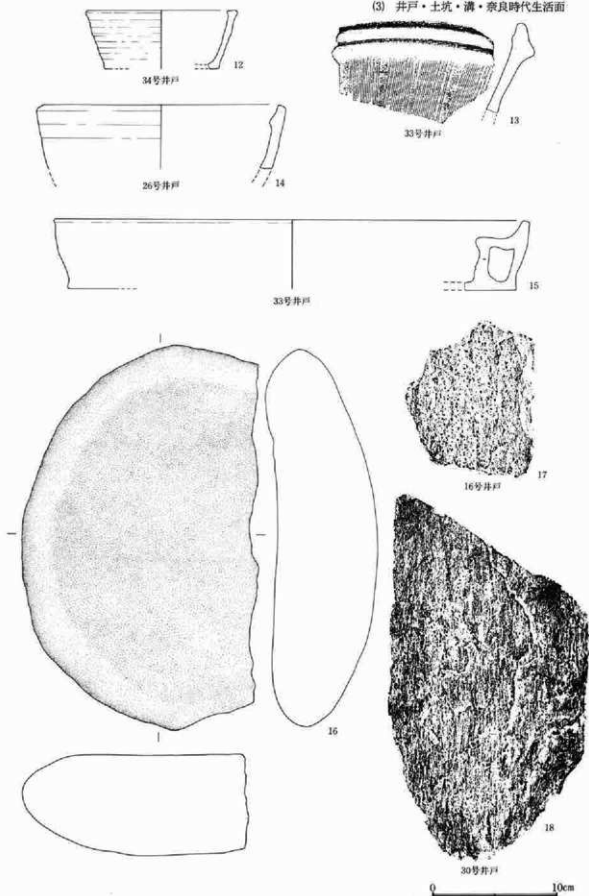
第263図 溝遺構図(6)

5. 検出された遺構と遺物



第264図 井戸遺物園(1)

(3) 井戸・土坑・溝・奈良時代生活面



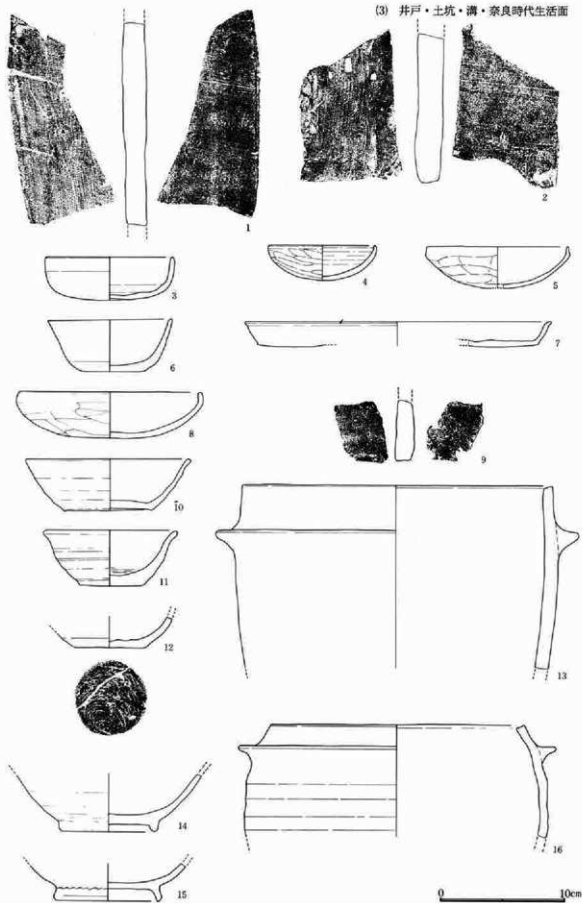
第265図 井戸遺物図

5. 検出された遺構と遺物



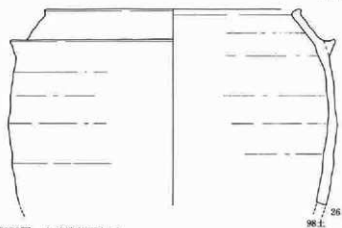
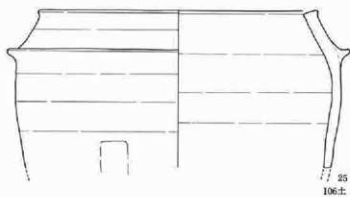
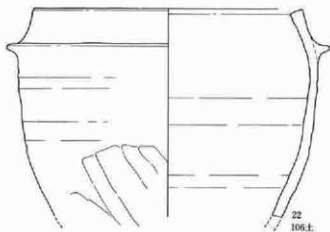
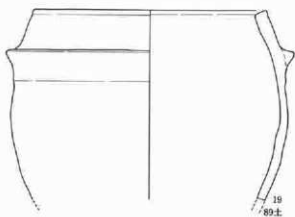
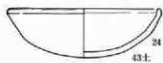
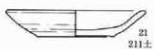
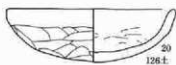
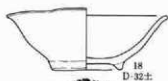
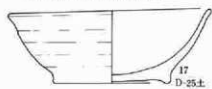
第266図 井戸遺物園(3)

(3) 井戸・土坑・溝・奈良時代生活面

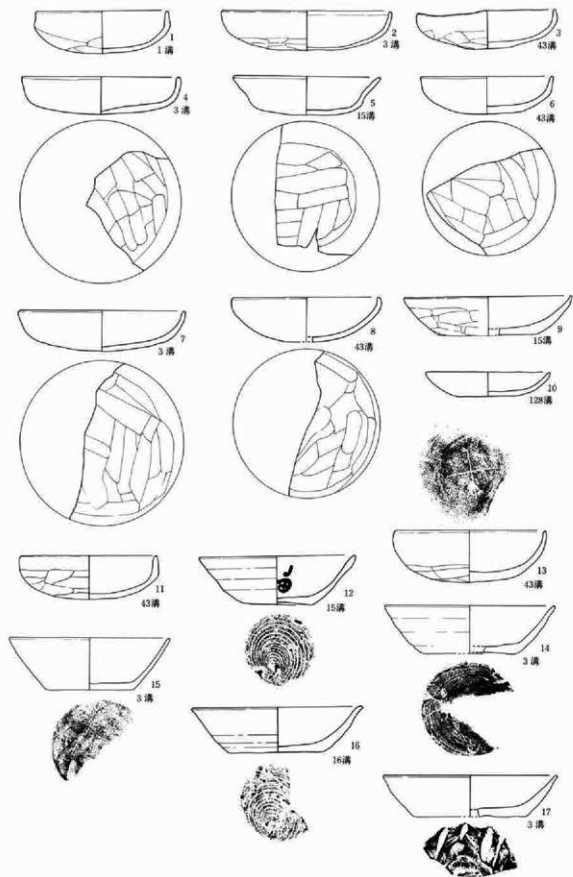


第267図 土坑遺物図(1)

5. 検出された遺構と遺物

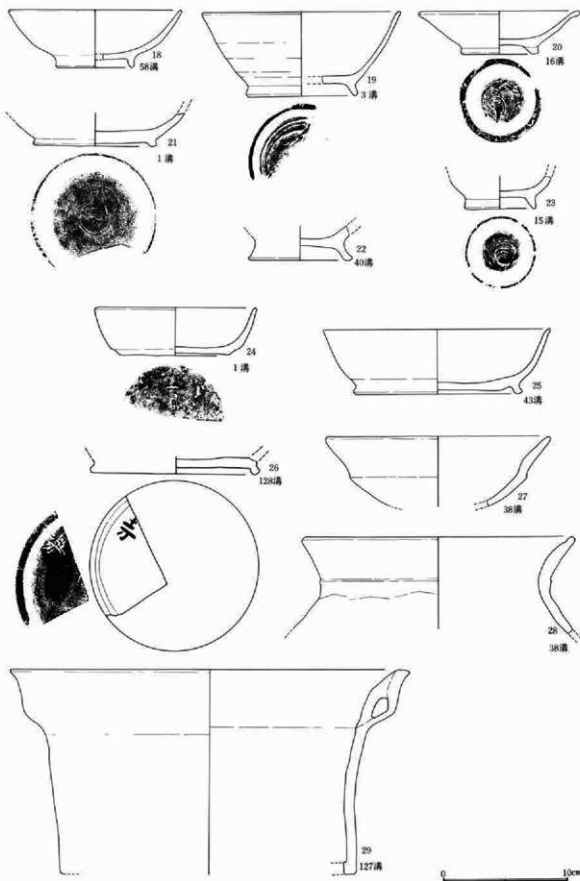


第268図 土坑遺物図(2)

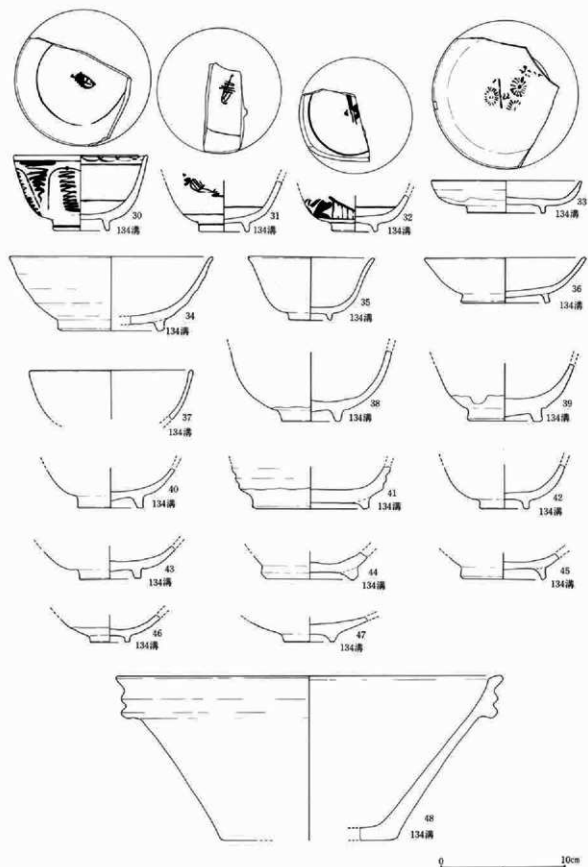


第269図 溝遺物図(1)

5. 検出された遺構と遺物

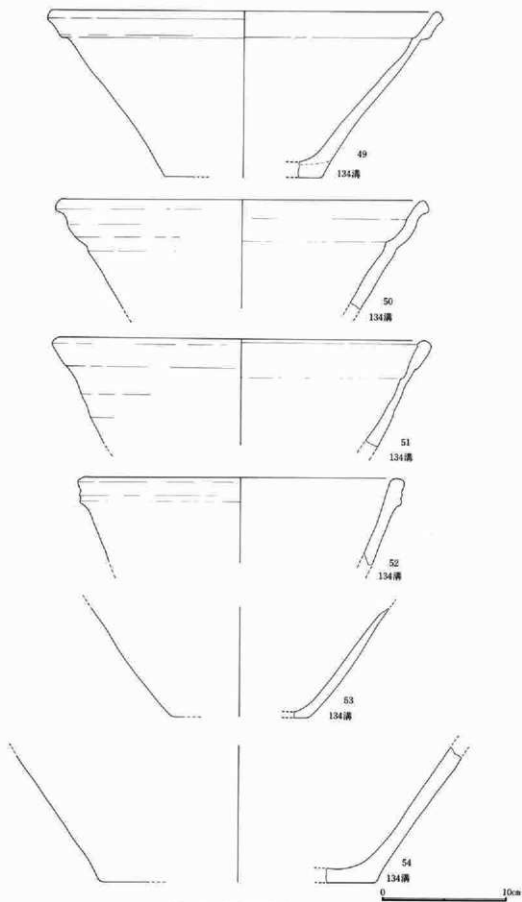


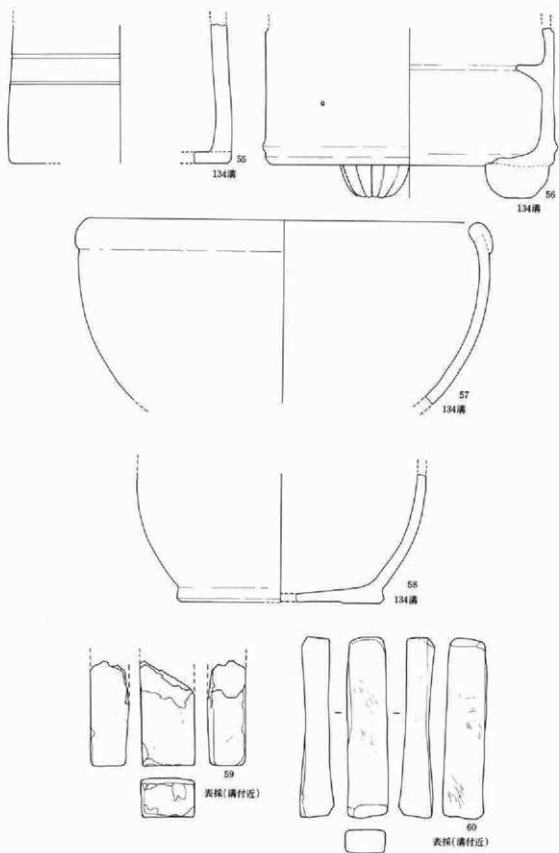
第270区 溝遺物図(2)



第271図 溝遺物図(3)(陶磁器)

5. 検出された遺構と遺物

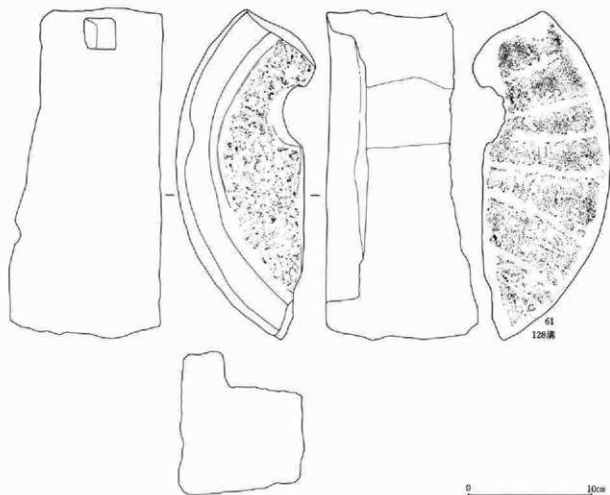




0 10cm

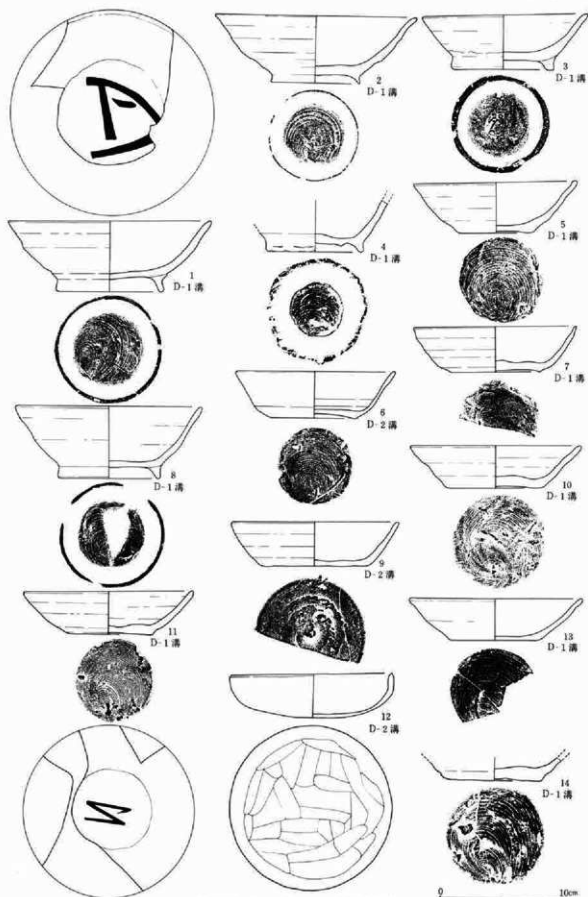
第273図 溝遺物図(5)

5. 検出された遺構と遺物



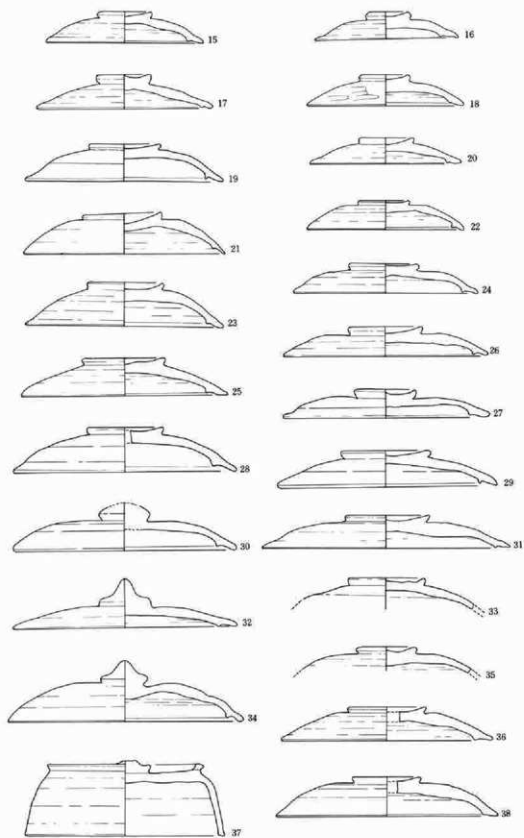
第274図 溝遺物図(6)

(3) 井戸・土坑・溝・奈良時代生活面



第275図 D-1号・D-2号溝遺物図

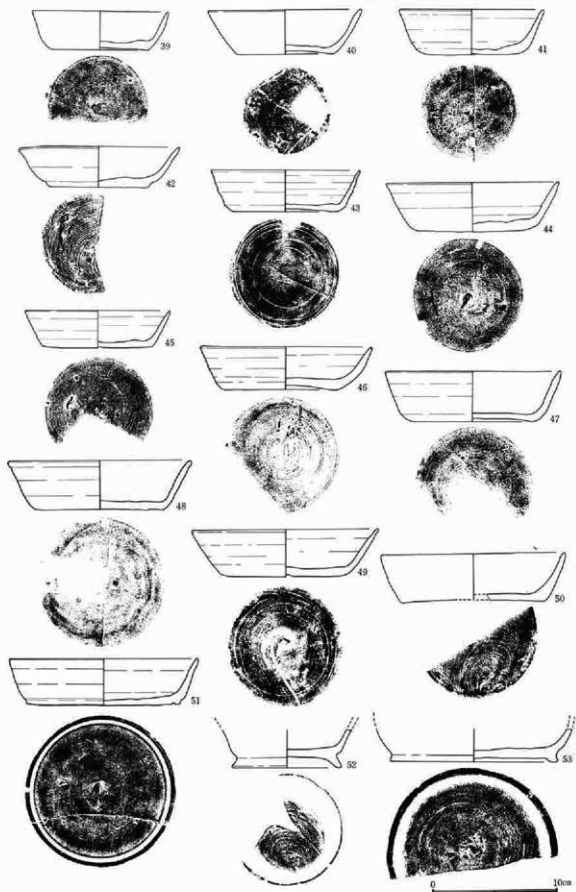
5. 検出された遺構と遺物



第276図 D-4号溝遺物図(1)

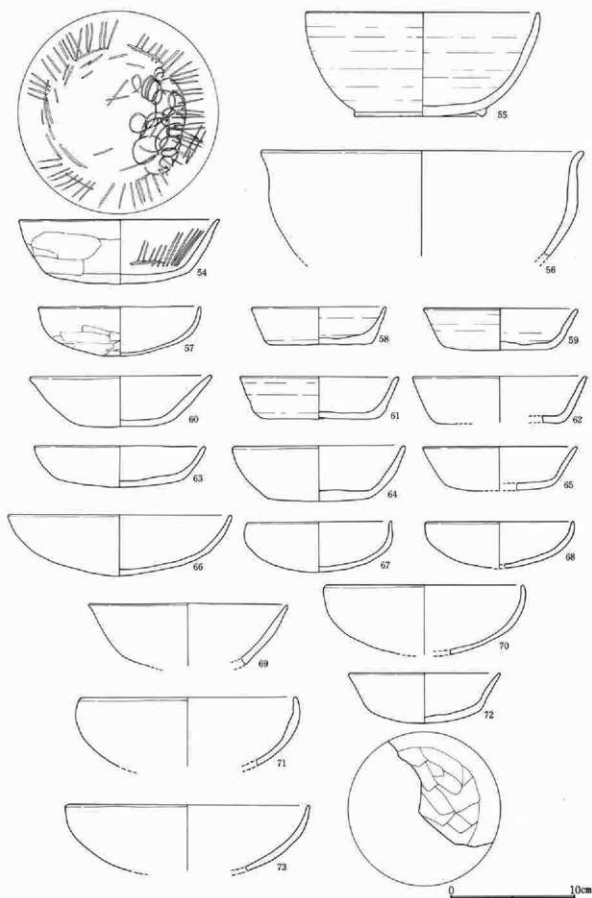
0 10cm

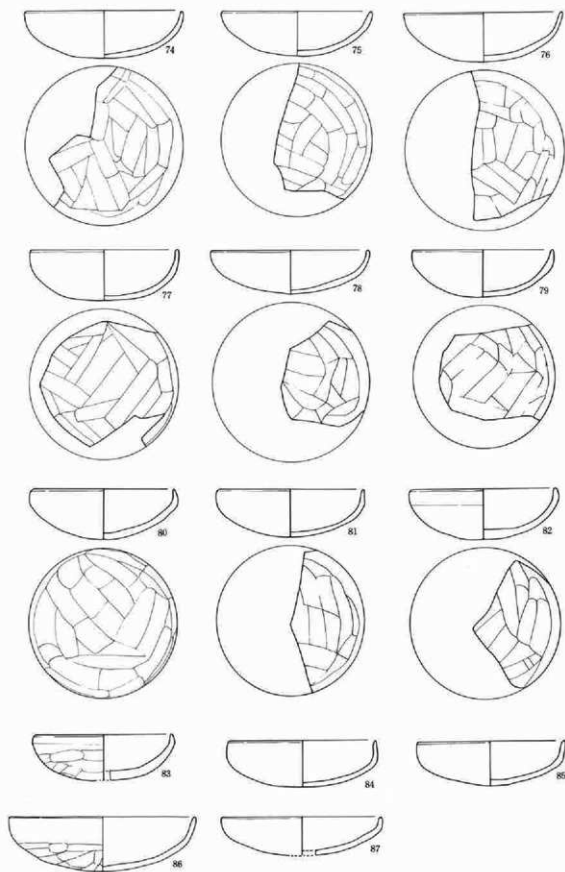
(3) 井戸・土坑・溝・奈良時代生活面



第277图 D-4号溝遺物图(2)

5. 検出された遺構と遺物

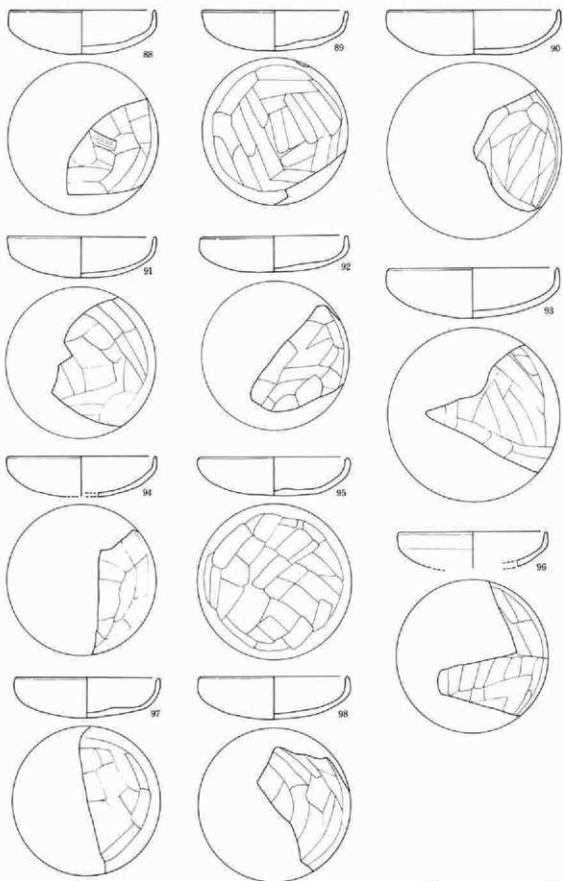




第279图 D-4号溝遺物图(4)

0 10cm

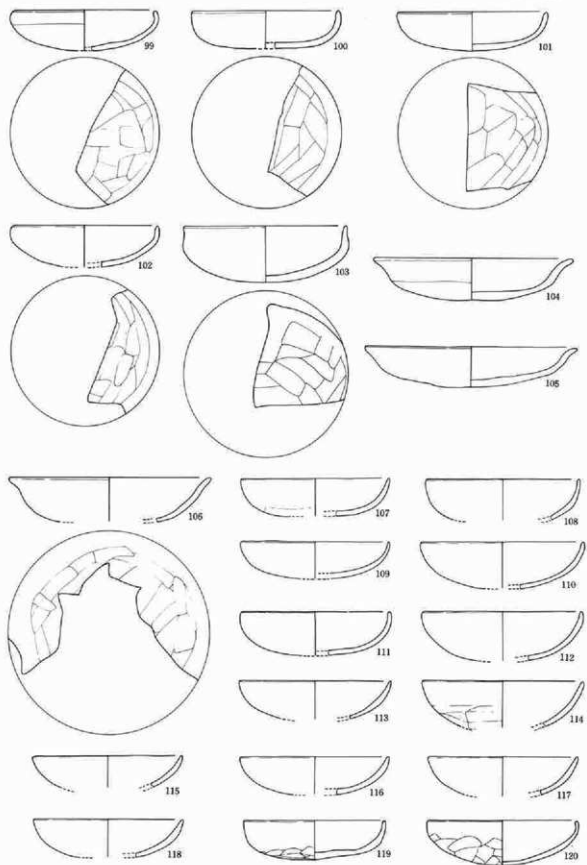
5. 検出された遺構と遺物



0 10cm

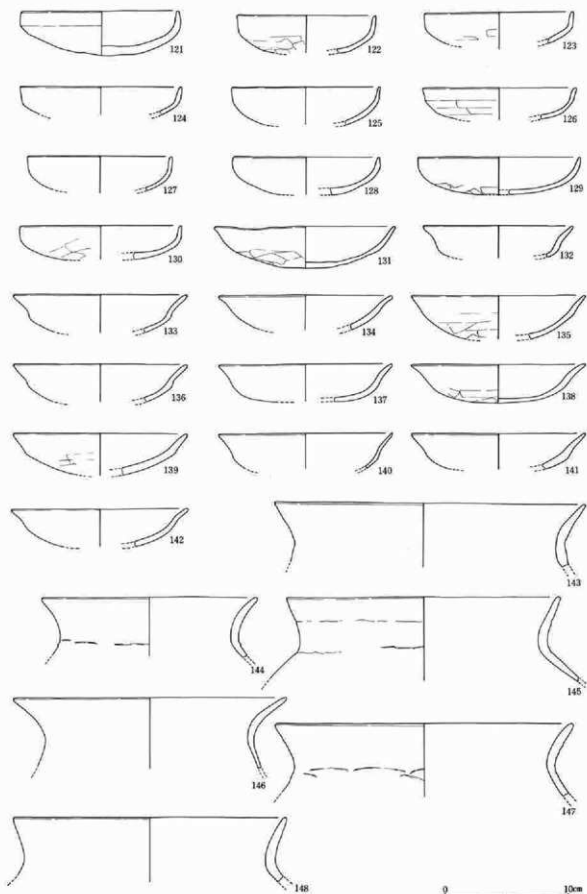
第280図 D-4号溝遺物図(5)

(3) 井戸・土坑・溝・奈良時代生活面

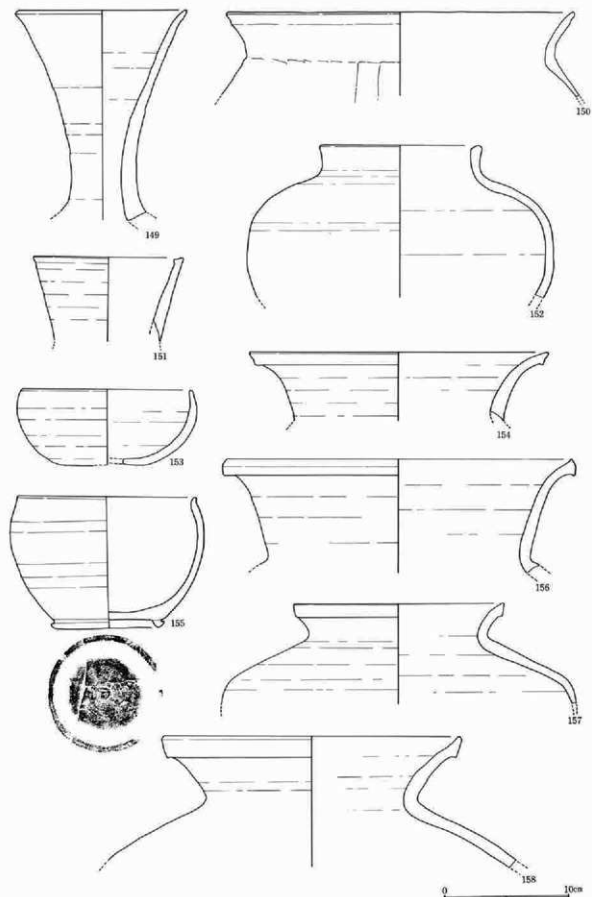


第281图 D-4号溝遺物图(6)

5. 検出された遺構と遺物

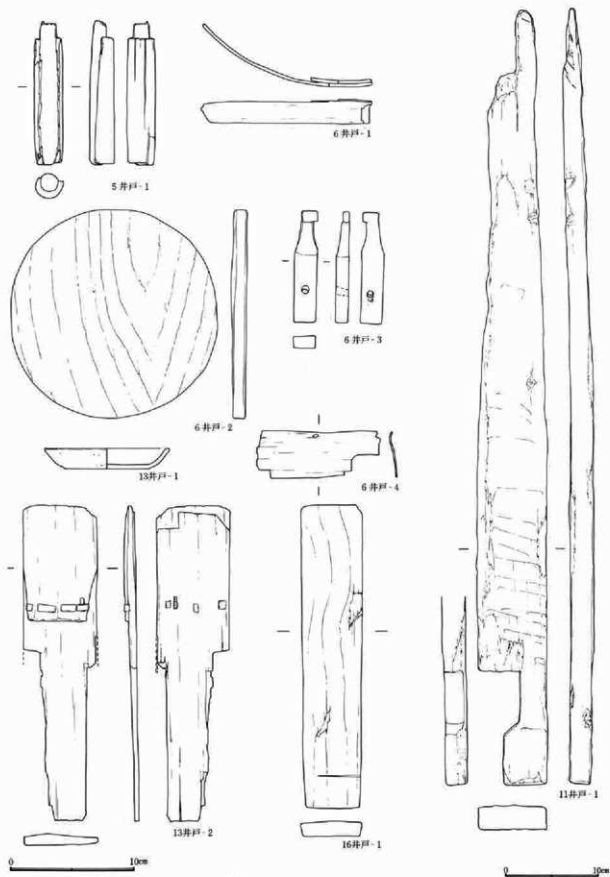


第282図 D-4号溝遺物図(7)

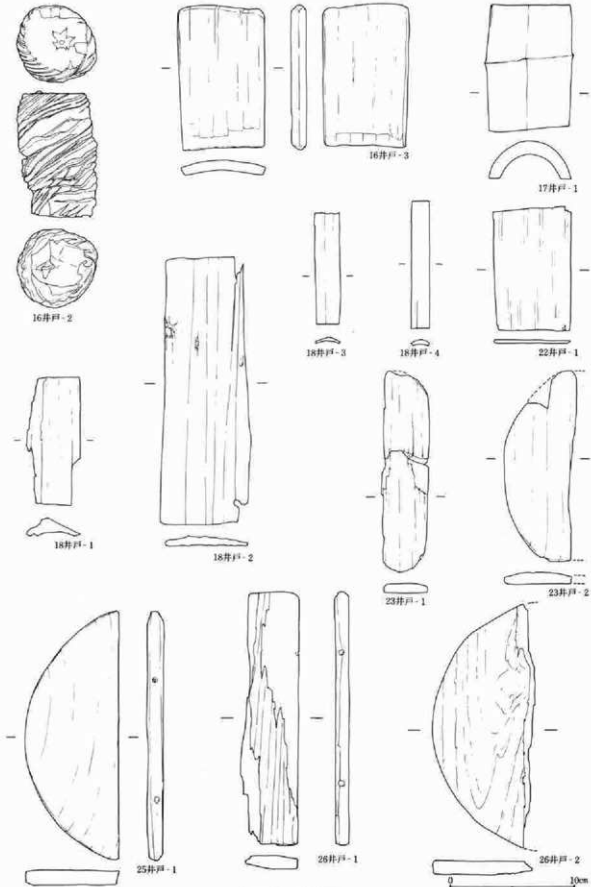


第283图 D-4号溝遺物图(8)

5. 検出された遺構と遺物

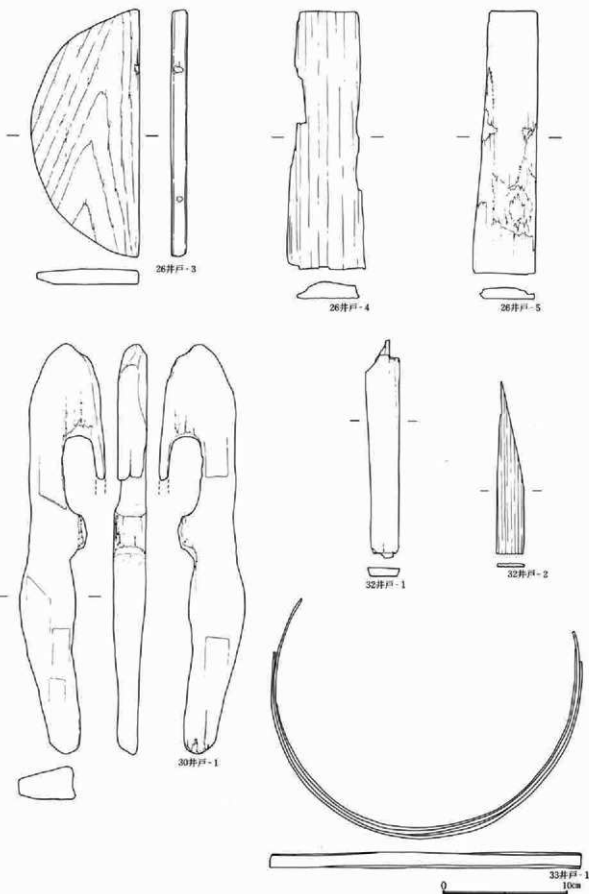


第284図 木器図(1)

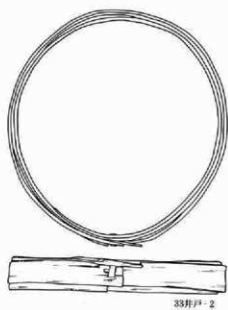


第285図 木器図(2)

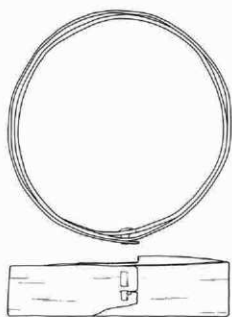
5. 検出された遺構と遺物



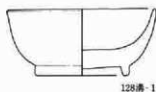
(3) 井戸・土坑・溝・奈良時代生活面



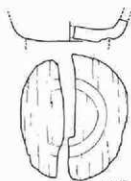
33井戸-2



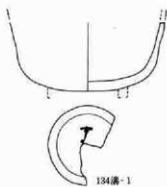
33井戸-3



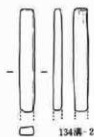
128溝-1



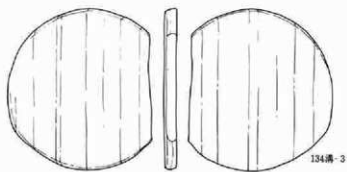
128溝-2



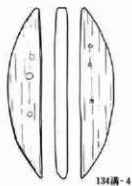
134溝-1



134溝-2



134溝-3

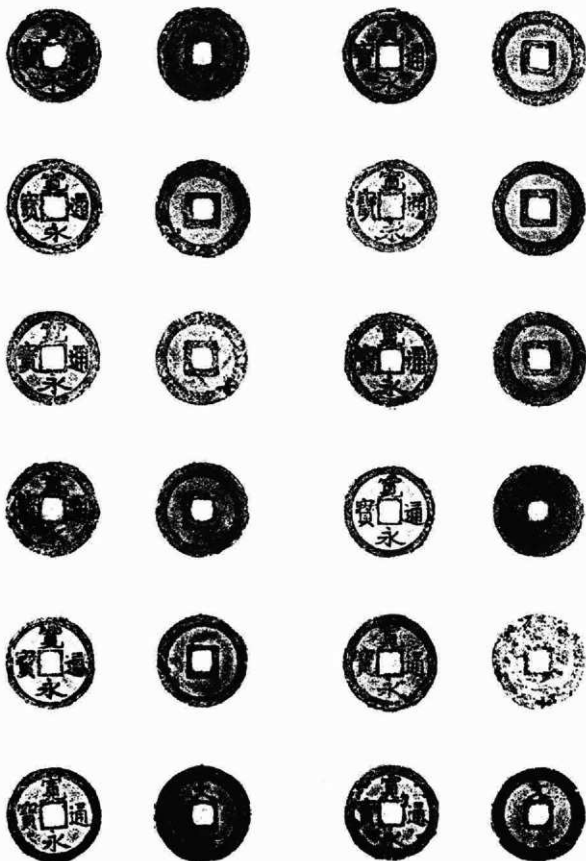


134溝-4

0 10cm

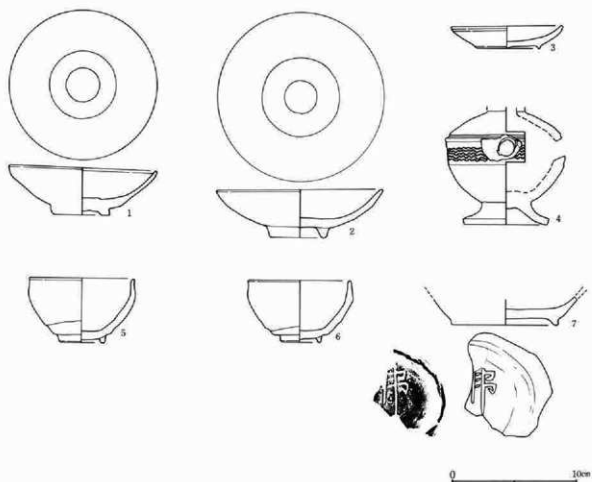
第287図 木器図(4)

5. 検出された遺構と遺物



第288図 古銭

(3) 井戸・土坑・溝・奈良時代生活面



第289図 道橋外遺物図

5. 検出された遺構と遺物

第96表 陶磁器観察表

番号	器種・種別 軸 調	出土位置	基 目	胎土・焼成・釉色	摘 要	備 考
井一1	軟質陶器 内耳盤 横焼	19号井戸 埋土中	口縁部～底 部破片	赤色鉱物粒含む 並 黒褐色	体部外面に、押圧成形による圧迫痕あり。口縁部 の内・外面横撫で。	在地製品 17～19C
井一2	陶器 皿 鉄軸	19号井戸 埋土中	片残存	茶褐色 硬 鉄錆色	底部に轆轤右回転の糸切り痕あり。軸は底面を除 いて無軸。	製作地不詳 17～19C
井一3	土師質土器 小皿	19号井戸 埋土中	片残存	赤褐色鉱物粒含む 並 浅褐色	底部に糸切り痕あり。	在地製品 17C
井一4	陶器 香炉 胎軸	21号井戸 埋土中	片残存	灰色 硬 淡茶色	内面は口縁部、外面は体部のみ胎軸。他は露胎と なる。	製作地不詳 18C
井一5	軟質陶器 鉢 短軸	23号井戸	口縁部片	黒色鉱物粒含む 並 灰色	口縁部周辺に横撫であり。体部外面に、指頭圧痕 あり。	在地製品 14C
井一6	陶器 筒 鉄軸・灰軸	26号井戸	口縁部少量 欠損	灰色 硬 黒褐色・淡黄緑色	外面の体部下平に鉄軸。体部上方及び内面に灰軸 が施軸される拵分け。外面中に4条の轆轤痕あり。	瀬戸焼 18C
井一7	陶器 擂鉢 鉄軸	18号井戸	口縁～体部 片	淡黄灰色 並 茶褐色	内面に、17条+6本を単位とする節し目条線あり、 見込中央に施された円環の一部が残る。	美濃焼 17～18C
井一10	陶器 擂鉢 鉄軸	39号井戸	体部～底部 片	淡黄灰色 並 茶褐色	内・外面に胎軸。底部は糸切り。内面に18条の節 し目条線あり。見込中央に円環の節し目が施され る。	美濃焼 17～18C
井一11	軟質陶器 鉢 横焼	39号井戸	体部～底部 片	黒色鉱物粒含む 並 灰黒色	内面に5条の節し目条線あり。内面のみ横し焼。 底部調整は磨耗のため不詳。内面に削痕あり。	在地製品 15C
井一12	陶器 香炉 胎軸	34号井戸	口縁～体部 片	淡黄灰色 硬 淡黄褐色	内面外部下平が露胎となり他は胎軸される。外面 に7条の轆轤目あり。	美濃焼 18C
井一13	陶器 擂鉢 鉄軸	33号井戸	口縁部片	鉱物粒含む 硬 赤褐色	内・外面に胎軸される。内面に9条の節し目条線 あり。	製作地不詳 18～19C
井一14	軟質陶器 内耳盤形 横焼	26号井戸	口縁～体部 片	鉱物粒微 硬 黒褐色	内面に内耳の痕跡あり。	在地製品 17～19C
井一15	軟質陶器 内耳盤形 横焼	33号井戸	口縁～体部 片	鉱物粒微 硬 黒褐色	内面に内耳あり。体部外面下平に指圧痕あり。内・ 外面撫で。	在地製品 17～18C
溝一10	陶器 皿 鉄軸	128号溝	片残存	黒褐色 並 灰褐色	体部下平を除き胎軸される。内・外面、夥しい油 煙が付着する。灯火皿。	製作地不詳 18～19C

(3) 井戸・土坑・溝・奈良時代生活面

溝-29	軟質陶器 内耳鍋 茶焼	127号溝	口縁～底部	紅物粒含む 並 淡褐色	内面に内耳二ヶ所あり。体部外面下半に指圧痕あり。復元率約半分。破片数5点。	在地製品 15C後半
溝-30	磁器 碗 染付	134号溝	口縁～底部	白色 硬 白磁釉	内・外面に染付施文あり。外面は蓮弁文。見込に帆掛船の文様あり。呉須は淡い青色を呈す。	伊万里系 19C前半
溝-31	磁器 碗 染付	134号溝	体部～底部 片	白色 硬 白磁釉	内・外面に染付施文あり。見込に帆掛船の文様あり。呉須は淡い青色を呈す。	伊万里系 19C前半
溝-32	磁器 碗 染付	134号溝	体部～底部 片	白色 硬 白磁釉	内・外面に染付施文あり。見込に帆掛船の文様あり。呉須は淡い青色を呈す。	伊万里系 19C後半
溝-33	陶器 皿 灰釉	134号溝	残残存	灰色 硬 淡黄緑色	内面に、菊花の鉄絵印花が施される。釉は、体部外面下半を除き施釉。口縁部に油煙付着。燈火皿。	瀬戸焼 17C
溝-35	陶器 小碗 長石釉	134号溝	残残存	淡黄灰色 並 淡黄灰色	高台端部を除き施釉。外面に梅花文あり。梅花は白土、模は鉄絵（動物）	美濃焼 18C
溝-38	陶器 碗 胎釉	134号溝	体部～底部 片	淡黄灰色 並 淡褐色	高台及び高台ぎわを除き施釉。内・外面に轆轤目あり。	美濃焼 18C
溝-39	陶器 碗 胎釉	134号溝	底部片	淡黄灰色 並 淡褐色	高台及び高台ぎわを除き施釉。内・外面に轆轤目あり。	瀬戸焼 18C
溝-40	陶器 碗 胎釉	134号溝	底部片	淡黄灰色 並 淡褐色	高台及び高台ぎわを除き施釉。内・外面に轆轤目あり。	美濃焼 18C
溝-41	陶器 鉢 鉄釉	134号溝中	底部片	淡黄灰色 並 茶色	高台周辺と高台部を除き、内・外面に施釉。	美濃焼 17～18C
溝-42	陶器 小碗 胎釉・長石釉	134号溝中	底部片	淡灰色 並 暗褐色・透明	内面に長石釉。高台端部を除く外面に胎釉が掛けられている。	美濃・瀬戸 焼 18C
溝-43	陶器 碗 胎釉	134号溝中	体部～底部 片	淡黄灰色 並 暗褐色	内面と、外面上半に胎釉が施される。体部外面下半と高台に、淡い鉄物が施される。	美濃焼 18C
溝-46	陶器 小碗 天目釉	134号溝中	体部～底部 片	淡灰色 並 黒色	外面体部下半を除き施釉される。器内薄作り。	京焼系 18～19C
溝-47	磁器 皿 白磁	134号溝中	底部片	白色 硬 白色	高台を除き内・外面に施釉。内面に蛇の目の物刺あり。鉄絵が施される。	唐津系 17C後半
溝-48	陶器 漆鉢 鉄釉	134号溝中	口縁～底部 片	淡黄灰色 硬 茶色	外面上方から内面口縁部に鉄絵が施される。郭し目は、19条+αを条単位とする。	生産地不詳 18～19C

5. 検出された遺構と遺物

溝-49	陶器 摺鉢 鉄軸	134号溝中	口縁~底部 片	淡黄灰色 硬 茶褐色	内・外面に鉄軸が施される。内面に13条+aの加し目あり。	美濃焼 18C
溝-50	陶器 摺鉢 鉄軸	134号溝中	口縁部片	淡黄灰色 硬 茶褐色	内・外面に鉄軸が施される。内面に13条+aの加し目あり。	美濃焼 18C
溝-51	陶器 摺鉢 鉄軸	134号溝中	口縁部片	淡黄灰色 硬 茶褐色	内・外面に鉄軸が施される。内面に13条+aの加し目あり。	美濃焼 18C
溝-52	陶器 摺鉢 灰軸	134号溝中	口縁部片	淡黄灰色 並 淡灰緑色	外面・内面・口縁部下に灰軸の施軸あり。内面に、縦細な牽気が無数に施されて加し目とされている。	美濃焼 18~19C
溝-53	軟質陶器 浅鍋 横焼	134号溝中	体部下半片	鉱物粒微 硬 黒灰色	体部内・外面に轆轤目あり。器内調整は、極めて薄作り。	在地製品 18~19C
溝-54	陶器 壺 鉄軸	134号溝中	体部~底部 片	赤褐色 硬 褐色	内・外面に鉄軸施軸。軸は刷毛塗。底面に砂床の痕跡あり。	製作地不詳 18~19C
溝-55	軟質陶器 火入 椀	134号溝中	体部~底部 片	鉱物粒微 軟 黒褐色	内面に轆轤目あり。外面、2条の比喩と石目状の凸凹あり。	在地製品 18~19C
溝-56	軟質陶器 火起 素焼	134号溝中	体部~底部 片	淡褐色 並 素焼き	体部外面は白土掛け。型物として合せ目あり。内面に受けの造り出しあり。体部膝下部に通気孔の割込あり。体部下方に1穴、脚部に2穴刺突孔あり。脚部は菊座型を呈す。	在地製品 18~19C
溝-57	陶器 鉢 長石軸	134号溝中	口縁~体部 片	淡黄灰色 硬 淡黄灰色	内・外面に施軸される。口縁は玉縁となる。	京焼系 18~19C
溝-58	陶器 鉢 石英軸	134号溝中	体部~底部 片	淡褐色 並 淡灰色	高台部を除き、内・外面に施軸される。内面にトチン痕あり。	製作地不詳 18~19C

第97表 土坑遺物観察表

番号	器種別	計 画 値 (cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1 3土坑	平 瓦	瓦観察表、1類A-土1参照			
No-2 3土坑	平 瓦	瓦観察表、1類A-土2参照			
No-3 9土坑	坏 頭 患	□-10.3	覆 土	底部 手持らへう調整。	②灰色 ③患 ④残存
No-4 10土坑	坏 土 鉢	□-8.7 高-3.8	覆 土	口縁部 やや内湾する。口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②にぶい褐色 ③細砂粒含む ④残存
No-5 10土坑	坏 土 鉢	(□)11.2	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。	②褐色 ③細砂粒含む ④残存

(3) 井戸・土坑・溝・奈良時代生活面

No-6 12土坑	環 須 恵	口-10.0 高-4.1 底-5.0	覆 土	底部は切り取り後、ヘラで調整	②灰褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④片残存
No-7 10土坑	盤 須 恵	(底)22.5	覆 土	底部 手持りヘラ調整。	②黄灰色 ③密 ④口縁破片
No-8 10土坑	環 土 師	口-14.6 高-3.7	覆 土	口縁部 やや内湾する。口縁 ココナデ。 体部 ヘラツズリ。内面 ナデ。	②褐色 ③細砂粒含む ④兜形
No-9 30土坑	平 瓦	瓦敷敷表、1類A-土15参照			
No-10 14土坑	環 須 恵	口-13.3 底-3.9	覆 土	底部 回転糸切り右廻り。	②灰褐色 ③細砂粒含む ④ほぼ兜形
No-11 43土坑	環 土 師	口-10.7 高-4.4 底-5.1	覆 土	底部 回転糸切り。	②淡褐色 ③細砂粒含む ④片残存
No-12 54土坑	環 須 恵	底-5.6	覆 土	底部 回転糸切り。	①やや酸化 ②におい黄褐色 ④底部のみ残存
No-13 28土坑	羽 釜	(口)24.8	覆 土	器面が荒れている。	①酸化 ②明褐色 ③3~4mmの 砂粒含む ④口縁~胴部片残存
No-14 98土坑	埴 灰 輪	底-7.3	覆 土	付高台。底部 回転ヘラ調整。	②灰白色 ③密 ④底部破片
No-15 98土坑	埴 須 恵	底-6.2	覆 土	付高台。底部 回転糸切り。	②灰白色 ④底部片残存
No-16 32土坑	羽 釜	(口)20.4	覆 土	脚 上を向く。口縁部 内傾する。	①やや酸化 ②におい褐色 ③1 ~2mmの砂粒含む ④口~胴破片
No-17 D-25 土坑	環 須 恵	口-16.2 高-5.7 底-9.4	覆 土	ナデ残存。	①酸化 ②褐色 ③3~4mmの砂 粒含む ④ほぼ兜形
No-18 D-32 土坑	埴 須 恵	口-13.0 高-4.8 底-5.2	覆 土	付高台。底部 回転糸切り。成形調整線。	②灰黄色 ③2~3mmの砂粒含む ④ほぼ兜形
No-19 89土坑	羽 釜	(口)19.0	覆 土	脚 短く、上を向く。口縁部 内傾する。	②褐色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁~胴部破片
No-20 126土 坑	環 土 師	口-14.0 高-4.0	覆 土	全体にゆがみがひどく、ナデ調整も稀。	②におい黄褐色 ③細砂粒含む ④兜形
No-21 211土 坑	皿 陶 器	口-11.5 高-2.2 底-6.5	覆 土	内・外面に旋転される。内面に三目トチン痕 あり。底部は削り出し。美濃焼。	②淡黄灰色 ④兜形
No-22 106土 坑	羽 釜	(口)20.5	覆 土	脚 上を向く。下胴部 ナデ。	①還元 ②灰色 ③3~4mmの砂 粒含む ④口縁~胴部破片
No-23 211土 坑	皿 陶 器	口-11.2 高-1.8 底-6.8	覆 土	内・外面に旋転される。底部は削り出し。美 濃焼。	②淡黄灰色 ④兜形

5. 検出された遺構と遺物

No-24 43土坑	環 土 師	□-12.4 高-3.9	覆 土	口縁部 内側に屈曲する。口縁部 ヨコナデ。 体部 ヘラケズリ。	②にぶい褐色 ③細砂粒含む ④完形
No-25 106土坑	羽 釜	(□)22.5	覆 土	胴 短く、上を向く。胴下部にナデ残る。	①還元 ②灰色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁へ側部破片
No-26 98土坑	羽 釜	(□)20.5	覆 土	胴 短く、上を向く。口縁部 内積する。	②にぶい黄褐色 ③3~4mmの砂粒含む

第98表 溝遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1 1溝	環 土 師	(□)10.6 (高)3.4	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。	②褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部破片
No-2 3溝	環 土 師	(□)13.8 高-3.1	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	②にぶい褐色 ③細砂粒含む ④片残存。
No-3 43溝	環 土 師	(□)11.0 高-3.0	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	②褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④片残存
No-4 3溝	環 土 師	(□)12.7 高-3.0	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	②褐色 ③細砂粒含む ④片残存
No-5 15溝	環 土 師	(□)12.0 高-3.0	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	②褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④片残存
No-6 43溝	環 土 師	(□)10.5 高-3.0	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	②にぶい褐色 ③細砂粒含む ④片残存
No-7 3溝	環 土 師	(□)13.4 高-3.2	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	②にぶい褐色 ③細砂粒含む ④片残存
No-8 43溝	環 土 師	(□)12.0 高-4.5	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	②褐色 ③細砂粒含む ④片残存
No-9 15溝	環 土 師	(□)13.5	覆 土	外面 口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	②にぶい黄褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁部片残存
No-10 128溝	皿 陶 器	第96表 陶器観察表。溝-10参照			
No-11 43溝	環 土 師	(□)11.0 高-3.4	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	②褐色 ③細砂粒含む ④完形
No-12 15溝	環 須 恵	□-12.4 高-3.8	覆 土	口縁部 厚くなる。底部 回転糸切り右廻り。 外面 体部に墨書。	②灰褐色 ③1~2mmの砂粒含む。 ④完形
No-13 43溝	環 土 師	□-12.3 高-4.1	覆 土	外面 口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。 内面 ナデ。内側 底部に×のヘラ記号。	②褐色 ③細砂粒含む ④片残存
No-14 3溝	環 須 恵	(□)13.6 高-3.8 底-7.5	覆 土	底部 回転糸切り。	②灰白色 ③密 ④片残存
No-15 3溝	環 須 恵	(□)13.0 高-4.2 底-4.2	覆 土	底部 手持ちヘラケズリ。	②灰白色 ③密 ④片残存

(3) 井戸・土坑・溝・奈良時代生活面

No-16 16溝	坏 須 恵	口-13.8 高-3.6 底-5.5	覆 土	底部 回転糸切り。右回転。内面に墨書。	②灰白色 ③密 ④瓦残存
No-17 3溝	坏 須 恵	(口)14.0 高-3.3 底-9.0	覆 土	口縁端部 薄くなり、やや外湾する。	②灰白色 ③細砂粒含む ④瓦残存
No-18 58溝	埴 須 恵	口-14.0 高-4.6 底-6.4	覆 土	灰軸。口縁部 部分的に軸がかかる。付高台。 底部 回転糸切り。	②灰白色 ③細砂粒含む ④瓦残存
No-19 3溝	埴 須 恵	(口)16.0 高-6.7 底-9.0	覆 土	付高台。底部 回転糸調整。	②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④瓦残存
No-20 16溝	埴 須 恵	高-3.4 底-6.4	覆 土	付高台。底部 回転糸切り。	②灰色 ③密 ④瓦残存
No-21 1溝	埴 須 恵	(底)10.0	覆 土	付高台。底部 回転糸調整。	②灰色 ③密 ④底部瓦残存
No-22 40溝	埴 須 恵	(底)8.3	覆 土	付高台。	②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④底部のみ残存
No-23 15溝	埴 須 恵	底-5.2	覆 土	付高台。底部 回転糸切り。	②灰色 ③密 ④底部のみ残存
No-24 1溝	坏 須 恵	口-14.2 高-3.5 底-9.0	覆 土	底部 回転糸調整。	②灰白色 ③密 ④破片
No-25 43溝	埴 須 恵	口-18.3 高-5.1 底-13.6	覆 土	付高台。内面 体部 非回転ナデ。底部 回 転糸切り。	②灰色 ③細砂粒含む ④瓦残存
No-26 128溝	坏 須 恵	(底)13.5	覆 土	底面 付高台。「寺」のへら描きあり。	②灰色 ③密 ④底部破片
No-27 38溝	坏 土 師	(口)18.0	覆 土	内・外面 ナデ調整。	②淡褐色 ③細砂粒含む ④破片
No-28 38溝	埴 土 師	(口)22.0	覆 土	口縁部 ヨコナデ。割 へら痕残る。内面 ナデ。	②褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁瓦残存
No-34 134溝	埴 須 恵	(口)16.5 (高)6.0 (底)8.5	覆 土	付高台。内面 自然軸。	②灰白色 ③密 ④瓦残存
No-36 134溝	埴 須 恵	(口)13.0 (高)3.5 (底)7.0	覆 土	付高台。底部 回転糸調整。	②灰色 ③密 ④瓦残存
No-37 134溝	埴 須 恵	(口)13.0	覆 土		②灰色 ③密 ④口縁部破片
No-44 134溝	埴 須 恵	(口)13.0 (高)3.5 (底)7.0	覆 土	付高台。底部 回転糸切り。	②灰褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④底部破片
No-45 134溝	埴 須 恵	(底)7.0	覆 土	付高台。底部 回転糸調整。	②灰色 ③密 ④底部破片

5. 検出された遺構と遺物

第99表 D区溝遺物観察表

番号	器種 類別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
D-1号溝 No-1	埴 須恵	(口)16.4 (高)5.6 (底)8.6	覆土	付高台。底部 回転糸切り。内面に墨書あり。	②灰色 ③細砂粒含む ④片残存
No-2	埴 須恵	口-16.0 高-5.5 底-7.2	覆土	付高台。底部 回転糸切り後ナデ。	②灰色 ③密 ④片残存
No-3	埴 須恵	口-13.1 高-4.3 底-8.2	覆土	付高台。整形やや粗雑。	②灰色 ③2~3mmの砂粒含む ④ほぼ完形
No-4	埴 須恵	口-13.1 高-5.0 底-8.0	覆土	付高台。底部 周辺ナデ板残る。雑な整形。	①酸化さび ②ふいじ色 ③1 ~2mm砂粒含む ④底部のみ残存
No-5	坏 須恵	口-13.1 高-5.0 底-6.0	覆土	底部 回転糸切り。右廻り。	②灰色 ③1~2mmの砂粒含む ④ほぼ完形
D-2号溝 No-6	坏 須恵	口-12.8 高-3.7 底-6.7	覆土	底部 回転糸切り。右廻り。	②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④完形
D-1号溝 No-7	坏 須恵	(高)3.4 (底)7.5	覆土	底部 糸切り痕。	②灰白色 ③細砂粒含む ④片残 存
No-8	埴 須恵	口-15.0 高-5.7 底-8.2	覆土	付高台。底部 回転糸切り。	②灰色 ③密 ④口縁部欠損
D-2号溝 No-9	坏 須恵	口-13.6 高-8.6 底-8.6	覆土	底部 回転ヘラ切り。	②灰色 ③1~2mmの砂粒含む ④片残存
D-1号溝 No-10	坏 須恵	(口)13.0 (底)7.3	覆土	底部 回転糸切り。右廻り。雑な整形。	②灰色 ③1~2mmの砂粒含む ④片残存
No-11	坏 須恵	口-13.6 高-3.4 底-6.6	覆土	底部 回転糸切り。上に墨書。	②灰白色 ③密 ④ほぼ完形
D-2号溝 No-12	坏 土 節	口-13.0 高-2.4	覆土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラクスリ。 内面 ナデ。	②黄褐色 ③2~3mmの砂粒含む ④ほぼ完形
D-1号溝 No-13	坏 須恵	(口)13.8 (高)2.3 (底)7.2	覆土	底部 回転糸切り。	②灰色 ③1~2mmの砂粒含む ④片残存
No-14	坏 須恵	口-13.0 高-2.4 底-7.4	覆土	底部 回転糸切り。右廻り。雑な作り。	②灰白色 ③細砂粒含む ④底部 のみ残存
D-4号溝 No-15	蓋 須恵	口-12.6 高-2.5	覆土	外面 回転ヘラ調整。	②灰色 ③細砂粒含む ④片残存
No-16	蓋 須恵	口-11.5 高-2.2	覆土	外面 回転ヘラ調整。	②灰色 ③1~2mmの砂粒含む ④ほぼ完形
No-17	蓋 須恵	口-14.2 高-2.7	覆土	外面 回転ヘラ調整。	②灰色 ③細砂粒含む ④片残存
No-18	蓋 須恵	口-12.6 高-2.5	覆土	外面 手持ちヘラクスリ。	②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④完形
No-19	蓋 須恵	(口)16.0	覆土	外面 回転ヘラ調整。内面 返りを持つ。	②灰色 ③1~2mmの砂粒含むが 密 ④片残存

(3) 井戸・土坑・溝・奈良時代生活面

D-4号溝 No-20	蓋 須恵	□-12.2 高-2.1	覆 土	回転ヘラ調整。	②灰色 ③細砂粒含む ④瓦残存
No-21	蓋 須恵	□-16.2 高-3.3	覆 土	一部に軸。	②灰色 ③細砂粒含む ④瓦残存
No-22	蓋 須恵	□-12.6 高-2.3 つまみ-4.1	覆 土		②明青灰色 ③細砂粒含む ④完形
No-23	蓋 須恵	□-16.0 高-3.5	覆 土		②灰白色 ③細砂粒含む ④瓦残存
No-24	蓋 須恵	□-14.8 高-2.2 つまみ-5.6	覆 土	外面 回転ヘラ調整。	②青灰色 ③細砂粒含む ④ほぼ完形
No-25	蓋 須恵	□-16.6 高-2.4	覆 土	外面 回転ヘラ調整。	②灰黄色 ③細砂粒含む ④ほぼ完形
No-26	蓋 須恵	□-16.4 高-2.4 底-6.0	覆 土	外面 回転ヘラ調整。	②灰色 ③細砂粒含む ④ほぼ完形
No-27	蓋 須恵	□-16.5 高-2.2	覆 土	外面 回転ヘラ調整。喉部やや窪む。 内面 返りを残す。	②灰色 ③密 ④瓦残存
No-28	蓋 須恵	(口)18.0	覆 土	外面 回転ヘラ調整。内面 返りを持つ。	②灰白色 ③密 ④瓦残存
No-29	蓋 須恵	□-17.6	覆 土	外面 回転ヘラ調整。内面 返りを持つ。	②灰色 ③密 ④瓦残存
No-30	蓋 須恵	(口)18.0	覆 土	外面 回転ヘラ調整。内面 返りを持つ。宝珠。	②灰白色 ③密 ④瓦残存
No-31	蓋 須恵	□-19.9 高-2.6	覆 土	外面 回転ヘラ調整。	②灰白色 ③1～2mmの砂粒含む ④ほぼ完形
No-32	蓋 須恵	□-18.0 高-3.9	覆 土	宝珠。	②灰白色 ③細砂粒含む ④瓦残存
No-33	蓋 須恵		覆 土	外面 回転ヘラ調整。	②灰色 ③1～2mmの砂粒含む
No-34	蓋 須恵	□-18.8 高-4.9	覆 土	外面 回転ヘラ調整。	②灰白色 ③1～2mmの砂粒含む ④瓦残存
No-35	蓋 須恵		覆 土	外面 回転ヘラ調整。	②灰白色 ③細砂粒含む ④瓦残存
No-36	蓋 須恵	□-17.0 高-2.7	覆 土		②灰白色 ③細砂粒含む ④瓦残存
No-37	蓋 須恵	□-16.0 高-6.0	覆 土	先端が欠損。宝珠。	②灰色 ③細砂粒含む ④ほぼ完形
No-38	蓋 須恵	(口)17.8 (高)3.1	覆 土	外面 回転ヘラ調整。	②灰色 ③細砂粒含む ④破片
No-39	坏 須恵	(口)11.0 (高)3.1 (底)7.7	覆 土	内面 底面機械成れる。底部 回転ヘラ調整。 回転ヘラ切り可能性有り。	②灰色 ③1～2mmの砂粒含む ④瓦残存
No-40	坏 須恵	□-12.4 高-3.5 底-7.8	覆 土	底部 回転糸切り。右廻り。	②灰白色 ③1～2mmの砂粒含む ④瓦残存

5. 検出された遺構と遺物

No-41	環 須 恵	□-11.2 高-3.6 底-8.0	覆 土	内面 底部軸縫痕残る。	②灰色 ③細砂粒含む ④片残存
No-42	環 須 恵	□-13.0 高-3.2 底-8.1	覆 土	口縁部 ヤヤ重む。底部 回転糸切り。	②灰白色 ③密 ④片残存
No-43	環 須 恵	□-12.0 高-3.3 底-8.5	覆 土	底部 回転ヘラケズリ。	②灰白色 ③細砂粒含む ④片残存
No-44	環 須 恵	□-13.8 高-3.9 底-8.5	覆 土	底部 回転ヘラ調整。	②灰白色 ③細砂粒含む ④完形
No-45	環 須 恵	□-11.6 高-3.0 底-8.8	覆 土	底部 回転ヘラ調整。	②灰白色 ③細砂粒含む ④片残存
No-46	環 須 恵	□-13.8	覆 土	底部 回転ヘラ調整。同心円中心にヘラ痕。	②灰白色 ③細砂粒含む ④片残存
No-47	環 須 恵	(□)14.0 (高)4.0 (底)9.8	覆 土	底部 回転ヘラ調整。	②灰色 ③密 ④片残存
No-48	環 須 恵	□-14.7 高-3.9 底-10.1	覆 土	底部 回転ヘラ調整。	②灰色 ③細砂粒含む ④片残存
No-49	環 須 恵	(□)15.0 (高)3.7 (底)10.3	覆 土	底部 回転ヘラ切り。ヘラ調整。	②灰白色 ③細砂粒含む ④片残存
No-50	環 須 恵	(□)14.7 (底)11.4	覆 土	底部 回転糸切り。右廻り。	②灰白色 ③細砂粒含む ④片残存
No-51	環 須 恵	□-15.2 高-3.8 底-12.3	覆 土	底部 回転ヘラ調整。 内面 底部に軸縫痕残る。	②にふい黄褐色 ③細砂粒含む ④ほぼ完形
No-52	埴 須 恵	底-8.8	覆 土	付高台。底部 回転糸切り。	②灰色 ③密 ④底部のみ残存
No-53	皿 須 恵	(底)13.4	覆 土	つまみ高台。底部 回転糸切り。	②灰白色 ③細砂粒含む ④底部 片残存
No-54	坏 土 師	□-15.8 高-5.1	覆 土	内面 放射状研摩。底部ヘラ調整。	②にふい褐色 ③1~2mmの砂粒 含む ④完形
No-55	埴 須 恵	□-18.7 高-8.2 底-10.2	覆 土	付高台。	②灰白色 ③細砂粒含む ④ほぼ 完形
No-56	大形埴 土 師	□-26.0	覆 土	内・外面共にナデ。	②褐色 ③中砂粒含む ④口縁片 残存
No-57	坏 土 師	□-13.0 高-3.9	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。	②褐色 ③細砂粒含む ④完形
No-58	環 須 恵	□-10.8 高-3.0 底-8.3	覆 土	底部 回転ヘラ調整。	②青灰色 ③細砂粒含む ④片残 存
No-59	環 須 恵	□-12.4 高-3.3 底-8.5	覆 土	底部 手持ちヘラ調整。	②灰白色 ③細砂粒含む ④ほぼ 完形
No-60	環 須 恵	(□)14.8 (高)4.0	覆 土	口縁部 直状に外傾する。内・外面共にナデ。	②褐色 ③細砂粒含む ④片残存
No-61	環 須 恵	(□)12.7 (高)3.3 (底)9.4	覆 土	底部 回転ヘラ調整。	②灰白色 ③細砂粒含む ④片残 存

(3) 井戸・土坑・溝・奈良時代生活面

D-4号溝 No-62	環 溝 遺	(口)14.0 (高)3.7	覆 土	底部 回転ヘラ調整。	②灰色 ③密 ④瓦残存
No-63	環 土 節	(口)13.8 (高)3.3	覆 土	体部から底部に轆を持つ。	②褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④破片
No-64	環 土 節	(口)14.0 (高)4.4	覆 土	口縁部 直状に外傾する。内・外面共にナデ。	②褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④瓦残存
No-65	環 土 節	(口)12.4	覆 土	体部から底部に轆を持つ。	②褐色 ③細砂粒含む ④破片
No-66	環 土 節	(口)18.0 (高)4.8	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラ調整。内面 ナデ。	②褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④瓦残存
No-67	環 土 節	(口)12.0 (高)4.0	覆 土	口縁部 ヨコナデ。内面 ナデ。底部 ヘラ 調整。	②褐色 ③細砂粒含む ④瓦残存
No-68	環 土 節	(口)12.0	覆 土	口縁部 直上に立ち上がり、ナデ。体部 ヘ ラケズリ。内面 ナデ。	②褐色 ③細砂粒含む ④瓦残存
No-69	環 土 節	口-16.0	覆 土	手持ちヘラ調整。	②褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④底部欠落
No-70	環 土 節	(口)16.0 (高)5.6	覆 土	内・外面共にナデ。	②褐色 ③細砂粒含む ④瓦残存
No-71	環 土 節	(口)17.3	覆 土	内・外面共にナデ。	②褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④瓦残存
No-72	環 土 節	(口)12.0 (高)4.0	覆 土	口縁部 ヨコナデ。直状に外傾する。底部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②褐色 ③細砂粒含む ④瓦残存
No-73	環 土 節	(口)19.5	覆 土	内・外面共にナデ。	②褐色 ③細砂粒含む ④瓦残存
No-74	環 土 節	(口)12.8 (高)3.8	覆 土	口縁部 ヨコナデ。内面 ナデ。底部 ヘラ ケズリ。	②褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④瓦残存
No-75	環 土 節	(口)12.2 高-3.5	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②褐色 ③細砂粒含む ④瓦残存
No-76	環 土 節	(口)13.0 高-4.0	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②褐色 ③細砂粒含む ④瓦残 存
No-77	環 土 節	(口)12.0 高-4.0	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②褐色 ③細砂粒含む ④瓦残存
No-78	環 土 節	(口)12.8 (高)3.5	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④瓦残存
No-79	環 土 節	(口)11.2 (高)3.8	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④瓦残存
No-80	環 土 節	口-12.0 高-4.0	覆 土	口縁部 ヨコナデ。内側にやや屈曲する。体 部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②褐色 ③細砂粒含む ④定形
No-81	環 土 節	口-12.0	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②褐色 ③細砂粒含む ④瓦残存
No-82	環 土 節	(口)12.0	覆 土	口縁部 ヨコナデ。内側にやや内湾する。体 部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②にふい褐色 ③細砂粒含む ④ 瓦残存

5. 検出された遺構と遺物

D-4号溝 No-83	坏 土 師	□-11.2 高-3.6	覆 土	口縁部 ヨコナデ。内側にやや屈曲する。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②褐色 ③細砂粒含む ④½残存
No-84	坏 土 師	□-12.0 高-3.7	覆 土	口縁部 ヨコナデ。直上に立ち上がる。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②褐色 ③細砂粒含む ④½残存
No-85	坏 土 師	□-12.0 高-3.6	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④½残存
No-86	坏 土 師	(□)15.0	覆 土	口縁部 内・外面ヨコナデ。体部 外面ヘラケズリ。内面 ナデ。	②にぶい褐色 ③中砂粒含む ④½残存
No-87	坏 土 師	(□)13.0 (高)3.0	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②褐色 ③細砂粒含む ④½残存
No-88	坏 土 師	(□)12.0	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④½残存
No-89	坏 土 師	□-11.8 高-3.2	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④ほぼ完形
No-90	坏 土 師	(□)14.0 (高)3.5	覆 土	口縁部 やや立ち上がり、ナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②褐色 ③細砂粒含む ④½残存
No-91	坏 土 師	□-12.0	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②褐色 ③細砂粒含む ④½残存
No-92	坏 土 師	(□)12.0 (高)2.8	覆 土	口縁部 直上に立ち上がり、ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②褐色 ③細砂粒含む ④½残存
No-93	坏 土 師	(□)14.0	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②褐色 ③細砂粒含む ④½残存
No-94	坏 土 師	(□)12.0 (高)3.2	覆 土	口縁部 直立し、ナデ。	②褐色 ③細砂粒含む ④½残存
No-95	坏 土 師	□-12.0 高-3.0	覆 土	口縁部 やや直上に立ち上がる。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②褐色 ③細砂粒含む ④完形
No-96	坏 土 師	(□)12.0	覆 土	口縁部 直上に立ち上がる。	②にぶい褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④½残存
No-97	坏 土 師	□-11.5 高-3.2	覆 土	口縁部 直上に立ち上がり、ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②褐色 ③細砂粒含む ④½残存
No-98	坏 土 師	(□)12.0 (高)3.4	覆 土	口縁部 直上に立ち上がり、ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②褐色 ③細砂粒含む ④½残存
No-99	坏 土 師	(□)12.0	覆 土	口縁部 やや内湾し、ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②褐色 ③細砂粒含む ④½残存
No-100	坏 土 師	(□)12.0	覆 土	口縁部 やや直上に立ち上がり、ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面ナデ。	②褐色 ③細砂粒含む ④½残存
No-101	坏 土 師	□-12.0 (高)3.0	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②褐色 ③細砂粒含む ④弱残存
No-102	坏 土 師	(□)12.0	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②褐色 ③細砂粒含む ④½残存
No-103	坏 土 師	(□)13.2 (高)4.5	覆 土	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②褐色 ③細砂粒含む ④½残存

(3) 井戸・土坑・溝・奈良時代生活面

D-4号溝 No-104	坏 土 部	□-16.0 高一3.4	覆 土	口縁部 ココナデ。底面 ヘラ調整。内面 ナデ。	②褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④片状残存
No-105	坏 土 部	(□)17.0 (高)3.2	覆 土	口縁部 内・外面ココナデ。	②褐色 ③細砂粒含む ④片状残存
No-106	坏 土 部	(□)16.2	覆 土	口縁部 外張り。ココナデ。体部 ヘラズリ。 内面 ナデ。	②褐色 ③細砂粒含む ④片状残存
No-107	坏 土 部	(□)12.0	覆 土	口縁部 ココナデ。体部 ヘラズリ。内面 ナデ。	②褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④片状残存
No-108	坏 土 部	(□)12.2	覆 土		②褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④片状残存
No-109	坏 土 部	(□)12.0	覆 土	口縁部 直立ぎみ。	②褐色 ③細砂粒含む ④片状残 存
No-110	坏 土 部	(□)13.0	覆 土		②褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④片状残存
No-111	坏 土 部	(□)12.0 (高)3.5	覆 土	口縁部 ココナデ。体部 ヘラ調整。内面 ナデ。	②褐色 ③細砂粒含む ④片状残 存
No-112	坏 土 部	(□)12.6	覆 土	口縁部 ココナデ。体部 ヘラズリ。内面 ナデ。	②にぶい褐色 ③細砂粒含む ④ 片状残存
No-113	坏 土 部	(□)12.1	覆 土		②褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④片状残存
No-114	坏 土 部	(□)13.0	覆 土	口縁部 ココナデ。体部 ヘラズリ。内面 ナデ。	②褐色 ③細砂粒含む ④片状残 存
No-115	坏 土 部	(□)12.0	覆 土	口縁部 内・外面共ココナデ。	②褐色 ③細砂粒含む ④破片
No-116	坏 土 部	(□)12.0	覆 土	口縁部 内・外面共ココナデ。	②褐色 ③細砂粒含む ④片状残 存
No-117	坏 土 部	(□)12.0	覆 土	口縁部 内・外面共ココナデ。	②褐色 ③細砂粒含む ④破片
No-118	坏 土 部	(□)11.8	覆 土	口縁部 内・外面共ココナデ。	②褐色 ③細砂粒含む ④片状残 存
No-119	坏 土 部	□-11.3 高一3.1	覆 土	口縁部 内・外面共にココナデ。外体部 ヘ ラズリ。内面 ナデ。	②明赤褐色 ③細砂粒含む ③は び定形
No-120	坏 土 部	□-12.0 高一3.6	覆 土	口縁部 内・外面共にココナデ。外体部 ヘ ラズリ。内面 ナデ。	②明赤褐色 ③細砂粒含む ③は び定形
No-121	坏 土 部	□-12.7 高一3.5	覆 土	体部 外面ヘラズリ痕明瞭でない。内面 ナデ。	②にぶい褐色 ③1~2mmの砂粒 含む ④定形
No-122	坏 土 部	(□)11.2	覆 土	口縁部 直立ぎみ。ココナデ。体部 ヘラズ リ。内面 ナデ。	②褐色 ③細砂粒含む ④片状残 存
No-123	坏 土 部	(□)12.0	覆 土	口縁部 直立する。	②褐色 ③細砂粒含む ④片状残 存
No-124	坏 土 部	(□)13.0	覆 土	口縁部 直立ぎみ。	②褐色 ③細砂粒含む ④片状残 存

5. 検出された遺構と遺物

D-4号溝 No-125	坏 土 部	(口)12.0	覆 土	口縁部 直立ぎみ。	②褐色 ③1～2mmの砂粒含む ④瓦残存
No-126	坏 土 部	(口)12.5	覆 土	口縁部 直立ぎみ、ココナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②褐色 ③細砂粒含む ④瓦残存
No-127	坏 土 部	(口)11.6	覆 土		②褐色 ③細砂粒含む ④瓦削残存
No-128	坏 土 部	(口)11.8	覆 土	口縁部 直立ぎみ。	②褐色 ③細砂粒含む ④瓦残存
No-129	坏 土 部	(口)13.0	覆 土	口縁部 直立ぎみ、ココナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②褐色 ③細砂粒含む ④瓦残存
No-130	坏 土 部	(口)13.0	覆 土	口縁部 直立ぎみ。	②褐色 ③細砂粒含む ④瓦残存
No-131	坏 土 部	口-14.8 高-3.3	覆 土	口縁部 内・外面共にココナデ。外面 体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②褐色 ③細砂粒含む ④定形
No-132	坏 土 部	(口)12.0	覆 土		②褐色 ③細砂粒含む ④瓦残存
No-133	坏 土 部	(口)14.0	覆 土	口縁部 外湾し、ココナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②褐色 ③細砂粒含む ④瓦残存
No-134	坏 土 部	(口)14.0	覆 土	口縁部 外湾する。	②褐色 ③細砂粒含む ④瓦残存
No-135	坏 土 部	(口)14.0	覆 土		②褐色 ③細砂粒含む ④瓦残存
No-136	坏 土 部	(口)14.0	覆 土	口縁部 横をもつ。	②褐色 ③1～2mmの砂粒含む ④瓦残存
No-137	坏 土 部	(口)14.0	覆 土	口縁部 外湾する。	②褐色 ③細砂粒含む ④瓦残存
No-138	坏 土 部	(口)14.0	覆 土	口縁部 外湾し、ココナデ。体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②褐色 ③細砂粒含む ④瓦残存
No-139	坏 土 部	(口)14.0	覆 土		②褐色 ③細砂粒含む ④瓦残存
No-140	坏 土 部	(口)14.0	覆 土	口縁部 外湾する。	②褐色 ③細砂粒含む ④瓦残存
No-141	坏 土 部	(口)14.0	覆 土	口縁部 外湾する。	②褐色 ③細砂粒含む ④瓦残存
No-142	坏 土 部	(口)14.0	覆 土	口縁部 外湾する。	②褐色 ③1～2mmの砂粒含む ④瓦削残存
No-143	窠 土 部	(口)25.0	覆 土	口縁部 内・外面共にココナデ。	②明赤褐色 ③細砂粒含む ④口縁部一部残存
No-144	窠 土 部	(口)17.3	覆 土	口縁部 内・外面共にココナデ。頸部 ヘラ削あり。	②褐色 ③細砂粒含む ④口縁部瓦残存
No-145	窠 土 部	(口)21.9	覆 土	口縁部 内・外面共にココナデ。	②にぶい褐色 ③細砂粒含む ④瓦残存

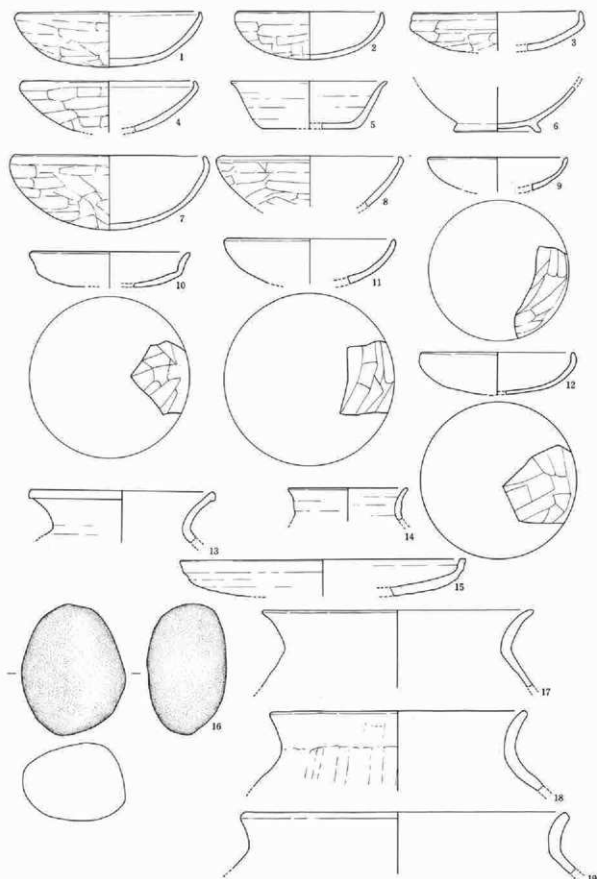
(3) 井戸・土坑・溝・奈良時代生活面

D-4号溝 No-146	塞土跡	□-22.0	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。	②褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④片残存
No-147	塞土跡	(□)24.0	覆土	内・外面共にヨコナデ。頸部 ヘラ底。	②明赤褐色 ③細砂粒含む ④口縁部片残存
No-148	塞土跡	□-22.0	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。	②褐色 ③細砂粒含む ④口縁部片残存
No-149	長須壺 須恵	□-13.4	覆土		②灰色 ④頸部のみ残存
No-150	塞土跡	(□)27.8	覆土	口縁部 内・外面共にヨコナデ。胴上部 ヘラケズリ。	②によい褐色 ④片残存
No-151	壺 須恵	(□)12.0	覆土		②灰色 ③細砂粒含む ④片残存
No-152	壺 須恵	(□)13.0	覆土	口縁部 直上に立ち上がる。	②灰色 ③密 ④片残存
No-153	埴 須恵	□-13.4 高-6.0 底-6.0	覆土	輪縁成形痕跡。	②灰白色 ③細砂粒含む ④片残存
No-154	壺 須恵	(□)24.0	覆土	輪縁成形痕跡。	②灰白色 ③細砂粒含む ④口縁部一部残存
No-155	鉢 須恵	□-14.3 高-10.6 底-9.1	覆土	付高台。底部 回転ヘラ調整。	②灰色 ③細砂粒含む ④ほぼ完形
No-156	壺 須恵	(□)27.8	覆土		②灰白色 ③細砂粒含む ④口縁部破片
No-157	壺 須恵	(□)16.8	覆土		②灰白色 ③細砂粒含む ④片残存
No-158	壺 須恵	(□)24.0	覆土	頸部下より内・外面たたり目、あて目残存。	②灰白色 ③細砂粒含む ④口縁部片残存

5. 検出された遺構と遺物

第100表 陶磁器観察表

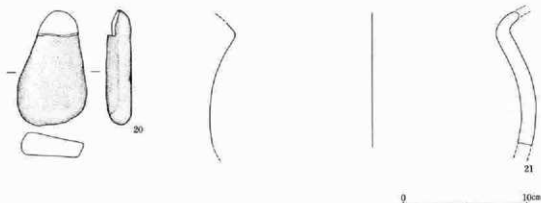
図番 器号	器種・種別 調	出土位置	量 目	胎土・焼成・釉色	備 考	備 考
第268図 No-21	陶器 皿 長石釉	211号土坑 覆土	完 器	淡黄灰色 並 淡黄灰色	内・外面に施釉される。内面に三目トレン痕あり。底部は削り出し。	美濃焼 17C前半
第268図 No-23	陶器 皿 長石釉	211号土坑 覆土	完 器	淡黄灰色 並 淡黄灰色	内・外面に施釉される。底部は削り出し。	美濃焼 17C前半
第289図 No-4	須恵器 台付施 灰釉	遺構外	頸部欠損	黒色紅物粒含む 焼締 灰緑色	台付施で頸部より上方を欠損する。胴中央に穿孔があり、右・右に放射文、上下に沈線区画がある。	秋間 7C前半
第289図 No-3	陶器 皿 灰釉	遺構外	完 器	淡灰色 硬 淡灰色	体部外面下方を除き施釉される。内面に「一」か又は貫傷あり。高台は削り出し。高台端部に重ね傷あり。口縁部に油壘付着。	美濃焼 17C後半～ 18C初葉
第289図 No-2	磁器 皿 白磁釉	遺構外	完 器	白色 硬 青白磁釉	体部外面下方を除き施釉。内面に輪割ぎの蛇の目あり。釉は浸し掛け。生掛け。	伊万里系 17C後半
第289図 No-1	陶器 皿 淡緑色釉	遺構外	完 器	淡黄灰色 並 淡緑色	体部外面下方を除き施釉。内面に輪割ぎの蛇の目あり。生掛け。釉は割を含む?	唐津系 17C後半
第289図 No-5・6	陶器 小碗 鉄釉	遺構外	完 器	淡灰色 硬 黒褐色	体部外面下方を除き、天目釉が施釉される。高台は、貼り付け後の削り出し。	美濃焼 17C



第290図 奈良時代生活面遺物図(1)

0 10cm

5. 検出された遺構と遺物



第291図 奈良時代生活面遺物図(2)

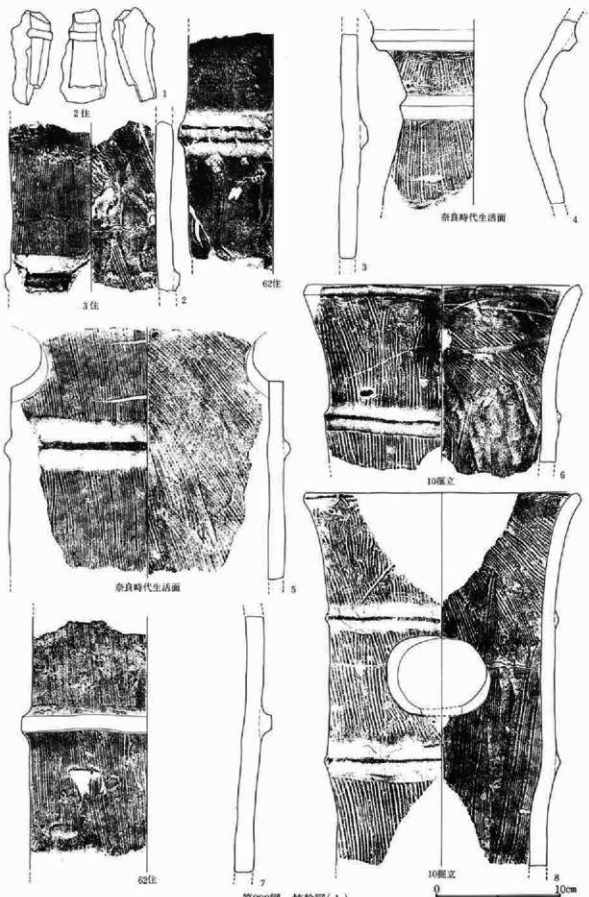
第101表 奈良時代生活面遺物観察表

番号	器種別	計 測 値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	坏土部	口-15.0 高-4.3	44C18	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④残存
No-2	坏土部	(口)12.0 高-3.7	53C11	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④残存
No-3	坏土部	(口)13.7	54C10	口縁部 ヨコナデ。稜をもつ。体部 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④残存
No-4	坏土部	(口)14.4	44C18	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	②橙色 ③2~3mmの砂粒含む ④残存
No-5	坏土部	(口)12.5 高-3.8 底-7.5	55C9	口縁部部 やや外湾する。底部 難な回転ヘラ調整。	②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④残存
No-6	坏土部	底-7.0	62C25	付高台 底面糸切り。	②灰白色 ③密 ④底部残存
No-7	坏土部	口-16.0 高-5.9	53C11	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	②橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④残存
No-8	坏土部	(口)15.0	44C17	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	②にぶい橙色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁破片
No-9	坏土部	(口)10.2	43C13	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	②橙色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁破片
No-10	坏土部	(口)12.8	47C13 No-17	口縁部 ヨコナデ。中段に稜をもつ。 体部 ヘラケズリ。内面 ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④口縁破片
No-11	坏土部	(口)13.8	No-22	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	②にぶい橙色 ③細砂粒含む ④破片
No-12	坏土部	(口)12.6	48C13	口縁部 ヨコナデ。体部 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	②橙色 ③細砂粒含む ④口縁破片
No-13	坏土部	(口)15.0	43C22	口縁部 稜をもつ。	②灰白色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁残存

(3) 井戸・土坑・溝・奈良時代生活面

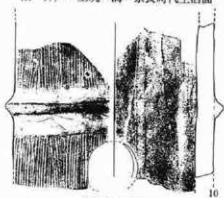
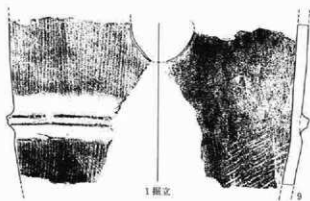
No-14	蓋 須 恵	(口)9.6	43C22 No-1		②灰色 ③密 ④口縁片残存
No-15	蓋 須 恵	(口)23.0	46C26	階部に沈線が走る。外面 回転ヘラ調整。	②灰白色 ③密 ④破片
No-16	石	(長) (幅) (厚)cm 12.0×7.3×6.0 706g	覆土	輝石安山岩。	粗粒
No-17	蓋 土 師	(口)21.6	54C11	口縁部 ヨコナデ。	②褐色 ③細砂粒含む ④口縁破片
No-18	蓋 土 師	口-20.6	覆 土	口縁部 ヘラ痕。頸部 ヘラ調整痕。全体的に差な調整。	②褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁片残存
No-19	蓋 土 師	(口)25.2	53C	口縁部 ヨコナデ。	②によい褐色 ③細砂粒含む ④口縁破片
No-20	石	(長) (幅) (厚)cm 9.0×5.5×2.0 141g	覆 土	流文岩。	
No-21	土 蓋		覆 土	内・外面 刷毛状のナデ。	②灰白色 ③細砂粒含む ④破片

5. 検出された遺構と遺物

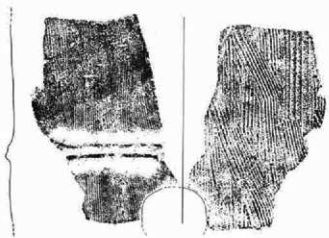


第292図 地輪図(1)

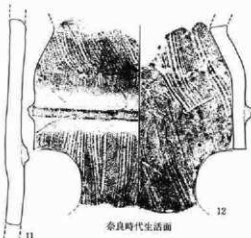
(3) 井戸・土坑・溝・奈良時代生活面



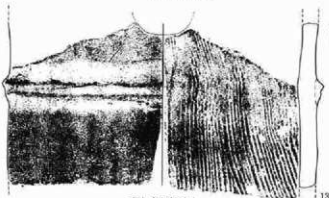
奈良時代生活面



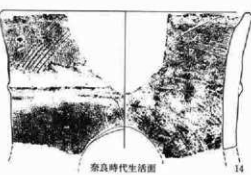
奈良時代生活面



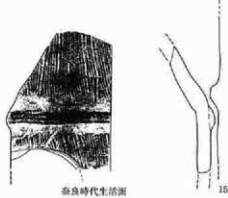
奈良時代生活面



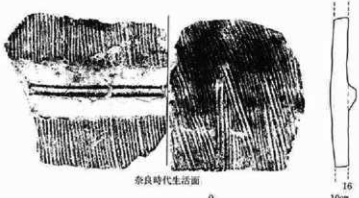
奈良時代生活面



奈良時代生活面



奈良時代生活面

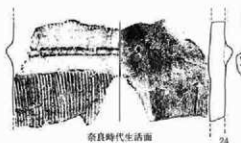
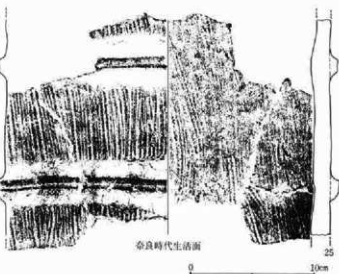
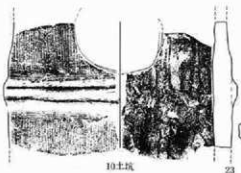
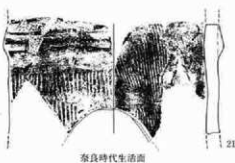
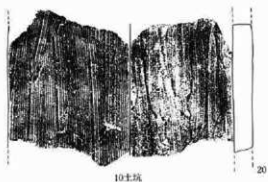
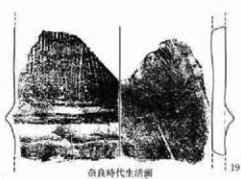
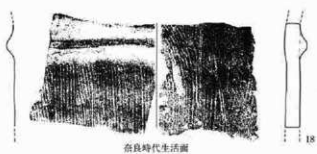
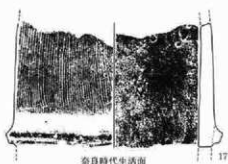


奈良時代生活面



第293図 埴輪図(2)

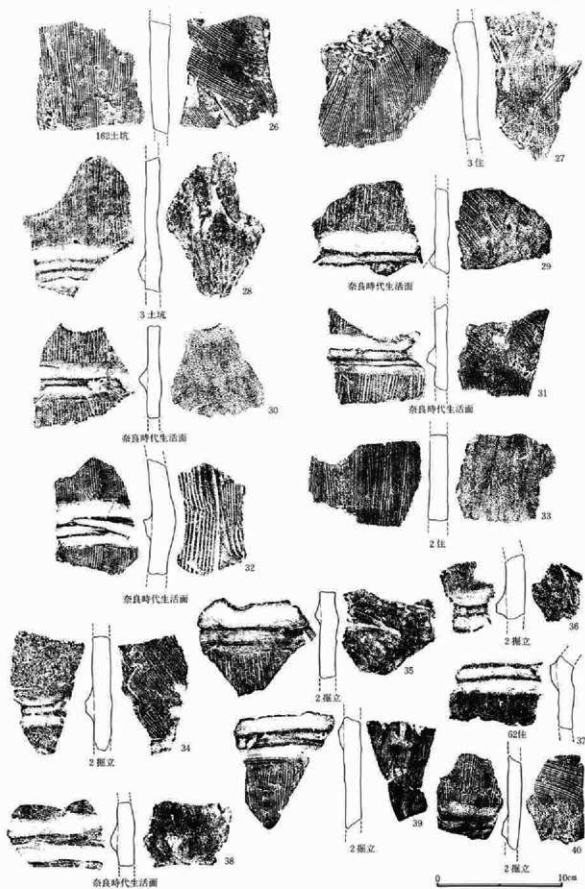
5. 検出された遺構と遺物



0 10cm

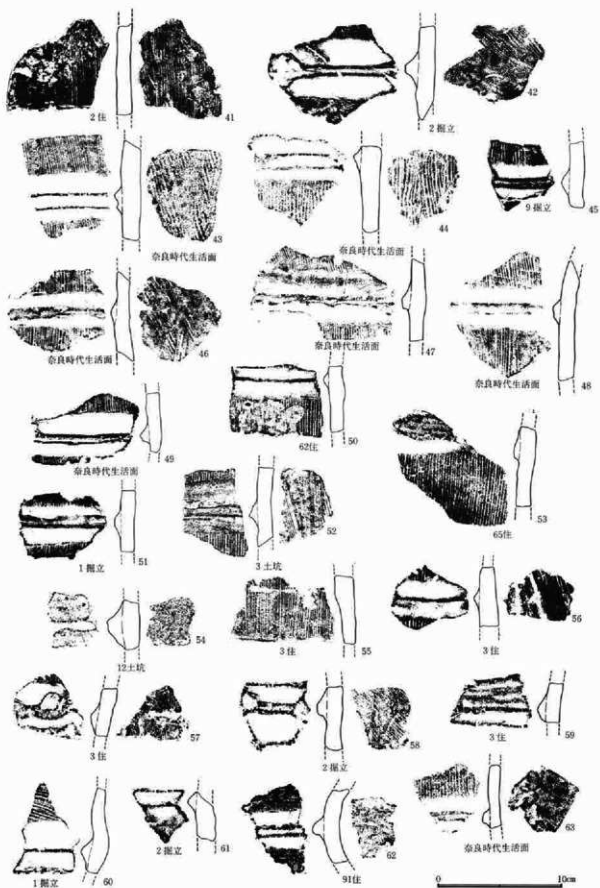
第294図 地輪図(3)

(3) 井戸・土坑・溝・奈良時代生活面



第295図 地輪図(4)

5. 検出された遺構と遺物



第296図 地輪図(5)

6. 考 察

(1) 瓦 類

1. 瓦類の観察

本遺跡から277片の瓦片が出土し、整理担当から、瓦類をもって本遺跡の性格づけに寄与せよとの申し入れがあったのと、および発掘調査担当の一員であったのでその責を果たす意味で本稿を作成した。本書では細片を除き、遺構との共存、接合関係の高い個体などを重視して総数53点の実測図、拓影図を掲げた。

観察については各個体を平等に扱う必要から共通の観察視点を設け全個を一覧化した。その観察は第104～112表のとおり、遺物番号、出土地、瓦種類、胎土、色調、焼成、製作技法などについて項目を設けた。

まず種別は男・女瓦、盤、宇瓦、面戸瓦と細片のため種別の判定が困難な個体もあり、それを不明とし、さらに補足は摘要欄に記入した。

量目は厚さのみを記入した。厚さは同一個体であっても均一ではないので各個体の平均と見える箇所を測定し、単位はセンチメートルである。

胎土は主体を占める素地（粘土粒子）と含まれる夾雑物とに分けしっかりと観察しなければならないが、本稿では製作地別の分類操作を行っているので、胎土の項目を除外した。

焼成はその堅さを締・硬・並・軟に4区分し、締は焼締のある個体、硬は爪を立てた場合に傷が付かないであろうと思える固体、軟は水洗いした時に摩耗してしまうように見える個体に用い、並は軟質と硬質との中間の場合に用いた。焼成に係わる色調は還元・酸化気味と明言できればよいのであるが、割れ口の芯と外面では差があったり、部分的に斑文が生じていたり、様でないので表面の色調をとらえた。おおむね、灰色気味は焼成の最終工程で還元気味に、橙色・褐色気味は焼成の最終工程で酸化気味になったものとしてきつつかえないであろう。

成形技法については一般的にいわれる作瓦技法⁽¹⁾にのっとり、作瓦の工程が量産されたシステム製品であるとなし粘土板割製の有・無、一枚作りの可能性の有・無、粘土板の合目の有・無、生地の手締の方法などをとらえて6項目を設けた。

粘土板の割製は布任裏下に残る静止糸切状の条痕を粘土板割製痕と見なした。桶巻作は桶の寄木状の単位が認められる場合に○を記入し、一枚作の根拠が得られる場合も○を付した。また群馬県内の女瓦例にも桶巻作が存在するため、桶巻作り観察の意識は男・女瓦とも共通である。桶巻作の寄木状の圧痕が不明瞭な時に？を付したが二者の根本的な作瓦技法を証左するためさらに粘土板合目、布合目の確認を次項で行い、該当する場合に○を付した。手締については主として撫でによる素文、格子叩、平行叩とがあり、格子叩、平行叩ともに擦消があり、それらとは別に篋削が存在する。それぞれ技法名称を記入した。

整形技法については轆轤痕、篋削、布擦消、側部面取の4項目を設定した。

轆轤痕は桶骨柄上に粘土板が張り付けられている時、回転台の回転に伴う砂の移動や、回転篋削によって生じた削状痕が認められた時には○を記入し、曖昧な時は？を付した。布の擦消は男瓦で裏面、女瓦では表面上に残る布の圧痕を意識的に擦消しているように見える場合に有りとして○を記入した。側部面取は側面に見られる篋状の単位を数えたが、瓦の狭端部側には補足の面取がなされる例も多く、その際の面取も含む。

摘要には製作地である窯跡群の推定を肉眼観察し、その胎土の差異をもって大分類し、その名称を記入した。製作地域は各窯跡群で採集した資料の胎土を基としている。その分類は、量産製品としての作瓦技法の

6 考 察

共通性。さらに1979年米、麻統実施している胎土分析成果を踏まえている。また瓦番号と本文実測図との対照用にも摘要欄を用い、補足事項も記入した。

2. 瓦類の観察結果

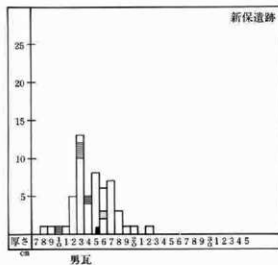
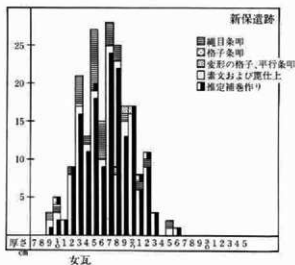
同一の観察は上野国分寺築地跡⁽³⁾、金井廃寺遺跡⁽⁴⁾、天代瓦窯遺跡⁽⁵⁾、日高遺跡⁽⁶⁾、下東西遺跡⁽⁷⁾で試みられ、その集合が第298図である。

国分寺例（廃寺）は南縁築地跡に設けたA・Bトレンチから出土した瓦片の内173点の大形破片を任意抽出して作成し、その主体年代は8世紀中頃から9世紀初等頃である。金井例（廃寺⁽⁴⁾）は金堂址と考えられる中枢地域に散布していた122点の資料が供され、主体年代は7世紀後半から8世紀である。天代例（瓦窯⁽⁵⁾）は発掘調査で得られた51点を扱い、主体年代は8世紀中頃である。日高例（集落関連、近接地に瓦葺建物を推定）⁽⁶⁾は9世紀後半に埋没した154号溝から主に出土した瓦で隣接地に瓦葺建築址が想定でき、廃棄か故意による投棄瓦46点で主体年代は9世紀に置かれる。下東西例（集落）⁽⁷⁾はカマド材、住居内転用瓦などで、機能からすれば二次的な在り方であった。以上の比較例は遺跡の性格が瓦葺建築址ばかりではなく多様であるので注意されたい。

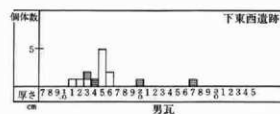
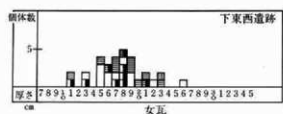
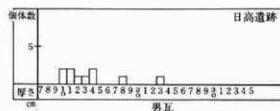
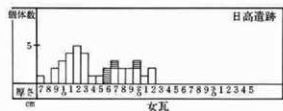
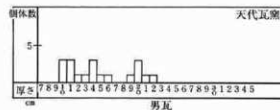
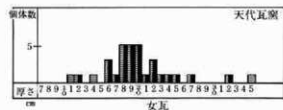
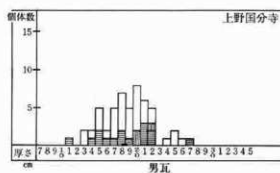
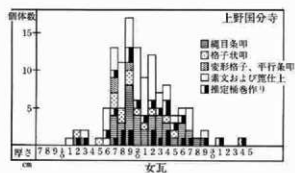
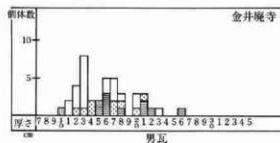
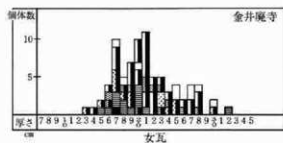
女瓦と男瓦の割合は女瓦209に対し男瓦55で、その割合は3.80：1となる。おおむね、本瓦建築物の女：男瓦の割合は2：1前後である。このことを検証した上野国分寺中間地域検出の中世寺院（仮称 小見廃寺⁽⁸⁾）例では瓦葺方試算で女瓦：男瓦＝8：3（2.66：1）、重量試算から出した出土総量比較で女瓦：男瓦＝938枚：415枚（2.26：1）であった。この結果からすれば上野国分寺例、金井廃寺例などは瓦葺建築址に近いと言えるものの、新保遺跡例の3.80：1の割合は、いささか遠いと言わざるを得ない。

第102表 女・男瓦の破片数量比較

遺跡名称	女瓦数	男瓦数	女瓦：男瓦	遺跡名称	女瓦数	男瓦数	女瓦：男瓦
上野国分寺築地跡	120	53	2.26：1	日高遺跡	10	36	0.28：1
金井廃寺遺跡	81	41	1.97：1	下東西遺跡	32	14	2.28：1
天代瓦窯遺跡	32	19	1.68：1	新保遺跡	209	55	3.80：1



第297図1 新保遺跡出土女・男瓦統計図



第298図 女・男瓦統計図

瓦の厚さは集計の結果第114表のとおりである。傾向としては製作年代が遡るにつれ厚くなり、同一遺跡であっても男・女瓦とでは各遺跡例ともに共通して女瓦の方がやや厚く、新保遺跡においても同様である。日高遺跡⁽⁶⁾例が極めて薄いの⁽⁷⁾は時期的な傾向である。下東西遺跡と新保遺跡例の値が近似しているのは、供給した製作地および製作の年代とが近似するためと考えられる。

粘土板剥取痕については桶巻作と推定される女瓦166点中に53例、一枚作で製作されたと考えられる11点のうち1例に認められ、全体として粘土剥取痕を残す例は多くはないが、他方で紐作りによる製作例が1例しか認められないので大半は粘土塊（たたら）からの粘土板剥取の方法により瓦材を得ていたと考えられる。粘土板剥取痕の桶巻作例と一枚作例との存在の割合は桶巻作例が32%で、一枚作例が9%である。その差はおそらく製作過程において一枚作の剥取条痕が残らざらぬ製作技法であったため、桶巻作に多く残るのは、製作の丁寧さもさることながら製作原材の性質をある程度反映しての結果と考えられる。

女瓦の製作技法は統計化した206点のうち、桶巻作と考えられる桶木圧痕の見られる例が166点（81%）でそのうち捺・素文の172点中161例（94%）、縄印の30点中2例（6%）、平行印2点中1例（50%）、格子印3点中3点（100%）が認められる。男瓦例にも寄木条痕の認められる例が瓦№74に1点だけ存在し、男瓦54点からすれば2%に満たない。一枚作は捺・素文の一群には認められず、縄印の一群に11点存在する。したがって女瓦206点のうち、桶巻作によるもの166点（81%）、一枚作によるもの11点（5%）、不詳のもの29点（14%）であった。

第103表 女・男瓦の厚さの比較

遺跡名称と集計瓦年代	男 瓦		女 瓦	
	平均値	頂 点	平均値	頂 点
上野国分寺墓地址 8世紀中～9世紀	1.88	2.0	1.96	1.9
金井南寺遺跡 7世紀後半～8世紀	1.59	1.3	2.04	2.1
天代瓦窯遺跡 8世紀中頃	1.48	1.0～2.0	2.00	1.8～2.0
日高遺跡 9世紀	1.4	1.0～1.4	1.45	1.1
下東西遺跡 7世紀末～9世紀	1.55	1.5	1.74	1.8
新保遺跡 7世紀末～9世紀	1.46	1.3	1.68	1.7

女瓦桶巻作の証左として布の合目、粘土板の合目について、捺・素文の161点中に布の合目、10例（6%）、粘土板合目18例（11%）で、縄印の30点中に布の合目3例（10%）、平行印2点中に粘土板合目1例（50%）が認められるが、女瓦桶巻作が4枚割で行われたとすれば、桶巻作と推定される166点の4分の1、41枚前後に粘土板の接合面、布の合目が認められてよいことと大差が生じる。しかし、その点はかつて触れた⁽⁹⁾とおり、横骨桶の合目、裁断予定位置に、粘土板接合面や、布の合目をそろえたためと解釈される。

印については女瓦では捺痕・素文が172（83%）、縄印（15%）、平行印（1%）、格子印（1.5%）であり、男瓦では捺痕、素文が49（90%）、縄印4（7%）、平行印1（2%）であり、女・男瓦はおよそ相対する割合にある。

轆轤痕ないし、回転台痕は、僅な砂粒の移動であってもそれが回転に伴うと判断される例について、ありと考えた。女瓦の捺痕、素文の例では162（94%）点が認められ、大半に横骨桶を回転台上に載せて製作する工程があったと見なされた。縄印が施された例では11点の一枚作には認められず、桶巻作の証左がここでも得られる。男瓦の捺痕、素文では49例中40点（80%）に認められ、縄印では1点のみであったが、捺痕・素文

の一群は大半が回転台に載せて製作されたとしてよいであろう。回転方向は108女瓦が左回り、109男瓦が左回りであった。

3. 瓦類の分類

製作地別と諸技法の特徴と差異をもって次のように分類した。

- | | | |
|--------|----|--|
| 1 A類 | 男瓦 | 擦を密にした整形で、瓦No74に桶の寄木痕が残る。男瓦43点。 |
| | 女瓦 | 擦を密にした整形で、大半に桶の寄木痕が残る。女瓦174・宇瓦1・面戸瓦5点。 |
| 1 B-1類 | 男瓦 | 未詳であるが男瓦も一枚作とは考え難いので1 B-4類が対応する可能性大。 |
| | 女瓦 | 一枚作瓦で側部に布目あり。表面は縄叩で、縄叩目は印具に横巻。11点。 |
| 1 B-2類 | 男瓦 | 未詳であるが縄叩を部分的に消す1 B-4類が対応する可能性大。 |
| | 女瓦 | 全面に長大な縄叩を長軸に則して施し、小口の上下にも横向きにして長大な縄叩を施す。縄叩目は細かい例と、やや太目の例とがある。女瓦16点中に3点が一枚作、1点が桶巻作である。この種類は一枚作と桶巻作の転換期にある。 |
| 1 B-3類 | 男瓦 | 未詳。県内で存在未確認。 |
| | 女瓦 | 裏面に印板に対して横巻にした太い縄叩を施す。1点。 |
| 1 B-4類 | 男瓦 | 表面に印板に対して横巻にした縄叩を施し、さらにそれを消す。4点。 |
| | 女瓦 | 表面に印板に対して横巻にした縄叩を施し、さらにそれを消す。1点。 |
| 1 C類 | 男瓦 | 未詳。1 A類の中に存在するか不詳。 |
| | 女瓦 | 格子の叩を施し、さらにその後を入念に擦消。1類の ^{しよごき} 下地成しは、この方法によるとも考えられるが実例がNo1・2の正格子、No3の斜格子の2例しか見られない。 |
| 2 A類 | 男瓦 | 浅い平行叩を施し、全体に薄作りである。3点。 |
| | 女瓦 | 未詳。県内で存在確認。 |
| 2 B類 | 男瓦 | 素文であり、全体に薄作りである。 |
| | 女瓦 | 未詳。県内で存在確認。 |
| 3類 | — | 製作地不詳の一群。 No1、素文で土軽い。女瓦1点。
No2、紐作りで土軽い。男瓦1点。
No3、平行叩で、布目痕なく擦痕。土軽い。女瓦1点。
No4、縄叩で土軽い。女瓦1点。
No5、土軽く、土の軽さはNo2、3に似て軽い。宇瓦1点。 |

以上、大きく1～3に類別したが、基本的には胎土別の区分である。1類は黒色の粘土物質粒を含み、白色鉱物粒の少ない安中市秋間窯跡群で製作され基本的には秋間層群の陶土地帯の土味。2類は白灰・黒色鉱物粒を多く含み、割れ口の薬地走行が層状をなす一群で、多野郡吉井町^{よしの}多比良^{たひら}近辺の富岡層群中に営まれた吉井窯跡群の製作と見られる製品である。3類は製作地不詳の一群の製品である。

さらに1類の中で窯跡の限定される例がある。1 A類は秋間窯跡群の^{やまがた}八重巻^{やえまき}支群を中心として同級が採集される。1 B1～3類は秋間窯跡群中の^{やまがた}刈根^{かりね}・八重巻支群で多く採集され、1 B-1類は高崎市^{たかしま}附^{つけ}窯跡群においても採集されている。また3類No2・3・5は^{くに}国を越えた^{くに}鑑瓦^{かんが}として知られる鑑瓦中背面に布紋目が見られる瓦に共通する胎土である。それは窯跡の実態不明であるものの分布傾向は東毛地域(第299図)である。

6 考 察
























4 考 察

次に類別した一群について年代観と瓦観察から得た所見に触れたい。

(1) 類別種の時期

1類 1A類の胎土は緻密に言えば灰色を呈し、並～軟質で比較的夾雑物量が少なく、1類の大半を占める一群と焼色が及び黒灰色を呈し、硬質で比較的夾雑物量の多い一群がある。前者の大半は秋間窯跡群八重巻支群の焼造で、前橋市山王廃寺創建期に主体供給され、主体をなす組瓦の體・字瓦は複弁七葉蓮華文と曲線頸三重弧文である。しかし、この一群の中に少量であるが、同一手法をとる後出の上野園分二寺創建段階までの例も含まれているので、わずかではあるが対応の軒瓦を別に考えておく必要がある。たとえば309園の六弁燈瓦などがそれである。後者は窯跡確認がされていないが胎土に特徴的に含まれる黑色粘土物質粒の存在から前者と同様に秋間窯跡群の焼造と目され、主体供地は山王廃寺で、組瓦の體・字瓦は素弁八葉蓮華文瓦と幅の広い有段頸三弧文瓦が類推できるほか不確定要素の少ない一群である。両者ともに県内古瓦の変遷観からすれば第III期に位置づけられる。第III期の幅は7世紀第四4半世紀から8世紀初頭までの間である。

1B-1～4類のうち1B-2類は女瓦桶巻作から一枚作へと技法の移行が類推され、それは長期に亘る転換ではなく、例えば8～9世紀初頭の秋間窯跡群河根I～III号窯灰原から両技法を用いた瓦が出土し、既出須恵器の年代幅からして短期の移行が示唆される。住居跡からの検出例では高崎市熊野堂遺跡第1地区11号土壌から8世紀後半以前の須恵器を伴って一枚作の本類が出土し、既に一枚作に移行していることが判る。女瓦の桶巻作は上野園分寺で25%の確認率であった。1B-1・3・4類の女瓦には桶巻作が確認されず一枚作の製作と推定され、いずれも高崎市熊野堂遺跡Iで9世紀以前に存在が確認されている。上野における本格的な縄叩技法を用いた量産は上野園分寺統一意匠に伴う字瓦からであり、古代におけるその下限は東毛・西毛地域について生産の終末まで存続すると考えられるが、量産の終末は高崎市日高遺跡、平安154号溝出土瓦からある程度知ることが出来る。日高遺跡出土瓦はそう多くはないが一部に縄叩技法が用いられた

	第I期類	第II期類	第III期類	第IV期類	園分寺建立以降
上野園分寺					
山王廃寺					
寺井廃寺					
山王廃寺					
上野園分寺					
同					
同					
同					
同					
同					
同					
同					
同					
同					
同					
同					
同					
同					
同					
同					
同					
同					
同					
同					
同					
同					
同					
同					
同					
同					
同					
同					
同					
同					
同					
同					
同					
同					
同					
同					
同					
同					
同					
同					
同					
同					
同					
同					
同					
同					
同					
同					
同					
同					
同					
同					
同					
同					
同					
同					
同					
同					
同					
同					
同					

第299図 上野園における燈瓦の変遷(『天台瓦遺跡』1982による)











一枚作女瓦があり、主体は2A・B類であった。このことから縄叩技法は日高遺跡⁽⁶⁾出土瓦の製作段階の中で終息に向かっていると類推され、後出の手法を用いた2A・B類は9世紀後半に埋設した154号溝に含まれていた。

2A・B類は吉井窯跡群製と考えられること、浅い平行叩ないし素文を特色とし、組瓦には古代上野鏡瓦約200種、字瓦約100種の中で最も後出した鏡・字瓦とが対応することが日高遺跡⁽⁷⁾で確認されている。日高遺跡では出土の過半以上が本類で、それらの多くは9世紀後半に埋設した154号溝から出土し、本類の主体時期は9世紀代と考えられる。

(2) 1A類の出現時期

1A類の主体に対応する鏡瓦について2種、字瓦について本遺跡出土の三重弧文を加え2類を想定した。それらは前橋市山王廃寺創建期鏡・字瓦の組合せで、そのうち秋間窯跡群八重巻支群で焼造された複弁七葉蓮華文鏡瓦は、山王廃寺のほか、太田市寺井廃寺、吾妻郡金井廃寺遺跡、新田郡入谷遺跡に同范関係（入谷例は簡似例）をもって供給され、上野国分寺造立前の段階では最も広域に広がりを見せ最大距離約40kmにおよんでいる。第301図はその広がり関係図で、第299図はその同范関係を基とする序列である。その中に位置する寺井廃寺の創建段階の鏡瓦は絶対量および数種類の複弁八葉面遶歯文鏡瓦からなる鏡瓦で、現状で2点のみ秋間窯跡群で焼造された複弁七葉鏡瓦が確認され、それを補填瓦と考え、瓦の組合せからすれば面遶歯文瓦に後出して存在が類推される。寺井廃寺出土の複弁八葉面遶歯文鏡瓦の様式は奈良県川原寺に源をたどることができ、県内では寺井廃寺に供給した太田市萩原窯跡、伊勢崎市上植木廃寺を含め、計3箇所から出土している。関東地方では千葉県大寺廃寺、下野薬師寺に類例がある。この中で大寺廃寺例は大小蓮子のあり方や蓮子の高さが1cm以上の長円錐形をなす点において天智朝にあたる古式な川原寺出土例に近く、最も古い様相であり寺井廃寺例はそれよりも後出的である。

その年代観は川原寺式系の傳播の要因に壬申の乱(672)を契機とし、各地域に拡散したとの説がある。下

	新 保	秋間八重巻支群	山王廃寺	他遺跡例
有法重弧字 素弁八葉鏡				
曲線型重弧字 複弁八葉鏡				
素文中部鏡 有軸弁六葉				
				国分寺

第300図 新保遺跡予測される対応の鏡・字瓦

野葉師寺にも『類聚三代格』および『続日本紀』に太政官符による記事があり、天武朝政權とのかわりを持っていたことは確かで、寺井例は様式上下野葉師寺例とほぼ共通する点が多く、寺井例をおおむね天武朝¹⁰期に置いてよいと考えられる。

一方、山王廃寺は近年の発掘調査により「放光寺」銘瓦が複数例をもって出土し、またその立地は尾崎喜¹¹左雄氏説とは異なるが旧説に土屋文明氏などの解釈があり、両氏の解釈を再構成すると「さぬ」の地の一角に山王廃寺を置くことが可能で、天武天皇十年(681)の建立とされる「山ノ上碑」銘文中にあらわれた「放光寺」にあたかも一致を見、少なくとも天武年間¹²に山王廃寺=放光寺は存在したとしてさしつかえない。山王廃寺の創建瓦である特異な複弁七葉蓮華文鏡瓦はこの後、高崎市でえせえじ敷布地¹³、群馬郡奥原古瓦敷布¹⁴地、多野郡吉井町雑木見遺跡¹⁵、同馬庭東遺跡などに後出の派生種を生み、山王・秋間系の瓦系譜を構成している。雑木見・馬庭東例は和銅4(711)年に建都された多胡碑に接し、郡衙および郡名寺院の関連施設が推定される。既出瓦の中で最も古い鏡瓦に複弁七葉蓮華文鏡瓦があり、多胡郡建都年との関連が濃厚で瓦製作年代を示唆する例と地域にとって極めて重要である。山王廃寺出土の複弁七葉蓮華文鏡瓦を畿内例から見れば、弁数が八弁であるが奈良県栗原寺、京都府檉原廃寺例に類似をみる。栗原寺は現存の金銅製の伏鉢銘によって持統天皇8年(694)に起工し、和銅8年(715)に竣工したことが刻銘されている。山王廃寺例は意匠構成が端正で施文も熟練の感があるためその二例より先行することはほぼ誤りない。また寺井廃寺の創建について、かつて分類・検討を加えた結果からすれば、約2500点の古瓦片中、女瓦の大半は格子甲の成形で、いずれも創建種に近い胎土・焼成の質感を持って存在していた。格子甲種数は同范照合の結果、創建に係わる種は15種前後で極めて少ない数であった。このため早急な造瓦が窺え、おそらく寺井廃寺の建立は諸伽藍が整っていたとみなされる上植木・金井・上野国分寺などの中で最も早く竣工したものと考えられ、同時に早急に竣工しなければならなかった背後事情があったと類推される。それに続く補築瓦と考えられる山王廃寺創建の複弁七葉蓮華文鏡瓦については前述までの検討によって寺井廃寺創建段階に直接続したとみなせば天武朝(672~686年)末年から、その政策を継いだが持統朝(687~696年)の初頭に使用された可能性が高いものと類推されるのである。

(3) 有軸弁六葉鏡瓦の年代

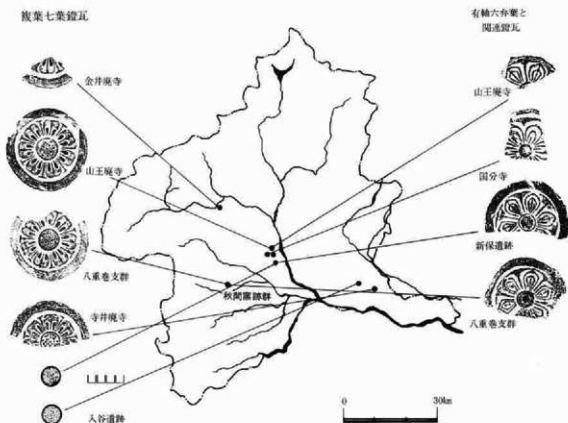
当遺跡から有軸弁六葉鏡瓦片が出土している。同范対照したものの確証が得られなかったが本例と酷似の鏡瓦は秋間原跡群八重巻支群、山王廃寺、上野国分寺から既出している。この意匠はかつて検討したことのある上野国古代瓦の系統観から本例を位置づければ、八重巻例鏡瓦の弁形態は、有軸を単弁と見なせば二重郭弁+単弁で構成され、上野国分寺式鏡瓦の弁形態も二重郭弁+単弁の構成であり、両者に共通性がある。上野国分寺意匠が上野鏡瓦中から生まれたとすれば、最も近似しているのが八重巻・新保例の有軸弁六葉鏡瓦である。このため新保遺跡例の六弁は上野国分寺統一意匠(上野国分寺式鏡瓦)の量産段階の直前に置かれると推測される。

上野国分寺の造立は諸国分寺の創建段階では比較的早く着手されたと考えられる。ひとつには鏡瓦の内・外区の列点珠文帯の盛行が県内古変遷観に言う第IV期類の新羅系の小敷と第III期の山王廃寺創建期の複弁七葉鏡瓦の一部の外区にわずかに盛行するが国分寺では前代とのつながりにおいて背面に布紋目を有した問題を残す鏡瓦群を除けば珠文数を大巾に減じるか、まったく取り除くかした意匠の鏡瓦しか見られない。このことからすれば国分寺式の様式が絶対的な背後力をもって生まれたため、その直前まで盛行のきざしのあった連珠文の盛行までも斜陽に傾けたと解釈できるのである。仮に上野国分寺が各地におくれに地様式が展開しなければ東大寺式等に酷似した信濃国分寺、下総国分寺、常陸国分寺のように珠文帯の盛行があったと考

えられる。このため天平勝宝元年(749)おりしも東大寺大仏開眼の年にあたるが、碓氷郡の石上君諸勢、勢多郡の上毛野朝臣足人らが国分寺に知識物を献じた頃はすでに着工されていたと考えられる。

上野国分寺式鏡瓦は、第IV期類に在地展開した高句麗・新羅様式が母胎となっている。第IV期(8世紀前半)の特質は西毛地域の造瓦の中心的系譜である山王・秋間系で素文中房、有軸弁、強調された弁間など高句麗系様式鏡瓦が反映し、それに対して東毛地域では上植木・菅電山系が中心的な造瓦の系譜を占め、細弁文と蓮子および強調された中房などの新羅系様式が反映し、前代の第III期類までに展開していた百濟・初期唐様式をおさえ、大きく様式変貌している。そのことは第IV期に渡来人の殖産部門における強い台頭があったと類推され、上野国分寺の建立にあたりおそらく周到な計画からなるプロジェクトチーム、いうならば造国分寺司のような施工組織が設けられ、その中で上野国分寺統一意匠を決定する際、弁形態を高句麗系様式にとり、中房には新羅系様式をとるよう渡来人側の強い働きかけがあったと考えられる。その証左として対応の字瓦に畿内色の強い列点を配する個行唐草文が採用されており、鏡瓦に渡来系糸象文の採用は時流にそうがごとき必然性ばかりでなく可成り難行の末に決定されたと察せられる。

上野国分寺式鏡瓦は、総体として五弁と中房に1+4以上の蓮子数を取ることがきちんと守られ、他に垂式は認められても類似種は存在していない。その分布は上野国分二寺、上植木庵寺、寺井庵寺、佐波郡十三宝塚遺跡、前橋市清里・陣場遺跡が製作瓦窯として新田郡笠懸窯跡群、藤岡市藤岡窯跡群があり、范種類は現状で16以上を数えることができる。そのうち最も古い例は、上野国分寺、寺井庵寺、笠懸窯跡山際支群に例があり、山際窯跡の窯体中から第302図が採集されている。発掘調査をへていないので問題点も多いが既出瓦を見る限り、そのうち最も新しい意匠として十三宝塚遺跡例がある。十三宝塚遺跡では、古墳時代から



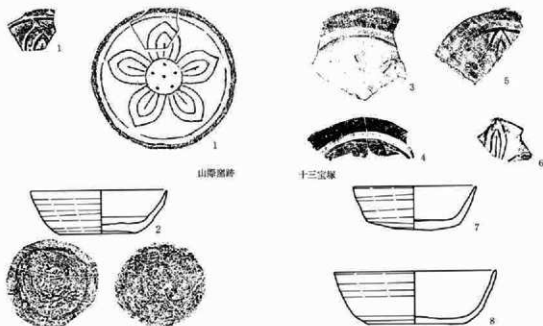
第301図 鏡瓦分布図

平安時代に至る間の住居跡が数十址調査され、一方で郡名寺院施設から瓦類が出土している。出土瓦は、多
 次元にわたるものではなく大半が組瓦関係を成し、鑑瓦は上野国分寺式であるが肉置きが浅く、弁形態も福
 よかでなく、さらに木桁型の意匠が粗雑で、同型の中で最も後出した所産と判断される。住居址からは瓦が
 転用され出土しているが、その中で最も古い例は概報によると32・36・37号住居跡などから瓦が出土し、32・
 36号住居はカマドに瓦組を用い37号住居跡からは三彩火舎の脚片が出土している。第302図に37号住居跡出土
 須恵器を掲げた。8は2と同様に底面全面回転調整、7は糸切後底面の周辺に回転調整を加えたもので
 ある。この山際例、十三宝塚例の両者に伴う須恵器坏が現状で上野国分寺式鑑瓦の上限と下限を示す最も直接
 的な例となるが、その両例の器形状・技法を比較した場合、顕著な差はなく器形変化が早く進行する奈良時
 代にあって、最大見ても四半世紀中に納まりうる幅の中にあると推考される。上野国分寺の建立が天平十三
 年の詔に則して実施に移されていれば上野国分寺式鑑瓦の製作は740年代から760年代頃に限定してよいと考
 えられる。したがって本遺跡出土の有軸弁六葉鑑瓦は上野国分寺式鑑瓦の使用段階に対比させれば初頭まで
 に使用されたと考えられるから、740年代頃の製作としうるのである。

(4) 出土瓦の性格と出土傾向

各遺構出土瓦（第303図）を類別別にまとめると次のとおりである。

- 1 A類（7世紀第四4半期が主体で8世紀中頃までを若干含む。）D-1号溝、D-4号溝、D-14号溝、
 1・2・10・11号掘立柱建物、真間生活面（奈良時代生活面）、1・4・8・33・45・48・51・52・
 61・62・91・92号住居、D-2～4号住居、3・8・30・198土坑、1号井戸
- 1 B 1類（8～9世紀前半まで）D-1号溝、真間（奈良）生活面、27号住居
- 1 B 2類（8世紀中頃）D-1号溝、27号住居、D-12号住居、32号土坑
- 1 B 3類（8～9世紀前半まで）10号住居

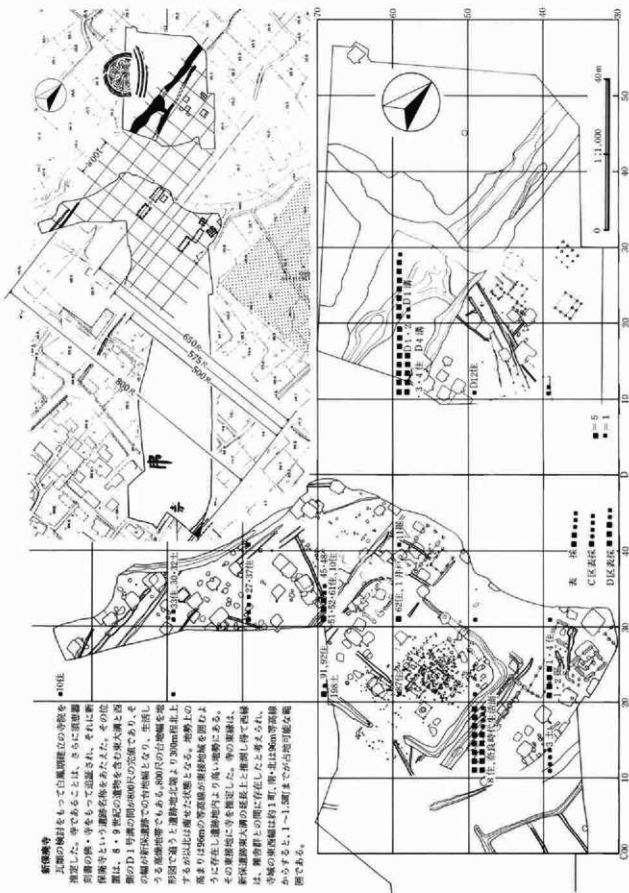


第302図 上野国分寺式鑑瓦に対応する須恵器の上限・下限形態 1：4

- 1 B 4 類 (8～9世紀前半まで) D-1号溝
 1 C 類 (7世紀第四4半期) D-3号溝、D-4号溝
 2 A 類 (9世紀) 87号住居
 2 B 類 (9世紀) 37号住居、D-11号住居、45号住居

出土瓦のうち1 A類の大半を占める古拙な一群は、7世紀第四4半期の当初の頃と推測されたが、その時点で官衙の頂上に立つ宮跡に瓦葺は、藤原宮⁸⁷をもって本格的に始まることから、新保遺跡出土の1 A類の性格は寺院所用瓦と解釈される。しかも全体を通観すると1 A類が出土瓦の大半を占め、それを創建と捉え得て、本遺跡の瓦序列の中では創建期と呼びうる画期の観を呈し、さらには少量であるが8世紀中頃前後の1 B-2類、8～9世紀前半頃までの1 B 1・3・4類、9世紀代の2 A・B類と続いてゆき、瓦葺建物の保膳、改修が長期に亘り、管理・維持にき目の細かさが感じられ、その性格づけを寺院としても、不自然さは生じない。その白鳳期建立の寺院跡(以降、新保庵寺とする)は瓦の出土が調査地内で東偏するので、調査地内地勢よりも東方にある東側隣接地域に存在が予測される。東側隣接地は長大ではあるが東側地帯とに狭まれた台地幅が狭いので七堂を備えた四至二町の想定はし難く、そう多くない瓦の出土量から仏堂を中心とした小規模な寺院であったと類推される。造寺の創意者は、公と民の立場とがあるが、小寺院に対し瓦葺の保膳管理が約2世紀に亘って行うほどき目の細かい処理は、公の立場では困難と考えられるため、そこに民的色彩を認めたい。上野の古代寺院にはいくつかの形がある。民の背景で造立された山王庵寺、地方豪族の援助で公が創建の創意者となって造立し、後に官的色彩が顕著となる上植木・金井・寺井庵寺があり、郡名寺院あるいは郡規模の公が背景となった十三宝塚遺跡⁸⁸、前橋市上西原遺跡⁸⁹などがあげられる。瓦から云える点はそれぞれ置かれた条件によって異なるが、公・民の区別意識は大半の場合について窺えるのである。たとえば民とした山王庵寺であれば、上野国分寺瓦を出土してよい立地、時代・背景にありながら出土しておらず、今後出土したとしても微量であろう。しかしながら上野国内において瓦匠匠から区分できるのは、東毛地域の西半および上野国府以北の地域を中心とする上野国分寺式鍍瓦の分布圏で、困難な地域に西毛地域の旧郡にいう多野・多胡・碓氷郡・上野国府を含まない南半の群馬郡でいずれも物部氏系氏族の影響地域に属する地帯である。新保遺跡の位置は後者に含まれるが、出土瓦の総体解釈から得た民の様相は不明な後者の中に一脈を得たことになり、その意義は深いとしなければならない。そこに新保遺跡出土瓦の存在意義がある。

さらに遺跡の性格上に寄与する点とすれば、奈良時代を中心とする掘立柱遺物群は、立地上新保庵寺に西接すると推考しうするため、当然、寺院運営のための雑舎群をまず考える必要がある。総柱三間建物跡は、倉庫の一端であろうし、広間的空間を置く官衙様建物配置は、機能運営の院としてのまとまりを呈している。これを上毛野地方における白鳳期の小規模寺院の中で、単位把握しうる雑舎の一形態として捉えておきたい。



第303図 出土分布図

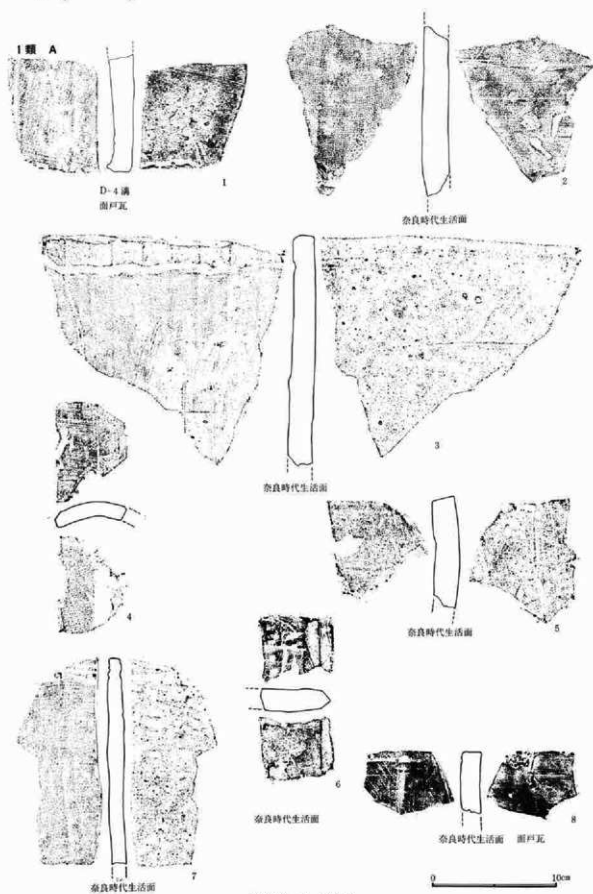
新撰講堂
 其類の検討をもつて白鳳期開立の寺院を
 推定した。寺であることは、さらに須賀
 原遺跡の礎・基をもつて確認され、それに新
 撰講堂という遺跡名称をあてた。その位
 置は、8・9世紀の遺跡を含む大溝と西
 側のD1号溝の間の800尺の長さであり、そ
 の幅が新撰講堂での400尺の幅となり、在りし
 うる高砂地帯でもある、800尺の台地幅を測
 定図で測り、遺跡地帯より300m程北上
 するがほぼ同じ状態となる。地勢上の
 高まりは90m等の高さが遺跡地帯を囲むよ
 うに存在し、遺跡地帯より高い地勢にある。
 その遺跡地に寺を推定した。寺の遺跡は、
 新撰講堂大溝の延長上と推測し得る遺跡
 は、新撰講堂の南に存在したと考えられ、
 寺域の東西幅は約110尺、南・北は90m等高線
 からすると、1-1.5間丁までが台地可能な範
 囲である。

註

- (1) 佐原 真 「平瓦桶巻作り」『考古学雑誌 第58巻2号』1972
- (2) 花岡敏一 「土器の胎土分析」『塚田古墳』(群馬県教育委員会) 1980から数え、現在までに約500点の試料を分析し、秋田・東野・吉井・笠懸・月夜野・太田山古窯跡群の領域が設定されている。分析結果と肉眼観察とを対照し、前橋・高崎を中心とする地帯に供給された在地須恵器・瓦のうち、秋田・東野・笠懸・吉井窯跡群の製品は大半が内県産定まらなくなった。
- (3) (群馬県教育委員会)「上野国分寺周辺調査」1975
- (4) (吾妻町教育委員会)「金井庵寺遺跡」1979
- (5) (中之条町教育委員会)「天代瓦窯遺跡」1982
- (6) (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団「日高遺跡」1982
- (7) (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団「下東西遺跡」1987
- (8) (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団「上野国分寺・尼寺中間地域(1)」1986 本津博明氏は同遺跡出土の中世瓦(整理用ケース155箱、全体重量2989kgの瓦)を扱い、男女瓦対応関係比率を求めた。氏の検討法は中世瓦製作の観察にはじまり相互関係の抽出に至るまで詳細に検討されており、今後中世瓦検討の基礎となるものである。
- (9) (3)の中で大江は、上野国分寺出土瓦其中に桶巻作が存在することを認めたが、女瓦を四割割とした場合に、1:4の割合で粘土板合目、布合目が認められないので、数割(分割)字位置にそれらの目を合わせたものと推定した。上野国分寺出土の桶巻作に併う布合目は横溝されている例も多く、その点を示唆された。
- (10) (5)の中で今関久雄氏は粘土板接合の合目を天代瓦窯遺跡出土の女瓦28点について検討し、佐原真氏の指摘(註1に同じ)された乙形(左逆)が3例、S形(右逆)が1例存在することを確認した。天代瓦柄ばかりでなく古代上野瓦のうち、回転合目ないし横溝を用いた製作の多くは左回転である。このことは月夜野・笠懸窯跡群を除き、各窯跡群で製作された須恵器製作の回転方向が主として横溝右逆であることと対照的である。上野国における8世紀代の窯跡の多くから須恵器・瓦との関係を採集することができ、全体趨勢として須恵器・瓦と同一窯で焼成した。一般にいう瓦陶の兼業窯の可能性が高い。しかし、工人集団が同一であったか否か、この回転方向の差が示すとおり疑問は残るものである。あるいは横溝が一般的に普遍的な左逆であるので考えられなくもないが作業者がらして良いとも思えず、作瓦の製作字位置は印位置からすると足元より50cm以上の高きはあるので、横溝で立派な場合も検討してみる必要がある。
- (11) 「安中市秋田古窯跡群Ⅰ・Ⅱ」(群馬県教育委員会)1972ゴルフ場建設に伴う分布調査資料集で、その後群馬県歴史考古同人会により「土器部会研究資料No.1」1982で資料補強され、「群馬県の部」シンポジウム「関東地方における9世紀代の須恵器と瓦」(立正大学)大江正行・中沢信、1982で秋田窯跡群資料に用いた。
- (12) (群馬県歴史考古同人会)「土器部会研究資料 No.1」1982
- (13) 関東古瓦研究会の埼玉・群馬同人により実施把握され、秋田孝志氏により「国を越える同瓦瓦に関する一考察」『研究紀要 82』(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団1982にまとめられた。さらに有吉重蔵氏により武蔵国分寺出土例の成果が加わり、高橋一夫・大江正行・有吉重蔵・坂野和信・酒井清治「シンポジウム 北武蔵の古代寺院と瓦」埼玉考古 第22号(埼玉考古学会)1984で補完された。本遺跡の場合は、十六重層并瓦文瓦瓦が想定される。
- (14) 上野国内での分布傾向は東地域に集中し、胎土は笠懸窯跡群に見えるが、雑地産物が多く、いまま一つ判然とし上野国。窯跡は同窯跡群にも関係する間の谷遺跡で本郷の胎土が散布し窯跡とも先行すると考えられるとも平塚としても上野国。窯跡は同窯跡群のため窯跡の存在は疑問視される。
- (15) 大江正行「金井庵寺の存在意義をめぐって」『金井庵寺遺跡』(吾妻町教育委員会)1979 それに触れている。
- (16) 扇状の分布調査では窯跡の確認がされていない。秋田窯跡群の八重巻・相水谷津・吾ヶ谷支線群から秋田支線に至る窯跡群の東半に7世紀代窯跡が集中分布するが大半は雑木林のため遺物の採集ができない。その一角に本郷の造地帯があるものと考えられるし、6世紀末から7世紀初頭頃の秋田窯跡群同窯跡の須恵器窯が存在するものと想定している。
- (17) 大江正行・川原嘉久治「天代瓦窯存在の意義をめぐって」『天代瓦窯遺跡』(中之条町教育委員会)1982 上毛野における瓦出現段階から上野国分寺建立まで古瓦変遷期について触れた。
- (18) 灰原から採集した資料は(12)に掲載した。そのほか同支線周辺から酒造器平蓋平瓶、何角出高台杯、杯、蓋、大まかな飯炊土を施す大瓦片などが出土している。それらは(12)および森田秀英「古代」安中市誌、1977に掲載されている。
- (19) 大江正行「出土瓦について」『熊野堂遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1984(約2.2mの不整形気味の土壌中に数十個の礫に覆って須恵器杯、短頸壺、大形女瓦、鏡瓦片などが出土している。小土坑中の遺物群であるのと須恵器類の還元率の高さから一括性の信憑度が高いと考えられる。
- (20) 鑄印の技法は上野国分寺の前期段階国分寺式瓦瓦に認めることができ、本格的な量産に鑄印を使用しはじめたのはこの頃であろう。しかし、(新田町教育委員会)「入谷遺跡」1982によれば同遺跡から、明らかに上野国分寺創建より遅いほうの曲輪第三重瓦文字瓦に伴っており、上野国分寺の建立に先だつ鑄印の存在は確定的となった。
- (21) 154号溝は桑原水田の掘りに併い8世紀に設けられた灌漑水路と考えられ、9世紀終末に埋没している。埋没は、上層遺物と下層遺物ともに9世紀終末の上層をまじえ早急であった。したがって埋没土層から出土した遺物群は9世紀末以前と見なされた。大江正行「土器用の変遷」『日高遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1982
- (22) 宇瓦には変形斜格子文が、鏡瓦は細片であったが隣縁縁文が施されていた。大江正行「瓦類」『日高遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1982
- (23) 尾崎喜住雄「寺井庵寺」『日本考古学年報』(日本考古学協会)1948
- (24) (新田町教育委員会)「入谷遺跡」1982
- (25) 実見確認している。
- (26) 須田 茂 「群馬県における古代軒瓦の変遷」『入谷遺跡』(新田町教育委員会)1982
- (27) 石田茂作「上植木南寺の研究」『飛鳥時代寺院址の研究』1956
- (28) 須田 勉・安藤瑞基「上総大南寺」『金鈴 20号』1958
- (29) (栃木県教育委員会)「下野薬師寺跡発掘調査報告書」1974
- (30) 八賀晋「地方寺院の成立と歴史的背景」『考古学研究 第20巻1号』1973
- (31) 藤田壽雄「下野薬師寺建立についての一考察」『筑地短期大学学報 6号』1968

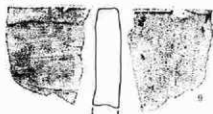
- (32) 近年、山王庚寺の発掘調査が行われ、「放光寺」銘瓦が出土したことにより、山の上碑文中の「佐野三家」「放光寺僧」とともに金井沢碑内容の解釈から山王庚寺の置かれた地域を「群馬郡下野郷」の地に比定する説が出ている。旧説では高崎市佐野をそれにあたる尾崎喜左衛門の時代に既に上屋文明氏はかが寄託していた。上屋文明氏は「高山寺本名和名に群馬郡の郷上野郡山王庚寺」とあるといふ。書記の部字の用例などを見れば或はその語が正しいと見られる。通行本に追加無仕土で今の群馬郡のムツブの村の村名はそれによって附けたのである。又金井沢碑の下野の語はいかにあろうとも、山の上碑に佐野三家とあるに、又本集の教首の例状によっても、上野に佐野のあったことは明らかである。和名片岡郡の郷名中の佐佐は佐野の誤と見られるから、佐野も亦片岡・群馬両郡に亘った一般的地名であったと解される。その地名が佐野と見られるのは、サオあるいはサトと見られる地名は、群馬郡・片岡郡の両郡に存在することを指し、三四〇六を群馬郡佐野に、三四二〇を角川周辺の佐野にあてられて、いわばサメの二郷説である。尾崎喜左衛門は群馬郡にあつた下野郷(佐野)の位置について、賢が「和名抄」片岡郡佐野郷とあるに、この片岡郡の地は、当初成立した時は烏川右岸に沿つた細長い地であり、西北部の多胡より南東端の山寺(山部・山倉・山名)の地までであったが、和銅四年(711)に山寺郷が多胡郡に割かれた。その折に佐野地より、烏川右岸の地は群馬郡に属せしめられ、やがて九世紀に至るまでに、その地はふたたび片岡郡に属せしめられ、「和名抄」に見える佐野郷となつたと考えられる。」と説明し、多胡郡建部郷の頃に佐野(佐野)は群馬・片岡の二郡に分かれた一帯分離説を取つておられる。尾崎氏の解釈は一帯内かがやがて分離され、その境界は烏川としておられるが、烏川は境内においても有数の利根川支流であつても、もともと佐野郷の成立がその河川にまたがっていたとは當地形でもないで考え難い。一帯内を分けて郡界を定める点も妙である。氏の「佐野」解釈における片岡郡と群馬郡界説に無理が多い。たとえば、多胡郡建部郷に烏川右岸の地までもが群馬郡だつたとする解釈であるが、片岡郡は多胡郡に併合し一帯を分たれ、さらに烏川右岸までもが群馬郡に属してしまふのであるから、この段階の片岡郡規模は極端に狭い地域となつてしまひ、はたして三郷するも存在しうる面積であるのか疑問が生じてしまふ。こうした矛盾について群馬県下野郷(佐野)高野里を考れば二郡に隣接する佐野ではなく、両者ともかけ離れた佐野として考えざるを得ない。佐野を読み替えてサトとした場合、群馬郡の中里村地名が残されている。中里村は明治二十二年の町村制により隣接の志原・保蔵田村と共に、古各務に習ひ上野村となつた。現在ではさらに町村合併が進み、群馬郡保蔵町となっている。その中里村については江戸時代初期まで悪ことができたがそれ以前は判然としないので地名決定の信頼度は薄し。しかし地名判定は別としても、尾崎喜左衛門の碑文の固有名称解釈に現状の群馬県内において定説となつており、筆者自身もそれを越えることができないが、山の上碑と金井沢碑の内容から碑文中に見える放光寺の所在を尾崎氏の固有名称解釈を援用して求めれば一つの見解が求められる。それは以下の通りである。
- 山の上碑の大意は、天武天皇九年十月三日記す。佐野仏舎の管理者である建守命の孫の黒毛白足は新田臣の見であり、斯多牟孫足尾の孫である大見君と繋いで生ん見見が長尾僧で、母の如くに碑文を記す。放光寺の僧なり。
- 金井沢碑の大意は、群馬郡下野高野田村の毛倉の子孫が七世の父母と現在の父母のために、現在ほく屯家刀自、池田君目刀自、また見の加那刀自、孫の物部君午足、次に乙氣刀自、合せて六人とまた見尾に帰化した屯毛の毛人、次に知万呂、鏡師、藤原君身麻呂の合せて三人が知識に頼んで、天地に誓ひ願ひ仕奉る石文なり。神皇三年丙寅二月廿九日。
- 山の上碑文中の新田臣、大見君はともに6世紀代上毛野氏の掌握されたとされる氏族であり、ともに現存、氏族名称を赤城山南麓の地名にとどめ、また新田臣は佐野仏舎の管理者であつた建守命の孫にあたるから、血縁、親縁に対する土地の占有権は朝廷との関係において佐野仏舎内であつたと考えられ、新田臣の居住域は上毛野氏掌握地域の一角または、6・7世紀代頃の上毛野氏の直接掌握地域が佐野屯毛の地であると明瞭である。上毛野氏は「紀・起」によれば、天皇の皇子を配する皇宗の貴族がその源流にあることがその本拠地は、右馬和夫氏が「東国」の旗本が上毛野君こそ本古墳群に聞かぬ豪族として最もふさわしいものと考えている。」と指摘されたとおり、純古墳群の地帯と地地方家族と朝廷との関係において成立した律令制の時代の上野国府、園分邑寺、軍団駐屯地など上野中野の地も含まれてゐる。放光寺の規模は、また平安時代の後期の「上野国交野実録」にも同名名が見え、碑文中の放光寺と同一寺であると考えられる「放光寺」の氏人から定額寺の除去申請が出されており、そのころ平安時代後期に至つても國家援助を受けなくとも運営しようとする状態にあつたと、定額寺対象として地域に欠くことのできない存在となつた。相当規模の寺院であつたことが知られる。上野氏によって7世紀代から始まる有縁の寺院は、互異であつた場合、かつて離れた上と上植木庚寺が必然的に存在するが、後出段階の上野園分寺式部瓦が供給され官寺の色彩が濃厚となり、僧長行が氏寺である放光寺僧とも可能であると考えられる。このように解釈すると、山王庚寺の発掘調査によって出土した「放光寺」銘瓦が存在しなくとも純古墳群の地帯の一角にある山王庚寺が放光寺である可能性は考え出される。また金井沢碑文中に見える物部君、鏡師藤原君などの本拠地と考えられる種木寺と山王庚寺の関係も深く山王庚寺創建期も種木寺で築造されている。
- 尾崎喜左衛門「上野三郷と郡国通譯」「古代の日本」7関東(角川書店)1970
- 土屋文明「三四〇六・三四二〇」「萬葉山上野園分私注(奥平堂)1937
- 右馬和夫「前橋市社古墳群の形成とその画題」「群馬県史研究」22、1985
- 以上のとおり、筆者自身は山王庚寺を放光寺と見なし、今後、山王庚寺→放光寺説としたい。本誌はその意志表明である。しかし、問題は解決した訳ではなく佐野寺設置、展開期の範囲、山の上碑、金井沢碑の存在位置からくる佐野の位置など多くの問題点がある。
- (33) 尾崎喜左衛門「多野郷とせせ寺南郷」「日本考古学年報」(日本考古学協会)1947
- (34) 石塚久則「奥原遺跡」「群馬県歴史文化財調査事業部」1983、および2に小片が各一点づつ報告・紹介されており、分布圖からして複合七畝段瓦と推測される。
- (35) 「群馬県歴史考古学会」『関東古瓦研究会 研究資料』3、1982
- (36) 碑の中で瓦の出現から上野園分寺前の施設について触れ、さらに破瓦意匠について雷電山瓦葺跡とその供給を受けた上植木庚寺創建段階の系譜を雷電山・上植木系とし、秋田家跡群とその供給を受けた山王庚寺創建段階の系譜を秋田・山王系とした。前者は古利根川以東に、後者は古利根川以西に展開を見ており、両者の分布圏には地域勢力の地域支配に伴つたと考えられる差が歴然と存在する。
- (37) 幅原晋也、「古瓦」(至文堂)1971 稲垣氏は一連の系譜理解の中から、軍団複合八畝段瓦の製作年代を推定しておられる。
- (38) 「京都市文化観光局文化財保護課」『歴史京寺跡』1972
- (39) 井井機寺瓦については本郷仁一氏保管資料2500点余りを、同氏の好意により開口功一君と一緒に検討させていただいた。すべての破片について、本稿で作成した観察表とほぼ同じ観察を行い、女瓦の格子目同型関係まで追求めたが、2500点のグラフの作成の際、数字が一貫せず、文化変化を断念した。その際の資料は朋友である須田茂氏が提供してくれたので、近年中に文化変化ものである。
- (40) 上植木庚寺、金井庚寺、山王庚寺の創建期段瓦の形制類については註で触れた。
- (41) 「新日本紀」巻十九、天保御宝五年七月奉

- (42) 深米系の様式を模倣したのは石村喜英「群芳寺(群芳寺)一武蔵国分寺出土の古瓦について」『考古学雑誌第41巻1号』1955でその際大半を高句麗様式の中を理解されたが、仔細に検討すると、雷電山・上野木系の鏡瓦には新羅様式が、秋田・山形には高句麗様式が反映している。その両者の様式反映(古瓦)を狭く捉えて論議に異なる点についても同様である。(17)に詳しい。
- (43) 造園分寺司の存在を強く感じるのは統一意匠の決定ばかりでなく、上野国分寺出土鏡瓦の背面に布紋を伴う一群があり、それらは上野古瓦産地の中で二分分寺時代に反映した形で第IV期に類され、おそらくは上野国分寺までその製物が続いていたものと考えられる。その主体分寺窟は古瓦利用の東方地域であるから、国分寺の遺構と云う大目的が働かない限り、供給された一群である。その存在がありながら鏡瓦一意匠の作製に踏み切ったのは大規模な組織体で目的達成のために必要だったからと推察できる。また遠瓦負担の主体は武蔵国分寺より後に出た建都された新羅部を除き全部が負担別割を取るのと異なり、上野国分寺は創建段階の瓦瓦室に空置空跡跡と藤岡空跡跡が造瓦を行い、瓦負担された部として、「佐」位・「勢」多・「山」多・「野」多・「多」胡?の郡置空跡跡があり、群馬・利根・吾妻・碓氷・新田・那波・他楽などが見当たらず、今後出土したとしても少量であり、瓦負担する主体的立場になかったと考えられ、利根・吾妻部では木材などの負担(帯内の欄間同定された奈良・平安時代木製遺物中にス材は極めて少なく、ヒノキ材も輸入と考えられるほどで、わずかであるがモミ材が存在する。モミは山形の中で林立するような植生ではなく、散在分布であるため、上野の場合、官衙・寺院建築用材として、用いる場合安易な入手方法としてもミミなどの針葉樹を想定せざるを得ない。モミは、現在、利根・吾妻部に比較的多く分布する。)が考えられ、瓦負担のなされた各部はそうした個々の郡の特性による負担であったと推測される。そうした負担別割は強力な組織体が各部の細かな状況を把握し、差配しなければ実現できないことであり、それらの理由から施工の中枢であった造寺司は置かれていたものと考えられる。
- (44) 大江正行「清里・陣場遺跡の考古学的位置」1981の中で上野国分寺式鏡瓦についてまとめが、当時は「上野国分寺系」として鏡瓦も含めた汎称であった。しかし現在では同鏡瓦が一型式をなす独立意匠であることが判明されたことでその鏡瓦を上野国分寺式鏡瓦と呼んできつろくないと考えている。宇瓦類(註17)に型式として記述を正確に数えていないので現状では上野国分寺式としておきたい。また弁形意匠の一部に上野国分寺式鏡瓦の意匠を用いた例については旧来通り上野国分寺系とした中で扱いたい。
- (45) (群馬県教育委員会)『十三室塚遺跡発掘調査概報 I』1975・(群馬県教育委員会)『十三室塚遺跡発掘調査概報』1976
- (46) (群馬県埋蔵文化財調査事業団)『清里・陣場遺跡』1981
- (47) 工藤圭章「都へのあゆみ」『藤原京』(吉川弘文館)1967。定型化する以前に、飛鳥小塚田宮例がある。
- (48) 十三室塚遺跡について都府とすれば極めて乏しい。回廊的な階列と隅・土庫(築地)で区画された南北約85m、東西約85m中に存在する方形基壇(第2基壇)、中央の長方形基壇(第1基壇)を含めた遺構は8世紀代中に建立された郡名寺院であり、東・南・東・南に存在する偏立柱礎は同時期であればその機能はなまかなうための雑倉であり、同時期の聖穴遺跡跡はそれと直結した人々の生活施設と考えられる。十三室塚遺跡出土瓦の主体は上野国分寺式鏡瓦とその祖瓦で構成され異次元の瓦はほとんどなく、ここに女・男瓦の形制に都・郡名が多数あり、官の使用する瓦として重視しなければならない。重米地域で官に直結する官衙・郡の寺院であれば使用されていても当然のこととして理解できる。遺構としては第2基壇に方形3回廊が示唆され、特に基壇は二重で、検出面より50cmの下部基壇があり、その上面に一定2.5m(羽目石溝間)で地面が検出され、羽目石長と上面化粧石30cm程として上成を想定しても、基壇高は80cm以上となり上に建つのであるから建物は見上げるような建物でそんな建物が都単位で存在するだろうか。第1基壇中のその建物は3間×2間の東西軸向建物であるが、桁間中央の柱間が狭く、正面壁は開放的な扉ではなく閉鎖的な壁体である。そんな建物が官衙の主眼としてよきわいであろうか。寺院に直結する遺物に瓦跡および土器を考えても不思議でない遺物の大きな確率があり、そんなに大きな仏像を以て都府のどこに安置したのであろうか。土器類のうち宗教的な色彩は三彩の火舎、入物の淨瓶に見られ、ことに三彩は8個体以上があり、現状で、官給であった三彩の出土は官衙でもまったなし例が少なく、聖水を入れる浄瓶なども官衙に必要なものと思える。以上、どのように解釈しても主体遺構・板瓦遺跡に都府像は求められず、佐位、郡名郡名と考えるのが自然である。郡寺を都府とするなら(45)はもっと過激に報告すべきであった。遺跡の性格づけが可能遺構・遺物類(遺跡内での内視点だけが性格づけが可能という意味)に対して、それを行わないというのは群馬県における考古学研究的体系問題と文化財上の遺産問題ともある。
- (49) 井上唯雄「ままと」『上野原・向原・谷津』(群馬県教育委員会)1966。十三室塚遺跡跡と類似の方形区画内に、基壇があり、郡名瓦・瓦持・聖像などの出土があり、井上氏は勢多郡寺の可能性を強くしておられる。勢多郡内には新羅村青雲寺古瓦散佈地(群馬県歴史考古研究会)『関東古瓦研究会 研究資料 No.2』1982から上野国分寺系瓦・瓦持が散佈しており、勢多郡内における郡名寺院が一個所であるのか多少の疑問がもたれる。上野国分寺式鏡瓦の一部に2ヶ所以上互る郡は、旧郡の群馬・新田郡があり、また十三室塚遺跡跡、上野原例を都府名とした場合、他郡の郡寺例とは異なり過ぎ、それとも当時の上野の区画は良しとしたのか、あるいはこうした郡名寺院規模が一般的であったのか今後に期されることである。
- (50) (前橋市教育委員会)『山王庵寺第4次発掘調査概報』1978
- (51) 須田 茂「上野国分寺の軒瓦」『群馬文化 177号』1977。(4)
- (52) (51)。(4)。板瓦型一ほか「上野・金山遺跡」(ニューアークパブリッシング)1966
- (53) 山王・秋間系瓦の系譜は西毛地域に広く浸透し、その焼造当初には7世紀後半に秋間空跡跡群から始まる。秋間の地は碓氷郡の大きな支谷地形の一つで、碓氷の谷地形の最西部に上毛野坂本君に伝わる坂本の地名が残る。坂本氏は「続日本紀」卷十九の天平勝宝五年七月の記事に「戊午年左京人正八位上石上郡男等七人召。己未父召。去去大寶元年 賜上野郡本君君 妻子等籍帳酒石上郡君於不理。望請。情乞改改改正之」とあり大寶元年(701)に上毛野坂本君の姓を賜ったことと改姓の前後には石上氏であったのがわかる。畿内の石上氏は物部氏が改氏したもので天武朝以前には畿内の軍事の中枢勢力であった。天平勝宝(75)五年七月の記事に「戊午。左京人(以下略)」とあり、石上郡男等はこの時、郡に居を構えていたのではある。後水部在任の坂本氏としては「続日本紀」の天平勝宝元年(748)五月に「戊戌。上野國碓氷郡人外從七位上石上郡君諸男。(中略)各第富分寺知物並並授外從五位下」とあり石上郡君諸男の名が見えるが大正勝宝5年に録帳の改正を望む以前のため上毛野坂本君連としては記載されなかったであろう。しばらく後の神護景雲元年(767)三月は「己酉。左京人正六位上上毛野坂本公男朝。上毛野國碓氷郡人外從八位下上毛野坂本公果益。賜姓上毛野坂本朝臣。(以下略)」と「続日本紀」にあり、天平勝宝五年七月の系の上野郡男等が上野公男朝と記述されている。これらの史料から石上郡君はは大寶元年に上毛野坂本君に改姓を受け、それは石上郡君が大寶元年の時代に碓氷郡坂本(現松井田町)の地域を基盤としたため地域の名が改姓されたと考えられる。そのほか金井氏等ははじめ以降に、西毛地域から吾妻郡に至るまで石上郡君・物部氏系氏族の名が資料に散見され、8世紀代には西毛地域はその掌握下で直接影響下に置かれたと推定される。山王・秋間系の瓦系譜も、まったく同様の地域に展開し、造瓦組織も8世紀代まで、その直接影響下に置かれていたと考えられ、仔細は(15)に詳しい。

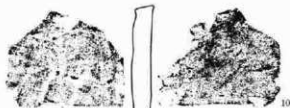


第304图 瓦 图(1)

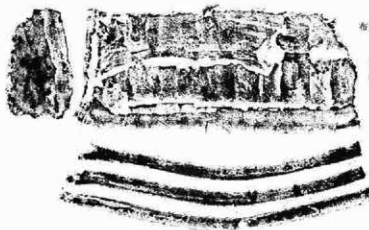
1類 A



奈良時代生活面



D-4溝 面付瓦



布目あり

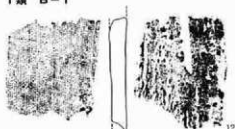
布目を残さない横骨横取
横骨端部あり。



頸下隆帯は、
上積木宛等。
富田山に例あ
り。

調査区表柱

1類 B-1



D-1溝



奈良時代生活面



D-1溝



D-1溝



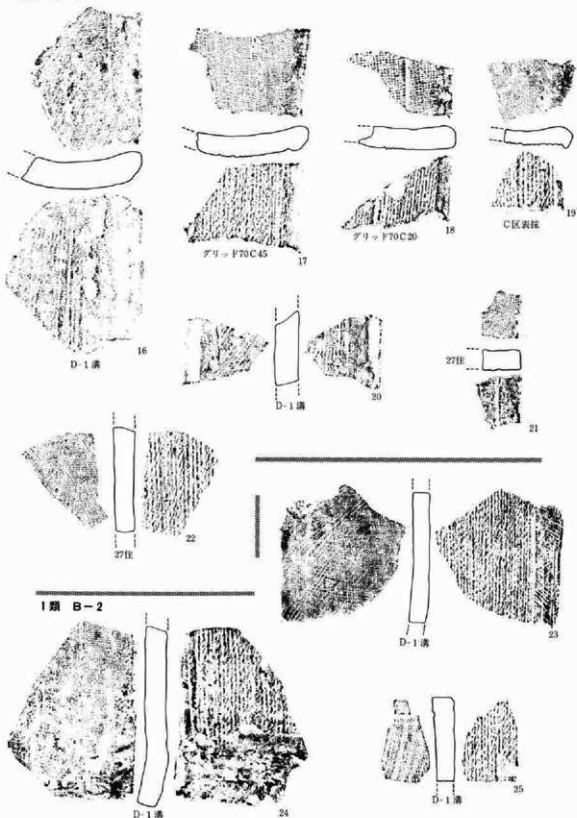
13

0 10cm

第305図 瓦 図(8)

6 考 察

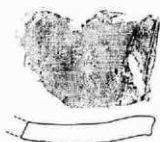
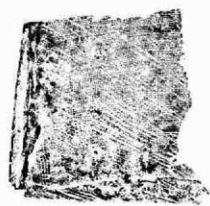
1類 B-1



1類 B-2

第306図 瓦 図(3)

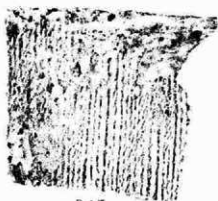
I類 B-2



D-1溝 27



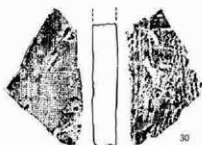
D-1溝 28



D-1溝 26



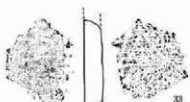
29



D-1溝



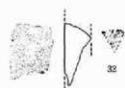
31 32土坑



グリッ F36C 27



表様 34



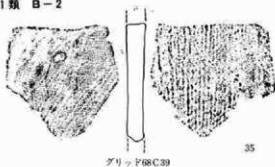
32



第307図 瓦 図(4)

6 考 察

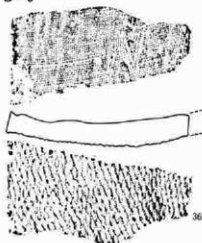
1類 B-2



グリッ F68C39

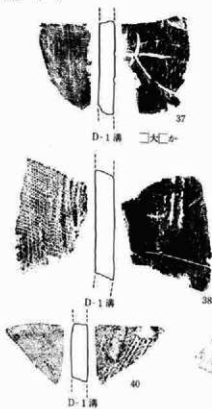
35

1類 B-3



10住

1類 B-4



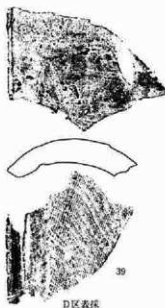
D-1溝 □大□か

D-1溝

D-1溝

グリッ F68C37

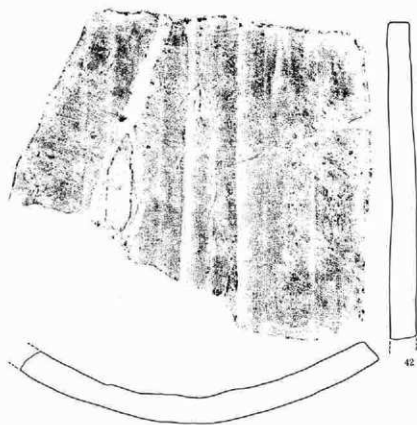
グリッ F68C37



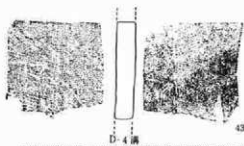
D区表様

0 10cm

1類 C

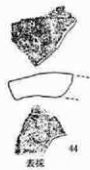


D-4溝

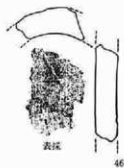


D-4溝

2類-B



2類-A

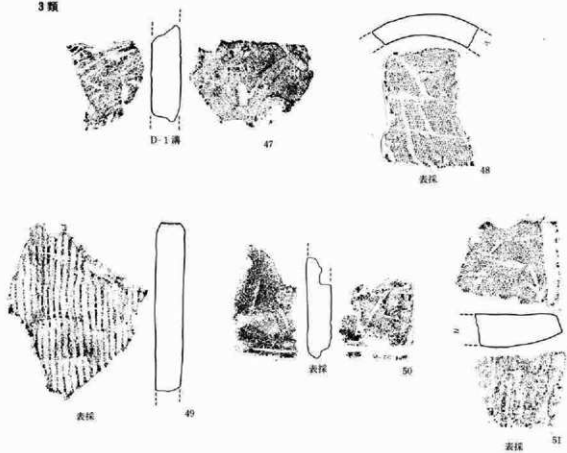


0 10cm

第309図 瓦 図(6)

6 考 察

3類



第310圖 瓦 圖(7)

このあたりの表面剥落
あり、深へせか。



表面には、回転に伴う
輪痕あり。



瓦当面には木型の木目
あり。
面の風化はほとんどな
い。
型型はシャープなため
新製か。



背面は、泥か粉と考えら
れる物あり。。

瓦当面との接合部の輪
強粘土がわずか粘られ
る。

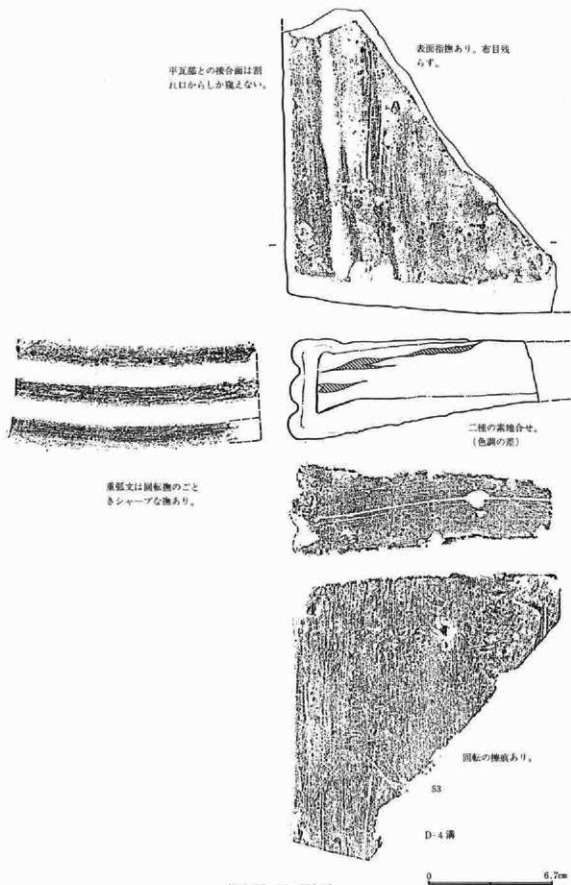


布の合目を出で無消す。

52
D-1溝



第311図 瓦 図(8)



第312図 瓦 図(9)

第104表 瓦観察表1類A

No	種別	出土地	厚さ	焼 成		成 形 技 法					整 形 技 法				備 考			
				焼 上 り	色 調	粘 土 板 糸 切 痕	一 枚 作 用	桶 粘 土 板 合 目	布 の 合 目	叩 目	龍 鱗 痕 跡	瓦 削 削	目 溝			側 面 取 削		
													凹	凸			凹	凸
1	平瓦	D-1号溝	1.7	硬	灰色		/	○				撫	○		○	/	2	
2	平瓦	D-1号溝	2.2	並	淡黄		/	○	○			撫	○			/		
3	平瓦	D-1号溝	1.2	硬	灰色		/	○				撫	○			/		
4	平瓦	D-4号溝	1.9	硬	灰色		/	○				撫	○			/		
5	平瓦	D-4号溝	1.7	締	灰色	○	/	○				撫	○			/	1	
6	丸瓦	D-4号溝	1.4	並	灰色		/	/	○			撫	○		/		2	
7	平瓦	D-4号溝	1.6	並	灰色		/	○				撫	○			/	2	
8	平瓦	D-4号溝	2.0	軟	淡黄		/	○				撫	○			/		
9	面戸瓦	D-4号溝	1.5	硬	灰色		/	○				撫	○		/		1	平瓦を利用 第304図№1
10	平瓦	D-4号溝	1.6	並	灰色		/	○				撫	○		/		2	
11	平瓦	D-4号溝	1.3	締	灰色	○	/	○				撫	○		/		2	
12	平瓦	D-4号溝	1.6	軟	淡黄		/	○				撫	○		/		3	
13	平瓦	D-4号溝	1.8	並	淡黄		/	○				撫	○		/		2	
14	平瓦	D-4号溝	1.3	軟	淡灰		/	○		○		撫	○		/		1	
15	平瓦	D-4号溝	1.3	軟	淡黄		/	○				撫	○		/			
16	平瓦	D-4号溝	1.7	並	灰色	○	/	○				撫	○		/			
17	平瓦	D-4号溝	1.5	軟	淡褐		/	○				撫	○		/			
18	平瓦	D-4号溝	2.0	軟	淡黄		/	○				撫	○		/			
19	平瓦	D-4号溝	2.0	硬	灰色	○	/	○	○			撫	○		/			
20	平瓦	D-4号溝	1.3	軟	淡黄	○	/	○				撫	○		/			
21	平瓦	D-4号溝	1.3	硬	灰色	○	/	○				撫	○		/		1	
22	平瓦	D-4号溝	1.3	締	灰色		/	○				撫	○		/			
23	平瓦	D-4号溝	1.8	軟	黄灰		/	○				撫	○		/		1	
24	平瓦	D-4号溝	2.2	硬	灰色		/	○	○			敷上り?	?		○	/	3	
25	平瓦	D-4号溝	1.2	硬	灰色		/	○				撫	○		/			
26	平瓦	D-4号溝	1.7	硬	灰色		/	○				撫	○		/			
27	平瓦	D-4号溝	1.8	硬	灰色		/	○	○			撫	?		/			

(1) 瓦 類

59	平瓦	奈良生活圏	1.7	並	淡灰	○	／	○	○	撫	○	／		
60	瀬戸瓦	奈良生活圏	2.0	軟	灰		／	○	○	撫	○	／	1 平瓦を利用。 第304図№ 5	
61	瀬戸瓦?	奈良生活圏	1.0	硬	灰		／	○		格子・撫	撫	／	1 平瓦を利用。 第304図№ 7	
62	平瓦	奈良生活圏	2.0	並	灰		／	○	○	撫	○	○	／	
63	平瓦	奈良生活圏	1.8	硬	灰		／	○	○	撫	○	○	／	
64	丸瓦	奈良生活圏	0.9	軟	灰		／	／		撫	○	／		
65	平瓦	奈良生活圏	1.4	軟	淡灰		／	○		撫	○	／		
66	平瓦	奈良生活圏	2.6	軟	赤褐		／	○		撫	○	／	3	
67	平瓦	奈良生活圏	1.3	軟	淡黄		／	○		撫	○	／	2	
68	平瓦	奈良生活圏	1.5	軟	淡灰	○	／	○		撫	○	／	1	
69	丸瓦	奈良生活圏	2.0	軟	淡黄		／	／		瓦削	○	／	瓦削りは縦方向の削り。	
70	平瓦	奈良生活圏	1.8	軟	淡黄	○	／	○		撫	○	／		
71	平瓦	奈良生活圏	2.2	軟	淡黄	○	／	○	○	撫	○	○		
72	丸瓦	奈良生活圏	1.5	並	淡黄		／	／		撫	○	／		
73	平瓦	奈良生活圏	1.4	並	淡灰		／	○		撫	○	／		
74	丸瓦	奈良生活圏	1.5	軟	淡黄		／	○		瓦削	○	／	3 強度が見られるが特例か? 第304図№ 6	
75	平瓦	奈良生活圏	1.3	軟	灰		／	○		撫	○	／		
76	平瓦	奈良生活圏	1.5	軟	灰		／	○		撫	○	／	2	
77	丸瓦	奈良生活圏	1.5	軟	淡黄		／	／		撫	○	／	1	
78	平瓦	奈良生活圏	1.5	軟	灰		／		○	撫	○	／		
79	平瓦	奈良生活圏	1.3	硬	灰		／	○		撫	○	／		
80	丸瓦	奈良生活圏	1.3	軟	淡黄		／	／		撫	○	／	2	
81	瀬戸瓦	奈良生活圏	1.5	軟	淡黄	○	／	○		撫	○	／	1 平瓦を利用。 第304図№ 8	
82	丸瓦	奈良生活圏	1.4	軟	淡黄		／	／		撫	○	／		
83	平瓦	奈良生活圏	1.4	軟	淡黄	○	／	○		撫	○	／		
84	丸瓦	奈良生活圏	1.3	軟	赤褐		／	／		撫	○	／		
85	丸瓦	奈良生活圏	1.7	軟	淡黄		／	／		撫	○	／	2	
86	平瓦	奈良生活圏	2.1	硬	灰		／	○		撫	○	／		
87	平瓦	奈良生活圏	1.9	硬	灰		／	○		撫	○	○	／	2 赤色顔料付着。 第305図№ 9
88	平瓦	奈良生活圏	1.9	並	灰		／	○	○	撫	○	○	／	
89	平瓦	奈良生活圏	1.9	硬	灰	○	／	○		撫	○	○	／	3

6 考 察

90	平瓦	奈良生活館	1.2	締	灰					○									
91	不明	奈良生活館	1.4	軟	淡黄		○	／	？										
92	丸瓦	奈良生活館	1.2	軟	淡黄		○	／	／		○								
93	丸瓦	奈良生活館	1.2	硬	灰			／	？										
94	丸瓦	奈良生活館	1.5	軟	淡黄			／	／		○								
95	平瓦	奈良生活館	0.9	軟	淡黄			／	？										
96	平瓦	奈良生活館	1.5	軟	淡灰			／	○									2	
97	丸瓦	奈良生活館	1.3	軟	淡黄			／	／									2	
98	平瓦	奈良生活館	1.1	軟	淡黄			／	○										
99	平瓦	奈良生活館	1.3	軟	淡灰			／	○									2	
100	丸瓦	奈良生活館	1.7	軟	淡褐			／	／										
101	不明	奈良生活館	1.3	硬	灰			／	？									2	
102	軒平瓦	黄鹿区表探	2.7	締	灰			／	○									1	三重弧文 第305回№11
103	平瓦	46C26	1.8	締	灰			／	○									1	
104	平瓦	56C17～ 64C21	1.9	軟	淡灰			／	○									3	
105	丸瓦	64C27	1.3	硬	灰			／	／									2	
106	平瓦	D区溝東	1.6	並	灰			／	○									3	
107	丸瓦	56C19～ 64C29	1.3	並	灰			／	／									2	裁断日あり。
108	平瓦	D区 トレンテ	1.4	硬	灰			／	／									1	轆轤回転左廻り。
109	丸瓦	D-4号溝	1.4	硬	灰		○	／	／									2	轆轤回転左廻り。
110	平瓦	67C31	2.0	硬	淡灰			／	○										
111	平瓦	D区表探	2.2	軟	黄灰		○	／	○										
112	平瓦	D区表探	1.8	軟	淡灰			？	？		？	？	？	？	？	？	？	／	
113	平瓦	D-14号溝	1.6	締	灰		○	／	○									2	
114	平瓦	D区表探	1.3	硬	灰			／	○										
115	丸瓦	D区表探	1.3	軟	黄灰			／	／										
116	平瓦	D区表探	1.7	締	灰			／	○										
117	平瓦	黄鹿区表探	1.9	軟	黄灰			／	／										
118	平瓦	D区表探	1.0	締	灰			／	／										
119	丸瓦	D区表探	1.6	軟	淡灰			／	／										3

(1) 瓦 類

120	丸瓦	37C15	1.2	硬 灰		/ /			無	○	/	2	
121	平瓦	62C31	2.0	並 灰		/ ○			無	?	/		
122	平瓦	D区表採	1.8	軟 濁		? ?			無	?	/		
123	平瓦	D区表採	1.8	硬 灰		/ ○			無	?	/		
124	面戸瓦	D-4号溝	1.5	軟 黄灰		/ ○			無	○	/	1	平瓦全転用。 第305図No.10
125	平瓦	D-4号溝	1.5	硬 灰		/ ○			無	○	/	2	
126	平瓦	D-4号溝	1.6	軟 淡濁		/ ○			無	○	○ /	2	
127	平瓦	D-4号溝	1.3	硬 灰		/ ○			無	○	/	2	
128	平瓦	D-4号溝	1.4	軟 淡灰	○	/ ○			無	○	/		
129	平瓦	D-4号溝	1.4	軟 黄灰	○	/ ○			無	○	/	2	
130	平瓦	D-4号溝	1.5	軟 淡濁		/ ○	○	素文	○	/			
131	平瓦	D-4号溝	1.5	軟 淡黄		/ ○			無	○	/		
132	平瓦	D-4号溝	1.6	軟 黄灰		/ ○			無	○	/		
133	平瓦	D-4号溝	1.0	軟 淡濁		/ ○	○		無	○	/		
134	平瓦	D-4号溝	1.7	軟 灰	○	/ ○			無	○	/		
135	平瓦	D-1号溝	1.4	軟 淡灰	○	/ ○			無	○	/	2	
136	平瓦	D-1号溝	2.0	軟 淡灰	○	/ ○			無	○	/	2	
137	平瓦	D-4号溝	2.0	硬 灰	○	/ ○			無	○	/		
138	平瓦	D-4号溝	1.8	軟 黄灰		/ ○			無	○	/		
139	平瓦	D-1号溝	1.7	硬 灰	○	/ ○			無	○	/		
140	平瓦	D-1号溝	1.7	硬 灰		/ ?			無	?	/	2	
141	平瓦	D-1号溝	1.2	軟 黄灰		/ ○			無	○	/		
142	平瓦	D-1号溝	1.7	並 灰		/ ○			無	○	/		
143	平瓦	D-1号溝	2.0	硬 灰	○	/ ○			無	○	/		
144	平瓦	D-1号溝	1.8	硬 灰	○	/ ○			無	○	/		
145	平瓦	D-1号溝	2.1	並 灰	○ ○	/ ○			無	○	/		
146	丸瓦	D-1号溝	1.5	軟 淡灰		/ /			無	○	/	3	
147	平瓦	D-1号溝	2.1	硬 灰	○	/ ○ ○			無	○	/		
148	平瓦	D-1号溝	1.7	硬 灰	○	/ ○			無	○	/		
149	平瓦	D-1号溝	1.9	硬 灰		/ ○			無	○	/		
150	丸瓦	D-1号溝	1.8	軟 淡黄	○	/ /			無	○	/	2	

6 考 察

151	不明	D-1号溝	1.5	軟	淡灰			?	?			?	?	?	?	
152	平瓦	D-1号溝	1.8	軟	灰	○	／	?	○			撫	○		／	1
153	平瓦	D-1号溝	1.5	軟	淡灰	○	／	○				撫	○		／	
154	丸瓦	D-1号溝	1.3	軟	淡灰		／	／				撫	○	／		3
155	平瓦	D-4号溝		軟	淡灰		／	○	?			?	／	／	／	
156	平瓦	D-4号溝	1.6	軟	淡黄		／	○				撫	○		／	
157	平瓦	D-4号溝	1.5	並	淡黄	○	／	○				撫	○		／	
158	平瓦	10号獨立	1.9	並	灰	○	／	○				撫	○		／	3
159	平瓦	51号住	1.8	軟	淡灰	○	／	○	○			撫	○		／	1
160	平瓦	13号土坑	1.8	並	灰		／	○	○			撫	○		／	
161	平瓦	調査区表採	2.0	硬	灰		／	○				撫	○		／	3
162	平瓦	D区表採	1.7	軟	淡灰	○	／	○				撫	○		／	
163	平瓦	D区表採	1.5	軟	淡灰		／	○				撫	○		／	
164	平瓦	D区表採	1.7	硬	灰	○	／	○				撫	○		／	
165	平瓦	36D10	2.5	並	灰		?	?	○			撫	○		／	
166	平瓦	64C39	1.7	軟	淡褐	○	／	○				撫	○		／	3
167	平瓦	30C22	1.7	並	灰		／	○				撫	○		／	
168	平瓦	58C37~ 58C43	1.9	軟	淡灰		／	○				撫	○		／	1
169	平瓦	D区表採	1.7	軟	淡灰		／	○				撫	○		／	2
170	平瓦	61C37	2.3	軟	淡褐	○	／	○				撫	○		／	3
171	平瓦	32C25	2.0	並	淡灰		／	○				撫	○	○	／	
172	平瓦	D区表採	1.9	硬	淡灰	?	?	?				觸	鹿	○	／	
173	平瓦	32C25	2.1	軟	淡灰		／	○				撫	○	○	／	2
174	平瓦	64C27	0.9	軟	淡灰		／	○				撫	○		／	2
175	平瓦	D区表採	1.5	軟	灰		／	○				撫	○		／	
176	丸瓦	62C39	1.5	軟	淡灰		／	／				撫	○	／		
177	丸瓦	D区表採	1.7	硬	灰		／	／	○			理	?	／		
178	平瓦	30C35~ 31C36	1.7	硬	灰		／	○				撫	○		／	
179	平瓦	52C31	1.3	軟	淡褐	○	／	○				撫	○		／	
180	平瓦	50C19~ 60C29	1.2	軟	淡灰		／	○				撫	○		／	

(1) 瓦 類

181	平瓦	65C27	1.3	硬 灰		／				撫	○		／	2		
182	丸瓦	32C23	1.2	軟 淡灰		／	／			撫	○		／	2		
183	丸瓦	46C39	1.1	締 灰		／	／			撫	○		／	1		
184	丸瓦	32C27	1.3	軟 淡灰		／	／			撫	○		／			
185	平瓦	C区表採	1.4	硬 灰		／	○			撫	○		／	3		
186	平瓦	32C23	1.4	硬 灰		／	○			撫	○		／	1		
187	丸瓦	31C41	1.8	軟 淡褐		／	／			撫	○		／			
188	丸瓦	32C23	1.2	差 灰		／	／			撫	○		／	1		
189	平瓦	36D19	1.6	軟 淡灰		／	／	○		撫	○		／			
190	平瓦	37C19	1.5	軟 淡灰	○	／	○			撫	○		／			
191	平瓦	36C20	1.8	軟 灰		／	○			撫	○		／			
192	平瓦	1号井戸	1.7	硬 灰		／	○			撫	○		／	1		
住-4	平瓦	1号住居	1.5	軟 灰		／	○			撫	○		／		第6図No.4	
住-8	平瓦	4号住居	2.1	軟 淡褐		／	○			撫	○		／	2	第17図No.8	
住-9	丸瓦	4号住居	1.8	締 灰		／	／	○	素文				／	2	外側取断目あり。第17図No.9	
住-10	丸瓦	4号住居	1.7	締 灰		／	／	○	素文				／	1	重みなし。第17図No.10	
住-12	平瓦	8号住居	1.2	締 灰		／	○	○	撫	○			／	2	第25図No.12	
住-11	平瓦	33号住居	1.7	硬 灰	○	／	○			撫	○		／	2	第66図No.11	
住-4	平瓦	43号住居	1.7	締 灰		／	○	○	撫	○		○	／	2	第84図No.2	
住-1	丸瓦	45号住居	1.6	締 灰		／	／			撫	○		／		第88図No.1	
住-3	平瓦	48号住居	1.3	軟 淡黄		／	○			撫	○		／	3	第92図No.3	
住-1	平瓦	52号住居	1.8	軟 淡黄		／	○			撫	○		／	1	第102図No.1	
住-12	平瓦	62号住居	2.0	差 灰		／	○	○		撫	○		○	／	2	第116図No.12
住-11	平瓦	62号住居	2.0	差 灰	○	／	○			撫	置		○	／	第116図No.11	
住-17	平瓦	91号住居	1.7	硬 灰	○	／	○	○		撫	○		／	3	第156図No.17	
住-1	平瓦	92号住居	1.1	硬 灰	○	／	○			撫	○		／	2	第158図No.1	
D住-4	平瓦	D住-2号	1.4	締 灰		／	○			撫	○		／	2	第181図No.4	
D住-10	平瓦	D住-3号	1.9	軟 淡黄	○	／	○			撫	○		／		第185図No.10	
D住-11	平瓦	D住-3号	1.2	軟 淡黄		／	○			撫	○		／		第185図No.11	
D住-12	平瓦	D住-3号	1.9	軟 淡黄		／	○			撫	○		／	1	第185図No.12	

6 考 察

D住 -13	平瓦	D住-3号	1.5	硬	淡黄	○		／	○					撫	○		／	2	第185図№13	
D住 -14	平瓦	D住-3号	1.8	並	淡灰			／	○					撫	○		／		第185図№14	
D住 -4	丸瓦	D住-4号	1.5	軟	淡黄			／	／					撫	○		／		第190図№4	
掘一 -1	平瓦	1号掘立	1.4	綿	灰			／	○					撫	○		／		第230図№15	
掘一 -4	平瓦	2号掘立	2.2	軟	灰			／	○					撫	○	○	／		第230図№16	
掘一 -7	平瓦	2号掘立	1.7	軟	淡黄			／	○					撫	○	○	／		第230図№20	
掘一 -8	丸瓦	2号掘立	2.2	綿	灰			／	／					撫	○		／	2	裁断目あり。第230図№17	
掘一 -13	平瓦	2号掘立	2.2	並	灰	○		／	○					撫	○	○	○	／	3	第230図№21
掘一 -19	平瓦	10号掘立	2.0	並	灰	○		／	○					撫	○	○	○	／	3	第230図№23
掘一 -20	平瓦	10号掘立	2.2	並	灰	○		／	○					撫	○	○	○	／	3	第230図№22
掘一 -22	丸瓦	11号掘立	1.3	軟	淡灰			／	／		○			撫	○		／	1	第230図№18	
掘一 -24	平瓦	8号掘立	2.2	並	灰			／	○					撫	○	○	○	／	3	第230図№19
土一 -1	平瓦	3号土坑	1.8	軟	淡灰			／	○					撫	○		／	1	第267図№1	
土一 -2	平瓦	3号土坑	1.8	並	淡灰			／	○					撫	○	○	／		第267図№2	
土一 -15	平瓦	30号土坑	1.4	綿	灰			／	○					撫	○		／	1	第267図№9	
土一 -23	平瓦	19号土坑	2.1	並	淡灰			／	○					撫	○		／	2		

第105表 互観察表1類B-1

№	種別	出土地	厚さ	焼成		成形技法					整形技法				備考			
				焼上り	色調	粘土板未切取	一枚作	桶状	粘土板合目	布の合目	叩目	籠籠	笠籠	布目		側面取		
1	平瓦	D-1号溝	0.9	並	灰			○					調叩			／	1	側部に布目あり。第305図№12
2	平瓦	奈良生活館	1.5	並	灰			○					調叩			／	1	側部に布目あり。第305図№14
3	平瓦	D-1号溝	1.7	硬	灰			○	／				調叩			／	2	側部に布目あり。第305図№13
4	平瓦	D-1号溝	1.7	並	灰	○		？	？	？			調叩	？		／		第305図№15
5	平瓦	D-1号溝	2.2	軟	淡灰	○		○					調叩			／	2	側部に布目あり。第306図№16

(1) 瓦 類

6	平瓦	D-1号溝	1.5	軟	淡黄			?	?			織叩	?		/	3	側部に布目あり。第306図№20
7	平瓦	70C45	1.6	並	淡灰			○	/			織叩			/	2	側部に布目あり。第306図№17
8	平瓦	30C20	1.5	軟	灰			○	/			織叩			/	3	側部に布目あり。第306図№18
9	平瓦	C区表採	1.0	硬	灰			○	/			織叩			/	2	側部に布目あり。第306図№19
10	平瓦	27号住	1.3	並	灰			?	?			織叩			/		第306図№22
11	平瓦	27号住	1.7	軟	淡灰			○	/			織叩			/	1	側部に布目あり。第306図№21

第106表 瓦観察表1類B-2

№	種別	出土地	厚さ	造 成		成 形 技 法				整 形 技 法				備 考				
				洗 上 り	色 調	粘土板 非切取	一 枚 作	桶 板	粘 土 板 合 目	布 の 合 目	叩 目	曬 乾	庇 削		右 側 凹	目 凸	側 部 面 取	
1	平瓦	D-1号溝	1.4	並	灰			○	○	/			織叩			/	2	側部に布目あり。第306図№23
2	平瓦	D-1号溝	1.8	硬	灰			○					織叩			/	1	縦・横の織叩。第306図№24
3	平瓦	D-1号溝	1.6	軟	灰	○		○					織叩			/	3	第306図№25
4	平瓦	27号住	1.8	並	淡黄	○		?	?		○		織叩			/		縦・横の織叩。第53図№3
5	平瓦	D-12号住	1.2	並	灰			/	○				織叩			/		第205図№7
6	平瓦	D区表採	1.6	硬	灰			?	?				織叩			/		第307図№34
7	平瓦	D-1号溝	1.5	締	灰			?	?				織叩			/	3	第307図№27
8	平瓦	D-1号溝	1.5	締	灰	○		?	?				織叩	?		/	3	第307図№28
9	平瓦	D-1号溝	1.9	並	灰			?	?				織叩	?		/		第307図№30
10	平瓦	D-1号溝	1.5	締	灰			?	?				織叩			/	2	第307図№26
11	平瓦	D-1号溝	2.1	軟	淡黄			?	?	?			織叩	?		/		第307図№32
12	平瓦	D-1号溝	1.3	軟	淡黄			?	?				織叩	?		/		
13	平瓦	32号土坑	1.6	軟	淡褐			?	?				織叩			/		第307図№31
14	平瓦	68C39	1.5	軟	淡灰			?	?				織叩	?		/		第307図№35
15	平瓦	36C27	1.3	軟	淡灰			?	?				織叩			/		縦・横の組織。第307図№33
16	平瓦	表採	1.6	軟	灰			?	?				織叩	?		/		第307図№34

6 考 察

第107表 瓦観察表1類B-3

No	種別	出土地	厚さ	焼成		成形技法					整形技法				備考		
				焼上り	色調	粘土板糸切痕	一枚作	桶	粘土板合目	布の合目	叩目	縦	罫	布摺		側部面取	
																凹	凸
1	平瓦	10号住	1.5	軟	淡灰	○	/	○	?		縄叩				/	1	第308図No.36

第108表 瓦観察表1類B-4

No	種別	出土地	厚さ	焼成		成形技法					整形技法				備考		
				焼上り	色調	粘土板糸切痕	一枚作	桶	粘土板合目	布の合目	叩目	縦	罫	布摺		側部面取	
																凹	凸
1	丸瓦	D-1号溝	1.3	軟	淡灰		/	/			新・縄叩	○	/				貫串「大」 第308図No.37
2	丸瓦	D-1号溝	1.3	軟	淡黄		/	?			縄叩	○	○	/			縄叩後凹部処理有り。第308図No.38
3	丸瓦	D区表採	1.0	並	淡灰		/	/		○	縄・摺	無	/	○	3		第308図No.39
4	平瓦	D-1号溝	1.3	軟	淡灰		/	?	?		縄叩			/			第308図No.40
5	丸瓦	68C37	1.4	硬	灰		/	/			縄叩	無		/			縄叩後、摺消し。第308図No.41

第109表 瓦観察表1類C

No	種別	出土地	厚さ	焼成		成形技法					整形技法				備考		
				焼上り	色調	粘土板糸切痕	一枚作	桶	粘土板合目	布の合目	叩目	縦	罫	布摺		側部面取	
																凹	凸
1	平瓦	D-4号溝	2.1	硬	灰	○	/	○		○	格子痕摺	○		/	1	格子痕と摺。 第309図No.42	
2	平瓦	D-4号溝	1.0	軟	淡黄		/	○			格子	?		/	2	格子をそのまま残す。 第309図No.43	
3	平瓦	D-3号住	2.0	並	灰	○	/	○			格子	無		/	1	格子目らしき痕跡あり。 第185図No.15	

第110表 瓦観察表2類A

No	種別	出土地	厚さ	焼成		成形技法					整形技法			備考	
				焼上り	色調	粘土板糸切痕 凹凸	一枚作	桶粘土板合目	布の合目	印目	縦罫	布擦目消	側部面取		
															凹
1	丸瓦	87号住	1.6	軟	赤褐		?	/			平行印		/	1	第149回No.10
2	丸瓦	表採	1.3	軟	褐		/	/			素文	?	/	1	第309回No.46
3	丸瓦	表採	1.6	並	褐		/	/			素文	○	/		第309回No.45

第111表 瓦観察表2類B

No	種別	出土地	厚さ	焼成		成形技法					整形技法			備考	
				焼上り	色調	粘土板糸切痕 凹凸	一枚作	桶粘土板合目	布の合目	印目	縦罫	布擦目消	側部面取		
															凹
1	丸瓦	35号住	1.7	軟	淡灰		/	/			撫	○	/	2	第70回No.1
2	丸瓦	D-11号住	1.6	締	黄灰		/	/			素文	?	/		第203回No.4
3	丸瓦	45号住	1.5	硬	灰		/	/			撫	○	/		第88回No.1
4	丸瓦	68C39	1.6	軟	褐		/	/			素文	?	/		第309回No.44

第112表 瓦観察表3類

No	種別	出土地	厚さ	焼成		成形技法					整形技法			備考	
				焼上り	色調	粘土板糸切痕 凹凸	一枚作	桶粘土板合目	布の合目	印目	縦罫	布擦目消	側部面取		
															凹
1	平瓦	D-1号溝	2.2	軟	淡灰	○	/	○			撫	○	/		吉井か不明。 第310回No.47
2	丸瓦	表採	1.7	軟	黒灰	/	/	?	?	/	撫	○	/		紐作り。 第310回No.48
3	平瓦	表採	1.9	軟	褐		?	?	○		平行	?	/		製作地不詳。土が軽い。 第310回No.49
4	平瓦	表採	2.5	軟	褐		?	?			縄叩	?	/	3	製作地不詳。土が軽い。 第310回No.51
5	軒平瓦	表採	1.6	軟	淡褐		/	○			?	?	/	1	No.3・4・5は同一製作地か? 重紙文 第310回No.50

(2) 中・近世陶・磁器、軟質陶器、土師質土器について

当遺跡における中・近世陶磁器の出土総量は平箱(60×45×15cm)で3箱あった。これらは調査区の近世以降の遺構から出土したものを主体としている。その年代幅は14世紀代の軟質陶器鉢片から現代に至る長期に亘っている。

これらの破片すべてを掲載することは紙面と整理労力の都合上出来ず、選択を余儀なくされ、本書では明治時代以前の遺構に伴う遺物を中心に45点を載せた。

観察について一覧表を作成した。それが第100表である。観察視点は従来どうりで(群馬県埋蔵文化財調査事業団)「陶・磁器」「下東西遺跡」1987などを参照されたい。観察の結果を以下で触れたい。

中世としうるのは23井戸から出土した第264図5の軟質陶器鉢片、39井戸から出土した同図10の軟質陶器鉢片、19井戸から出土した同図3の土師質土器皿などがあり、それぞれの地域における年代観から14・15・16世紀代の所産と見なされる。

近世に至って出土傾向とすれば、17世紀から18世紀前半にかけ美濃焼(第272図49・51)・瀬戸焼(第271図33、第264図6)などが前代からの商圏を受継ぎ、当遺跡からも多く出土している。この段階には京焼系、唐津系(第271図47)など主体ではないが九州諸窯の製品が存在している。ことに京焼系は、純粋な意味での京焼はなく九州諸窯と見られる胎土がち密・素質の両者である。片口・鉢・播鉢など大形器種についてはそれ以降も存在しているが18世紀代に至って碗、小坏など小形器種に染付磁器(第271図30・31)の多用がはじまり、磁器の多用は現代まで受継かれる。以上は県内における一般傾向であると同時に、新保遺跡の傾向でもある。

井戸 18井戸からは美濃焼鉄軸播鉢(第264図)が出土している。19井戸から近世在地製軟質陶器製内耳盤形、陶器皿、土師質土器皿の出土(第264図)があり、土師質土器皿の変遷観からすれば17世紀の年代が得られる。21井戸から18世紀代の陶器鉄軸香炉片(第264図)が出土している。26井戸から18世紀瀬戸焼、鉄・灰軸掛分の磁片(第264図)が出土している。33井戸から18～19世紀の鉄軸播鉢片、17～18世紀と考えられる在地製軟質陶器内耳盤形(第265図)が出土している。34井戸から18世紀美濃焼香炉片(第265図)が出土している。39井戸からは中世軟質陶器鉢片とともに17～18世紀代と考えられる美濃焼播鉢が出土している。

溝 127溝から15世紀後半の軟質陶器内耳鍋(第270図)の大形破片の出土があり、周辺状況からすると中世との係りの可能性が高い。128溝から18～19世紀の鉄軸灯火皿(第269図)が出土している。134溝から(第271～274図)に示した大量な遺物の出土がある。その中で最も新しい遺物は18～19世紀代と考えられる例が多く、19世紀初頭まで遺構年代がおさえられる。

その他の遺物(第289図)、1は17世紀後半の唐津系の緑色軸皿があり、2は17世紀後半の伊万里系皿がある。5・6は17世紀美濃焼天目軸碗が存在する。

7. ま と め

本書に報告した主な遺構は古墳時代後半から奈良・平安時代そして中近世にわたっている。この間古墳時代の竪穴住居跡群を皮切に奈良時代の掘立柱建物跡へ続き、平安時代に至り再び竪穴住居跡群によって占地される。中世には、環濠を伴う掘立柱建物跡群を配した屋敷跡へと変遷をたどり、検出遺構の最終段階には近世の掘立柱建物跡がある。以下それぞれの段階を追いその成果、問題点を述べるとともにまとめたい。

古墳時代

古墳時代に考えられる住居跡は12軒あり、すべてC区東側に集中して検出されたが分布の状況はやや散在的である。住居跡の特徴は竈は東壁中央あるいはやや南寄りに付設され、このうち第53号住居跡は南西コーナーに付設されている。検出された遺物は土師器環、甕である。環の特徴は1号住居跡に代表される口縁部の稜をもつ模倣環が殆どである。甕は長胴形を呈する。古墳時代に比定される住居跡の環は模倣環が殆どである。5号住居跡出土土師器の破片には記号が施されたものがある。

古墳終末～奈良時代

この時期に考えられる住居跡は12軒が検出された。住居跡の分布は東側にありやや散在的である。竈は東壁中央あるいは南寄りに検出された。遺物は環、甕が検出された。環の特徴は丸底を呈し口縁部は短く内側に屈曲する。この時代は2号住居跡に代表され模倣環は全く検出されていない。しかし8号住居跡には口縁部に稜を持つ環と供伴し古墳時代から系譜がおえるものと考えられる。またD区から須恵器の蓋を伴う住居跡も検出されている。このうちD-3・7号住居跡の蓋には内側に返りを持ちD-11・12・15・16号住居跡の須恵器蓋には返りは持っていない。

住居跡は以上のように古墳時代から奈良時代まで散在的ではあるが模倣環のみを検出する住居跡、模倣環を持たない住居跡、さらに供伴する住居跡が見え時間的な流れを見て取れる。

また奈良時代に考えられる掘立柱建物跡が8棟検出された。C区中央部に広場的な空間を持ちながら検出され他の調査区からは検出されていない。掘立柱建物跡はC区内に東西に分かれて検出され、東側5棟、西側3棟がある。またさらに各々1棟ずつ掘立柱建物跡と考えられる小穴群があり、東側には6号掘立柱建物跡西側には11号掘立柱建物跡の2棟がある。東側の5棟の内、柱穴底面に石を持つものが4棟あり、桁間の柱間の長さは7～8尺に統一されている。柱間は奈良平安時代には7～8尺をとり時代を降るにつれて狭くなる。⁽¹⁾

1号掘立柱建物跡は梁側も同じ幅を持つ。1・2号掘立柱建物跡は、他の3棟より柱穴の規模も大型である。3・13号掘立柱建物跡は桁間の柱間にややずれを生じる。両建物は構造的にみて1・2号掘立柱建物跡とは異なり簡便な作りで、小穴の規模も深さもこぶりである。また構造は桁間に柱間の広がる部分等がみられこの部分に入り口等の施設があったことが考えられる。このずれは梁の部分に先に立てその後には桁柱を張ることが考えられる。⁽²⁾西側には3棟が検出され10号掘立柱建物跡は柱穴に石を持つが他の2棟からは検出されていない。10号掘立柱建物跡は建て替えられた痕跡がある。東西の2群はC区中央に幅約35～40mの広場の空間を狭み対峙している。建物跡の内、1・2・10・13号掘立柱建物跡には柱穴をつなぐ溝が検出された。このような例は県内下瀬名遺跡⁽³⁾、上西原遺跡⁽⁴⁾で検出されている。上西原遺跡第5号掘立柱建物跡は、柱穴をつなぐ溝と言うよりも布堀に近いと考えられる。両妻側に溝の切れ目があり、出入口が想定されている。⁽⁵⁾C区に検出された掘立柱建物跡の溝は深さ約20cm～40cmを測り、13号掘立柱建物跡では数cmの部分もあ

り、掘立柱建物跡に伴う施設としてはその機能は明確ではない。下訓名遺跡ではこのような掘立柱建物跡を一般集落の中に検出している⁽⁶⁾。上西原遺跡は一般の集落跡とはやや異なる様相がうかがえる⁽⁷⁾。

1・2号掘立柱建物跡は溝を持ち、また柱穴に石を持つなど構造や企画的にも似た部分が見受けられ、両建物の内側柱穴は東柱とも取れ、床張りの可能性を示している。同じ機能を果たしていたものであろうが、⁽⁸⁾両掘立柱建物跡は近接しており、2号掘立柱建物跡の柱間が広いため時間幅があると考えられる。両建物の主軸を見ると1号はN-10°-W、2号はN-13°-Eであり23°のずれを生じる。1号はさらに3号と3'、13号と2'のずれを持つ。2号は7号と1'のずれを持つ。このように東側では方位の違いが現れ2時期が想定できる。

西側を見ると9・10号は、10号の建て替え以前は全く同じ方位を持ち、N-6°-Eをとり、8号も同じ方位である。東側1号の群と同じ時期に存在したことが考えられる。10号は立て替えに際しても2'のずれに止どまる。また10号の南側梁側線と13号の南側の線も対応し、南限は確認できるが北限は染谷川により削平されているが、11号掘立柱建物跡等の存在からコの字状の配置を想定することができる。このようなことと前述したように2時期が考えられること、根石を持つ建物と簡便な建物とのグループを想定できる。

検出された遺物は少ないが瓦、須恵器、土師器等がある。土師器等は平底で底面を手持ちへら調整が施されている。瓦は前項大江の分析によれば7世紀末から8世紀代が当てられる。10号掘立柱建物跡P14からは根石上面に密着して検出された。瓦、坏等からも、また古墳時代の住居跡を壊していることから掘立柱建物跡の時期は奈良時代に当てられる。このように掘立柱建物跡に現れる2時期は主軸や構造のみではなく10号掘立柱建物跡の小穴根石に接して7世紀末の瓦が検出され時間的な幅が確認された。また2号掘立柱建物跡、10号掘立柱建物跡の各々より検出された瓦が接合された。

さらにD区に南北に主軸を持つ1・4号溝が検出された。両溝からは瓦、須恵器、土師器等が多量に検出されている。1号溝から検出された遺物の内須恵器等は底面に回転糸切り痕を遺している。しかし、瓦の年代は掘立柱建物跡検出瓦と同じ時期が与えられるものもある。4号溝出土瓦も同様の時期に比定されるが須恵器が完形品に近い状態で多数検出された。特に蓋は約20個体に及びすべて内面に返りを持っている。このうち外面を手持ちへら調整するものが一点含まれている。坏は底面が平底で口縁部に向かい直状に外傾する。調整の特徴は底面はすべて回転へら調整、へら切りも見られる。須恵器等はほとんどがこの器形を持ち約12点が検出された。須恵器は合計で約100点が検出された。

土師器は破片も含めて約350点が検出され、このうち器形で分類すると4類に分けられる。

- | | | |
|----|----------------------|-------|
| 1類 | 底面が平らで口縁部は直状に外傾するもの | (8点) |
| 2類 | 口縁部に弱い稜をもち体部に丸味をもつもの | (53点) |
| 3類 | 口縁部は短く真上に立ち上がるもの | (81点) |
| 4類 | 口縁部に稜をもち外傾するもの | (27点) |

※点数の合計は器型が特定できるものみの数字である。2～3類の土師器はみな丸底である。

1類の中には内面に螺旋暗文を施される土師器が1点含まれている。4号溝からは以上須恵器、土師器が集中して検出された。土師器のうち1類に分類されるものは須恵器と器形が良く似ている。2～3類に分けられる土師器は口縁部にヨコナゲ体部にヘラケズリが施され、口縁部と体部との間には中間帯を有する一群である。溝からの遺物は8世紀前半期と考えられる。

また溝からは瓦が多数検出された。検出された瓦の時期は掘立柱建物跡D区1・4号溝また遺跡内から出土した瓦は200点を越えほとんどが7世紀後半に比定されることからD1号出土須恵器とはやや時間的な幅

を持つものである。

C区内はこの配置の統一された掘立柱建物跡がその主体をなす。同時期のD4号溝からは螺旋暗文を施された土師器や瓦が検出される。同種の土師器は群馬町保波田東遺跡、鳥羽遺跡⁽⁹⁾、下東西遺跡⁽¹⁰⁾で検出され、国府周辺の遺跡としての特徴を示していると共に、鳥羽遺跡ではH1号掘立柱建物跡を囲む溝中から検出されているなど、一般的な集落との違いを示すものであろう。

またA区に15・16号溝、C区河川改修区に33・34号溝が検出され、D4号溝の走行とも合い東西幅240mの区画を想定することができる。C区の33・34号溝は周辺に小穴を持っている。4条の溝からは遺物の検出は少ないが15号溝中からは底面に糸切りをのこし墨書⁽¹¹⁾の施される須恵器が検出されている。時期的にはやや新しいと見られるが走行の共通性が見て取れる。

遺跡内で検出された瓦は200点を越え、D4号溝、C区13号掘立柱建物跡の南のくほみからも出土しており、大半が7世紀末のものであり8世紀中庸のものも含まれるが量的には少ない。C区内の掘立柱建物跡の内、構造や企画的に見て瓦が葺かれる事が予想されるものは1・2号掘立柱建物跡であるが、瓦は周辺にはあまり検出されていないが1号住居跡覆土から瓦の破片が検出されている。溝からの出土状況も一括で出土し遠方から運ばれたようには見え、周辺にさらに大きな区画を持つ建物跡群の存在を想定させる。

このように掘立柱建物跡は主軸に統一性がみられ、区画も正確に測られている。遺物等からD4号溝と同時期に考えられ溝出土の土器にも一般集落とは異なる様相を示している。さらに大きな区画も想定でき、瓦等の検出からも集落以外の遺構であろう。調査範囲は限られているが周辺には同時期にあるいは共通する遺物も検出されていない。さらに後続する平安時代の集落遺構の出現は時間的な幅があり連続性はみられないことなど他の遺構に伴う瓦等の意味からも東側に接した寺院等の付属施設が考えられる。

平安時代

平安時代の住居跡は奈良時代住居跡、掘立柱建物跡群に後続し構築され73軒が検出された。D区では4号溝埋設後に住居跡が造られており、羽釜の検出が多く土器の采譜的なことから前代の遺構とはやや時間的な開きがみられる。竈は住居跡東壁中央部あるいはやや南よりに検出されている。住居跡の竈には瓦が使用されるものも含まれている。また69号住居跡出土羽釜は鏝の下から底面に向かいやや丸みを持ち新しい様相がうかがえる。住居跡の占地は遺跡内西側へ移動しさらには調査区域外へ広がる様相を示し、住居跡の軒数も盛期を迎える。このような住居跡の増加は遺跡地内A、B区には広がらず耕作地の可能性を示すものであろう。

中・近世時代

中世の屋敷跡がC区中央部に検出された。屋敷の概要はC区中央に方形に55号溝と46号溝が区画を持ち、区画の内側に掘立柱建物跡を検出した。55号溝は北・東・南を回り西側は46号溝が対応する。溝の規模は南北で約35m、東西で約50mを測る。55号溝の上幅は約4m～1m、深さ約20cm～40cmとやや浅い。46号溝は、重複する平安時代の住居跡の床には届いていない。しかし南西部においては1.5mを測る部分もある。溝の覆土の最下面から浅間B軽石を検出している。区画の内側からは6棟の掘立柱建物跡と、上屋を持つ井戸が検出された。井戸は、このほかに3基が検出された。遺構はすべて区画内北東部に集中して検出され、入り口付近も遺構と考えられるものがあるが規模が不明のため確定はできなかった。掘立柱建物跡は、一番北側に柱穴の規模の大きい建物があり、母屋と見られるが溝との走行にややずれをみせる。掘立柱建物跡は、6号を抜かし主軸を南北にとり重複して検出されている。区画内西半部には遺構は殆ど検出されていない。母屋の西側には東西に境を示すように櫛状の遺構がみえ居住空間とはやや異なる様相がうかがえる。屋敷内に

7 ま と め

は小穴と共に長方形土坑があり、屋敷内の墓塚とみられるが、その分布にも中央部付近と北東部との2箇所に分かれ、時間的に幅があり屋敷の連続性がみられる。北東部の土坑を除くと溝に沿った内側は遺構が検出されておらず土塁状の遺構があったことが想定できる。D区にも中世から近世に至る掘立柱建物跡が6棟検出され、柱間が1.8mを取るなど新しい様相を見せるものもあり、C区の屋敷跡と何等かの関係があるものと思われている。C区に検出された22号井戸からは応永9年(1402)と読み取れることができる板碑が検出された。蛭沢遺跡からも板碑が検出され彫り込みが薬研彫りを呈しほぼ14世紀後半～15世紀前半の様相をみせる。また遺構は明確ではないが近世の美濃焼きや青磁、天目茶碗等が検出されている。美濃焼きは東に接する日高遺跡IVからも出土の報告があり近世期の居住域であったことがうかがえる。上野郡村誌によると、「新保村は古時青木荘にある」と記載されている。青木荘は71ヶ村を数え広い範囲を示し、このうち新保村は青木荘内の南に位置している。青木荘は古く長野氏の本拠地とされている。さらに、この地は16世紀段階には武田氏、上杉氏等の進出などがあり、周辺にも上杉氏の伝承を持つ家もみられる。中・近世においても以上のような時代の変遷をみる事ができる。

註

- (1) 石井栄一氏のご教授による。氏は世田谷区教育委員会古建築担当の学芸員である。
- (2) 註(1)
- (3) 上武国道地域埋蔵文化財発掘調査概報V 小角田前遺跡 下瀬名遺跡 1978、群馬県教育委員会
- (4) 上西原・向原・谷津 昭和60年度荒砥北部遺跡群発掘調査報告 1986 群馬県教育委員会
- (5) 群馬県教育委員会真下高率氏のご教授による。
- (6) 群馬県埋蔵文化財調査事業団大木幹一郎氏のご教授による。
- (7) 註(5)
- (8) 註(1)
- (9) 保徳田東遺跡 群馬町埋蔵文化財調査報告第17集 1986 群馬県群馬町教育委員会
- (10) 鳥羽遺跡 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986
- (11) 下東西遺跡 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1987
- (12) 群馬県埋蔵文化財調査事業団 新倉明彦氏のご教授による。
- (13) 日高遺跡IV 高崎市教育委員会 1982
- (14) 上野郡村誌 第5巻群馬郡=群馬県文化事業振興会 1980

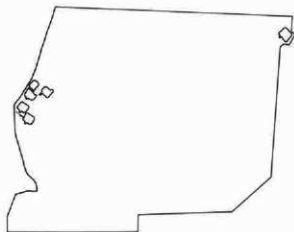


第313図 新保遺跡集落変遷図(古墳時代)

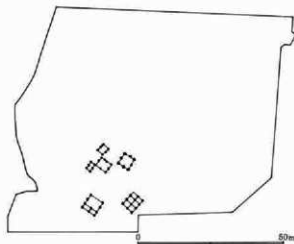
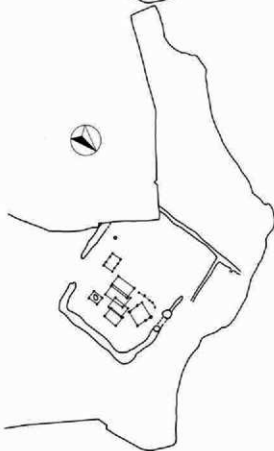
第314図 新保遺跡集落変遷図(奈良時代)



第315図 新保遺跡集落変遷図(平安時代)



(中近世)



蛭 沢 遺 跡

1. 発掘調査の経緯と調査過程

関越自動車道は埼玉県東松山インターから前橋インターまで昭和55年供用開始を目的に工事を進めて来た。埋蔵文化財発掘調査は昭和48年から開始し、基本的に東京側から調査を進めてきた。一方道路改良工事も埋蔵文化財調査が終了した地域や非該当地については工事は進められていた。

蛭沢遺跡は改良工事中に住居跡が発見された遺跡である。遺跡周辺はすでに工事も進み、盛土もなされていた。

発掘調査は工事期間との調整の中であらたに調査体制を組むことは困難であり、本遺跡にもっとも近い新保遺跡から担当者を当て別班として調査にあたった。発掘調査にあたっては、遺跡が存在すると思われる地域に試掘を入れ遺跡の範囲を確定した。

遺跡の存在する範囲は南側の東半部に住居跡、井戸、及び土壇が検出され、西半部では河川が認められた。調査は河川の東半部を対象とし実施した。よって調査対象は東半部分に限定した。

調査の期間は下記の通りである。

昭和53年11月7日～11月27日	トレンチ予定区域の盛土除去
昭和53年11月28日～12月5日	トレンチ調査による遺構検出作業及び調査
昭和53年12月6日～12月13日	調査区の範囲確認及び表土除去
昭和53年12月14日～昭和54年1月17日	拡張区調査

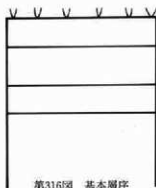
調査対象面積は1656.2㎡を測る。

2. 調査の方法

調査の方法は工事の進捗との調整から遺跡範囲を確認することを目的としてトレンチ法をもちいた。調査は盛土されている土砂の排土から始め、遺構が存在すると想定できる範囲にトレンチを設定した。

トレンチは供用開始している側道部を除き、本線に沿って、8m×60mを2本、本線に直交して5m×45mを1本、関越道東側側道に沿う1本と計4本のトレンチを入れ遺跡の範囲をつかんだ。

3. 基本層序

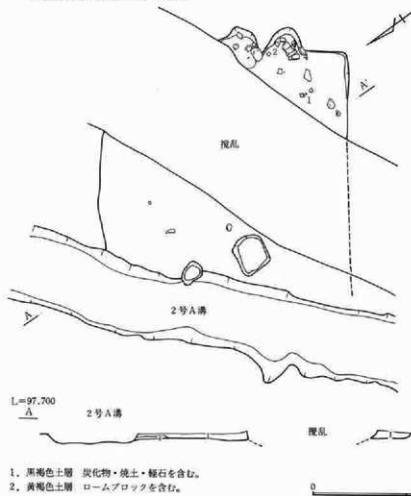


- 第1層 現水田面、厚さ約15cm
- 第2層 鉄分沈澱層、約10cm
- 第3層 灰褐色粘質土層(浅間B礫石を含む)約15cm
- 第4層 ローム層

4. 検出された遺構と遺物

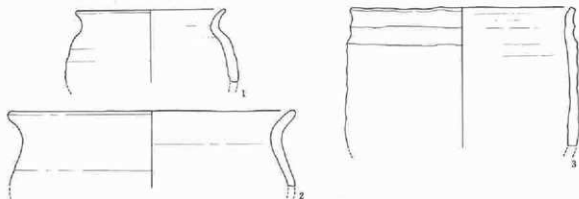
(1) 竪穴住居跡

1号住居跡 (第317図、PL91)



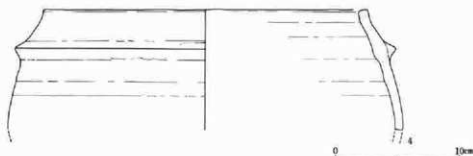
第317図 1号住居跡遺構図

当住居跡は北東部に位置し2号住居跡の南にある。他の遺構との関係は2号A溝と重複している。新旧関係は溝が新しい。また東西に溝状に幅約2mの擾乱がある。規模・平面形態は不明である。主軸方位は竪の長軸でN-143°-Eである。壁高は約5cmを測り床面は凹凸が多い。遺存状況はあまり良くない。竪は東壁に検出された。燃焼部幅約60cm、同長約40cmを測る。



第318図 1号住居跡遺物図(1)

(1) 竪穴住居跡



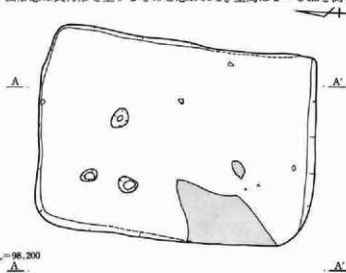
第319図 1号住居跡遺物図(2)

第113表 1号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口徑・底徑・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	甕 土 師	(口)12.0	覆 土	口縁部 内・外面ヨコナデ。内面 ナデ。	②にぶい褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④口縁破片
No-2	甕 土 師	(口)23.0	覆 土	内・外面 ナデ。	②にぶい赤褐色 ③3~4mmの砂粒含む ④口縁破片
No-3	甕 土 師	(口)18.0	竪 覆 土	内・外面共に雑なナデ。	①軟質 ②褐色 ③5~6mmの砂粒含む ④口縁破片
No-4	羽 蓋	(口)26.0	覆 土	筒 短く、貼付部。口縁部 内傾する。	①酸化 ②褐色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁片残存

2号住居跡 (第320図、PL91・93)

当住居跡は北東部に位置し1号住居跡の北にある。他の遺構との重複はない。規模は東西長約3.1mを測る。平面形態は長方形を呈するものと思われる。壁高は2~3cmを測り遺存は良くない。床面はほぼ平坦をなす。



L=98.200

A

北側に小穴を東西に2基検出した。規模は各々約30cm×25cm、深さ約45cm、径約30cm、深さ約10cmである。甕は検出されていない。



第321図 2号住居跡遺物図

1. 黒褐色土層 軽石・炭化物・焼土を含む。
2. 褐色土層 軽石を多量に含む。

第320図 2号住居跡遺構図

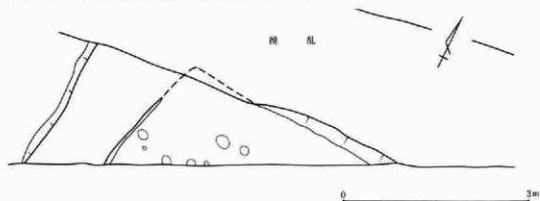
4. 検出された遺構と遺物

第114表 2号住居跡遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	環 須 壺	口-10.0 高-2.9 底-5.0	埋付近 覆土	底部 回転糸切り。右廻り。	①やや酸化 ②淡い褐色 ③1 ~2mmの砂粒含む ④残存

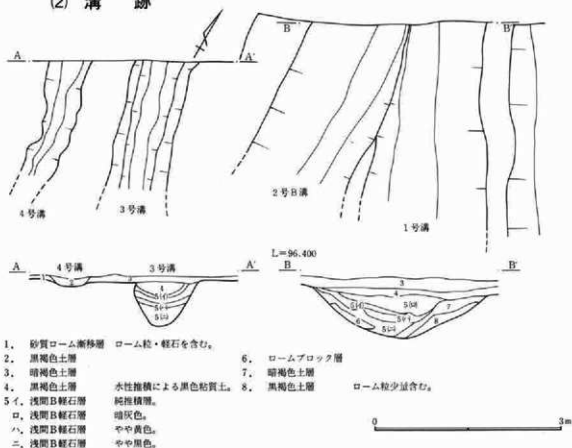
3号住居跡 (第322図、PL91)

当住居跡は南端に位置し9号溝の東にある。調査区域の南端で住居跡の一部を確認した。規模・平面形態は不明である。壁高は約3cmを測り床面はほぼ平坦である。

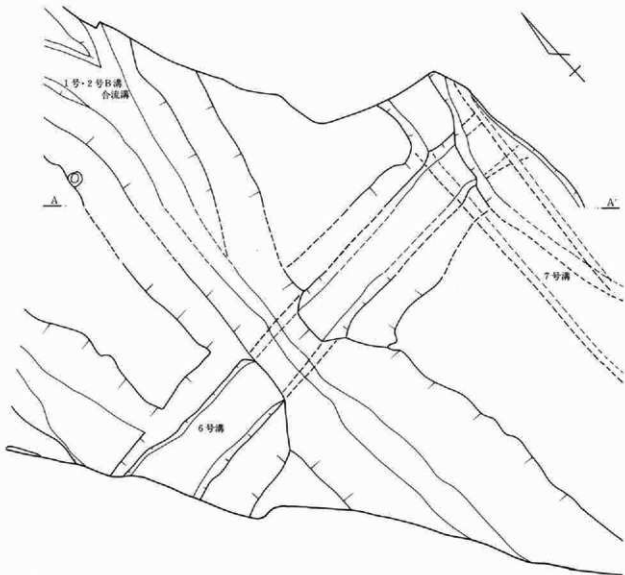


第322図 3号住居跡遺構図

(2) 溝 跡



第323図 溝遺構図(1)



L=97.200



- | | | | |
|-----------|----------------------|-----------|---------|
| 1. 黒褐色土層 | 軽石・マンガン凝集を含む水性堆積。 | 15. B軽石層 | 黒褐色。 |
| 2. 褐色土層 | ローム粒を含む河川初期の堆積土層。 | 16. B軽石層 | 暗灰色。 |
| 3. 灰褐色土層 | 炭化粒マンガン凝集を含む、ややシルト状。 | 17. B軽石層 | 灰白色。 |
| 4. 暗灰褐色土層 | B軽石を含む。 | 18. B軽石層 | 大粒な軽石層。 |
| 5. 軽石層 | | 19. 黒褐色土層 | B軽石を含む。 |
| 6. 灰褐色土層 | ローム粒少量含む、シルト状。 | | |
| 7. 黄褐色土層 | ロームブロックを多量に含む。 | | |
| 8. 暗灰褐色土層 | ローム粒少量含む。 | | |
| 9. 赤褐色土層 | 鉄分沈殿層。 | | |
| 10. 灰褐色土層 | 軽石を含む。 | | |
| 11. 黒褐色土層 | B軽石を含む。 | | |
| 12. 黄褐色土層 | ロームブロックを含む。 | | |
| 13. B軽石層 | 黒褐色。 | | |
| 14. B灰層 | | | |

0 3m

第324溝道横断図(2)

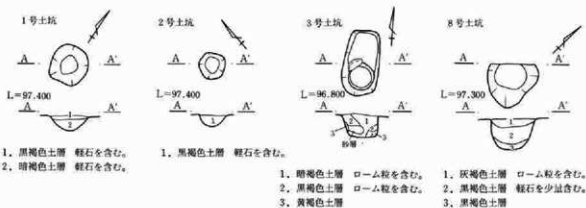
4 検出された遺構と遺物



1. 軽石層
2. 黒褐色土層 軽石を含む粘質土。
3. 暗褐色土層 ローム粒を含む。
4. 黄褐色土層

第325図 溝遺構図(3)

(3) 土坑跡



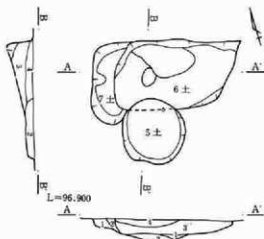
1. 黒褐色土層 軽石を含む。
2. 暗褐色土層 軽石を含む。

1. 黒褐色土層 軽石を含む。

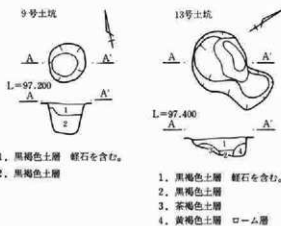
1. 暗褐色土層 ローム粒を含む。
2. 黒褐色土層 ローム粒を含む。
3. 黄褐色土層

1. 灰褐色土層 ローム粒を含む。
2. 黒褐色土層 軽石を少量含む。
3. 黒褐色土層

5・6・7号土坑



1. 黄褐色土層 ロームブロックを含む。
2. 黒褐色土層 ローム粒少量含む。
3. 黒褐色土層
4. 黒褐色土層 ローム粒少量と軽石を含む。

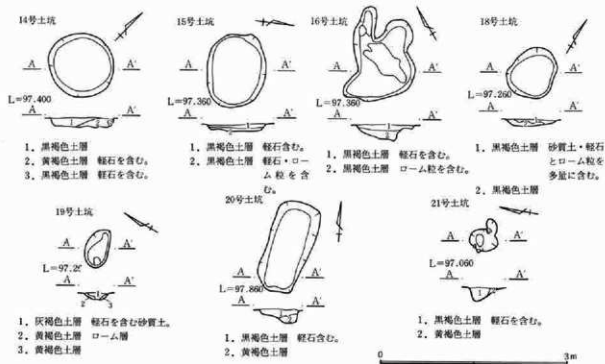


1. 黒褐色土層 軽石を含む。
2. 黒褐色土層

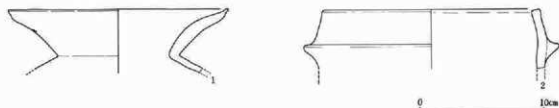
1. 黒褐色土層 軽石を含む。
2. 黒褐色土層
3. 茶褐色土層
4. 黄褐色土層 ローム層

第326図 土坑遺構図(1)

(3) 土 坑 跡



第327図 土坑遺構図(2)



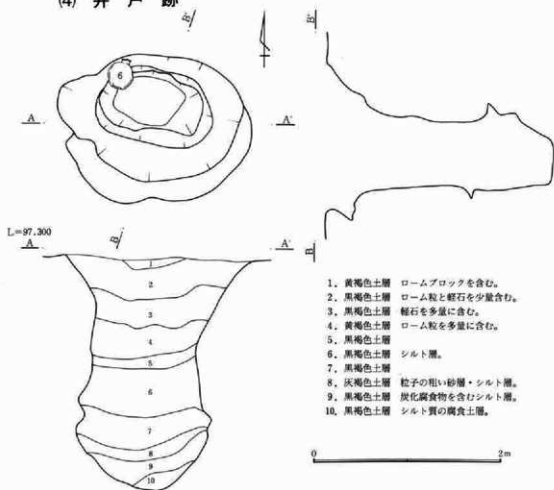
第328図 土坑遺物図

第115表 土坑遺物観察表

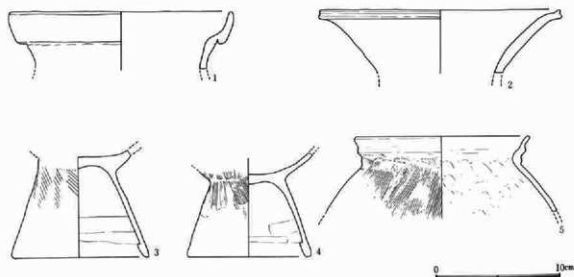
番号	器種・種類	計 測 値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①構成 ②色調 ③胎土 ④残存
3号土坑 No-1	甕 土 器	(□)17.6	甕 土	口縁端部 薄くなり、やや内湾する。ヨコナデ。	②浅黄棕色 ③細砂粒含む ④口縁与残存
3号土坑 No-2	羽 釜	(□)17.5	土 坑 内	脚 上を向く。	②にぶい橙色 ③細砂粒含む ④口縁破片

4 検出された遺構と遺物

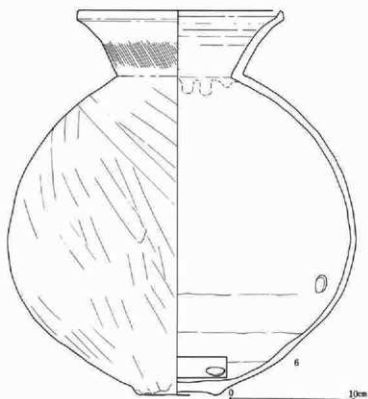
(4) 井戸跡



第329図 1号井戸遺構図



第330図 1号井戸遺物図(1)

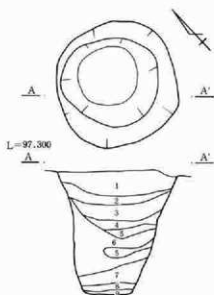


第331図 1号井戸遺物(2)

第116表 1号井戸遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	甕 土器	(口)18.0	覆土	口縁部 折り返し縁をもつ。	②灰白色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁破片
No-2	甕 土器	(口)19.5	覆土	口縁部 内・外面ヨコナデ。	②褐色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁破片
No-3	台付 土器	底-11.0	覆土	外面 刷毛目。内面 ナデ。	②淡褐色 ③細砂粒含む ④台部のみ。台部一部欠損。
No-4	台付 土器	底-10.0	覆土	外面 刷毛目。内面 ナデ。	②にぶい褐色 ③2~3mmの砂粒 含む ④台部のみ。台部一部欠損。
No-5	甕 土器	(口)14.0	覆土	口縁部 ヨコナデ。胴部 刷毛目。内面 指 頭痕。	②褐色 ③2~3mmの砂粒含む ④口縁残存
No-6	甕 土器	(口)16.7 高-35.0 底-7.0	覆土	口縁部 刷毛整形後ヨコナデ。胴部 ヘラケ ズリ。内面 ヨコナデ。指頭痕。	②明褐色 ③1~2mmの砂粒含 む ④ほぼ完形(口縁部欠損)

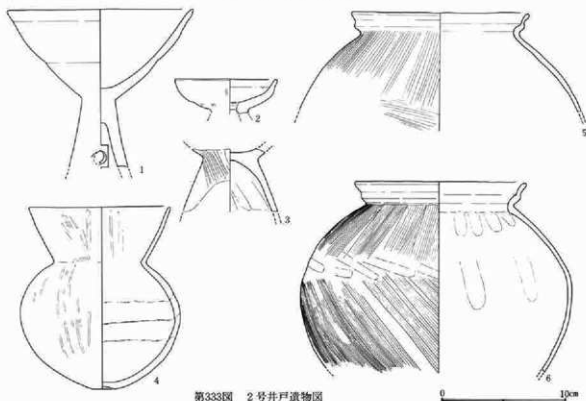
4 検出された遺構と遺物



1. 黒褐色土層 ローム粒を含む。
2. 砂石層
3. ローム層 ロームブロックを多量に含む。
4. 暗灰褐色土層
5. 黄褐色土層 ロームブロックを多量に含む。
6. 黒褐色土層 ローム粒を多量に含む。
7. 黒褐色土層 ローム粒を含む。
8. 灰白色ローム層 ローム層水洗状態。
9. 暗灰褐色土層 シルト層。

0 2m

第332図 2号井戸遺構図



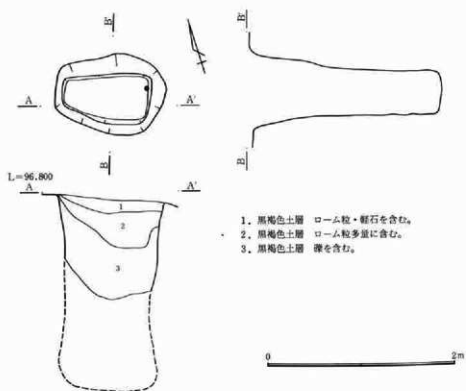
第333図 2号井戸遺物図

第117表 2号井戸遺物観察表

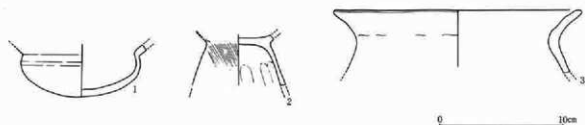
番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	高土 坏部	口-14.9	覆土	口縁部 ココナデ。内面 ナデ。 脚に3孔有り。	②明褐色 ③1~2mmの砂粒含む ④坏部~脚中位
No-2	器土 台部	口-8.2	覆土	外面 刷毛目後ヘラミダキ。内面 刷毛目。 口縁部 ナデ。	②によい褐色 ③細砂粒含む ④器受部のみ残存

(4) 井戸跡

No-3	台付墓土師		最上層	外面 刷毛目。内面 指ナデ。	①棕色 ③細砂粒含む ④台上部のみ残存
No-4	竇土師	口-11.3 高-14.5 底-1.8	最上層	外面 ヘラミガキ。	②褐色 ③4-5の砂粒含む ④完形
No-5	台付墓土師	(口)14.2	最上層	口縁部 ヨコナデ。胴部 刷毛目。 内面 ナデ。	②浅黄棕色 ③1-2mmの砂粒含む ④口縁-胴部残存
No-6	台付墓土師	口-13.8	最上層	外面 口縁部 ヨコナデ。胴部 刷毛目。内面 口縁部 ヨコナデ。指ナデ。指頭肌	②褐色 ③細砂粒含む ④口縁-胴部残存

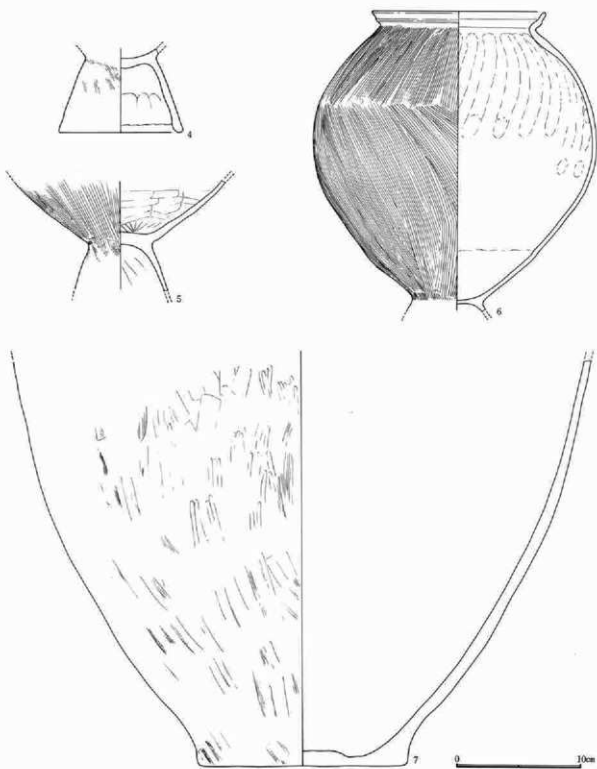


第334図 3号井戸遺構図



第335図 3号井戸遺物(1)

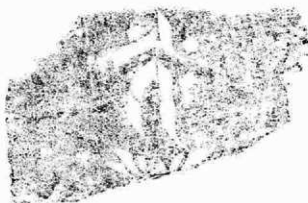
4 検出された遺構と遺物



第336図 3号井戸遺物図(2)

第118表 3号井戸遺物観察表

番号	器種別	計測値(cm) (口径・底径・器高)	出土位置	器形・成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
No-1	埴土部		覆土	内・外面共にきれいなミガキ。	②褐色 ③細砂粒含む ④破片
No-2	台付埴土部		覆土	外面 刷毛目、内面 指ナデ。	②にぶい褐色 ③細砂粒含む ④台部上半残存
No-3	壺土部	(口)20.0	覆土	内・外面 ヨコナデ。外面 頸部に接合痕。	②にぶい黄褐色 ③細砂粒含む ④口縁片残存
No-4	壺土部	底-10.0	覆土	外面 刷毛目、内面 指頭肌。	②灰白色 ③細砂粒含む ④脚部片残存
No-5	壺土部		覆土	外面 刷毛目、内面 ナデ。	②にぶい褐色 ③細砂粒含む ④胴下部～脚半部残存
No-6	台付埴土部	口-13.9 胴-22.7	覆土	口縁部 ヨコナデ。胴部 刷毛目。 内面 口縁部 ヨコナデ。胴上部 指ナデ。 指頭肌。外面 全面保付着。	②褐色 ③細砂粒含む ④脚部欠損
No-7	壺土部	底-16.8	覆土	外面 刷毛目後ナデ。内面 ナデ。	②にぶい褐色 ③細砂粒含む ④胴下半残存



0 10cm

第337図 板碑

4 検出された遺構と遺物

第119表 土坑遺構一覧表

番号	形状	規模 (cm) (長径×短径×深さ)	備考	番号	形状	規模 (cm) (長径×短径×深さ)	備考
1	円形	60×55×25		13	不整長方形	150×90×30	
2	円形	42×40×18		14	円形	110×100×15	
3	長方形	102×55×38	審出土。	15	長円形	115×95×13	
5	円形	105×102×15	羽釜出土。5号・6号・7号土坑は重複する。	16	不整方形	150×93×25	
6	不整長方形	185×110×40		18	円形	80×80×13	
7	不明	130×?×20		19	楕円形	60×40×12	
8	円形	80×65×50	約5調査区外。	20	長方形	148×75×22	
9	円形	62×58×48		21	不整円形	52×48×22	

第120表 井戸遺構一覧表

番号	形状	断面形状	規模 (cm) (長径×短径×深さ)	出土遺物	備考
1号井戸	楕円形	袋状	210×155×245	壺完形、S字台付甕、壺、種子(桃・瓜)。	
2号井戸	円形	円筒状	132×130×132	埴完形、S字台付甕、高坏、器台種子(スズメウリ、蔦、山椒、瓢箪、葡萄)。	
3号井戸	長方形	筒状	120×85×205	S字台付甕、大型甕、器台、壺。	

5. ま と め

蛭沢遺跡で検出された遺構は住居跡3軒、溝11条、井戸3基、土坑16基等である。以下遺構別にその内容を列記し、まとめとしたい。

住居跡

1・2号住居跡は平安時代に比定され1号住居跡は南北方向を長辺とし、南壁に竈を付設している。床面は起伏があり軟弱である。袖部には砂岩を配し補強を施している。中央部を東西に走る溝に攪乱を受け、さらに2号A溝により北壁を壊されている。2号住居跡も攪乱を受け、床面と壁の一部を検出したのみである。3号住居跡は調査区域外へ広がり住居跡の全体を検出するには至らず検出物もないため時期を確定するには至らなかった。

溝

遺跡地内は平安時代以前より河川が流れ、次第に狭く浅くなり現在では水田の水路として使用している。それに伴って数条の溝が河川に流れ込んでいる。溝はいずれも水が流れた様子が見られるが中には人工的に溝を作り、完成直後浅間B軽石層により埋まってしまいそのまま放棄したのもあった。

井戸

いずれも古墳時代初頭のものであり、平面は円形、断面はフラスコ状を呈する。深さは約2mで、土師器壺、甕、種子等が検出された。

当遺跡内には北東から南西にかけて幅約15mの旧河川が走り、遺跡地の大半が河川敷きとなっていた。住居跡は当初微高地上に集落をかまえたのであろうが現在の蛭沢地区一帯は水田耕作により床面近くまで削平され遺存状態は悪い。ローム面を深く掘り込んだ遺構(井戸、土坑、溝)は遺存も良く、資料的にも価値の高い遺物が出土している。とくに1号井戸からは浅間C軽石の認められるものや土器、種子等を検出している。河川は浅間B軽石降下以前の流路であり現在は水田の水路として使用している。その間覆土中に溝の痕跡があり水路の変遷がある程度とえられる。遺構はこの河川の左岸に広がり今回確認された部分は集落の末端に位置するものであろう。また当遺跡内出土遺物として板碑が検出されハスの葉とともにアミダの字も読み取れる。掘り込みは薬研形りで14世紀末～15世紀初頭に考えられ、新保遺跡C区中世屋敷の時期、22号井戸検出の応永年間の彫り込みのある板碑との時期とも共通し中近世に至るまでの生活の跡を見ることが出来る。

写 真 图 版



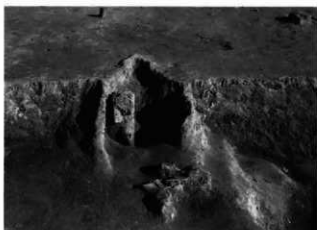
1号住居跡



1号住居跡竈



2号住居跡



2号住居跡竈



2号住居跡貯蔵穴遺物



3・7号住居跡



3号住居跡竈



4号住居跡



5号住居跡



5号住居跡竈



6号住居跡



8号住居跡



8号住居跡竈



10・11号住居跡



10号住居跡竈



10号住居跡竈



11号住居跡竈



14号住居跡



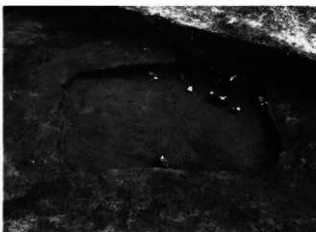
14号住居跡竈



15号住居跡



15号住居跡遺物



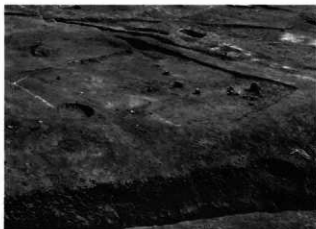
17号住居跡



18号住居跡



18号住居跡竈



19号住居跡



19号住居跡電



20号住居跡



20号住居跡電



21号住居跡



21号住居跡電



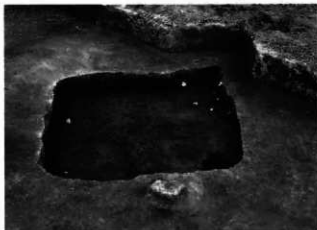
24号住居跡



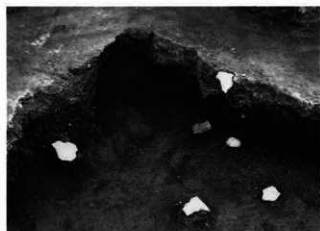
24号住居跡電



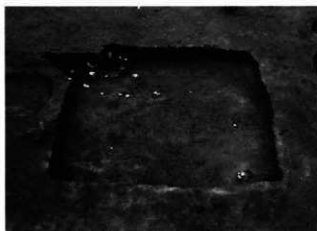
26号住居跡



27号住居跡



27号住居跡壙



28号住居跡



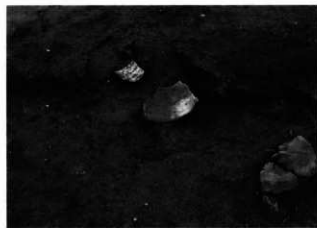
28号住居跡壙



30号住居跡



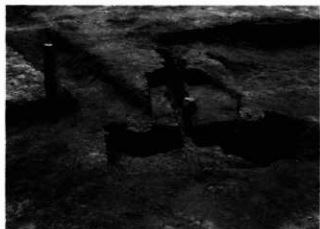
31号住居跡



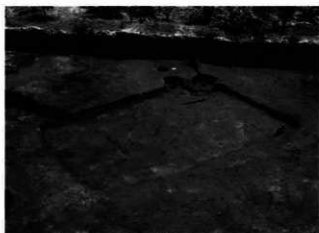
31号住居跡壙



32号住居跡



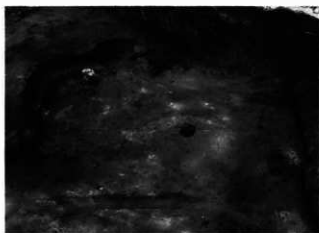
32号住居跡龜



33号住居跡



33号住居跡龜



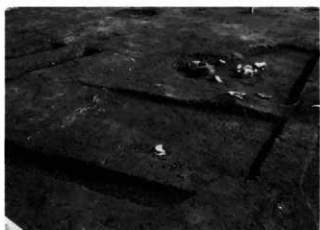
34・66号住居跡



35号住居跡



36号住居跡龜



37号住居跡



39号住居跡



41号住居跡



41号住居跡壙



42号住居跡壙



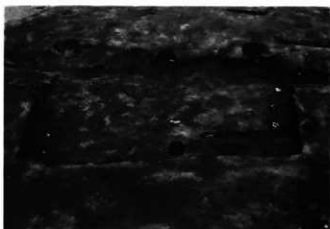
43・61号住居跡



44号住居跡



45号住居跡壙



48号住居跡



48号住居跡壘



50号住居跡



50号住居跡壘



51号住居跡



51号住居跡壘



52号住居跡



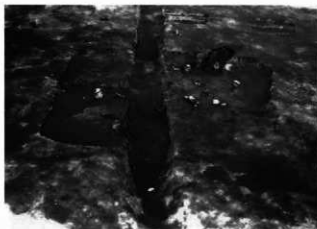
52号住居跡壘



53号住居跡



53号住居跡竈



54号住居跡



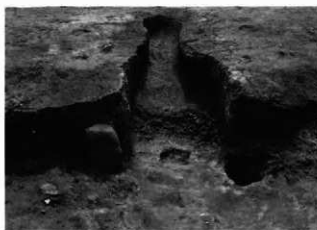
54号住居跡竈



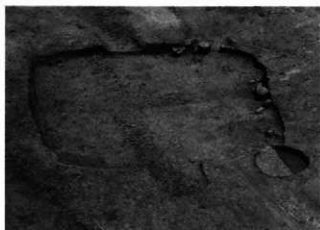
56号住居跡



58号住居跡



58号住居跡竈



59号住居跡



59号住居跡竈



43号住居跡遺物(瓦)



62号住居跡



63号住居跡



65号住居跡



67号住居跡



67号住居跡竈



69号住居跡



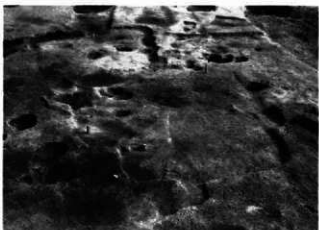
73号住居跡



75号住居跡



75号住居跡竈



76号住居跡



78号住居跡



79号住居跡



80号住居跡



81号住居跡



82号住居跡



87号住居跡



87号住居跡



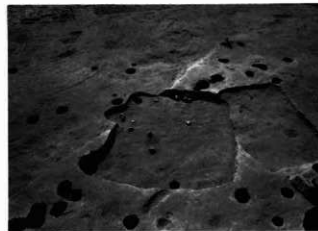
89号住居跡



91号住居跡



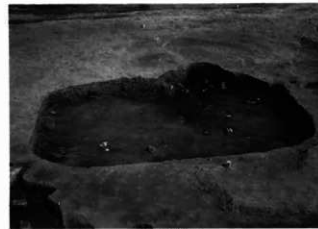
93号住居跡



146号住居跡



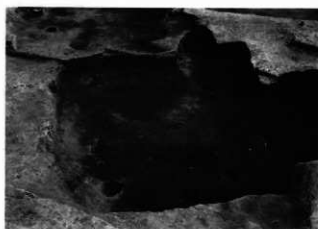
148号住居跡



207号住居跡



207号住居跡壙



208号住居跡



208号住居跡壙



209号住居跡



210B号住居跡



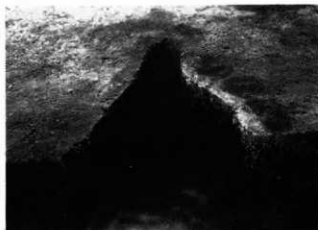
211号住居跡



54号住居跡(馬歯)



D-1号住居跡



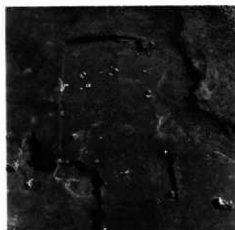
D-1号住居跡電



D-2号住居跡



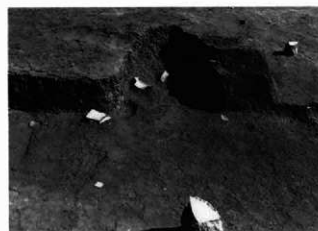
D-2号住居跡電



D-3・9号住居跡



D-4号住居跡



D-4号住居跡電



D-5号住居跡



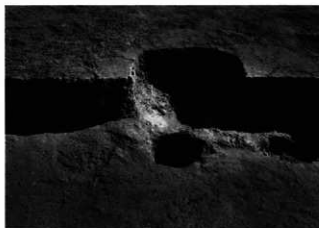
D-6号住居跡



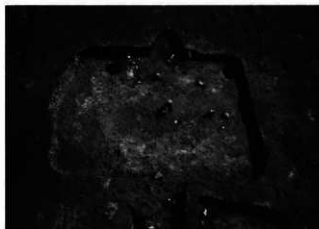
D-6号住居跡壙



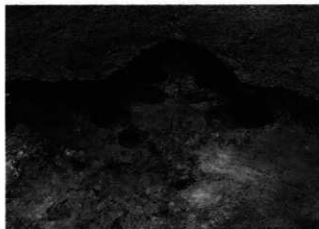
D-7号住居跡



D-7号住居跡壙



D-8号住居跡



D-8号住居跡壙



D-11号住居跡



D-11号住居跡壙



D-12号住居跡



D-12号住居跡壙



D-13号住居跡



D-13号住居跡壙



D-14号住居跡



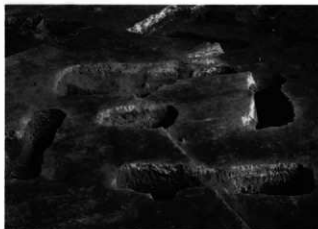
D-15号住居跡



D-15号住居跡壙



D-17号住居跡



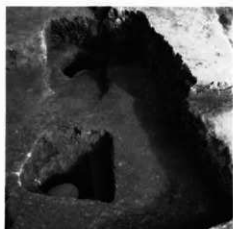
1号孤立柱建物跡



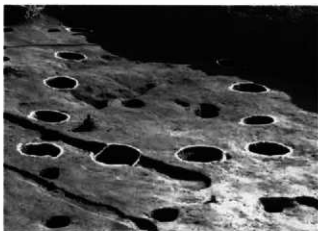
2号孤立柱建物跡



2号孤立柱建物跡



2号孤立柱建物跡



3号孤立柱建物跡



7号孤立柱建物跡



7号孤立柱建物跡



7号孤立柱建物跡



8(手前)·9号独立柱建物跡



9号独立柱建物跡



10号独立柱建物跡



10号独立柱建物跡(P-14)



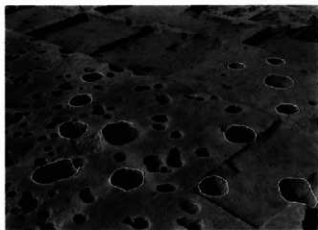
10号独立柱建物跡



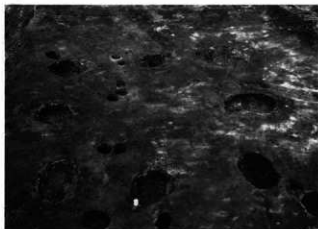
13号独立柱建物跡



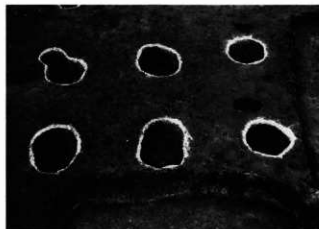
中世小穴群(55号溝区画内)



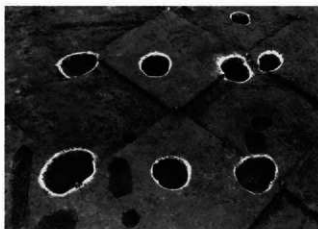
中世1号独立柱建物跡



D-1号掘立柱建物跡



D-2号掘立柱建物跡



D-3号掘立柱建物跡



D-4号掘立柱建物跡



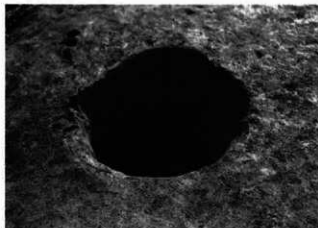
D-5号掘立柱建物跡



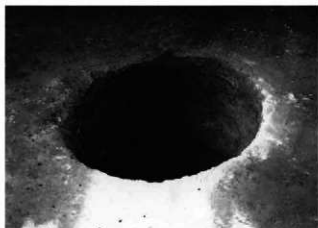
D-6号掘立柱建物跡



1号井戸



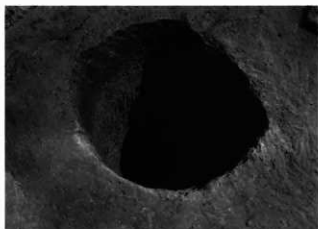
3号井戸



8号井戸



9号井戸



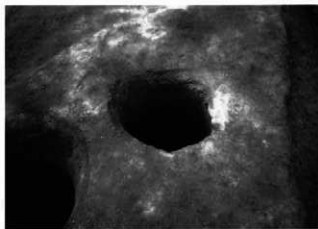
11号井戸



12号井戸



13号井戸



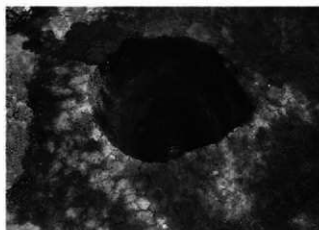
15号井戸



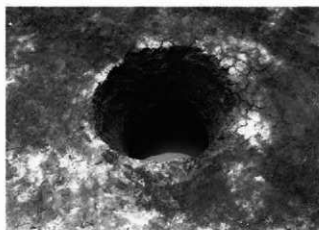
17号井戸



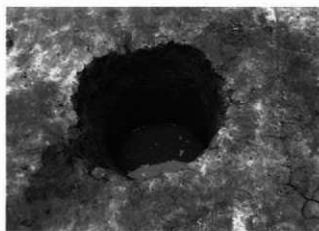
19号井戸



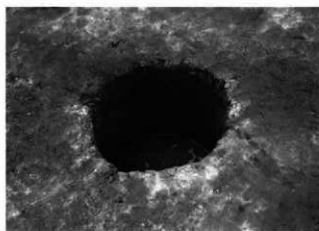
21号井戸



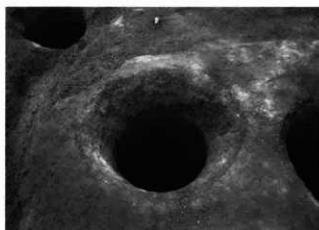
22号井戸



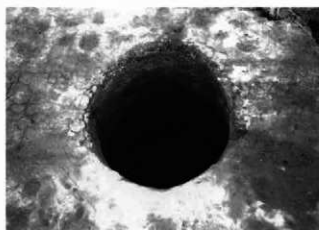
23号井戸



24号井戸



26号井戸



31号井戸



32号井戸



33号井戸(左)・34号井戸(右)



35号井戸



37号井戸(左)・36号井戸(右)



38号井戸



39号井戸



2号土坑



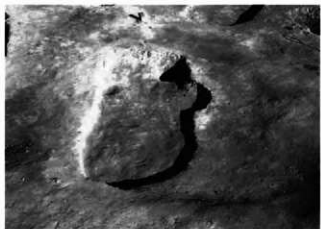
3号土坑



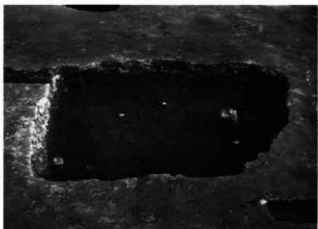
4号土坑



6号土坑



7号土坑



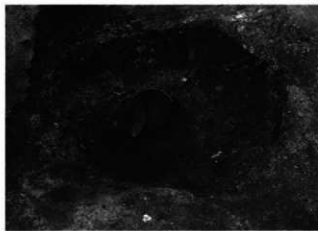
9号土坑



10号土坑



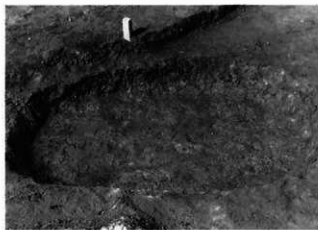
11·12号土坑



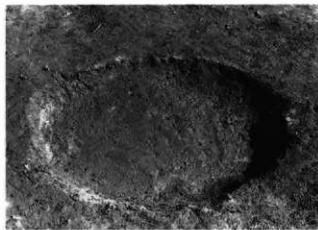
14号土坑



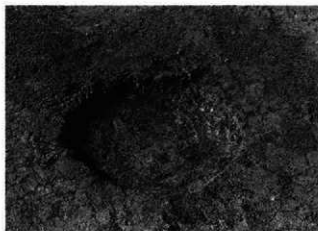
20号土坑



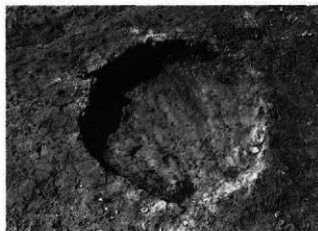
21号土坑



22号土坑



23号土坑



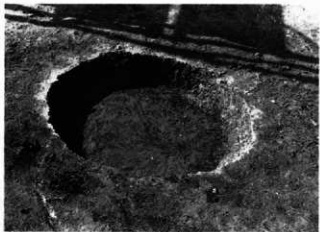
25号土坑



26号土坑



28号土坑



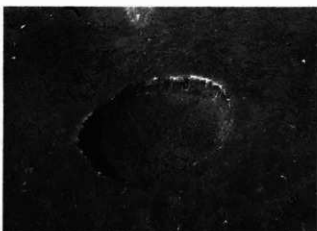
29号土坑



30号土坑



31号土坑



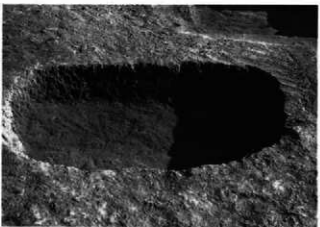
32号土坑



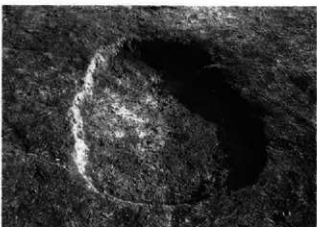
33号土坑



34号土坑



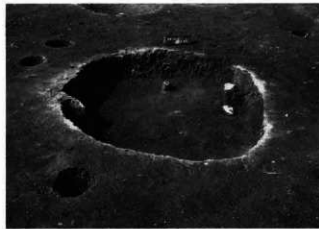
35号土坑



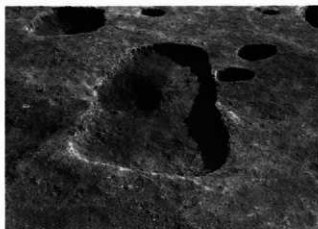
36号土坑



38号土坑



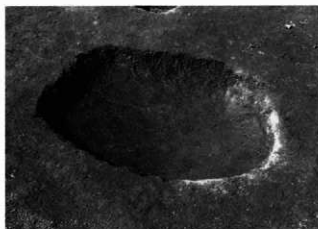
40号土坑



43号土坑



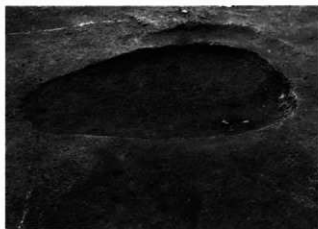
44号土坑



45号土坑



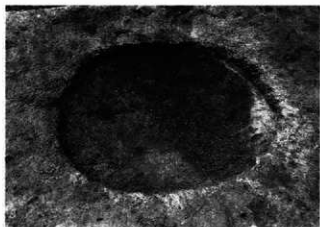
54号土坑



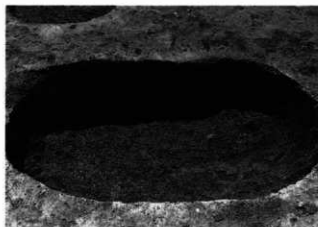
57号土坑



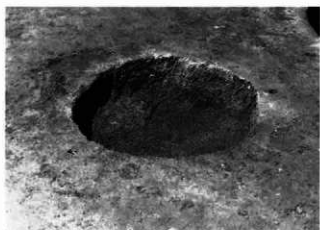
64号土坑



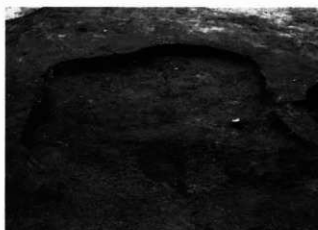
65号土坑



66号土坑



67号土坑



92号土坑



93号土坑



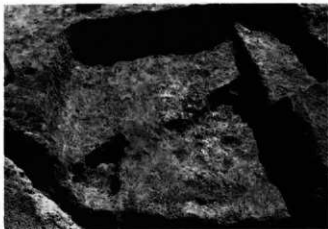
106号土坑



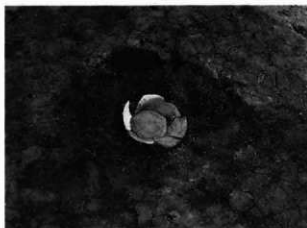
126号土坑



201号土坑



202号土坑



D-25号土坑



D-29号土坑



D-32号土坑



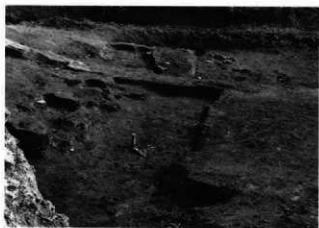
1号墓坑



3号墓坑



3号墓坑



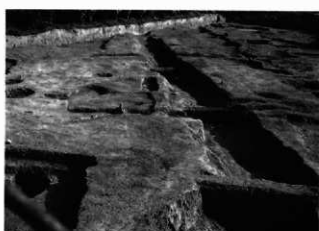
1号沟



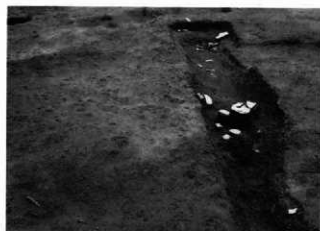
13号沟



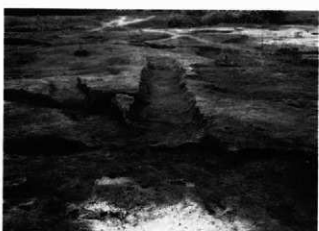
16号沟



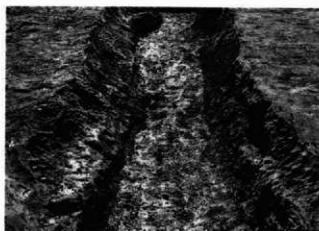
35号沟



43号沟



46号沟



59号沟



143号沟



D-4号溝



D-4号溝



2 住-4



2 住-1



2 住-2



2 住-3



2 住-4



2 住-5



2 住-7



2 住-8



2 住-9



2 住-10



2 住-12



2 住-11



2 住-11



3 住-3



3 住-4



3 住-7



3 住-8



4 住-2



4 住-3



5 住-1



5 住-6



5 住-3



5 住-4



5 住-5



5 住-1



6 住-3



7 住-3



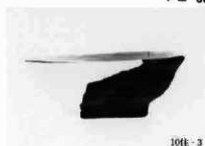
7 住-4



10E-1



10E-2



10E-3



11E-1



14E-1



14E-2



14E-6



15E-1



15E-2



15E-3



15E-6



15E-7



15E-8



17E-1



17E-3



17E-2



17E-6



18E-3



19fE-2



19fE-3



20fE-1



21fE-1



21fE-4



21fE-5



21fE-3



24fE-1



28fE-4



28fE-5



30住-1



32住-4



31住-4



33住-4



32住-5



33住-8



41住-3



41住-5



41住-7



41住-13



41住-4



41住-14



42住-5



44住-2



49住-2



49住-3



49住-6



50E-8



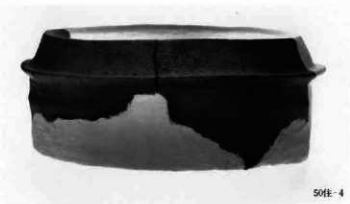
50E-9



50E-10



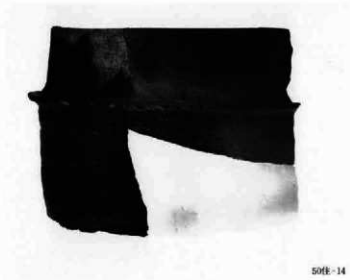
50E-1



50E-4



50E-5



50E-14



52E-2



52E-3



52E-4



53E-4



54E-2



54E-4



62E-1



62E-4



62E-7



62E-2



62E-8



67E-2



65E-4



67E-3



67E-4



67E-6



67E-7



67fE-5



68fE-7



73fE-4



73fE-3



73fE-11



75fE-4



75fE-9



75fE-12



75fE-11



75fE-13



79fE-2



81fE-1



82fE-4



80fE-2



87fE-5



90fE-3



90fE-4



91fE-3



91fE-5



91fE-6



91住-10



91住-12



91住-13



91住-14



91住-15



91住-16



93住-2



146住-2



148住-1



207住-1



207住-3



207住-6



208住-8



208住-9



209住-7



211住-1



D-2 缶-7



D-3 缶-3

D-2 缶-5



D-3 缶-1



D-9 缶-1



D-9 缶-2



D-9 缶-3



D-9 缶-4



D-9 缶-6



D-4 缶-1



D-4 缶-2



D-4住-3



D-5住-5



D-4住-8



D-5住-10



D-5住-13



D-5住-16



D-5住-18



D-6住-2



D-6住-3



D-8住-1



D-8住-2



D-8住-7



D-8住-5



D-8住-8



D-12住-1



D-12住-2



D-12住-4



D-13E-1



D-14E-2



D-14E-3



D-14E-4



D-14E-5



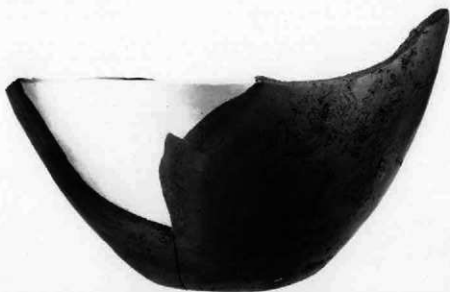
D-15E-4



D-15E-6



D-16E-2



D-15E-7



10張立-2



10張立-3



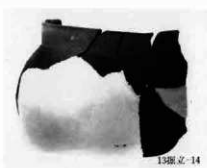
2張立-5



3張立-6



2張立-7



13張立-14



2張立-8



9張立-12



13張立-13



19井F1-2



19井F1-3



21井F1-4



26井F1-6



33井F1-15



19井F1-9



19井F1-9



25井F1-8



16井F1-17



30井F1-6



30井F1-18



22井F1-19



30井F1-21



23井F1-22



9 土坑-3



10 土坑-4



10 土坑-5



12 土坑-6



12 土坑-8



14 土坑-10



43 土坑-11



54 土坑-12



98 土坑-14



98 土坑-15



D-32 土坑-18



126 土坑-20



211 土坑-21



211 土坑-23



43 土坑-24



D-25 土坑-17



28 土坑-13



1清-1



43清-3



33清-4



15清-5



43清-6



3清-7



43清-8



15清-9



128清-10



15清-12



43清-11



43清-13



15清-14



33清-14



33清-15



16清-16



3清-17



58清-18



3清-19



16清-20



1清-21



15清-23



1 清-24



43 清-25



128 清-26



38 清-28



127 清-29



127 清-29



134清-30



134清-33



134清-35



134清-36



134清-38



134清-41



134清-43



134清-46



134清-47



134清-34



134清-58



清-59



清-60



128清-61



D-1 溝-3



D-1 溝-5



D-1 溝-1



D-2 溝-6



D-1 溝-8



D-1 溝-11



D-2 溝-9



D-2 溝-12



D-1 溝-13



D-4 溝-15



D-4 溝-16



D-4 溝-15



D-4 溝-16



D-4 溝-17



D-4 溝-18



D-4 溝-17



D-4 溝-18



D-4 清-19



D-4 清-19



D-4 清-21



D-4 清-21



D-4 清-23



D-4 清-23



D-4 清-25



D-4 清-25



D-4 清-20



D-4 清-20



D-4 清-22



D-4 清-22



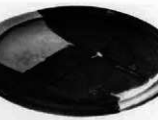
D-4 清-24



D-4 清-24



D-4 清-26



D-4 清-26



D-4 清-27



D-4 清-28



D-4 清-27



D-4 清-28



D-4 清-29



D-4 清-30



D-4 清-29



D-4 清-30



D-4 清-31



D-4 清-32



D-4 清-31



D-4 清-32



D-4 清-33



D-4 清-34



D-4 清-35



D-4 清-34



D-4 清-36



D-4 清-36



D-4 清-39



D-4 清-37



D-4 清-37



D-4 清-40



D-4 清-41



D-4 清-42



D-4 清-43



D-4 清-44



D-4 清-45



D-4 清-46



D-4 清-47



D-4 清-48



D-4 清-49



D-4 清-50



D-4 清-52



D-4 清-51



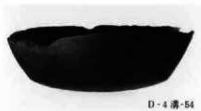
D-4 清-53



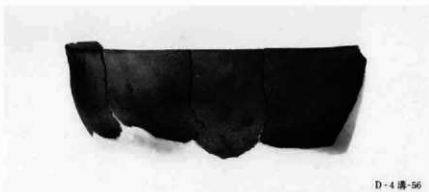
D-4 溝-54



D-4 溝-55



D-4 溝-54



D-4 溝-56



D-4 溝-57



D-4 溝-58



D-4 溝-59



D-4 溝-60



D-4 溝-61



D-4 溝-63



D-4 溝-64



D-4 溝-67



D-4 溝-68



D-4 溝-69



D-4 溝-70



D-4 溝-72



D-4 溝-66



D-4 溝-71



D-4 溝-71



D-4 溝-74



D-4 溝-75



D-4 溝-76



D-4 溝-77



D-4 溝-78



D-4 溝-79



D-4 溝-80



D-4 溝-81



D-4 溝-82



D-4 溝-83



D-4 溝-84



D-4 溝-85



D-4 溝-86



D-4 溝-87



D-4 溝-88



D-4 溝-89



D-4 溝-90



D-4 溝-91



D-4 溝-92



D-4 溝-93



D-4 溝-94



D-4 溝-96



D-4 溝-96



D-4 溝-97



D-4 溝-98



D-4 溝-99



D-4 溝-100



D-4 溝-101



D-4 溝-102



D-4 溝-103



D-4 溝-119



D-4 溝-104



D-4 溝-105



D-4 溝-106



D-4 溝-120



D-4 溝-121



D-4 溝-131



D-4 溝-144



D-4 溝-146



D-4 溝-148



D-4 溝-145



D-4 清-147



D-4 清-149



D-4 清-152



D-4 清-153



D-4 清-155



D-4 清-157



D-4 清-158



奈良-1



奈良-2



奈良-3



奈良-4



奈良-5



奈良-6



奈良-7



奈良-13



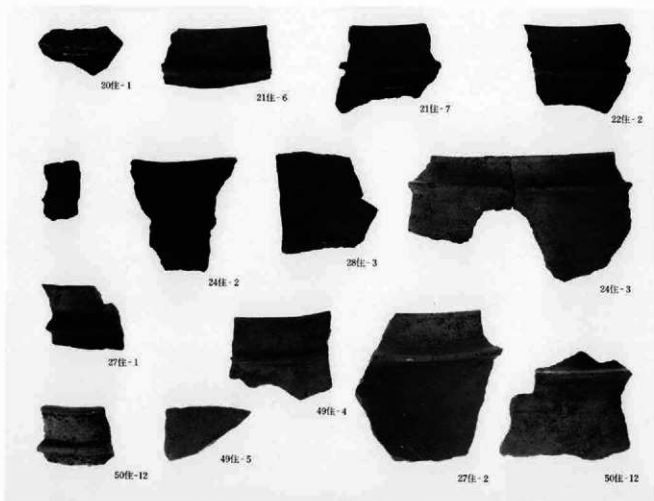
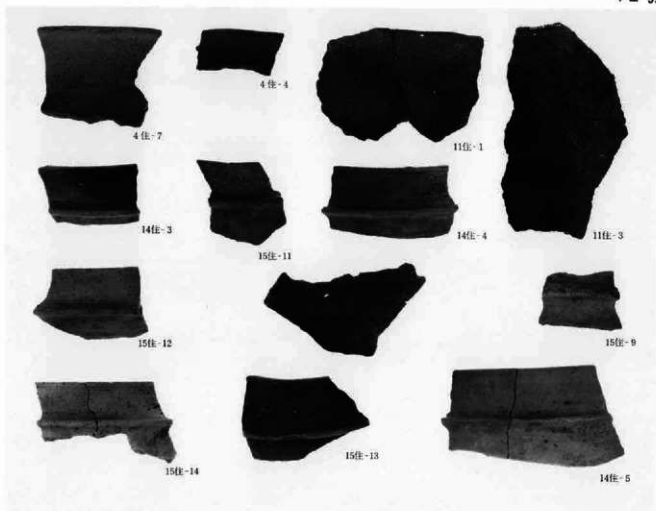
奈良-15

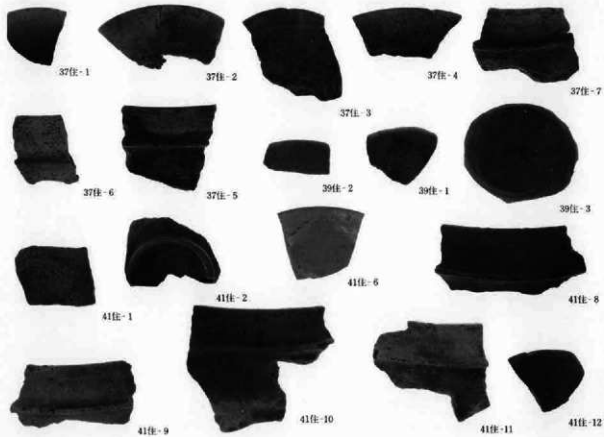
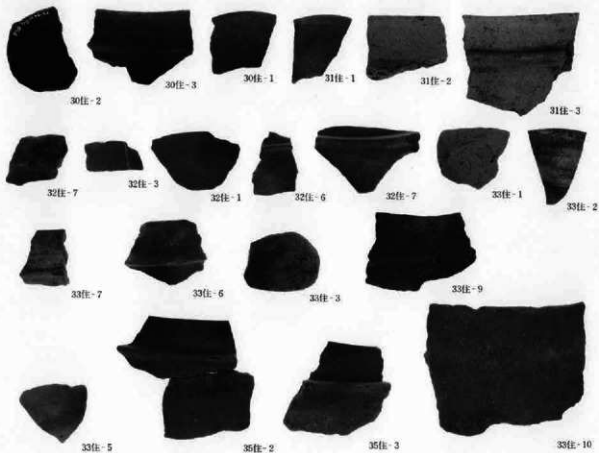


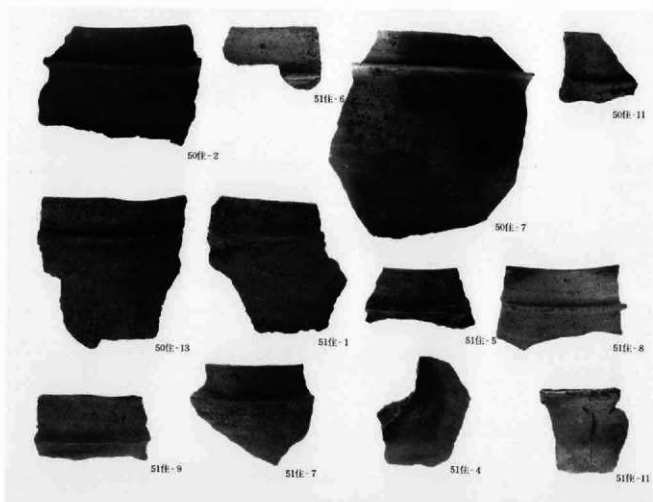
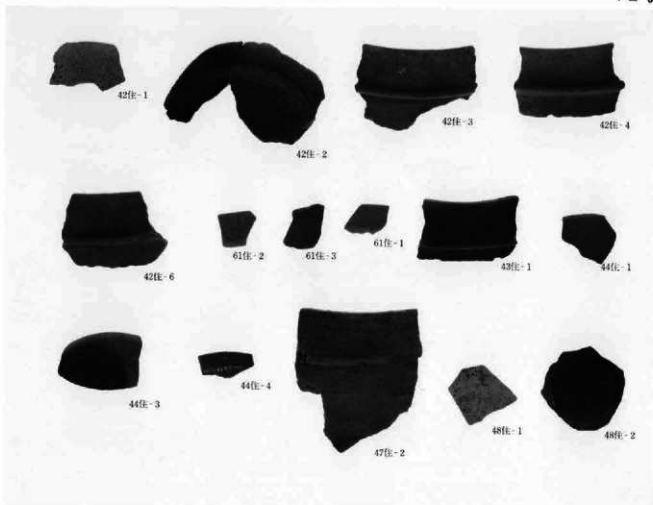
奈良-17

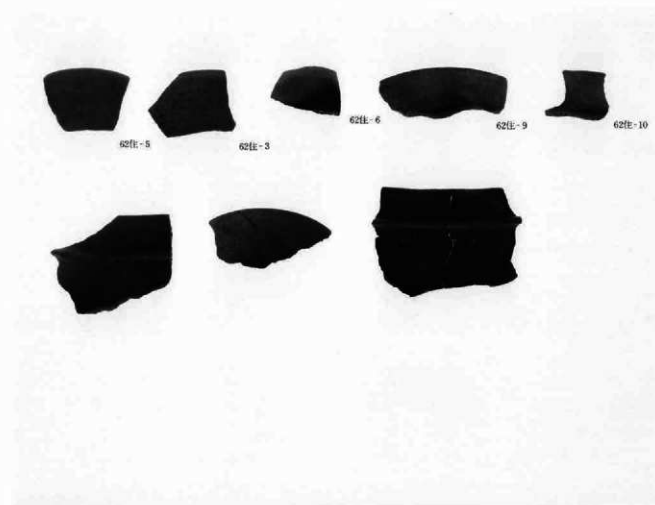
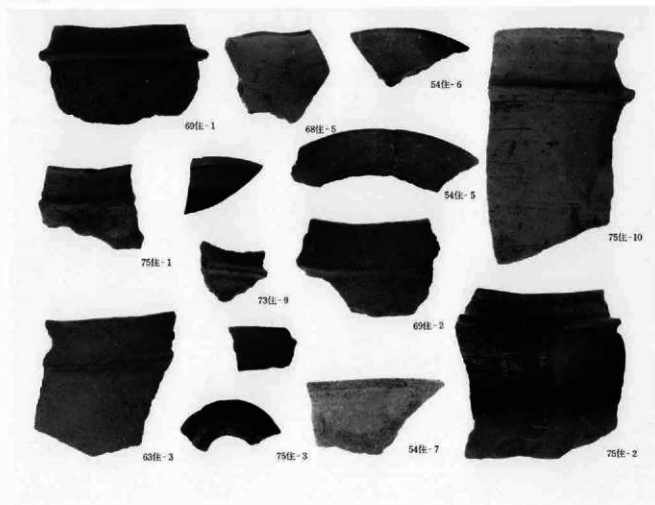


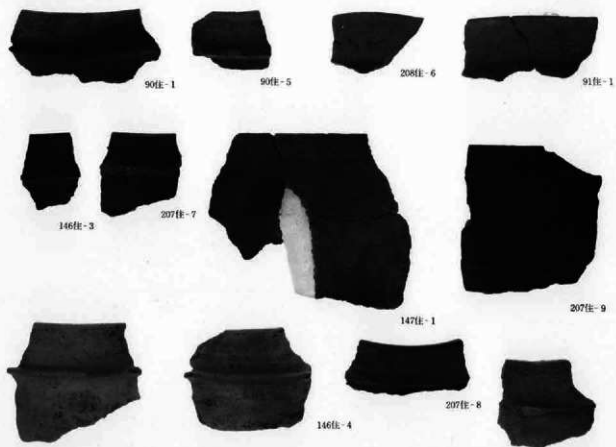
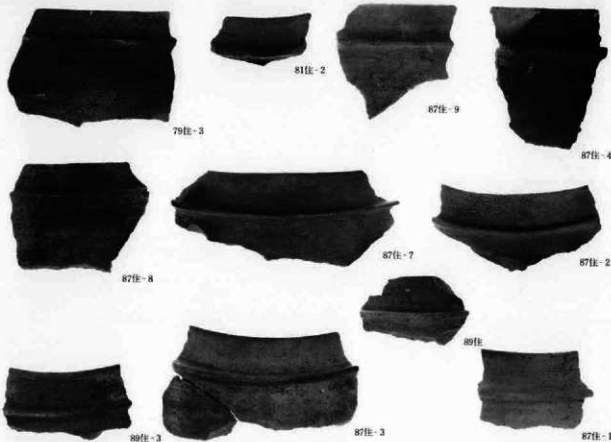
奈良-18













208住-10



208住-13



208住-12



209住-9



D-2住-7



D-3住-7



D-3住-8



D-9住-9



D-4住



D-4住-9



D-4住-5



D-5住-9



D-5住-1



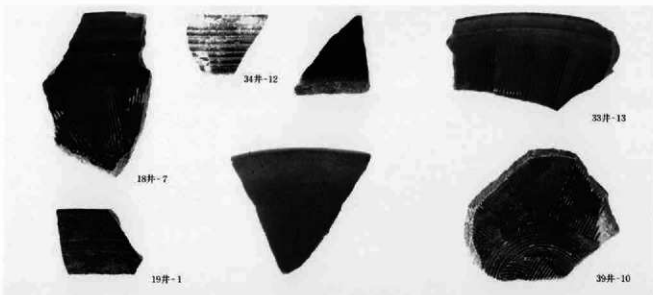
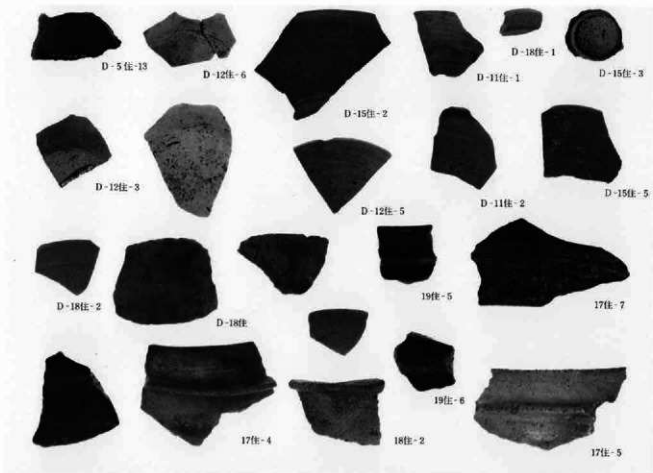
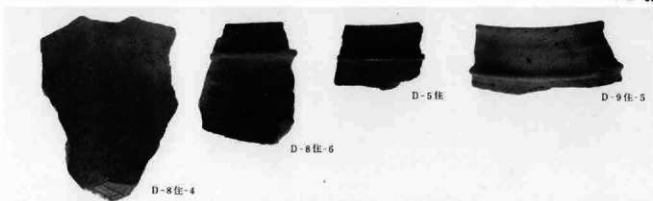
D-5住-2



D-5住-7



D-5住-9





32土-16



9R土-26



89土-19



106土-25



106土-22



134清-32



134清-31



134清-37



134清-40



134清-39



134清-45



134清-48



134清-42



134清-49



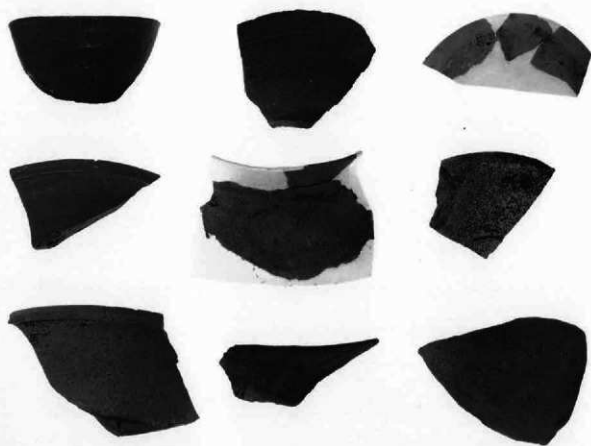
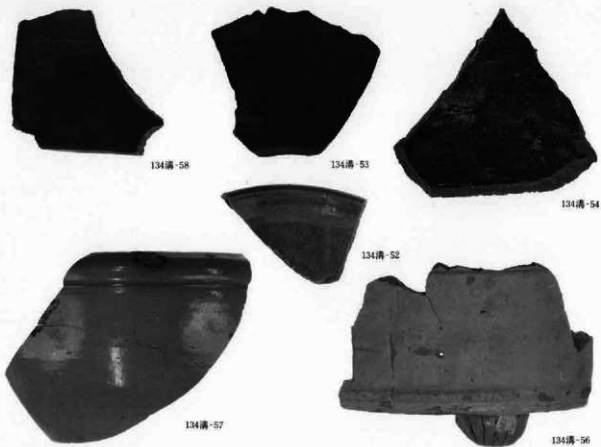
134清-50



134清-44



134清-51



D-4号清道物



奈良-19



奈良-10



奈良-13



奈良-21

奈良時代生活面遺物



1 位-4



4 位-9



45 位-1



27 位-3



4 位-10



8 位-12



91 位-17



4 位-8



92 位-1



33 位-11



35 位-1



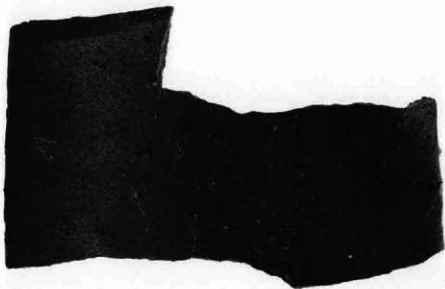
48 位-3



62 位-11



62 位-12



43E-2



87E-10



D-2住-4



D-3住-13



D-3住-10



D-3住-11



D-3住-14



D-3住-12



D-3住-15



D-4住-4



D-11住-4



D-12住-7



1層-15



2層-20



2層-18



2層-17



8層-19



10層-22



11層-18



10 圖-23



2 圖-21



3 土-1



3 土-2



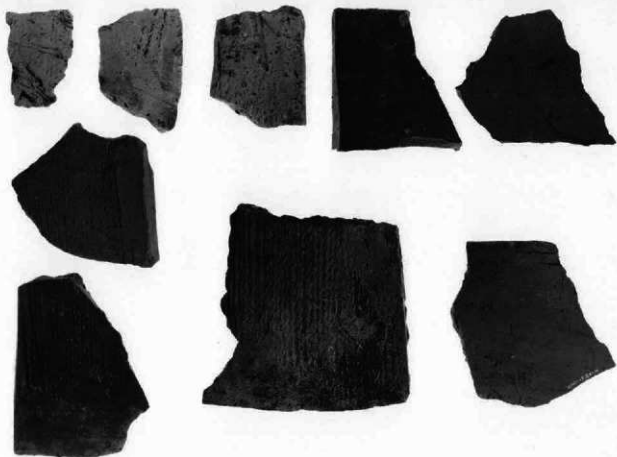
30 土-9



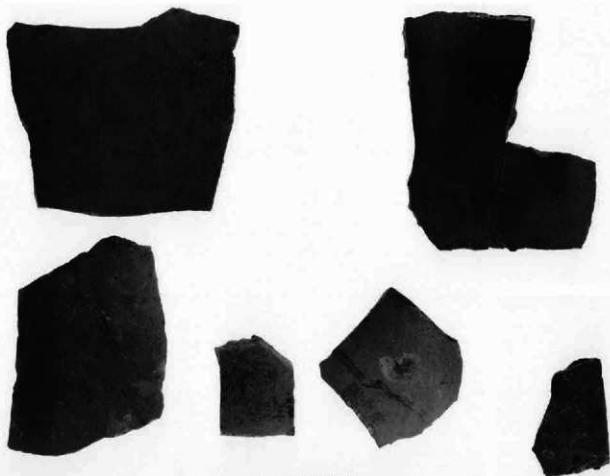
198 土



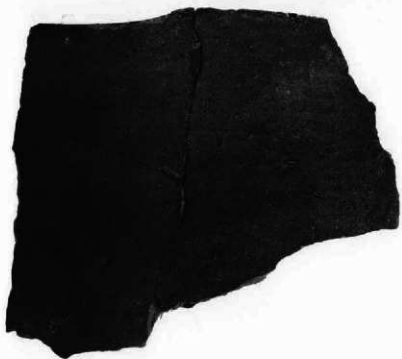
D-1 編



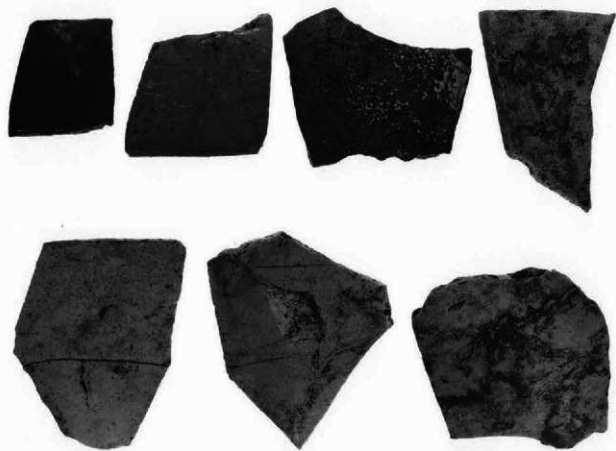
D-1号溝遺物(瓦)



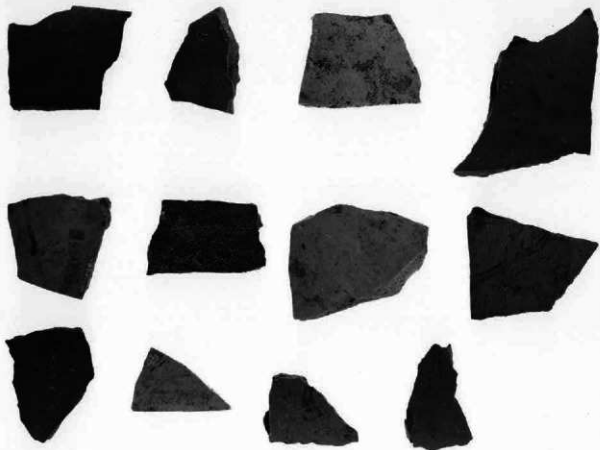
D-4号溝遺物(瓦)



D-4号溝遺物(Ⅲ)



D-4号溝遺物(Ⅳ)



D-4号清道物(瓦)



D-4号清道物(瓦)



2 1E-1



2 1E-1



62 1E-7



2 1E



2 1E-33



2 1E-41



3 1E-27



3 1E-56



31 1E-59



31 1E-57



31 1E-55



3 1E



62 1E-50



3 1E-2



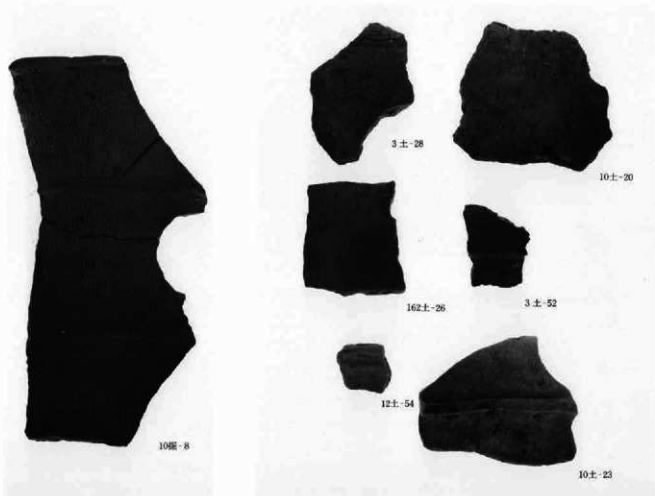
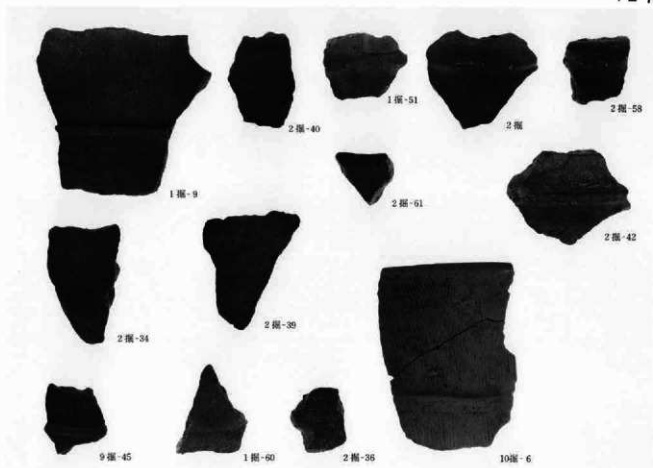
5 1E-22



65 1E-53



62 1E-3





奈良-4



奈良-12



奈良-25



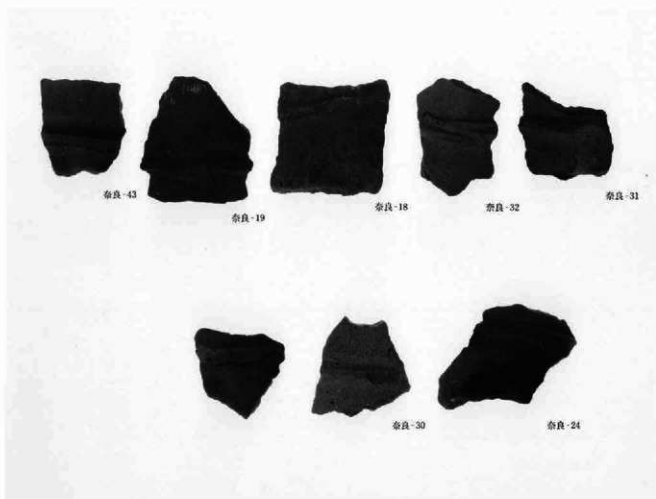
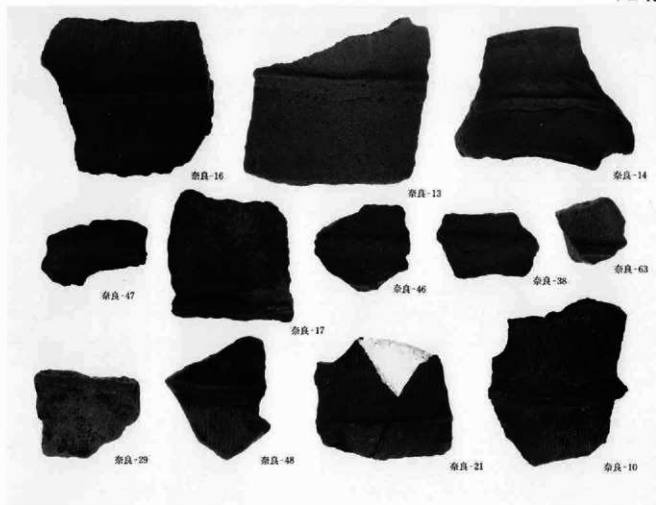
奈良-15



奈良-11



奈良-5





5井戸-1



6井戸-1



6井戸-2



6井戸-3



6井戸-3



13井戸-2



6井戸-4



10井戸-1



11井戸-1



11井戸-1



16井戸-1



16井戸-2



16井戸-3



17井戸-1



18井戸-1



18井戸-3



18井戸-4



18井戸-2



22井戸-1



23井戸-1



23井戸-2



25井戸-1



26井戸-1



26井戸-2



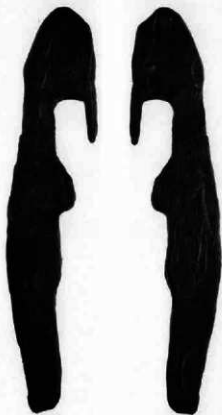
26井戸-3



26#P4-4



26#P4-5



30#P1-1

30#P1-1



32#P1-1



32#P1-2



32#P1-2



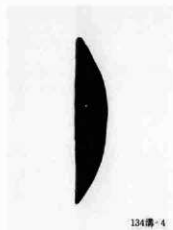
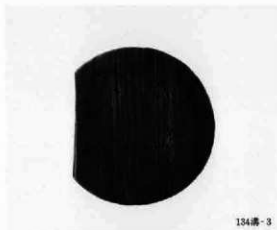
33#P1-2

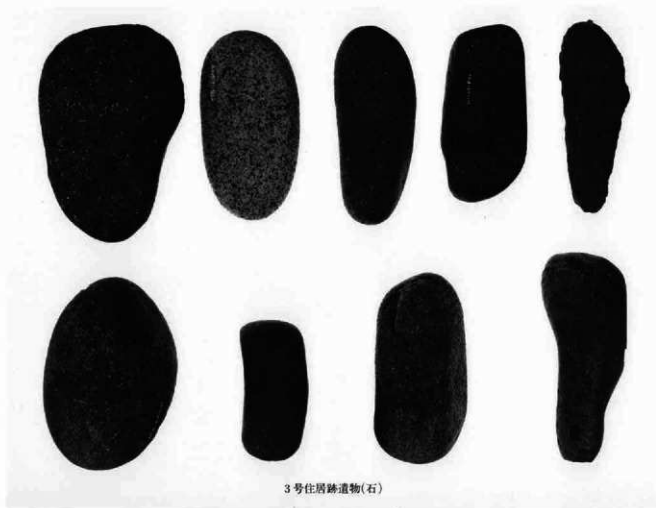


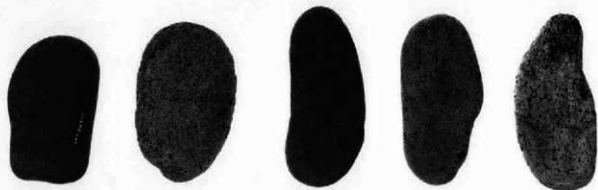
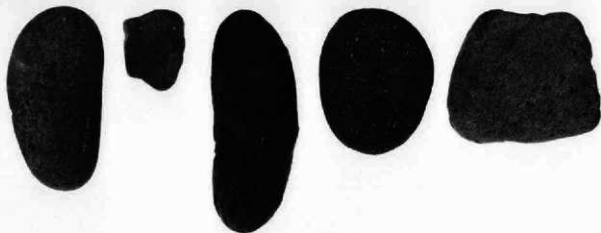
33#P1-1



33#P1-3







3号住居跡遺物(石)



3号住居跡遺物(石)



8住



8住



14住



49住



61住



44住

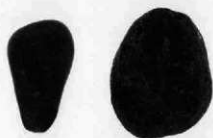


48住





D-3号住跡遺物(石)



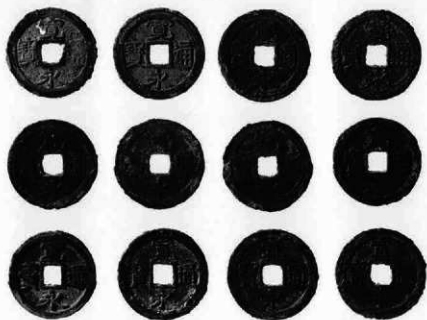
奈良時代生活面遺物(石)



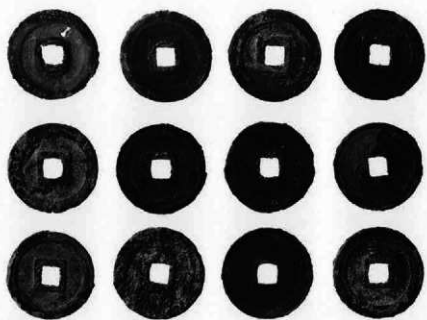
道橋外遺物



D-1号溝遺物(軒丸瓦)



古錢(表)



古錢(裏)



3号井戸(ウリ)



4号井戸(モモ)



15号井戸(クロモン)



6号井戸(ケヤキ、クリ、スギ、イネ科地下茎)



15号井戸(スギ球果)



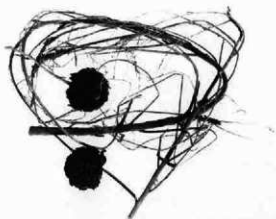
15号井戸(トチノキ)



31号井戸(モモ)



19号井戸(アシ?の茎)



26号井戸(スギ、球果つき小枝、葉は脱落)



第1トレンチ



第2トレンチ



第3トレンチ



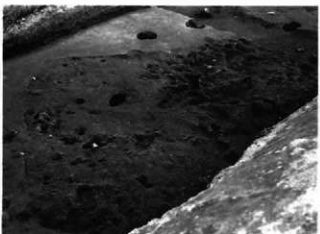
第4トレンチ



1号住居跡



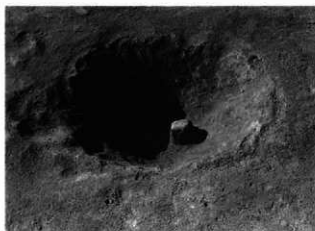
1号住居跡



2号住居跡



3号住居跡



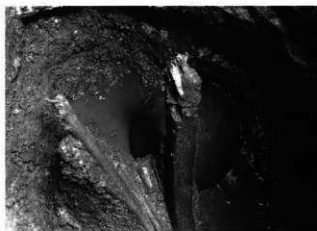
1号土坑



3号土坑



5・6・7号土坑



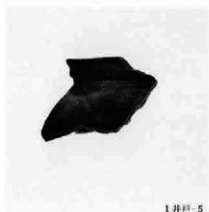
1号井戸



2号井戸

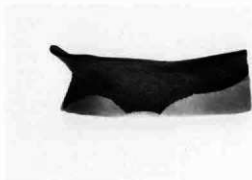


3号井戸





2井戸-5



3井戸-3



3井戸-2



3井戸-4



3井戸-5



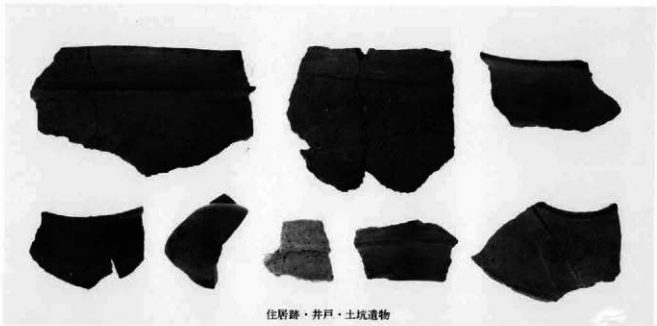
2井戸-6



3井戸-6



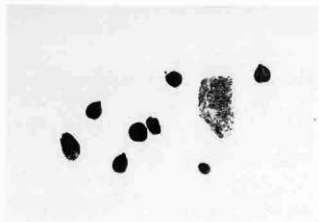
3井戸-7



住居跡・井戸・土坑遺物



板 碑



蛭沢(ブドウ、緑豆?, シソ類)



蛭沢1号井戸(ウリ、その他)



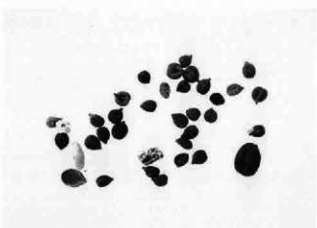
蛭沢1号井戸(モモ)



蛭沢2号井戸(ヒョウタン)



蛭沢2号井戸(モモ)



蛭沢2号井戸(ブドウ、スズメウリ、アサ、サンショウ)



経沢遺跡全景

新保遺跡Ⅲ 奈良・平安時代編

蛭沢遺跡

— 関越自動車道(新西線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第19集 —

昭和63年2月22日 印刷

昭和63年2月28日 発行

発行／群馬県教育委員会

前橋市大手町1丁目1番1号

電話 (0272) 23-1111

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

勢多郡北橋村下瑞田784番地の2

電話 (0279) 52-2511(代表)

印刷／朝日印刷工業株式会社

01-320
37
(7)

群
埋
文

付図1 新保遺跡全体図
奈良・平安時代・中近世



01-320	群 煙 文
37	
(4)	

付図2 新保遺跡中世屋敷跡



01-320	群 組 文
37	
(7)	

付図3 蛭沢遺跡全体図

